



2024 年度

グローバル・ビジネス研究科シラバス

明治大学専門職大学院

# 目 次

I	行事予定	5
II	履修手続きの注意事項	9
	修了要件について・履修にあたっての注意事項	10
	履修登録について	11
	レポート・論文の剽窃（盗用）行為への注意	12
	科目ナンバリングについて	13
	明治大学グローバル・ビジネス研究科 ILOs 体系	14
III	授業科目一覧	15
	授業科目及び担当者	16
	クラスター履修モデル	21
IV	2024 年度開講科目	23
	必修科目群・共通科目群	25
	専門科目群	
	ファイナンス・リアルエステート領域	50
	マネジメント領域	73
	アカウンティング領域	113
	マーケティング領域	134
	ビジネス・ロー領域	149
	論文演習	160
V	ILOs 体系一覧	184
VI	教員 E-mail アドレス一覧	192

## 人材養成その他の教育研究上の目的

本研究科は、経済・社会のダイナミズムの高揚のため、専門的な知識・スキル、情報分析能力、価値創造力、広い視野及び高度な倫理感覚、リーダーシップ、グローバルな視点を備え、経営者や上級幹部として組織のマネジメント全般を担うジェネラルマネージャーの養成を基本理念としている。加えて広く社会からの負託に応えるべく、併せて次のようなビジネス・プロフェッショナル人材の養成にも努める。

- ・ファミリービジネス発展のための経営者、後継者及びサポート人材
- ・新規事業や第二創業を含むスタートアップビジネスを担うイノベーション人材

その人材養成目標のために企業・組織マネジメントに加え、ファミリービジネス、スタートアップビジネスに係る研究を行い、学生と教員の共創の場、学生の実務と理論の自主的な学びの場、キャリアチェンジの場及びビジネスマッチングの場を提供する。

## 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科では、専門的な知識・スキル、価値創造力、広い視野及び高度な倫理感覚、リーダーシップ、グローバルな視点を備えたビジネス・プロフェッショナル人材を養成するために、最先端の理論と実務に基づいた必修科目、共通科目、専門科目、論文演習によって教育課程を編成している。

本研究科の入学者は多様な背景をもち各専門知識の深度は大きく異なる。そのために本研究科のカリキュラムでは必修科目5科目を設け、MBAとして必要な受講生の知識水準を合わせるように配慮されている。基礎的共通知識は共通科目で学習する。また、専門科目には、マネジメント、マーケティング、アカウントティング・税務、ファイナンス・不動産、ビジネス・ローの専門5領域に関する科目がある。加えて、各領域を横断的に総合する体系として、ファミリービジネス・クラスターとスタートアップビジネス・クラスターを設定している。各領域、各クラスターにおいて人材の養成に関する目的及び教育研究上の目的を達成するべくカリキュラムを編成している。学生は、主としてこれらを、体系的に自主性をもって学習することが期待される。

各科目の教員は、専門の研究者のほか、実践的知識を備えた先端の実務家講師を起用している。授業の方法は、少人数教育、双方向・多方向、ケーススタディ、英語講義、海外研修などの多様な形式によるプログラムを最も効率的かつ柔軟に組み合わせ履修できる体制を整備している。

修了には修士論文に相当する論文の提出およびその審査に合格することを要件としており、そのために学生は、興味ある主題に対して徹底した討論と個別指導を通じて、単に論文作成能力だけでなく、自主的な思考能力や分析能力を高めることが可能となる。また、授業を通じて得た専門的知識・スキルや、ディスカッション・研修で得た様々な経験の集大成としての論文は、本研究科における各自の学習成果として総合的に評価される。このようなカリキュラムと指導を通じて博士後期課程への進学にも備えることが可能となる。

また本研究科では進化を続けるビジネス、テクノロジーや学問に適応できるように卒業後も科目等履修制度と同窓会制度により、生涯学習と知識のリファインを続けていく体制を整備している。

## 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

### 目指すべき人材像

本研究科は基本理念に沿って、企業の経営者や上級幹部として組織のマネジメント全般を担う人材の養成を目指す。さらに、ファミリービジネス発展のための経営者、後継者及びサポート人材、新規事業や第二創業を含むスタートアップビジネス及びイノベーションを担う人材を養成することを目的とする。

具体的には、マネジメント、マーケティング、アカウンティング・税務、ファイナンス・不動産、ビジネス・ローに関する科目を設置し、ジェネラルマネージャーを養成し、さらに人材養成の目的に合わせて横断的に統合するファミリービジネス、スタートアップビジネスの2つのクラスター制度を導入することにより、上記の目指すべき人材を育成する。

この人材養成の目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を充たし、かつ、学業成績ならびに専門職成果報告書（修士論文）から、以下に示す能力や資質を備えたと認められる者に対し、「経営管理修士（専門職）：Master of Business Administration」の学位を授与する。

- ・常に ERS を意識して企業実務やビジネス環境を倫理的側面から把握する。
- ・革新的な起業家精神を涵養する。
- ・ビジネスにおける多文化的な背景を理解し、グローバルな環境において効果的にコミュニケーションを行う。
- ・主なビジネス領域における強固な知識基盤を養い、実際のビジネス実務においてそれを統合し総合化する。
- ・複雑で不確実なビジネス環境において、戦略を立案・実行し、リーダーシップを発揮する。

### そのための具体的到達目標

本研究科では、各領域のプロフェッショナルを志望する学生に対しては、各専門科目のバランスの良い履修とともに、各人の個性に応じて特定の専門分野を深く掘り下げて学習する場を提供し、社会や企業で役立つ実践的知識の習得を到達目標としている。また、理論学習においても博士後期課程への進学が可能な水準まで到達することを目標としている。

# I 行事予定

# 2024年度 明治大学グローバル・ビジネス研究科 学年暦・行事予定

※明治大学学年暦とは一部異なります。

◀春学期▶ 4月1日(月)～9月19日(木)

2024 4月 ※3/30(土)4月入学者ガイダンス							2024 5月							2024 6月						
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
01 授業なし	02 授業なし	03 授業なし	04 ①	05 ①	06 ①	07 4月入学式	29	30	01 ④	02 ⑤	03 憲法記念日 休講 事務閉室	04 みどりの日 休講 事務閉室	05 こどもの日	27	28	29	30	31	01 ⑧ 第20開始	02
08 ①	09 ①	10 ①	11 ②	12 ②	13 ②	14	06 振替休日 事務閉室	07 ⑤	08 ⑤	09 ⑥	10 ⑤	11 ⑤	12	03 ⑧	04 ⑨	05 ⑨	06 ⑩	07 ⑨	08 ⑨ 指導教員 登録説明会	09
15 ②	16 ②	17 ②	18 ③	19 ③	20 ③	21	13 ⑤	14 ⑥	15 ⑥	16 ⑦ 予備登録開始	17 ⑥	18 ⑥	19	10 ⑨	11 ⑩	12 ⑩	13 ⑪	14 ⑩	15 ⑩	16
22 ③	23 ③	24 ③	25 ④	26 ④	27 ④	28	20 ⑥	21 ⑦	22 ⑦ 予備登録終了	23 ⑧	24 ⑦	25 ⑦ 第10終了	26 オープン キャンパス	17 ⑩	18 ⑪	19 ⑪	20 ⑫	21 ⑪	22 ⑪	23
29 ④ 昭和の日 休日授業日	30 ④	01	02	03	04	05	27 ⑦	28 ⑧	29 ⑧ 第10終了(6限) 第20開始(7限)	30 ⑨	31 ⑧ 第10終了(6限) 第20開始(7限)	01	02	24 ⑪	25 ⑫	26 ⑫	27 ⑬	28 ⑫	29 ⑫	30
2024 7月							2024 8月							2024 9月						
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
01 ⑫	02 ⑬	03 ⑬	04 ⑭ 論文提出	05 ⑭ 論文提出	06 ⑭ 論文提出	07	29	30 夏期休業 8/1～9/19	31	01 補講	02 補講	03	04	26	27	28	29	30	31	01
08 ⑬	09 ⑭	10 ⑭	11 ⑮	12 ⑭	13 ⑭ 指導教員登録済	14	05	06	07	08	09	10	11	02	03	04	05	06	07	08
15 ⑭ 海の日 休日授業日	16 ⑮	17 ⑮ 第20終了	18 補講	19 ⑮ 第20終了	20 補講	21 口頭試問	●夏期休業期間の事務取扱について 原則【平日】15:00～19:00【土曜/日曜/休日】閉室となります。 また一斉休職期間は閉室となります。 詳細は7月中旬に研究科ホームページで公開します。							09	10	11	12	13	14	15
22 ⑮	23 補講	24 補講	25 補講	26 補講	27 補講	28								16 敬老の日	17	18	19 9月入学式 9月修了式 学位授与式	20 授業なし	21 授業なし 9月入学者ガイダンス	22 秋分の日
29 補講	30 補講	31 補講	01	02	03	04	23 ① 振替休日 休日授業日	24 ①	25 ①	26 ①	27 ①	28 ①	29	30 ②	01	02	03	04	05	06

- ・春学期・秋学期の2学期制です。日曜および祝日は、原則的に授業はありません。
- ・カレンダー内の○数字記載日が授業実施日です。数字は第何週目かを表します。
- ・「休日授業実施日」は、カレンダーでは祝日ですが、通常授業を実施します。
- ・「臨時休業」は、平日または土曜ですが、授業は全て休講します。
- ・「補講」は、学期中に休講があった場合の補講を行う期間です。授業中の指示に従ってください。

## ◆春学期科目の授業期間

	セメスター科目	第1クォーター科目	第2クォーター科目
平日	春学期①～⑮	春学期①～⑧ 6限	春学期⑧ 7限～⑮
土曜日	春学期①～⑭	春学期①～⑦	春学期⑧～⑭

## ◆その他の行事予定

履修登録	4月中旬～下旬(予定)
個人別時間割表公開 (Oh-o! Meiji)	4月下旬(予定)
履修修正	4月下旬(予定)

授業時間割表〈平日〉90分授業半期15回実施

6時限	7時限
18:55～20:25	20:30～22:00

《秋学期》 9月20日(金)～3月31日(月)

2024 10月							2024 11月							2024 12月						
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
30	01 ②	02 ②	03 ②	04 ②	05 ②	06	28	29	30	31	01 ⑥ 創立記念祝日 授業実施日	02 ⑥	03 文化の日	25	26	27	28	29	30	01
07 ③	08 ③	09 ③	10 ③	11 ③	12 ③	13	04 振替休日 事務閉室	05 ⑦	06 ⑦	07 ⑦	08 ⑦	09 ⑦ 第30終了	10	02 ⑩	03 ⑪	04 ⑪	05 ⑪	06 ⑪	07 ⑪ 指導教員 登録説明会	08
14 ④ スポーツの日 休日授業日	15 ④	16 ④	17 ④ 予備登録開始	18 ④	19 ④	20	11 ⑦	12 ⑧	13 ⑧ 第30終了(6限) 第40開始(7限)	14 ⑧	15 ⑧ 第30終了(6限) 第40開始	16 ⑧	17	09 ⑪	10 ⑫	11 ⑫	12 ⑫	13 ⑫	14 ⑫	15
21 ⑤	22 ⑤	23 ⑤ 予備登録終了	24 ⑤	25 ⑤	26 ⑤	27	18 ⑧	19 ⑨	20 ⑨	21 ⑨	22 ⑨	23 ⑨ 勤労感謝の日 休日授業日	24 オープン キャンパス	16 ⑫	17 ⑬	18 ⑬	19 ⑬	20 ⑬	21 ⑬	22
28 ⑥	29 ⑥	30 ⑥	31 ⑥	01	02	03	25 ⑨	26 ⑩	27 ⑩	28 ⑩	29 ⑩	30 ⑩	01	23 ⑬	24 ⑭	25 冬季休業 12/25～ ～1/7	26	27	28	29
														30	31	01	02	03	04	05

2025 1月							2025 2月							2025 3月							
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	
30	31	01 元日	02	03	04	05	21	22	23	24	25	26	27	24	25	26	27	28	29	01	02
06	07	08 ⑭	09 ⑭ 論文提出	10 ⑭ 論文提出	11 ⑭ 論文提出	12	03 補講	04 春季休業 2/4～ ～3/31	05	06	07	08 事務閉室	09	03	04	05	06	07	08	09	
13 ⑮ 成人の日 休日授業日	14 ⑮	15 ⑮	16 ⑮	17 ⑮ 創立記念日 授業実施日	18 臨時休講	19	10	11 建国記念日 事務閉室	12	13	14	15	16	10	11	12	13	14	15	16	
20 ⑮ 指導教員登録	21 補講	22 補講	23 補講	24 補講	25 補講	26	17	18	19	20	21	22	23 天皇誕生日	17	18	19	20 春分の日 事務閉室	21	22	23	
27 補講	28 補講	29 補講	30 補講	31 補講	01	02	24 振替休日 事務閉室	25	26	27	28	01	02	24	25	26 3月修了式 学位授与式	27	28	29	30	

- ・春学期・秋学期の2学期制です。日曜および祝日は、原則的に授業はありません。
- ・カレンダー内の○数字記載日が授業実施日です。数字は第何週目かを表します。
- ・「休日授業実施日」は、カレンダーでは祝日ですが、通常授業を実施します。
- ・「臨時休業」は、平日または土曜ですが、授業は全て休講します。
- ・「補講」は、学期中に休講があった場合の補講を行う期間です。授業中の指示に従ってください。

◆秋学期科目の授業期間

	セメスター科目	第3クォーター科目	第4クォーター科目
平日	秋学期①～⑮	秋学期①～⑧ 6限	秋学期⑧ 7限～⑮
土曜日	秋学期①～⑭	秋学期①～⑦	秋学期⑧～⑭

◆その他の行事予定

履修登録	9月下旬(予定)
個人別時間割表公開 (Oh-o! Meiji)	10月上旬(予定)
履修修正	10月上旬(予定)

授業授業時間割表〈土曜〉100分授業半期14回実施

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
9:00～10:40	10:50～12:30	13:30～15:10	15:20～17:00	17:10～18:50	19:00～20:40

## Ⅱ 履修手続きの注意事項



## 履修、修了要件

### 1 修了要件

- (1) 本研究科に2年(4学期)以上在学し、46単位以上を修得すること。
- (2) 指導教員による必要な研究指導を受けた上で、専門職成果報告書(修士論文)を作成し、審査に合格すること。
- (3) 必修科目10単位を修得すること。
- (4) 指導教員を在学2学期目に決定し、在学3学期目で「論文演習Ⅰ」を、在学4学期目で「論文演習Ⅱ」を履修し、単位を修得すること。

### 2 単位数

全科目2単位です。

### 3 注意事項

- (1) 1年間に履修できる単位数の上限(年間履修上限単位数)は36単位です。ただし、修得できる単位が修了に必要な単位数に算入されない場合は、履修上限単位数にも算入されません。
- (2) 指導教員が必要と認めた場合は、2年次からガバナンス研究科の授業科目を10単位を上限に履修することができます。修得した単位は修了に必要な単位数に算入されます。ただし、当該授業科履修に際しては、科目担当教員の承認が必要です。
- (3) 指導教員又は研究科長が必要と認めた場合は、単位互換協定による他の大学院の授業科目を履修することができます。修得した単位は4単位を上限に修了に必要な単位数に算入されます。
- (4) 研究科間共通科目のうち、本研究科教授会が必要と認めた授業科目については、4単位を上限に修了に必要な単位数に算入されます。
- (5) 専門職大学院学則第26条第2項及び第43条の規定(留学等)に基づいて本研究科の単位として認定を受けることのできる単位数の上限は、10単位とします。
- (6) 専門職大学院学則第27条の規定(入学前の既修得単位の認定)に基づいて本研究科の単位として認定を受けることのできる単位数の上限は、10単位とします。認定を受けるためには、入学年度の初めの履修登録前までに、所定の手続きが必要です。

#### 〈2020年度以降入学者〉

- (7) 「グローバル・ビジネス研究(海外研修科目)」は4単位を上限として修了に必要な単位数に含まれます。

#### 〈2023年度以降入学者〉

- (8) 上記(2)、(3)、(5)及び(6)の規定により、修了に必要な単位数に算入できる上限は、在学期間を通して16単位とします。

## 履修登録

### 1 履修登録

毎学期、所定の期間に履修する科目の登録（履修登録）が必要です。 Semester 科目の履修登録は学期の初めとし、クォーター科目の履修登録はクォーターの初めとします。ただし、海外研修を伴う科目の履修登録は科目ごとに定め、Oh-o! Meiji でご案内します。

履修登録をしていない科目、履修エラーのある科目は単位が与えられないので注意してください。

### 2 WEB 履修登録システム

所定の期間に WEB 履修登録システムやオンライン専用フォームを使って履修登録を行ってください。WEB 履修システムでは共通認証パスワード（Oh-o! Meiji システムと同様）が必要です。具体的な履修登録方法は Oh-o! Meiji でご案内します。

### 3 「個人別時間割表」の確認

当該学期の WEB 履修登録後に Oh-o! Meiji にて公開される「個人別時間割表」と自身の履修計画が異なる場合は、履修修正期間に修正を行ってください。この期間を過ぎた場合、履修科目の追加・変更・取消は認められません。

### 4 履修登録の注意事項

- (1) 授業時間割表及びシラバスは、本研究科 WEB ページに公開されています。また、シラバス（冊子）は事務室窓口で配布します。
- (2) 病気その他のやむを得ない理由によって履修登録期間に手続きできない場合は、事前に研究科窓口まで申し出てください。

学生諸君へ

## レポート・論文の剽窃（盗用）行為への注意

明治大学

昨今、授業の課題として課せられるレポートや論文を作成する際に、他人の文章（書籍・論文・Web ページ）をそのまま無断で借用したり、他の学生が作成した文章をあたかも自分の文章であるかのごとくみせかける<sup>ひようせつ</sup>剽窃（盗用）行為が目立つとの指摘が多くの教員から寄せられています。

大学としては、このようなことは看過できませんので、学生諸君は、以下の点によく注意をしてレポートや論文を作成するようにしてください。

### (1) 剽窃（盗用）行為は社会的に許されない行為

剽窃行為は、他人の学問的業績を無断で借用することであり、学問のルールに反するだけでなく、場合によっては他人の著作権を侵害する犯罪行為にもなる社会的に許されない行為です。

### (2) 剽窃（盗用）行為とみなされる事例

次のような行為は、剽窃（盗用）とみなされます。また、これに類似した行為や剽窃を助ける行為（レポート等のひな形を作成して他人に見せること等）も同様です。

- 活字媒体（書籍・雑誌・新聞等）や Web サイト等に掲載された他人の文章（無署名であっても）や資料等を出典を示さずにそのまま使い、あるいは前後関係や語句を若干変更した程度でレポート・論文を作成すること。
- 引用した部分を具体的に示さず、レポート・論文の最後に「○○参照」などと簡単に触れるにとどめること。
- 他人が作成した文章をあたかも自分が作成したかのごとくみせかけて、あるいは前後関係や語句を若干変更してレポート・論文を作成すること。

### (3) 剽窃（盗用）行為は処分の対象

定期試験に代えて実施されるレポートや論文の場合、剽窃あるいは剽窃を助ける行為が明らかであれば、定期試験での不正行為（カンニング）と同様の処分（その科目のみならず当該期の全登録科目の不合格や停学処分等）の対象となることがあります。

以上

## 科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバーを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

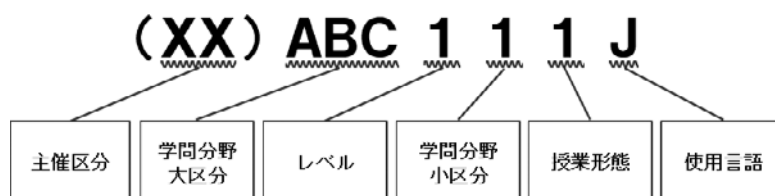
### 科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

### 明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバーを付番します。

〈科目ナンバーの構造〉



### 〈各ナンバリングコードの定義〉

#### ①主催区分コード

当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。

#### ②学問分野 大区分コード

学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。

#### ③レベルコード

当該科目のレベルを数字1文字で示しています。

#### ④学問分野 小区分

本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。

#### ⑤授業形態コード

当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。

#### ⑥使用言語コード

当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

### 〈各コードの詳細〉

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバーについては、本学ホームページ又は Oh-o! Meiji システムにて確認ください。

以下必要に応じ、当該学部等の科目ナンバーの例示を載せることも可です（省略も可）。

以 上

## MBS ILOs System / 明治大学グローバル・ビジネス研究科 ILOs 体系

グローバル・ビジネス研究科では、当研究科を修了することで達成される学習到達目標（Programme Inteded Learning Outcomes）及び各クラスターに属する科目を履修することで達成される学習到達目標（Cluster Inteded Learning Outcomes）を以下の通り定義しており、これらを合わせて「ILOs 体系」と呼んでいます。各授業科目を履修することで達成される学習到達目標（Course Inteded Learning Outcomes）は各授業のシラバスに、それらを一覧でまとめた表はシラバス冊子の巻末に示しています。履修科目を決定する際の参考としてご活用ください。

Definition in English		定義（日本語）	Type	Key pillars
Program ILOs				
1	Ethically evaluate business practices and situations to apply ERS (Ethics, Responsibility, and Sustainability) consistently.	常にERSを意識して企業実務やビジネス環境を倫理的側面から把握する。	Behaviours Knowledge	ERS
2	Cultivate an innovative entrepreneurial approach.	革新的な起業家精神を涵養する。	Behaviours Understanding of the world of practice and acquiring managerial skills	Business and management
3	Demonstrate an understanding of multicultural business environments and communicate effectively in global settings.	ビジネスにおける多文化的な背景を理解し、グローバルな環境において効果的にコミュニケーションを行う。	Skills International perspectives	Internationalisation
4	Develop solid knowledge foundations of the main business functions to integrate and synthesise them into actual business practice.	主なビジネス領域における強固な知識基盤を養い、実際のビジネス実務においてそれを統合し総合化する。	Knowledge	Business and management
5	Strategically plan, execute, and lead under complex and uncertain business environments.	複雑で不確実なビジネス環境において、戦略を立案・実行し、リーダーシップを発揮する。	Skills International perspectives Awareness of the broader trends in society	Business and management
Cluster ILOs				
FB	Family Business 1	Being able to identify key issues in family business succession with regard to tax planning, laws or stakeholders.	ファミリービジネスの事業継承を行うにあたって、主たる問題となるタックスプランニング、法律問題、ステークホルダーとの関係性における課題を認識できるようになる。	Understanding of the world of practice and acquiring managerial skills ERS
	Family Business 2	Demonstrate appropriate abilities to integrate knowledge and skills across family business management with regard to business planning, innovation including second-time-start-up, human resource management or laws.	ファミリービジネス経営及び運営に当たり、ビジネスプラン策定、第二次創業を含むイノベーション、人事管理、法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。	Behaviours Business and management
	Family Business 3	Being able to plan financial strategy in order to manage sound family business based on market analysis.	市場分析に基づいた健全なファミリービジネス運営のための資金戦略を立案することができる。	Skills Business and management
SU	Start-up 1	Develop business model for start-up business in competitive environments by analyzing customers, understanding their needs and wants in market.	マーケットにおける顧客分析や需要の理解を通して、競争環境におけるスタートアップビジネスのビジネスモデルを開発する。	Understanding of the world of practice and acquiring managerial skills Business and management
	Start-up 2	Demonstrate appropriate abilities to integrate knowledge and skills across start-up business management with regard to business planning, marketing strategy, human resource management or laws.	スタートアップビジネス経営及び運営に当たり、ビジネスプラン策定、マーケティング戦略、人事管理、法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。	Behaviours Business and management
	Start-up 3	Being able to plan financial strategy in order to manage stable start-up business by appropriate sources and methods for raising funds.	安定的なスタートアップビジネス運営のための適切な資金調達方法を用いた資金戦略を立案することができる。	Skills Business and management

# Ⅲ 授業科目一覽

# 授業科目及び担当者

必修科目群・共通科目群							
科目群	授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
必修科目	ファイナンス基礎論	2	1・2	教授 教授	青沼 君明 山村 能郎	春秋開講 ※1	25
必修科目	Fundamentals of Finance	2	1・2	教授	サントス ミゲル	英語科目	26
必修科目	マネジメント基礎論	2	1・2	教授 特任教授	野田 稔 安達 幸裕	春秋開講 ※1	27
必修科目	Fundamentals of Management〔M〕	2	1・2	教授	許 佑旭	英語科目 メディア授業科目	28
必修科目	アカウンティング基礎論〔M〕 アカウンティング基礎論	2	1・2	教授	山口不二夫	春秋開講 メディア授業科目併設 ※1	29
必修科目	Fundamentals of Accounting	2	1・2	(商) 教授	姚 俊	英語科目	30
必修科目	マーケティング基礎論 マーケティング基礎論〔M〕	2	1・2	教授 教授 教授	橋本 雅隆 戸谷 圭子 首藤 明敏	春秋開講 メディア授業科目併設 ※1	31
必修科目	Fundamentals of Marketing〔M〕	2	1・2	兼任講師	張 巧韻	英語科目 メディア授業科目	32
必修科目	Global Business Studies〔M〕	2	1・2	教授	許 佑旭	英語科目 メディア授業科目 ※2	33
必修科目	Global Business Studies	2	1・2	教授	サントス ミゲル	春秋開講 英語科目 ※2	34
必修科目	Global Business Studies	2	1・2	教授	沼田 優子	春秋開講 英語科目 ※2	35
共通科目	企業倫理〔M〕	2	1・2	教授	山口不二夫	メディア授業科目	36
共通科目	ゲーム論と企業戦略	2	1・2	兼任講師	丸田 利昌		37
共通科目	ビジネスのための基礎数学	2	1・2	兼任講師	中山 季之		38
共通科目	ビジネス・データ解析	2	1・2	教授	青沼 君明		39
共通科目	V B A 基礎	2	1・2	教授	青沼 君明		40
共通科目	A I 活用とディープラーニングの基礎	2	1・2	教授	青沼 君明		41
共通科目	Pythonによるデータサイエンティストの基礎	2	1・2	兼任講師	中山 季之		42
共通科目	経済学	2	1・2	教授	山村 能郎		43
共通科目	日本経済と経営	2	1・2	(会) 教授	吉村 孝司	春秋開講	44
共通科目	自己表現(プレゼンス)	2	1・2	兼任講師	三輪えり花		45
ファイナンス領域	グローバル・ビジネス研究Ⅱ(2019年度以前入学者)	2	1・2	教授	王 京穂 山村 能郎	ハイブリッド 対応なし	46
共通科目	グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ(2020年度以降入学者)						
マネジメント領域	グローバル・ビジネス研究Ⅲ(2019年度以前入学者)	2	1・2	教授	許 佑旭	英語科目 ハイブリッド 対応なし	46
共通科目	グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ(2020年度以降入学者)						
リアルエステート領域	グローバル・ビジネス研究Ⅳ(2019年度以前入学者)	2	1・2	兼任講師	村木 信爾	ハイブリッド 対応なし	47
共通科目	グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ(2020年度以降入学者)						
マネジメント領域	グローバル・ビジネス研究Ⅵ(2019年度以前入学者)	2	1・2	教授	藤岡 資正	ハイブリッド 対応なし	48
共通科目	グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ(2020年度以降入学者)						
マネジメント領域	グローバル・ビジネス研究Ⅶ(2019年度以前入学者)	2	1・2	教授	山口不二夫	英語科目 ハイブリッド 対応なし	49
共通科目	グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ(2020年度以降入学者)						
マネジメント領域	グローバル・ビジネス研究Ⅷ(2019年度以前入学者)	2	1・2	教授	山口不二夫	2024年度未開講	
共通科目	グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ(2020年度以降入学者)						

※1 使用言語が日本語の必修科目は、同一科目で年間2コマまたは3コマ開講します。その内の1コマのみ履修可能です。

※2 「Global Business Studies」は、担当教員が異なる場合も同一科目扱いのため、いずれかの履修しか認められません。内容は異なります。

専門科目群（ファイナンス・リアルエステート領域）						
授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
コーポレート・ファイナンス	2	1・2	教授	王 京穂		50
リスク・マネジメント	2	1・2	教授	青沼 君明		51
金融工学基礎	2	1・2	教授	王 京穂		52
証券投資論	2	1・2	兼任講師	伊藤 敬介		53
年金マネジメント	2	1・2	兼任講師	大坪英二郎	ハイブリッド 対応なし	54
パーソナルファイナンス	2	1・2	兼任講師	大坪英二郎	ハイブリッド 対応なし	55
行動ファイナンス論	2	1・2	教授	王 京穂		56
金融論	2	1・2	兼任講師	小田切尚登		57
ケース・スタディ I（ファイナンス）－フィンテック－	2	1・2	教授	王 京穂		58
CaN International 寄附講座 「Strategy for CFO and M&A Accounting」 [M]	2	1・2	客員教授 客員准教授	大久保昭平 小田 英毅	英語科目 メディア授業科目	59
企業資金マネジメント	2	1・2	教授	サントス ミゲル		60
Corporate Liquidity Management	2	1・2	教授	サントス ミゲル	英語科目	61
Corporate Value Management	2	1・2	教授	サントス ミゲル	英語科目	62
企業価値マネジメント	2	1・2	教授	サントス ミゲル		63
不動産ファイナンス論	2	1・2	教授	山村 能郎		64
不動産開発論	2	1・2	兼任講師	信田 直昭		65
都市計画論	2	1・2	教授	山村 能郎		66
不動産実務・税制（ファミリービジネス）	2	1・2	兼任講師	村木 信爾		67
不動産市場分析	2	1・2	教授	山村 能郎		68
企業不動産（CRE）戦略・サービス論	2	1・2	兼任講師	村木 信爾		69
グローバル CRE（企業不動産）戦略論	2	1・2	兼任講師	佐藤 俊朗		70
証券化関連法	2	1・2	兼任講師	片山 典之		71
ESG 投資と ESG 経営	2	1・2	教授	王 京穂		72

専門科目群（マネジメント領域）						
授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
スタートアップビジネス II	2	1・2	客員教授	石川 明	ハイブリッド 対応なし	73
戦略マネジメント	2	1・2	（営）教授	歌代 豊		74
ファミリービジネス概論	2	1・2	兼任講師	加藤 幸人		75
中小企業論	2	1・2	特任教授	安達 幸裕		76
中小企業経営概論	2	1・2	特任教授	安達 幸裕		77
ファミリービジネスと企業家精神	2	1・2	特任教授	安達 幸裕		78
ファミリービジネスと人材戦略	2	1・2	特任教授	安達 幸裕		79
ファミリービジネスと経営計画策定	2	1・2	特任教授	安達 幸裕		80
ファミリービジネスコンサルティング	2	1・2	特任教授	安達 幸裕		81
International Business	2	1・2	兼任講師	ベリッツァー マルコ	新設 英語科目	82
経営組織論	2	1・2	教授	野田 稔		84
組織行動論	2	1・2	教授	野田 稔		85
HRM・人材育成論	2	1・2	教授	野田 稔		86
HRM・人材育成論（演習）	2	1・2	教授	野田 稔		87
Family Business [M]	2	1・2	教授	許 佑旭	英語科目/ 隔年開講科目 メディア授業科目 2024年度未開講	
International Family Business [M]	2	1・2	教授	許 佑旭	英語科目/ 隔年開講科目 メディア授業科目	88
Human Resource Management [M]	2	1・2	教授	許 佑旭	英語科目/ 隔年開講科目 メディア授業科目	89



授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
International Human Resource Management〔M〕	2	1・2	教授	許 佑旭	英語科目／ 隔年開講科目 メディア授業科目 2024年度未開講	
M&A概論	2	1・2	教授	岡 俊子		90
M&A基礎スキル演習	2	1・2	教授	岡 俊子		91
ディールサイクル	2	1・2	教授	岡 俊子		92
プライベートエクイティファンド概論	2	1・2	教授	岡 俊子		93
事業継承とM&A〔M〕	2	1・2	教授	岡 俊子	メディア授業科目	94
ベンチャーのエコシステム〔M〕	2	1・2	教授	岡 俊子	メディア授業科目	95
Strategic Management	2	1・2	教授	沼田 優子	春秋開講 英語科目	96
経営戦略論	2	1・2	教授	沼田 優子	春秋開講 英語科目	97
キャリア開発	2	1・2	(営)教授	中西 晶		98
オペレーション	2	1・2	兼任講師	竹之内 隆		99
ヘルスケア・マネジメント	2	1・2	兼任講師	田中智恵子		100
ヘルスケア産業のマネジメントと経済学	2	1・2	兼任講師	姉川 知史		100
マネジメント・ワークショップ	2	1・2	教授	首藤 明敏	2024年度未開講	
ビジネスイノベーション	2	1・2	教授 兼任講師	首藤 明敏 狩谷 真治		103
ケース・スタディⅢ (マネジメント)	2	1・2	教授	野田 稔		104
ケース・スタディⅣ (マネジメント)	2	1・2	教授	野田 稔		105
知的資本戦略論	2	1・2	兼任講師	関 大地		106
トランスラクチャ寄附講座 「人事の定量分析論」	2	1・2	客員教授	林 明文	2024年度未開講	
中国経済事情	2	1・2	教授	王 京穂		107
企業戦略論	2	1・2	兼任講師	土屋 繼		108
Business Communication	2	1・2	兼任講師	小田切尚登	春秋開講 英語科目	109
新興国市場のマネジメント	2	1・2	教授	藤岡 資正	ハイブリッド 対応なし	110
新興国市場のマネジメント (演習)	2	1・2	教授	藤岡 資正	ハイブリッド 対応なし	111

専門科目群 (アカウンティング領域)						
授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
財務会計論	2	1・2	教授	山口不二夫		113
企業分析	2	1・2	教授	山口不二夫		114
Business Analysis (Seminar)	2	1・2	兼任講師	許 英姿	英語科目	115
非営利組織の会計	2	1・2	教授	山口不二夫		116
戦略とマネジメント・コントロール・システム	2	1・2	教授	藤岡 資正	ハイブリッド 対応なし	117
戦略とマネジメント・コントロール・システム (演習)	2	1・2	教授	藤岡 資正	ハイブリッド 対応なし	118
租税法概論	2	1・2	特任教授	池田 義典	新設 春秋開講	119
タックス・マネジメント基礎	2	1・2	教授	鈴木 孝直	春秋開講	120
タックス・マネジメント応用	2	1・2	特任教授	池田 義典	春秋開講	120
タックス・マネジメント国際	2	1・2	特任教授	池田 義典		121
山田コンサルティンググループ寄附講座 「事業承継・M&A・資産承継の税務」	2	1・2	客員教授 客員教授	奥村 忠史 前田 祐		122
所得税法	2	1・2	教授	鈴木 孝直	新設 春秋開講	124
国際租税法	2	1・2	教授	大野 雅人	春秋開講	124
法人税法	2	1・2	(会)教授 教授	池上 健 大野 雅人	春秋開講	125
租税手続法	2	1・2	教授	大野 雅人		125
資産課税法	2	1・2	教授	鈴木 孝直	春秋開講	126
消費税法	2	1・2	教授	大野 雅人	新設	126

授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
中小企業の会計	2	1・2	兼任講師	小川 晃司		127
企業価値評価論	2	1・2	兼任講師	富田 竜一	ハイブリッド 対応なし	129
キャッシュ・フロー・マネジメント会計	2	1・2	兼任講師	高橋 篤史		130
国際会計実務	2	1・2	兼任講師	許 英姿		131
租税法演習Ⅰ	2	1・2	教授	大野 雅人	新設	132
租税法演習Ⅱ	2	1・2	特任教授	池田 義典	新設	133

専門科目群（マーケティング領域）						
授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
マーケティング環境分析	2	1・2	兼任講師	中島 聡		134
サービス・マーケティング	2	1・2	兼任講師	庄司 真人	研究科HPで公開	
製造業のサービス化〔M〕	2	1・2	教授	戸谷 圭子	メディア授業科目	135
ヘルスケア・マーケティング	2	1・2	兼任講師	田中智恵子		135
e-マーケティング	2	1・2	兼任講師	高橋 一貢	ハイブリッド 対応なし	136
消費者行動論	2	1・2	兼任講師	松下 光司	ハイブリッド 対応なし	136
デザインシンキング	2	1・2	兼任講師	小川 亮		137
ブランド価値経営	2	1・2	教授	首藤 明敏		139
マーケティング・コミュニケーション	2	1・2	教授	首藤 明敏		140
ビジネス・マーケティング	2	1・2	兼任講師	中 麻弥美		141
流通マネジメント（ファミリービジネス）	2	1・2	教授	橋本 雅隆		142
データドリブンマーケティング	2	1・2	兼任講師	山之口 援		143
ロジスティクス論	2	1・2	教授	橋本 雅隆		144
流通論	2	1・2	教授	橋本 雅隆		145
サプライチェーン・マネジメント	2	1・2	教授	橋本 雅隆		146
マーケティング・リサーチ〔M〕	2	1・2	教授	戸谷 圭子	メディア授業科目	147
ケース・スタディⅠ（マーケティング）	2	1・2	教授	首藤 明敏		148
ケース・スタディⅡ（マーケティング）	2	1・2	兼任講師	庄司 真人	研究科HPで公開	

ビジネス・ロー領域						
授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
ビジネスロー概論	2	1・2	教授	中山 知己	春秋開講	149
企業法務	2	1・2	兼任講師	石上麟太郎		150
ビジネス物権法	2	1・2	教授	中山 知己		151
ビジネス契約法	2	1・2	教授	中山 知己	春秋開講	152
ケース・スタディ民法	2	1・2	教授	中山 知己		153
相続法の基礎	2	1・2	（法務）教授	平田 厚	新設 春秋開講	154
労働法の基礎	2	1・2	（法務）教授	野川 忍	新設	155
企業活動と知的財産	2	1・2	教授	熊谷 健一	春秋開講	156
事業戦略と知的財産マネジメント（基礎）	2	1・2	教授	熊谷 健一		157
事業戦略と知的財産マネジメント（ケース・スタディ）	2	1・2	教授	熊谷 健一		158
著作権マネジメント	2	1・2	教授	熊谷 健一	春秋開講	159

論文演習						
授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
論文演習Ⅰ	2	2	教授	青沼 君明	春秋開講	160
論文演習Ⅱ	2	2	教授	青沼 君明		160
論文演習Ⅰ	2	2	教授	王 京穂	春秋開講	161
論文演習Ⅱ	2	2	教授	王 京穂	春秋開講	161
論文演習Ⅰ	2	2	教授	山村 能郎	春秋開講	162
論文演習Ⅱ	2	2	教授	山村 能郎	春秋開講	162
論文演習Ⅰ /Thesis Tutorial 1	2	2	教授	サントス ミゲル	春秋開講 英語科目	163

授業科目	単位	配当年次	職格	教員氏名	備考	ページ
論文演習Ⅱ /Thesis Tutorial 2	2	2	教授	サントス ミゲル	春秋開講 英語科目	164
論文演習Ⅰ	2	2	兼任講師	村木 信爾	春秋開講	165
論文演習Ⅱ	2	2	兼任講師	村木 信爾	春秋開講	165
論文演習Ⅰ	2	2	教授	野田 稔	春秋開講	166
論文演習Ⅱ	2	2	教授	野田 稔	春秋開講	166
論文演習Ⅰ (日本語)	2	2	教授	藤岡 資正	春秋開講	167
論文演習Ⅱ (日本語)	2	2	教授	藤岡 資正	春秋開講	168
論文演習Ⅰ /Thesis Tutorial 1 (英語)	2	2	教授	藤岡 資正	春秋開講 英語科目	168
論文演習Ⅱ /Thesis Tutorial 2 (英語)	2	2	教授	藤岡 資正	春秋開講 英語科目	169
論文演習Ⅰ	2	2	教授	岡 俊子	春秋開講	169
論文演習Ⅱ	2	2	教授	岡 俊子	春秋開講	170
論文演習Ⅰ /Thesis Tutorial 1〔M〕	2	2	教授	許 佑旭	春秋開講 英語科目 メディア授業科目	170
論文演習Ⅱ /Thesis Tutorial 2〔M〕	2	2	教授	許 佑旭	春秋開講 英語科目 メディア授業科目	171
論文演習Ⅰ	2	2	教授	沼田 優子	春秋開講	171
論文演習Ⅱ	2	2	教授	沼田 優子	春秋開講	172
論文演習Ⅰ	2	2	特任教授	安達 幸裕	春秋開講	173
論文演習Ⅱ	2	2	特任教授	安達 幸裕	春秋開講	174
論文演習Ⅰ	2	2	教授	山口不二夫	春秋開講	174
論文演習Ⅱ	2	2	教授	山口不二夫	春秋開講	175
論文演習Ⅰ	2	2	教授	大野 雅人	春秋開講	175
論文演習Ⅱ	2	2	教授	大野 雅人	春秋開講	176
論文演習Ⅰ	2	2	教授	鈴木 孝直	春秋開講	176
論文演習Ⅱ	2	2	教授	鈴木 孝直	春秋開講	177
論文演習Ⅰ	2	2	特任教授	池田 義典	春秋開講	177
論文演習Ⅱ	2	2	特任教授	池田 義典	春秋開講	178
論文演習Ⅰ〔M〕	2	2	教授	戸谷 圭子	春秋開講 メディア授業科目	178
論文演習Ⅱ〔M〕	2	2	教授	戸谷 圭子	春秋開講 メディア授業科目	179
論文演習Ⅰ	2	2	教授	橋本 雅隆	春秋開講	179
論文演習Ⅱ	2	2	教授	橋本 雅隆	春秋開講	180
論文演習Ⅰ	2	2	教授	首藤 明敏	春秋開講	180
論文演習Ⅱ	2	2	教授	首藤 明敏	春秋開講	181
論文演習Ⅰ	2	2	教授	中山 知己	春秋開講	181
論文演習Ⅱ	2	2	教授	中山 知己	春秋開講	182
論文演習Ⅰ	2	2	教授	熊谷 健一	春秋開講	182
論文演習Ⅱ	2	2	教授	熊谷 健一	春秋開講	183

## クラスター履修モデル

本研究科では、従来の学問分野という概念に加え、分野横断的な履修モデルである「クラスター」の概念を導入しています。以下に両クラスターの履修モデルを掲載しますので履修科目選定の参考にしてください。

### 〈ファミリービジネス・クラスター履修モデル〉

科目群・領域	科目名
共通科目	企業倫理
ファイナンス・リアルエステート	企業資金マネジメント
ファイナンス・リアルエステート	ESG 投資と ESG 経営
マネジメント	中小企業論
マネジメント	中小企業経営概論
マネジメント	ファミリービジネスと企業家精神
マネジメント	ファミリービジネスと人材戦略
マネジメント	ファミリービジネスと経営計画策定
マネジメント	経営組織論
マネジメント	組織行動論
アカウンティング	企業分析
アカウンティング	租税法概論
アカウンティング	中小企業の会計
マーケティング	ブランド価値経営
マーケティング	流通マネジメント（ファミリービジネス）
ビジネス・ロー	ビジネスロー概論

### 〈スタートアップビジネス・クラスター履修モデル〉

科目群・領域	科目名
共通科目	企業倫理
ファイナンス・リアルエステート	企業資金マネジメント
ファイナンス・リアルエステート	ESG 投資と ESG 経営
マネジメント	スタートアップビジネスⅡ
マネジメント	中小企業論
マネジメント	ベンチャーのエコシステム
マネジメント	ビジネスイノベーション
アカウンティング	企業分析
アカウンティング	戦略とマネジメント・コントロール・システム
アカウンティング	戦略とマネジメント・コントロール・システム（演習）
アカウンティング	租税法概論
アカウンティング	中小企業の会計
マーケティング	e-マーケティング
マーケティング	デザインシンキング
ビジネス・ロー	ビジネスロー概論
ビジネス・ロー	企業活動と知的財産

# IV 2024 年度開講科目

## 【注意事項】

各科目、原則 15 回分の授業内容を記載していますが、土曜日実施の授業回数は、原則 14 回です。土曜日実施の科目内容については、初回授業のガイダンスにて確認してください。

科目名の末尾に〔M〕が表示された科目はメディア授業科目です。授業回数の全部または半数以上をメディア授業（ZOOM 等を用いたオンライン授業）形式で実施します。

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN561J	ファイナンス基礎論	2	1・2年	日本語	青沼君明 山村能郎					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○			○	○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>経営には、将来キャッシュフローの評価、為替が1円変化した場合に収益に与える影響分析、経済データに基づく将来の売り上げ予測など、データによる経営を「見える化」する力が必要不可欠となる。この授業では、以下の様な今後のビジネスパーソンにとって必要不可欠なスキルとなっている、データ解析、リスク・マネジメント、キャッシュフロー評価モデル、感応度分析といった理論と、EXCELでの実装方法の習得を目指す</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営分析で不可欠な将来キャッシュフローの現在価値について、将来キャッシュフローにリスクを考慮した場合、様々な金利の定義の違いを考慮した場合、さらには金利の不確実性を考慮した場合などについて比較検討し、評価ツールを実装する。</li> <li>2. ビジネスとしての収益、リスクなどの価値を評価するための基本モデルと実装方法について学ぶ。</li> <li>3. 経営分析で必要となる、経済指標を用いた企業収益の推定モデル、感応度の評価モデルなどを実装する。</li> <li>4. 資金調達、事業性評価モデル、リスク・コントロールの基本を学ぶ。</li> <li>5. 実務のデータをEXCELの分析ツールを使って解析する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	金融と金融市場	テーマ：①ビジネスリスクと投資判断、②世帯別所得金額の分析、③基本統計量、④正規分布と対数正規分布								
2.	将来キャッシュフロー(株式と債券)(1)	テーマ：①無リスクな割引価値、②DCF法(Discounted Cash Flow法)、③収益率								
3.	将来キャッシュフロー(株式と債券)(2)	テーマ：①株価対数収益率の計算、②株価時価総額、③金利とキャッシュフロー、④利付債								
4.	株式とCAPM理論(1)	テーマ：①相関とポートフォリオ、②共分散と相関係数、③平均分散モデル								
5.	株式とCAPM理論(2)	テーマ：①ポートフォリオの収益率、②ポートフォリオのリスク最小化、③有効フロンティアと資本市場線、④CAPMの導出								
6.	リスクとヘッジ(先渡取引)	テーマ：①フォワード契約(先渡契約)によるリスクコントロール、②フューチャーとは								
7.	リスクとヘッジ(オプション)	テーマ：①オプションによるリスクコントロール、②フューチャーとオプションの違い								
8.	資金調達とリスク評価(1)	テーマ：①資金調達と現在価値、②倒産確率が資金調達に与える影響								
9.	資金調達とリスク評価(2)	テーマ：①調達コスト								
10.	リスク・コントロールとスワップ取引	テーマ：①デリバティブの利用目的、②スワップを用いたリスクコントロール、③スワップ・レートの計算								
11.	モンテカルロ・シミュレーション	テーマ：①モンテカルロ・シミュレーションによる将来の損益計算書の予想								
12.	売上分析	テーマ：①売上をデータ分析								
13.	データの将来予測(1)	テーマ：①分布特性の分析								
14.	データの将来予測(2)	テーマ：①回帰モデル								
15.	期末試験									
注意：番号は、授業日程を示していない(テーマによって時間配分は異なる)										
履修上の注意点										
<p>演習にExcelを用いるため、基本的な使い方については事前に習得しておくこと。</p> <p>授業は、12号館のPC教室で行い、Windows版のExcelを用いる。自身のAppleパソコンのExcelでは、一部動作しない場合があるので注意が必要。</p> <p>授業では、Excelの「分析ツール」、「ソルバー」、「ゴールシーク」、「ピボットテーブル」などのツールも利用する。</p> <p>「ファイナンス基礎論」と「Fundamentals of Finance」は同一科目扱いのため、いずれかの履修しか認められない。</p>										

準備学習(予習・復習等)の内容
Excelの基本操作
教科書
レジュメ、演習問題については、各テーマごとにクラスウェブ上で配布。なお、演習は各自復習することを前提とし、解答については遅れて配布する。
参考書
木島・青沼(2003)、「Excel&VBAで学ぶファイナンスの数理」、金融財政事情研究会。
課題に対するフィードバックの方法
課題(演習)の解答例については、クラスウェブにアップする。期末試験の準備として、期末試験対策資料をクラスウェブにアップする。また、期末試験の解説については、試験終了時点で模範解答を配布する。
成績評価の方法
(1) 授業への貢献度：10% (2) 期末テスト：90%
その他

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)ECN561E	Fundamentals of Finance	2	1st-2nd Year	English	サントス ミゲル SANTOS Miguel					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
	○		○	○			○			○
Course Summary and Objectives										
<p>Managers must possess the ability to assess past financial data, forecast sales, estimate future cash-flows, and prepare pro-forma financial statements. They need also to understand, quantify, and manage risks, as well as determine an appropriate capital structure for a variety of business, including corporations, family business and start-ups. This course is designed to impart a robust comprehension of fundamental corporate finance principles and theories that are crucial for business professionals to grasp the repercussions of their decisions on their companies' financial performance. Additionally, it aims to cultivate proficiency in utilizing Excel for analyzing financial issues.</p> <p>Case discussions will be used in this course to link the theoretical models to actual managerial practice.</p> <p>Course ILOs:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Be able to estimate future cash flows and the appropriate discount rates in order to value real and financial assets using DCF methods.</li> <li>2. Understand the basic asset valuation models, such as CAPM and APT, and develop the ability to implement them to corporations, family business and start-ups.</li> <li>3. Be able to apply sensitivity analysis to DCF evaluation methods.</li> <li>4. Understand the impact of the choice between alternative sources of capital for corporations, family business and start-ups.</li> <li>5. Understand the role of derivatives in managing risk.</li> <li>6. Be able to understand and use the basic analytical tools employed in financial analysis.</li> <li>7. Be able to analyze financial data using Excel.</li> </ol>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1	Introduction	Introduction to the course: methods, bibliography, and student evaluation. Some basic concepts concerning liquidity management and cash flows. The time value of money.								
2-3	Cash management I & II	Basic tools for financial analysis. Diagnosis, forecast, and corporate policies concerning liquidity management. Working Capital and Working Capital Requirements. Required pre-reading: J.M.P. Santos, <i>Yuzuya Asian Food</i> , The Case Centre, ref. no. 118-0021-1, 2018.								
4	Valuation of future cash-flows	DCF: future cash flows, discount rates. NPV, IRR, and other capital budgeting decisional criteria. Interpreting rates of return.								
5	Comparing the value of alternative cash flows	Quantitative analysis of a buy or rent decision using expected future cash flows, opportunity cost of capital annuities and growing annuities. Required pre-reading R.S.K. Tan, Z.R. Huszar & W. Zhang, <i>Buy or Rent: Living in Singapore</i> , Ivey Publishing, W17437, 2017.								
6-7	Valuation of an investment in a new product	The launching of a new product: value for whom? Diverse stakeholders' interests. The choice of the proper valuation method for a new project. Assessing and modelling future cash flows: spotting sunk costs, opportunity costs, costs in using shared assets, cannibalization, overheads, and working capital requirements. The estimation of residual and terminal values. Real and nominal cash-flows. Using the NPV and the IRR. Required pre-reading: Heirich, Steiroeder and Raviv, <i>Energy Gel: A New Product Introduction (A)</i> , Kellogg School of Management, KEL083.								

8	Portfolio theory	Portfolio theory and the CAPM: the relationship between risk and return. Arbitrage Pricing Theory.
9	Dividends, debt policy and capital structure	Dividend policy. Leverage and returns. Corporate taxes, the cost of financial distress and the optimal capital structure: the Modigliani and Miller theorem.
10	The cost of capital	The estimation of the corporate and divisional cost of capital. Required pre-reading: Richard S. Ruback, <i>Marriott Corporation: The Cost of Capital (Abridged)</i> , Harvard Business School, 9-289-047.
11	Corporate financial analysis	Evaluating past financial performance and forecasting future sales growth, profitability and liquidity. Required pre-reading: <i>Friendly Cards, Inc.</i> , Harvard Business School, 9-293-135.
12	Public & private issues. M&A	External sources of capital. The rationales for M&As. Required pre-reading: <i>Friendly Cards, Inc.</i> , Harvard Business School, 9-293-135.
13	Managing risk with derivatives	The control of risk through the use of forward, futures and option contracts. The basics of future trading.
14	Overall review	Main implications of finance theory to managerial practice.
15	Final Exam	Final exam and feedback.
Prerequisites and registration requirements		
"ファイナンス基礎論" and "Fundamentals of Finance" are the same course. Students must choose between either Japanese or English delivery. To benefit fully from this course students should have some familiarity with Excel.		
Preparation and Review		
Students are expected to have prepared the assigned cases before each class (see Course Contents). This means reading the case and trying to answer the preparation questions (to be handed-out during the course)		
Textbook(s)		
<p>This course requires the pre-reading of five cases (indicated in the Course Contents). The case for Weeks 2-3 (Yuzuya Asian Food) may be acquired at: <a href="https://www.thecasecentre.org/products/view?id=151279">https://www.thecasecentre.org/products/view?id=151279</a>. All other cases may be acquired at: <a href="https://hbsp.harvard.edu/">https://hbsp.harvard.edu/</a>, where a Course Pack will be prepared.</p> <p>The recommended textbook is: James C. Van Horne and John M. Wachowicz, <i>Fundamentals of Financial Management</i>, 13th edition, Pearson, 2009.</p> <p>An alternative is: Richard Brealey, Stewart Myers and Franklin Allen, <i>Principles of Corporate Finance</i>, 13th edition, McGraw Hill, 2020.</p> <p>Additional textbooks may be recommended based on the individual needs of students.</p>		
Reference(s)		
References to academic and practitioner articles will be made in class. These articles are not required reading.		
How to provide Feedback to assignments		
Feedback will be given online (to each learning report) and orally at the end of the course (or each week after class if necessary).		
Grading and Evaluation		
<p>Grading and evaluation will include the following elements:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Quality of participation in case discussions (weeks 2 - 14; 25%)</li> <li>(2) Three Learning Reports (due after weeks 3, 7 and 12; 25%)</li> <li>(3) Final exam (week 15; 50%)</li> </ol> <p>Achievement of the seven course ILOs of this course will be evaluated through these three elements.</p>		
Other		
Students are expected to actively participate in discussion and communication in English.		



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN521J	マネジメント基礎論	2	1・2年	日本語	野田 稔 安達幸裕					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○					○	
授業の概要・到達目標										
Course ILO マネジメント基礎										
<ul style="list-style-type: none"> <li>マネジメント（経営するとはそもそもどういうことか）の概念、企業とは何か、生産性の向上といった企業経営に必要な基本的な概念を理解する。</li> <li>経営者として成功した先人の考え方を学ぶことにより、自らの今の時点における「マネジメント持論」を構築する。</li> <li>将来、経営者としてマネジメントを行う際、悩んだときに学び直せる力を身につける。読むべき本を知る、検索すべきテクニカルタームを知るなどの学び直しのための基礎知識を身につける。</li> </ul>										
<p>「マネジメントとは、成果に対する責任に由来する客観的な機能である」とは、かのピーター・ドラッカーがその大著、「マネジメント～課題・責任・実践（Management: Tasks, Responsibilities, Practice」Drucker, P.F., 1973）」において喝破した言葉である。また同時に、現代社会が組織なくして何事もなしえず、これに対峙する概念が全体主義であるとした上で、全体主義からわれわれを守る唯一の策が、組織に成果をあげさせ得るマネジメントだ、と切り切る。これほどマネジメントの意味するところを端的に述べた言葉もなからう。ドラッカーによれば、マネジメントとは組織をして成果をあげさせる、一連の行為そのものであり、組織なくしてマネジメントはなく、またマネジメントなくして組織は存立し得ない。この定義からすると、マネジメントの最も適切な日本語訳は、「成果追求のための組織運営法」と言うことにならう。マネジメントの一般的範疇は、(1) 生産性向上のための管理法諸説、(2) 成果を生む組織構造構築（マクロ組織論）、(3) 人と組織の関係性を考える人材マネジメント（ミクロ組織論）、(4) 将来のためのマネジメント開発、(5) 管理会計、(6) マーケティング、(7) 長期プランニング（前出「Management: Tasks, Responsibilities, Practice」より一部改変）となっているが、本コースでは他のコースとの関係性も考慮し、とりわけ(1)、(4)、(7)に焦点を当てて議論する。また、(2)、(3)に関してはこれに続く専門科目への導入となるような講義を行う。(5)、(6)に関してはそれぞれの基礎科目並びに専門科目での履修を行ってほしい。本コースはマネジメント領域の専門科目へのイントロダクションであることを考え、詳細な知識よりも、概念としてのマネジメントを感覚的に理解することに主眼を置く。受講者にはマネジメントに関する知識は要求しないが、自らの今までの組織体験を重視し、概念・理論と実体験との対比を行いながら議論を進める方法をとりたい。ゆえに、講義中の議論への積極的な参加が前提となることを銘記されたい。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション～マネジメント論の意義と限界	マネジメントとは何かを考える。その体系を鳥瞰図的に見た上で、マネジメント論を学び始めるにあたり、学問としてのマネジメント論の意義と限界を確認したい。								
2	企業とは何か？	マネジメントにおける企業の捉え方に関して考える。企業とは利益追求を目的とするとは一般には言われているが、果たしてそうだろうか。企業の社会的意義について考える。								
3	生産性向上に関する諸説（1）	マネジメントの最も基本的な命題である、生産性向上に向けた取り組みについて学ぶ。科学的管理法からTQMにいたる科学的アプローチを紐解く。								
4	生産性向上に関する諸説（2）	ホーソン工場実験に始まる行動論的アプローチの流れとその意義を探る。ここでは科学的アプローチと行動論的アプローチの比較、動機づけ理論の初歩を学ぶ。								
5	マネジャーの役割	マネジャーとは何を行う役割であろうか。「マネジャーたるなりダーたれ」と言うが、この表現は正しいだろうか。マネジャーの役割とリーダーシップについて学ぶ。								
6	組織論へのイントロダクション	経営組織論（マクロ組織論）、組織行動論（ミクロ組織論）へのイントロダクションを行う。マネジメント分野における組織の概念について学ぶ。								

7	経営戦略論（1）	戦略とは何かを理解する。戦略の諸定義、戦略立案のフレームワーク、競争戦略のパターンなどについて学ぶ。
8	経営戦略論（2）	戦略とは何かを理解する。戦略の諸定義、戦略立案のフレームワーク、競争戦略のパターンなどについて学ぶ。（続き）
9	経営戦略論（3）	古典的戦略論、軍事戦略論などについて学ぶ。
10	経営戦略論（4）	経営戦略論全体を体系的に俯瞰する。
11	現代企業のマネジメント課題（1）	その時々トピックスを取り上げて議論する。（例：企業不祥事はなぜ起こるのか）
12	現代企業のマネジメント課題（2）	その時々トピックスを取り上げて議論する。（例：ミドルマネジメントの活性化問題）
13	先人のマネジメント持論（1）	マネジメント持論課題として各人持ち帰った文献から先人のマネジメント持論を抽出した上で、グループで「エッセンス」を抽出する。グループディスカッションを行う。
14	先人のマネジメント持論（2）	各グループごとにまとめた、「マネジメント持論のエッセンス」を互いに発表し、その意味するところをディスカッションする。
15	私のマネジメント持論	講義全体を通じてつむぎあげた、各人のマネジメント持論を一人ずつ発表する。
履修上の注意点		
<p>マネジメントに関する知識は必要としない。しかし、自らの組織体験と照らし合わせながらの理解を重視したいので、議論への積極的な参加は必須である。出席を重視する。</p> <p>「マネジメント基礎論」と「Fundamentals of Management」は同一科目扱いのため、いずれかの履修しか認められない。</p>		
準備学習（予習・復習等）の内容		
毎回のレジュメに事前に目を通すこと。事後、自らのノートを見直すこと。		
教科書		
特になし。毎回レジュメを用いながら講義を進める。		
参考書		
講義中に適宜指示する。		
課題に対するフィードバックの方法		
最終レポートに関するフィードバックを Oh-omeiji 上に投稿する		
成績評価の方法		
<p>(1) 講義への積極的な参加（発言、発表、質問、参加態度など）ならびにクラスへの貢献 40%</p> <p>(2) マネジメント持論課題 20%、最終レポート成績点 40%。</p>		
その他		
マネジメント分野に興味を持っていただくことを最大の目標としている。問題意識を持って参加して欲しい。		



Course Number	Class Subject Name					Credits	Year	Language	Faculty Member		
(GB)MAN526E	Fundamentals of Management [M]					2	1st-2nd Year	English	許 佑旭 HSU Yu-Hsu (Sean)		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○	○	○	○	○					○		
Course Summary and Objectives											
<p>Course ILOs:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Display understanding of management roles, organizational structure and culture and how organizations can change</li> <li>2. Develop and display a strong understanding of the role of ethics, social responsibility and sustainability in modern business</li> <li>3. Develop and display problem-solving and communication skills</li> <li>4. Display understanding of the need to incorporate a more global perspective in personal management practices</li> </ol> <p>Management is a module provides students with insights into the principal ideas and developments in management theory and practice. Apart from the traditional management thinking, the most recent management ideas applied in organisations will also be introduced and discussed. Managerial issues regarding planning, organising, controlling and leading will be covered. Case studies and discussion are employed in class as they not only serve as a platform for mutual learning amongst students in an educational setting, but they also enable students to apply theories/models learnt from the module and equip them with sound analytical skills which will have a significant impact on their future career.</p>											
Course Contents											
1)	Introduction to the module - What is management?										
2)	Management theory - an overview of trends in management studies										
3)	Managerial functions 1 - Planning										
4t)	Managerial functions 2 - Organising										
5)	Managerial functions 3 - Controlling										
6)	Managerial functions 4 - Decision- making										
7)	Group Project Presentation (I)										
8)	Group Project Presentation (II)										
9)	Motivation										
10)	Communication										
11)	Business Ethics										
12)	Corporate Social responsibility										
13)	Organisational Culture										
14)	Individual Project Presentation (I)										
15)	Individual Project Presentation (II)										
Prerequisites and registration requirements											
<p>All the classes will be conducted in English. Students are expected to apply their own experience and knowledge in the discussion activities in English and do the reading assignments so this is not a class for students with low proficiency in English.</p> <p>"マネジメント基礎論" and "Fundamentals of Management" are the same course. Registering either course will be admitted.</p>											
Preparation and Review											
<p>Students should read the material and analyse cases assigned.</p> <p>Students should obtain a copy of the textbook prior to the beginning of the course.</p>											
Textbook(s)											
Combe, C. (2014). <i>Introduction to Management</i> . Oxford: Oxford university Press											
Reference(s)											
<p>Pride, W.M., Hughes, R.J. &amp; Kapoor, J.R. (2017; 2019) <i>Foundations of Business</i>. Boston, MA: Cengage</p> <p>Wilkinson, A., Armstrong, S.J. &amp; Lounsbury, M. (2017) <i>The Oxford Handbook of Management</i>. Oxford: Oxford University Press</p> <p>Drucker, P.F. (2008). <i>The Essential Drucker</i>. New York: Harper Collins</p> <p>Further reading will also be announced in-class.</p>											

How to provide Feedback to assignments
Feedback will be offered either verbally or in a written form depending upon the type of assignments.
Grading and Evaluation
In class discussions 40%; Group Presentation 20%; Final presentation 20%, Final Report 20%
Other
Traditional lecture method is not adopted in this module. Accordingly, students should prepare for and proactively participate in in-class discussion.

科目ナンバー	授業科目名		単位数	配当年次	使用言語	担当教員				
(GB)ACC536J (GB)ACC531J	アカウントング基礎論(M) アカウントング基礎論		2	1・2年	日本語	山口不二夫				
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○			○			○
授業の概要・到達目標										
<p>本科目は、会計学の初歩的な事項を学習し、ビジネスパーソンとして最低限必要となるアカウントングの基礎力を修得することを目標としています。会計は、企業活動のみならず非営利組織や私たちの日常生活の様々な場面で広く使われています。個人や企業・非営利組織のような経済主体の経済活動を、貨幣などを用いて計数的に測定し、その結果を報告書にまとめて利害関係者に伝達するという共通の役割を有しています。経済主体としては、主な目的が利潤追求であるか否かによって営利組織と非営利組織に分かれますが、本科目では、このうち営利組織の会計である企業会計とその情報の利用方法を取り上げます。</p> <p>本科目は、「ビジネスの共通言語」としてのビジネスの世界における会計の役割を理解し、会計情報を作る側の立場のみならず、経営者あるいは投資家・債権者・取引企業や従業員といった会計情報の利用者の立場から、財務諸表の読み取り方とその分析手法を学び、こうした情報を基に経営判断と業績評価を行い、意思決定をしていくための基礎能力を養成します。そのうえで、企業価値の算出や競合他社の分析に際する財務情報の活用方法とその限界を学習します。さらに企業倫理や環境問題といった今日的な課題と会計のかかわりについても議論をします。</p> <p>このように、本科目では、財務情報を活用した問題発見能力・意思決定に資する能力の開発に求められる基礎力の養成に加えて、会計が私たちの社会・制度・組織に対して及ぼす影響や課題についても理解を深め、会計をそれらに埋め込まれた実践として理解していくことの重要性についても議論をしていきたいと思います。このように経済の表現形式である会計という実践を紐解いていくということは、高度に制度化された現代社会において、経済がどのようにして社会を支配しているのかということを理解し、経済に対して人間性を回復させ、混沌とした現代社会の中で未来への可能性に向けて「前へ」進むための「個」を高めていくことに繋がると考えています。</p> <p>本講義ではケースを用いて財務諸表の読み方や企業評価を学習します。ケース企業は1は日産 vs トヨタ、2はANA vs JALです。</p> <p>本講義の到達目標（Course ILOs）には、以下の点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルな視点と社会的責任と倫理観をもって経営問題を解決できる。</li> <li>2. 経営管理のための基盤となる能力を身につける。</li> <li>3. リーダーシップと管理能力を身につける。</li> <li>4. 情報収集とそのデータの分析ができる。</li> <li>5. 戦略プラン策定のための視点を提供する。</li> </ol>										
授業内容										
第1回	授業計画 会計とは何か 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第2回	企業価値とは何か 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第3回	財務諸表の見方：日産とトヨタのケース 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第4回	経営分析の理論：日産とトヨタのケースを通じて 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第5回	企業価値の算出方法 DCF法と企業価値概念 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第6回	会計利潤と経済学的利益の差 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第7回	複式簿記の再構成 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第8回	資産負債の評価基準、減損会計、のれんの評価 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第9回	ケース：リース会計と粉飾 ANA vs JALのケース 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第10回	JALのケース：再生は本物か 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第11回	非営利組織の財務分析 学校法人会計基準の研究 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第12回	イギリス東インド会社の帳簿と財務データの分析 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第13回	興味あるトピックを取り上げる 宇宙の会計など 春学期はメディア授業リアルタイム配信型									
第14回	試験と講評・まとめ：試験を行い、そのあと内容について講評を行う 最終回は春学期も対面です									

平日の講義は15回ですが、その際は第3、4回の2回分が3回分行われます。
履修上の注意点
<p>本科目は、初心者向けの講義ですが、既学習者にもケース企業ももちいての企業評価の視点が多く入っているので退屈しないで学べると思います。初回の講義の中で授業への参加方法などについて説明します。</p> <p>春学期はメディア授業リアルタイム配信型です。ZoomのURLはお知らせ管理で配信します。</p> <p>「アカウントング基礎論」と「Fundamentals of Accounting」は同一科目扱いのため、いずれかの履修しか認められません。</p>
準備学習（予習・復習等）の内容
授業の理解度や進捗に応じて、各教員より指示をします。
教科書
山口『企業分析』白桃書房（改訂中） 教科書・参考書については、その都度、各教員がアドバイスし資料を配ります。
参考書
バレバ他（齊藤監訳）『企業分析入門』東京大学出版会 教科書・参考書については、その都度、各教員がアドバイスします。 参考書として斎藤静樹『企業会計入門』有斐閣はわかりやすいです。
課題に対するフィードバックの方法
Oh-oi Meiji でレポートとして提出した場合は、コメント欄を用いてフィードバックを行う
成績評価の方法
講義への貢献度40%・試験60%により評価をします。試験ができない場合は期末レポートで代替します。
その他
10・2回目は平日のクラス（全部で15回）の授業の場合に行います。

Course Number	Class Subject Name					Credits	Year	Language	Faculty Member		
(GB)ACC531E	Fundamentals of Accounting					2	1st-2nd Year	English	姚 俊 YAO Jun		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○		○	○	○			○			○	
Course Summary and Objectives											
<p>Accounting is the language of business, and the connections between accounting and finance have existed for hundreds of years. Whether your background is in marketing, manufacturing, distribution, R&amp;D, or the current technologies, you need an accounting and financial knowledge and skills if you are to understand your company's decision-making, financial and overall business processes. This course aims to help the business students to gain a basic understanding of accounting and finance, however, focusing on accounting. It emphasizes the business issue instead of calculation and bookkeeping. It teaches what accountants do and why. It tells the students how to read a pro forma financial statement based on the knowledge of the accounting equation, the assumptions of the accounting process, and the ideas behind the capital investment. It also provides a great deal of information on how the finance department contributes to the profitability and performance of the company.</p> <p>Course ILOs: After learning 14 chapters, the students should be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understand the structure of financial statements</li> <li>2. Understand how transactions are recorded using the financial statements template</li> <li>3. Conduct financial statement analysis</li> <li>4. Making decisions using accounting knowledge</li> </ol>											
Course Contents											
1.	What is accounting										
2.	Business activities and financial statements										
3.	Understanding financial information (1) - the income statement										
4.	Understanding financial information (2) - the balance sheet										
5.	Understanding financial information (3) - the statement of cash flows										
6.	Case study- cash flow analysis of a start-up company										
7.	Analysis of financial statements										
8.	Case study - the story of two restaurants										
9.	Using ROA and contribution income statements to measure profit centers										
10.	Overhead allocation										
11.	Decision-making for improved profitability - analysis of business profitability										
12.	Case study- analysis of new business opportunity										
13.	Financial statement forecasting										
14.	Comprehensive case study										
15.	Summary										
Prerequisites and registration requirements											
<p>Students do not have to have accounting knowledge. Those who have learned bookkeeping but lack an understanding of how accounting information is used in business are also welcome.</p> <p>All students should pay attention to the following requirements:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. It is inappropriate to text or answer your smartphone or take pictures or videos without permission in class. Please turn off your smartphone before class.</li> <li>2. Attending class.</li> <li>3. Preparing diligently for each class.</li> <li>4. Turning in homework assignments when they are due.</li> <li>5. "アカウントティング基礎論" and "Fundamentals of Accounting" are the same course. Registering either course will be admitted.</li> </ol>											
Preparation and Review											
<p>Please complete the assigned reading and problems before class. These will help you gauge your understanding of the material.</p> <p>Your homework should be a typed one.</p> <p>For non-native English students, the review of accounting terms in English is critical.</p>											

Textbook(s)
Edward Fields (2016) The Essentials of Finance and Accounting for Nonfinancial Managers (3rd edition). Amacom Books PPT and other materials will be uploaded.
Reference(s)
Peter D. Easton and John J. Wild (2020) Financial Accounting for MBAs 8e ISBN-10 : 1618533584 ISBN-13 : 978-1618533586
How to provide Feedback to assignments
Feedback will be given to the students in the class or through Oh-o! Meiji after class.
Grading and Evaluation
Your course grade will be determined as follows: Participation in class discussions 30% Home assignment 30% Final test 40%
Other
None

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM511J (GB)CMM516J	マーケティング基礎論 マーケティング基礎論(M)	2	1・2年	日本語	橋本雅隆 戸谷圭子 首藤明敏					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○			○		○	
授業の概要・到達目標										
<p>マーケティングは、顧客に視点をおいて立てる経営戦略であり、経営戦略とは表裏の関係にある。本講義マーケティング基礎論では、現象の背後にある法則性の理解という学術的・研究的なアプローチと、その法則を実市場へ応用する訓練という実務的アプローチを適宜繰り返しながら進める。より高度に専門化したマーケティング分野への導入となる科目として、この分野でこれまで蓄積されてきた基礎的な諸概念を学び、受講生がそれらを自分のものとして思考・実務応用できるようになることを目指す。</p> <p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティングの基礎理論を全体的に理解し、専門化したマーケティング分野への土台を築くことができる。</li> <li>マーケティングの基本となるフレームワークを実市場に応用する上での知識と思考能力が身につく。</li> <li>ケースワークや個人レポート作業を通じて、マーケティング理論を実践する上での対応力が向上する。</li> </ul> <p><b>【授業形態】</b></p> <p>科目名に [M] が含まれる授業は基本的にメディア授業 (リアルタイム配信) で実施する。対面 (ハイブリッド) で行う回は事前に連絡する。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	マーケティングとは	マーケティングの全体像を理解するために、その定義や機能、市場と顧客の視点とその関係などについて考える。								
2	マーケティング・ミックス	マーケティングのアクション段階であるマーケティング・ミックス (製品・価格・流通・プロモーション) を理解する。マーケティング・ミックス理解に当たって、その前提となる戦略部分の STP (セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング) について考える。								
3	事業機会・事業領域の選択	市場における事業機会の発見・事業領域選択のためのフレームワークである PEST、SWOT、製品ポートフォリオ、経営理念と事業ドメインなどについて考える。								
4	競争構造の理解	競争優位を維持するための枠組み、マイケル・ポーターの3つの基本戦略および、5つの競争要因、製品ライフサイクル論などについて考える。								
5	製品・サービス戦略	企業のオファーである製品とは消費者にとってどのような価値構造を持つのか、有形なモノ/製品と無形のサービスの違い、モノとサービスの融合現象などを考える。								
6	価格戦略	価格の役割、価格設定の基本アプローチ、価格戦略の種類とセグメント対応、消費者心理と価格設定などについて考える。								
7	流通チャネル・コミュニケーション戦略	流通チャネルの機能、類型、サプライ・チェーン・マネジメントや情報化の影響を考える。また、マーケティング・コミュニケーションの目的・類型、コミュニケーション・ミックス、IMC などについて考える。								
8	消費者行動の理解	消費者の購買意思決定モデル、製品普及モデル、消費者の知覚の歪み、消費者インサイトの把握方法などについて考える。								
9	ブランドの理解	マーケティングにおけるブランドの役割、消費者のブランド理解やその管理の方法などについて考える。								
10	サービスマーケティングと価値共創	企業と顧客の関係変化、顧客の LTV (ライフ・タイム・バリュー)、顧客体験プロセス、価値共創のしくみなどについて考える。								
11	マーケティングにおける情報活用	ビッグデータ時代の大量・多種データのマーケティング活用について考える。								

12	BtoB マーケティング	BtoB マーケティングの基本的枠組みを理解、企業間取引の特性、製造業のサービス化などについて考える。
13	事例による理解 (グループディスカッション)	ケース教材を用いて、これまで学習してきたマーケティングの基礎理論体系を応用する訓練を行う。
14	事例による理解 (クラスディスカッション)	ケース教材を用いて、これまで学習してきたマーケティングの基礎理論体系を応用する訓練を行う。
15	これまでのまとめと質問	全講義を通じての質問を受講生各自が提示、質問への回答およびディスカッションを行う。
履修上の注意点		
<p>本科目は必修科目であり修了までに履修を完了する必要がある。「マーケティング基礎論」と「Fundamentals of Marketing」は同一科目扱いのため、いずれかの履修しか認められない。</p>		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
受講に先立って、別途、Oh-ol! Meiji にアップされる「マーケティング用語集」を読んでおくこと。		
教科書		
レジメを適宜配布するため、特に指定しない。参考書のいずれかを読むことが望ましい。		
参考書		
フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング著 和田充夫翻訳『マーケティング原理 第9版』(2003) (ピアソンエデュケーション) (コトラーのマーケティング原理に関しては、基本的に第何版のものでも構わない。)		
課題に対するフィードバックの方法		
<p>アサイメントに対しては、提出物についてコメントを付けて本人に返し、本人の振り返りに資するとともに、関連する質問を受ける。</p> <p>授業中の発表に対しては適宜コメントを行い、さらなる学習の機会を提供する。</p>		
成績評価の方法		
(1) 授業への貢献度: クラスでの質問・ディスカッションなど (50%) (2) 期末レポート、グループワークの発表 (50%)		
その他		
1年次の受講が望ましい。		

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)CMM516E	Fundamentals of Marketing (M)	2	1st-2nd Year	English	張 巧韵 CHANG Connie					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○	○	○				○	○	
Course Summary and Objectives										
<p>The Fundamentals of Marketing module introduces the basic principles and framework which is necessary for students to make strategic decisions in a dynamic business environment.</p> <p>Topics including marketing plans, consumer behaviour, marketing communication, segmentation, branding, and pricing will be covered. Reading will be assigned each week in order for students to identify marketing opportunities, describe consumer behaviour and focus strategies on fulfilling customers' needs.</p> <p>Course ILOs :</p> <p>Upon completion of this module, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Assess market opportunities by analyzing customers, competitors, collaborators, context, and the strengths and weaknesses of a company.</li> <li>2. Develop effective marketing strategies to achieve organizational objectives.</li> <li>3. Design a strategy implementation program to maximize its chance of success.</li> </ol>										
Course Contents										
***Please note that this course is provided as an online Media-based course. All the classes will be delivered via Zoom.***										
This course will be divided into four parts.										
Part 1: Defining Marketing and the Marketing Process										
1.	Marketing: Creating Customer Value and Engagement									
2.	Company and Marketing Strategy: Partnering to Build Customer Engagement, Value, and Relationships									
Part 2: Understanding the Marketplace and Consumer Value										
3.	Analyzing the Marketing Environment									
4.	Consumer Markets and Buyer Behavior									
5.	Business Markets and Business Buyer Behavior									
Part 3: Designing a Customer Value-Driven Strategy and Mix										
6.	Customer Value-Driven Marketing Strategy: Creating Value for Target Customers									
7.	Products, Services, and Brands: Building Customer Value									
8.	Midterm: Individual Presentation and Discussion									
9.	Pricing: Understanding and Capturing Customer Value									
10.	Marketing Channels: Delivering Customer Value									
11.	Retailing and Wholesaling									
12.	Personal Selling and Sales Promotion									
Part 4: Extending Marketing										
13.	Creating Competitive Advantage									
14.	Sustainable Marketing: Social Responsibility and Ethics									
15.	Final Evaluation and Wrap-up									
Prerequisites and registration requirements										
<p>English is the language used in this module. All activities, including lectures, presentations, essays and examinations, are carried out in the medium of English.</p> <p>"マーケティング基礎論" and "Fundamentals of Marketing" are the same course. Registering either course will be admitted.</p>										
Preparation and Review										
<p>In order to obtain a good grade, students are required to attend each lecture, actively participate in the class discussion and preview and review the chapters for each week.</p>										
Textbook(s)										
Kotler, Philip and Armstong, Gary(2023), Principles of Marketing, 19th edition, Pearson Education, ISBN: 129-244-9365										

Reference(s)
Strategic Brand Management: Building, Measuring and Managing Brand Equity, 4th Edition, Kevin Lane Keller, Essex, England, Pearson Prentice Hall, 2014 ISBN: 978-0-27-377-941-4
Facebook Marketing: Leverage Social Media to Grow Your Business, Steven Holzner, Indiana, QUE Publishing, 2009 ISBN: 978-0-78-973-802-8
Achrol, R. and Kotler, P. (2012), "Frontiers of the Marketing Paradigm in the Third Millennium", Journal of the Academy of Marketing Science, 40 (1), pp. 35-52.
Kimery, K.M. and Rinehart, S. M. (1998), "Markets and Constituencies: An Alternative View of the Marketing Concept", Journal of Business Research, 43 (3), pp. 117-124.
Webster, F.E., Jr. and Lusch, R.F. (2013), "Elevating Marketing: Marketing is Dead! Long Live Marketing!", Journal of the Academy of Marketing Science, 41 (4), pp. 389-399
How to provide Feedback to assignments
Feedback will be provided verbally or in a written form.
Grading and Evaluation
Mid-term Presentation 30% Class Participation 20% Class Discussion 20% Final Evaluation (Case Study) 30%
Other

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)MAN596E	Global Business Studies(M)	2	1st-2nd Year	English	許 佑旭 HSU Yu-Hsu (Sean)					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○						
Course Summary and Objectives										
<p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Understand the impact of globalisation on contemporary economic organisations and our society.</li> <li>Explore and learn issues associated with ERS in the business world.</li> <li>Identify and analyse challenges encountered by the managers of the MNEs and offer sound advice.</li> </ol> <p>This module offers students an opportunity to explore certain contemporary issues concerning management in the global context with a focus on ERS (Ethics, Responsibility and Sustainability). Relevant concepts and theories will be explored and discussed. Case studies are employed in class as they not only serve as a platform for mutual learning amongst students in an educational setting, but they also enable students to apply theories/models learnt from the module.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>グローバル化が現代の経済組織と社会に与える影響を理解する。</li> <li>ビジネスの世界での ERS(倫理、責任、持続可能性)に関連する課題を探索し学ぶ。</li> <li>多国籍企業のマネージャーが直面する課題を特定し、分析し、適切な助言を提供する。</li> </ol> <p>このモジュールは、学生に対して、グローバルなコンテキストでの現代企業経営に関する特定の課題を ERS に焦点を当てて探究する機会を提供します。関連する概念や理論が探求され、議論されます。ケーススタディは、教育の場で学生同士の相互学習のプラットフォームとしてだけでなく、モジュールから学んだ理論やモデルを適用する手段として授業で使用されます。</p>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1・2	<b>Introduction to the module and globalization</b>	The impact of globalisation The definition of globalisation. In what way we are affected by globalisation. The impact of globalisation on business and management How business and management are influenced by globalisation.								
3・4	<b>National culture and institution</b>	Does national culture matter? The definition of national culture. Concepts and theories of culture. Does institutions matter? Institutions and the business world. Divergent capitalisms.								
5・6	<b>Internationalisation and firms</b>	Why do firms venture abroad? Different entry modes.								
7・8	<b>Group Project Presentation</b>									
9・10	<b>Multinational enterprises (MNEs)</b>	The definition of MNEs. Challenges faced by MNEs.								
11・12	<b>Business ethics, responsibility and sustainability</b>	What is ethics? What is business ethics? How important is business ethics? Basic concepts of ERS will be introduced and discussed. Issues regarding ERS in the context of MNEs.								
13・14	<b>De-internationalization</b>	What is de-internationalisation? Why does de-internationalisation occur? How does de-internationalisation impact on firms? How should firms deal with it?								
15	<b>Final presentation (Individual)</b>									
Prerequisites and registration requirements										
Students should proactively participate in discussions. Please note that this course is provided as an online Media-based course.										

Preparation and Review
Students should read the assigned material/cases.
Textbook(s)
There is no textbook for this module. Materials will be circulated.
Reference(s)
To be announced in class.
How to provide Feedback to assignments
Feedback will be offered either verbally or in a written form depending upon the type of assignments.
Grading and Evaluation
In-class participation (idea sharing, attitudes, etc): 40% Group project presentation: 20% Presentation: 10% Final report: 30%
Other
If free cases are not available, students may be required to purchase cases.



Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)MAN591E	Global Business Studies	2	1st-2nd Year	English	サントスミゲル SANTOS Miguel					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○			○	
Course Summary and Objectives										
<p>By the end of this course students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-Explore and learn about some of the elements involved in managing a business in a global environment.</li> <li>-Develop an awareness concerning ERS issues in the business world.</li> <li>-Develop a multifaceted perspective of business management.</li> </ul> <p>Incorporating these three ILOs, the overarching goal of this course is to deepen understanding of managing a business within a globalized business environment. This encompasses various topics, including the significance of corporate and business strategy, cultural diversity, management development systems, power dynamics, motivation and leadership, competition, cooperation, negotiation, as well as integrity and governance, in the context of a globalized business environment.</p> <p>Throughout this course, case discussions will be employed to exemplify both exemplary and undesirable practices, fostering reflection and the exchange of ideas related to various management theories. Some sessions will also utilize role-playing exercises to enhance self-awareness and provide practical illustrations for certain models.</p> <p>このコースの終了時には、学生は以下のことができるようになります：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- グローバルな環境でのビジネスの管理に関する要素について探求し学ぶ。</li> <li>- ビジネスの世界における倫理的な問題に関する認識を深める。</li> <li>- ビジネス管理の多面的な視点を発展させる。</li> </ul> <p>これらの3つのILOを取り入れたこの講義の総合的な目標は、グローバルなビジネス環境下でのビジネスの管理に関する理解を深めることです。これにはグローバルなビジネス環境の中での企業およびビジネス戦略の重要性、文化の多様性、管理開発システム、権力のダイナミクス、モチベーションとリーダーシップ、競争、協力、交渉、そして倫理とガバナンスなど、さまざまなトピックが含まれます。</p> <p>このコース全体を通じて、ケースディスカッションは模範的な実践と望ましくない実践の両方を例示するために使用され、さまざまな管理理論に関連する考察とアイデアの交換を促進します。一部のセッションでは、自己認識を高め、特定のモデルに対する実践的な説明を提供するために役割演技の演習も行われます。</p>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1	Introduction to the course 講義の紹介	Presentation of course objectives, learning methods and evaluation scheme. The global manager: an introduction.								
2	The role of strategy グローバルビジネスにおける戦略の役割	The role of strategy in business success in the global market. The basic framework for strategy analysis. Locating and describing strategy. Developing a strategy. Ethical issues in strategy formulation.								
3	Cultural challenges to the strategy of a global business 文化の違いから生じるビジネス戦略への課題	Analysis of some of the cultural and institutional challenges in the global expansion of a business. Required pre-reading: Bartlett and Han, <i>Levendary Café: The China Challenge</i> , Harvard Business School, 4357 (Japanese version: 「レベンダリーカフェ：中国の挑戦」, 9-413-J01)								
4	Managing across cultures 異文化間のマネジメント	Multinational business and national cultural differences. Cultural frameworks. Indicators of cultural differences. Cultural intelligence. The implications of differences in national cultures for management of global business. Ethical dilemmas in intercultural communication.								

5	Management development 管理開発システム	Analysis of a global and well-structured approach to management in a multinational corporation: advantages and disadvantages. Performance and advancement. Ethical dilemmas in corporate performance evaluation. Required pre-reading: Bartlett and McLean, <i>GE's Talent Machine: The Making of a CEO</i> , Harvard Business School, 9-304-049 (Japanese version: 「GEのタレントマシン：CEOをつくる」, 9-312-J04)
6	Power and influence ビジネスにおける権力と影響の役割	Analysis of a non-structured approach to management in a start-up: pros and cons. Required pre-reading: Gabarro and Roberts, <i>Erik Peterson (A)</i> , Harvard Business School, 9-494-005 (Japanese version: 「エリック・ピーターソン (A)」, 9-419-J08)
7	Leadership and motivation リーダーシップとモチベーション	The role of leadership and motivation in the achievement of organizational objectives in global businesses.
8	The role of competition ビジネスにおける競争の役割	What is competition? Managing competition. How can strategies be employed to foster cooperation among competitors?
9	The role of cooperation ビジネスにおける協力の役割	What is cooperation? Conditions necessary to achieve cooperative engagement. How to achieve and manage cooperative business relationships.
10	The role of negotiation ビジネスにおける交渉の役割	Understanding and managing negotiation processes.
11	Integrity and governance ビジネスにおける誠実さとガバナンス	The complementary roles of integrity and governance in the management of a global business. Required pre-reading: Toninato and Tapies, <i>Milking Money out of Parmalat</i> , IESE Business School, 0-305-041
12	The role of ethics (I) ビジネスにおける倫理の役割(I)	Is ethics integral part of a business or an add-on?
13	The role of ethics (II) ビジネスにおける倫理の役割(II)	The role of ethics in business transformation. Required pre-reading: Hogan and Paine, <i>Merck Sharp &amp; Dohme Argentina, Inc.</i> , Harvard Business School, 9-398-033
14	Students' presentations 学生のプレゼンテーション	Students' presentations and discussion
15	Exam 試験	Final Exam
Prerequisites and registration requirements		
There are no prerequisites to register for this course. このコースへの登録には前提条件はありません。		
Preparation and Review		
<p>Students are expected to have prepared the assigned cases before each class (see Course Contents). This means reading the case and trying to answer the preparation questions (to be handed-out during the course) before coming to class. Submission of a learning diary at the specified dates is required.</p> <p>各クラス前に、学生は指定された講義を準備してきたと期待されます（詳細はコース内容を参照）。これは、ケースを読み、クラスに来る前に準備の質問に答えようとすることを意味します（各クラス前に配布されます）。指定された日程で学習日誌を提出することが必要です。</p>		
Textbook(s)		
<p>This course requires the pre-reading of five cases (indicated in the Course Contents). The case for Week 11 may be acquired at: <a href="https://www.ielsepublishing.com/">https://www.ielsepublishing.com/</a>. All other cases may be acquired at: <a href="https://hbsp.harvard.edu/">https://hbsp.harvard.edu/</a>. A course pack will be prepared at HBP for these cases.</p> <p>このコースでは、5つのケースの事前読み込みが必要で（講義内容に記載）。第11週のケースは以下から入手可能です：<a href="https://www.ielsepublishing.com/">https://www.ielsepublishing.com/</a>。他のすべてのケースは以下から入手可能です：<a href="https://hbsp.harvard.edu/">https://hbsp.harvard.edu/</a>。これらのケースに関する教材パックがHBPで用意されます。</p>		

Reference(s)
References to academic and practitioner articles will be made in class. These articles are not required reading. 講義で学術論文および実務家の記事への言及が行われます。これらの記事は必読ではありません。
How to provide Feedback to assignments
Feedback will be provided: 1. On the Oh-o! Meiji system for the Learning Diary and Exam. 2. Orally in class for quality of engagement in class activities. フィードバックは以下の通り提供されます： 1. 学習日記および試験に関する Oh-o! 明治システムを通じて。 2. クラス活動への参加の質に関してクラス内で口頭で。
Grading and Evaluation
Grading and evaluation will include the following elements: (1) Quality of participation in case discussions and role playing (weeks 1 - 12, 14; 20%) (2) Learning diary (to be submitted after weeks 4, 7, 10 and 13; 20%) (3) Group presentation (week 14; 20%) (4) Final exam (week 15; 40%) Achievement of the three ILOs of this course will be evaluated through the above four grading and evaluation methods. Instructions concerning the submission of the learning diary will be provided during the first week. The final exam will be a written exam if 6 or more students register for this course; otherwise, it will be an oral exam. 履修評価は次の項目から構成される。 1. 授業におけるディスカッションの質 (週 2-14; 20%) 2. 学習日記 (4 週目、7 週目、10 週目、13 週目以降に定められた期間内に提出; 20%) 3. グループ・プレゼンテーション (20%) 4. 期末試験 (週 15; 40%) この講義の 5 つの ILO の達成は上記の 4 項目の到達度から評価する。学習日記の提出に関する指示は、最初の週に説明する。5 名以上の学生がこのコースに登録された場合、最終試験は筆記試験になる。5 名までの場合は、口述試験になる。
Other

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)MAN591E	Global Business Studies	2	1st-2nd Year	English	沼田優子 NUMATA Yuko					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○			○	
Course Summary and Objectives										
The Course Intended Learning Outcomes (ILOs) A global perspective has been increasingly important, and intercultural communicative ability is a key area. Yet, many of us did not have an opportunity to learn how to conduct effective presentations in English. In addition, a solid foundation in ERS (Ethics, Responsibility, and Sustainability) is increasingly necessary in decision-making in all areas of business. Therefore, by taking this course, students will be able to: 1. Acquire and display use of language and strategies for business communication in intercultural settings 2. Display ethical, socially responsible, and sustainable conduct in business 3. Display effective presentation skills										
Course Contents										
1	Introduction to Global Business Studies									
2	Speaking in Public: Japanese vs English Presentation									
3	Selecting a Topic and a Purpose									
4	What is ERS?									
5	Analyzing the Audience / Ethical Listeners									
6	Gathering Materials / Ethical use of Information									
7	Supporting Your Ideas									
8	Organizing the Body, Beginning, and Ending of the Speech									
9	Outlining the Speech									
10	Using Language Ethically									
11	Delivery									
12	Using Visual Aids									
13	Presentation for Non-Native Speakers									
14	Ethics and Public Speaking									
15	Your Presentation on ERS Activities of a Firm									
Prerequisites and registration requirements										
This course is for those who have little experience of using English other than required university courses, but would benefit from a widening of perspectives through greater awareness of ERS in business, and intercultural communication issues. Some degree of support in Japanese. There will be no prerequisite, and anybody interested in making an effective English presentation will be welcome. Material may be in English, and you will be required to make English presentations.										
Preparation and Review										
If you do not finish your in-class work, I would like you to catch up by the next class. Your assignment and presentation preparation will require some time outside of class.										
Textbook(s)										
Lucas, Stephen. (2019) <i>The Art of Public Speaking: 13th Edition</i> . McGraw-Hill Higher Education.										
Reference(s)										
ルーカス, S.E. 狩野みき (監訳) (2016) 『アメリカの大学生が学んでいる「伝え方」の教科書』SB クリエイティブ										
How to provide Feedback to assignments										
Overall feedback of the assignment and presentation will be provided.										
Grading and Evaluation										
Participation and Assignment (60%) and Presentations (40%)										
Other										



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN516J	企業倫理 (M)	2	1・2年	日本語	山口不二夫					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○				○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>今私たちは変化の時期にある。その動因は技術面ではITを基礎とするAIの急速な発達とそれに呼応するグローバル化にある。ビジネスではモノからサービスあるいは無形資産が重視されるように変化してきた。倫理観では環境保全とくに気候変動、社会面では東西冷静構造の終結、移民問題の深刻化、シングルステークホルダーからマルチステークホルダーが重視されるようになってきた。その上ブラックスワン（想定できない大変動）の常态化が観察される。また倫理面ではLGBT概念の普及によるジェンダー論の深化も社会的には大きな変化である。家族や共同体の変容も生じている。これらは大きな変容であるが、不規則な予想できぬ突発的な大変動も生じている。この20年に限ってみても、2001年の9.11テロ、2008年のリーマンショック、2011年3月の東日本大震災、2020年に始まるコロナ禍。ほとんどの者が予想できず、あり得ないと思っていたことが、10年とおかず発生している。</p> <p>社会の安定期は、価値観も安定し、そのもとの制度は無謬性を目指し、さまざまな分野のルールの安定的進歩がみられる。そこでの学問の役割は確立されたパラダイムの上でのルールの精緻化と煩瑣化である。安定した社会の中ではルールは権威保持という役割を担い、容易に理解できるものは権威としての重厚さがなく、かえって都合が悪いという側面を持つ。他方現代のような変化の時期には価値観も変化する。その最たるものは倫理であろう。これまでは個人の自由が価値として最優先され、欲望する自由をドライバーとして社会を発展させようというのが資本主義の特徴であり、根強い強さでもあった。</p> <p>しかし、昨今強調される環境、特に気候変動に対する警戒は、人の自由を超える新たな倫理を生み出しつつある。最も重要なのはすべての人が生き残るための環境倫理である。倫理観の変化は環境倫理面だけではない。ジェンダー倫理も新たな局面に入っている。以前のジェンダー問題は「女性解放」が主眼であったが、現在はLGBT問題が加わった。急速に発展した生物学は遺伝子や脳科学レベルからLGBTの正当性を示している。ジェンダー問題を解決できないと家族や社会の安定は得られない。このような倫理観の変化が法制度の変化を要求している。</p> <p>本講義の到達目標（Course ILOs）は、以下の点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルな視点と社会的責任と倫理観をもって経営問題を解決できるようにする。</li> <li>2. 現代における社会的責任と倫理とは何かがわかるようにする。</li> <li>3. 倫理観や道徳観をもってリーダーシップと管理能力を行使するとは、どのようなことかを理解する。</li> <li>4. グローバルな視点特に西洋と東洋・日本あるいは歴史の発展過程における倫理の違いを理解する。</li> <li>5. 倫理観を持つことが戦略プラン策定のために重要な視点であることを理解する。</li> </ol>										
授業内容										
1	未来学 世界を動かすもの（山口PPT）									
2	倫理とは何か、道徳、倫理、真理、美 今道友信氏による 自由意志は存在するのか									
3	成功するには タレブ『ブラックスワン』など、（できれば参加者の報告） 才能と運とチャレンジ									
4	経営史をみる 起業家精神と倫理									
5	心理 祝祭と消費 バタイユ 遊び ホイジング、カイヨフ、金融業界の遊戯性と倫理									
6・7	粉飾・企業不祥事（参加者の報告）									
8	ESG、SDGs（参加者の報告）									
9	パーパス経営とは（参加者の報告）									
10	三井家にみる江戸の企業倫理（山口PPT）									
11	道徳情操論と西欧型の倫理VS東洋哲学・倫理（参加者による報告 参考書参照）									
12・13	傍観者の時代と教育 ドラッガーとウオーレンバフェット・地政学の問題（参加者による報告 参考書参照）									
14	ゲスト講師による組織倫理に関するレクチャー									
15	まとめ 現代における組織倫理とは：倫理の基準をどこにとればよいのか									

履修上の注意点
参考書に示したように、授業内容に沿った文献を指示するので、参加者はその文献を報告願いたい。
準備学習（予習・復習等）の内容
参考書のなかから興味を持てるものを読んでおいてもよい。
教科書
現在のところ特になし、参考書を参照されたい
参考書
①ナシム・タレブ『ブラックスワン』 ②武田晴人『日本人の経済観念』岩波書店 ③今道友信『エコ・エティカ』講談社現代文庫 ④牧野洋『最強の投資家バフェット』日経ビジネス文庫 ⑤ドラッガー『傍観者の時代』 ⑥経営史学会『日本経営史の基礎知識』有斐閣 ⑦首藤（編）『スタートアップビジネス：MBA講座』同文館 自由意志については、カントの『実践理性批判』など、 企業不祥事については、エンロン、東芝などの事例に関する書籍
課題に対するフィードバックの方法
Oh-oi Meijiでレポートとして提出した場合は、コメント欄を用いてフィードバックを行う 当日画面表示の場合は、その場でコメントや修正を施す
成績評価の方法
授業での資料提示3割、発言2割 期末レポート5割
その他

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN511J	ゲーム論と企業戦略	2	1・2年	日本語	丸田利昌					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○							
授業の概要・到達目標										
<p>複数の意思決定者の行為が相互に影響しあう状況を戦略的環境という。ゲーム理論とは、戦略的環境の簡潔な記述、およびその特徴・本質の解明を目指して構築されている言語体系である。経済学をはじめ社会科学における「モデル」の多くは、ゲーム理論により記述された戦略的環境に他ならない。また、ゲーム理論は欧米のビジネススクールにおける標準的な開講科目となっており、その考え方は多くのビジネスパーソンの「常識」となっているといえる。本講義の到達目標は、以下の通り。</p> <p>【到達目標 (Course ILOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の意思決定者のあいだに成立する戦略的相互依存関係を見取ることができるようになる。</li> <li>・複数の意思決定者のあいだに成立する戦略的相互依存関係をゲーム理論の言葉を用いて(「ゲーム」として)定式化できるようになる。</li> <li>・複数の意思決定者のあいだに成立する戦略的相互依存関係を均衡、優位戦略、バックワード帰納法、パレート効率性などの分析用具を用いてその性質を吟味できるようになる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	ゲーム理論とは	ゲーム理論的考察の典型例を紹介する。								
2	戦略型ゲームとナッシュ均衡	利得表、最適反応、ナッシュ均衡を学ぶ。								
3	戦略間の支配とナッシュ均衡	均衡分析の特徴を個人的意思決定の諸基準との対比で学ぶ。								
4	戦略型ゲームの応用	立地競争、価格戦略、オークションなどへの応用例を考察する。								
5	はじめての展開型ゲーム	「ゲームの木」による戦略的環境の表現法を学ぶ。								
6	展開型ゲームとバックワードインダクション	ゲームの木の解法としてのバックワードインダクションに習熟する。								
7	展開型ゲームと戦略	「完全な行動計画」としての「戦略」を理解する。								
8	中間試験									
9	展開型ゲームと情報	戦略的環境において「誰が何を知っているのか/いないのか」を、「情報集合」により記述することを学ぶ。								
10	繰返しゲーム	長期的関係における戦略と均衡を学ぶ。								
11	不完備情報ゲーム1	情報偏在下のゲームに対するベイズ的接近法を学ぶ。								
12	不完備情報ゲーム2	情報偏在下の動的ゲームにおける確率評価の改訂について学ぶ。								
13	不完備情報ゲーム3	シグナリング・ゲームの均衡分析を学ぶ。								
14	交渉ゲーム	さまざまな交渉プロトコルをゲームとして考察する。								
15	期末試験とまとめ									
履修上の注意点										
<p>受講者には、「定義」によって定められた言葉の意味を尊重しつつ精密な議論を展開することが求められる。単なる事例の蓄積にとどまらないために、一般的・抽象的な議論の展開も一部必要となる。なお、数学についての特段の知識は必要ではない。</p>										
準備学習(予習・復習等)の内容										
各回の講義前に、教員の指定する教材(下記参照)の該当箇所を読み込むこと。										
教科書										
「ゲーム理論入門・新版」岡田章著(有斐閣、2014)、および教員作成の講義ノートを使用する。										
参考書										
開講時に指示する。										

課題に対するフィードバックの方法
中間試験については、その次の講義回で解説を与える。最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。レポートについては、Oh-o! Meijiを通じてコメントを返す。
成績評価の方法
中間試験(35%)、期末試験(35%)、および期末レポート(30%)(最終週に提出、A4判2ページ以下)にもとづく。
その他
中間試験・期末試験は、ともにopen book(持込可)とする。教科書、講義ノートのほか、紙媒体の資料はすべて参照可とする。インターネットを含む一切の外部通信は不可とする。

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN531J	ビジネスのための基礎数学	2	1・2年	日本語	中山季之					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○	○			○	○	○	
授業の概要・到達目標										
<p>ビジネスの世界では、例えばリスクとリターンを計数化して「見える化」する能力が求められる。データからとるべき道を示すデータ・サイエンティクス、モデルによって事業価値評価、リスク評価、将来価値予測などを行うモデル構築スキルなどが、AIが進化する社会に生きるビジネスパーソンにとって必要なスキルとなっている。その基本となるのがビジネス数学であり、必須の基本知識となっている。ただ、ビジネス数学で重要なのは、式を解く能力というよりは、むしろ式の意味や使い方をしっかりマスターすることにある。ビジネス数学は、MBAの学生の基本スキルであり、ビジネスの現場で必要な数学を、高校生レベルから復習する形で分かりやすく講義する。</p> <p>【到達目標（Course ILO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実務でよく用いられる題材に対して、基本的なビジネス数学を適用できるようにする。</li> <li>・Excelを用い、具体的な計算方法や評価方法を用いて数値を出すツールを実装できるようにする。</li> <li>・分析に基づいた戦略立案においてリーダーシップを発揮できるようにする。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション／累乗、累乗根	①復習と追加説明、②金利の種類、③割引キャッシュフロー法（DCF法）								
2	指数関数と対数関数	①復習と追加説明、②連続複利、③収益率計算への活用								
3	数列（数列の種類、和、極限）	①復習と追加説明、②事業や投資の評価、③企業価値の評価								
4	関数（関数の種類、極限、連続性）	①復習と追加説明、②データ分析との関連								
5	ベクトル、行列（基本演算）	①復習と追加説明、②分散共分散行列								
6	行列の積、行列式と逆行列	①復習と追加説明、②格付推移確率行列								
7	固有値と固有ベクトル	①概念の説明、②データ分析との関連								
8	微分法と数値微分	①概念の説明、②感応度による債券投資のリスク分析								
9	多変数関数と偏微分	①概念の説明、②デリバティブのリスク指標								
10	関数の最大化・最小化	①概念の説明、②データ分析への活用例								
11	積分法と数値積分	①概念の説明、②金利の期間構造、③確率分布の表現								
12	確率論の基本（さまざまな確率分布、期待値や分散、独立性）	①概念の説明、②リスクとリターン分析への活用例								
13	条件付き確率	①概念の説明、②母集団分布のパラメータの更新への活用例								
14	確率変数の収束性（大数の法則、中心極限定理など）	①概念の説明、②データ分析との関連								
15	期末試験と解答の解説									
履修上の注意点										
<p>数学的な前提知識は必要としない。実務で使われる基礎数学を理解し、それを道具として使っていきたい学生を求める。Excelの関数などを利用するので、Excelの基礎知識は持っていることを前提とする。MBAカリキュラムの前提となる部分であることから、受講を強く薦める。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>分数の計算、方程式の計算などの中学の数学には対応できるようにしておくこと。また、Excelの基本はマスターしておくこと。</p>										
教科書										
使用しない。										

参考書
『企業数理のすべて—プランニングからリスクマネジメントへの応用—』、青沼君明、（金融財政事情研究会（きんざい）） 『Excelで学ぶ金融数学の基礎』、青沼君明・村内佳子、（金融財政事情研究会（きんざい））
課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。
成績評価の方法
(1) 授業への貢献度：10% (2) 期末テスト：90%
その他

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN531J	ビジネス・データ解析	2	1・2年	日本語	青沼君明					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○			○	○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>ビジネスの世界では、企業の経営判断、事業プランの作成などの分野において、データ解析は欠かせないスキルとなっている。また、AI化が進展する中、世界的に見てもデータ・サイエンティストのニーズが極めて高くなっている。経営を「見える化」するデータ解析のスキルは、今後のビジネスパーソンにとっては必要不可欠となっている。この授業では、実務のデータをEXCELの分析ツールを使って解析する。様々なシーン、様々な立場で活躍するMBSの学生に対し、受講を強く勧める。この授業では、以下の習得を目指す。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分布解析から、2つの企業の財務データの違い、特性の違いなどを明らかにする。</li> <li>2. 回帰モデルを適用し、企業収益が経済指標によってどのぐらい影響を受けるのかを計量化し(感応度分析)、将来の企業収益を予測するモデルを開発する。</li> <li>3. 一般化線形モデルなどを適用して、将来の倒産確率を推定するモデルを作成する。</li> <li>4. クラスタ分析などを適用して、企業や商品のグループ化を行う。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	データの分布特性①(一変量解析、度数分布)	テーマ：①データの特性分析比較(度数分布などから比較)								
2.	データの分布特性②(分布特性の比較分析)	テーマ：①データの特性分析比較(基本統計量から分析)								
3.	正規分布、Zスコア、カイ二乗分布	テーマ：①データの正規性の確認、②データの基準化								
4.	分布(t分布、F分布)、四分位点、外れ値	テーマ：①データのばらつきについて分析、②外れ値や異常値の検出方法								
5.	外れ値の取扱、Thompsonの棄却検定	テーマ：①データの異常値の判定方法、②異常値を含んだときの影響分析								
6.	相関分析(共分散、相関係数、相関係数の検定)	テーマ：①被説明変数と経済指標の相関分析、②外れ値が相関に与える影響分析								
7.	回帰分析(最小二乗法、決定係数、残差分析)	テーマ：①倒産率と経済指標の回帰モデル								
8.	重回帰分析(モデル選択の基準、共線性)	テーマ：①倒産率を複数の経済要因で説明するモデル								
9.	多重共線性の検証(トレランス、分散拡大係数)	テーマ：①重回帰の共線性の問題								
10.	数量化I類(ダミー変数、質的変数)	テーマ：①売上高と曜日の関係をモデル化、②平均気温あたりの売上高を説明するモデル								
11.	一般化線形モデル、ロジスティック分析	テーマ：①倒産を企業の格付けで説明するロジスティックモデル								
12.	判別分析、誤判別	テーマ：①リスク・ファクターから倒産を判別予測								
13.	一元配置分析	テーマ：①倒産確率が、グループによって有意に差異があるかについて検証								
14.	分布の差異分析、正規性の検定、K-S値	テーマ：①倒産先と非倒産先の分布の比較								
15.	期末試験とまとめ									
注意：番号は、授業日程を示していない(テーマによって時間配分は異なる)										

履修上の注意点
<p>実務上の例題を用いながら、データ解析の考え方や適用方法を理解する。Excelの分析ツールを利用するので、Excelの基礎知識は持っているということを前提とする。実務ではデータを使った分析、解説が必須である。経営、マーケティング関係の学生に対しても、受講を強く薦める。</p> <p>修士論文でデータ解析に関する指導を求める学生については、この授業の範囲を理解していることを前提とする。</p>
準備学習(予習・復習等)の内容
<p>分数の計算、方程式の計算などの中学の数学はしっかり復習しておくことが望ましい。また、Excelの基本はマスターしておくこと。</p>
教科書
<p>レジュメ、演習問題については、各テーマごとにクラスウェブ上で配布。なお、演習は各自復習することを前提とし、解答については遅れて配布する。</p>
参考書
<p>青沼・村内(2011)、「Excelで学ぶ確率統計の基礎」、金融財政事情研究会。 青沼・市川(2009)、「Excelで学ぶ金融統計の基礎」、金融財政事情研究会。</p>
課題に対するフィードバックの方法
<p>課題(演習)の解答例については、クラスウェブにアップする。 期末試験の準備として、期末試験対策資料をクラスウェブにアップする。 また、期末試験の解説については、試験終了時点で模範解答を配布する。</p>
成績評価の方法
<p>(1) 授業への貢献度：10% (2) 期末テスト：90%</p>
その他

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN531J	VBA 基礎	2	1・2年	日本語	青沼君明					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○			○	○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>文部科学省の方針により、小学校でもプログラムに関する授業が取り上げられるようになってきており、大卒の新卒採用でもプログラムスキルが必須条件となってきた企業も急速に増加している。プログラムは、決められたルールに基づき大量のデータ処理を高速かつ正確に行うためのアルゴリズムをコンピュータが理解できる言語で記述することである。ただ、プログラム言語には、例えば AI の分野で用いられる Python、科学技術計算の分野で用いられる C 言語の他、JAVA、FORTRAN、Ruby など、数多くのプログラム言語が目的に応じて使い分けられている。一方、プログラムは処理の流れは共通であるので、一つの言語について考え方をしっかりマスターすれば、他の言語は方言のようなものとして捉えることもできる。EXCEL は非常に便利なビジネスツールではあるが、適宜追加更新されるようなデータ処理をする場合に、数式や参照先のコピーミスによって知らないうちに処理ミスをしてしまう可能性もある。それは、処理の基本がセルを単位としていたためである。また、マクロは Excel の操作をプログラムとして記録してものであり、第三者がマクロから仕様を確認することは難しいのが実情である。この授業では、以下の習得を目指す。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>VBA をマスターすることで、プログラミング構造、実務フローの標準化と体系化などの技術を学ぶ。</li> <li>マーケティング、財務分析、事業価値評価などの実務例を取り上げ、それを VBA でプログラミングし、経営を「見える化」するスキルを身につける。</li> <li>将来の不確実性を表現し、リスクとリターンの関係分析などに対応するためのシミュレーション技術をマスターする。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	VBA プログラミングの基礎	テーマ：① VBA プログラミングの基本と Excel 処理の違い、②データ入力と出力、③コントロールツールボックスの利用								
2.	マクロ経済データ・ハンドリング	テーマ：①経済データの読み込み、②欠損値の取り扱い、③年移動平均データの作成、④対数前年同期比の計算、⑤前期差の計算								
3.	株価データ・ハンドリング	テーマ：①株価収益率の計算、②業種別株価指数の計算、③株価収益率の平均、分散、標準偏差などの基本統計量の計算、④ $\beta$ 値、 $\alpha$ 値の計算								
4.	財務・マーケティング・データ・ハンドリング①	テーマ：①店舗別・商品別・日次売上高データの読み込み、②全店・商品別・日次売上高の計算								
5.	財務・マーケティング・データ・ハンドリング②	テーマ：①店舗別・商品別・月次売上高の計算、②店舗別・商品別・年売上高の計算								
6.	財務・マーケティング・データ・ハンドリング③	テーマ：①月次・商品別ローレンツ分析、②月次・商品別シェア推移								
7.	財務・マーケティング・データ・ハンドリング④	テーマ：①月次・店舗別ローレンツ分析、②月次・店舗別シェア分析								
8.	財務・マーケティング・データ・ハンドリング⑤	テーマ：①商品マスターとのマッチング、②商品別・月次・売上利益とローレンツ分析								
9.	財務・マーケティング・データ・ハンドリング⑥	テーマ：①メーカー別・月次・売上利益、②カテゴリー別・月次・売上利益								
10.	モンテカルロ・シミュレーション①	テーマ：①標準一様分布に従う乱数の生成、②サイコロの目を再現、③サイコロの目によって決まる賭け								
11.	モンテカルロ・シミュレーション②	テーマ：①不動産価格の時系列データから、収益率の平均、標準偏差、相関係数を計算、②シミュレーション用のドリフト係数、拡散係数の推定								

12.	モンテカルロ・シミュレーション③	テーマ：①将来の不動産価格をシミュレーションで表現、②不動産価格に相関がある場合と無い場合とで、影響比較
13.	企業価値評価	テーマ：①倒産リスクを考慮した場合の、キャッシュフローのシミュレーションによる評価
14.	リスク評価	テーマ：①株式ポートフォリオの VaR 評価
15.	期末試験とまとめ	
注意：番号は、授業日程を示していない（テーマによって時間配分は異なる）		
履修上の注意点		
<p>実務上の例題を用いながら、VBA プログラミングの考え方や適用方法を実習を通して理解する。なお、対象は実務を前提としており、プログラマー向けの講義ではない。Excel を利用するので、Excel の基礎知識は持っているということを前提とする。</p> <p>授業は、12 号館の PC 教室で行い、Windows 版の Excel を用いる。自身の Apple パソコンの Excel では、一部動作しない場合があるので注意が必要。</p>		
準備学習（予習・復習等）の内容		
Excel の基礎知識をしっかりと勉強しておくこと。		
教科書		
レジュメ、演習問題については、各テーマごとにクラスウェブ上で配布。なお、演習は各自復習することを前提とし、解答については遅れて配布する。		
参考書		
VBA に関する本は多くあるので、好みのものを選択するのが良い。		
課題に対するフィードバックの方法		
<p>課題（演習）の解答例については、クラスウェブにアップする。</p> <p>期末試験の準備として、期末試験対策資料をクラスウェブにアップする。</p> <p>また、期末試験の解説については、試験終了時点で模範解答を配布する。</p>		
成績評価の方法		
(1) 授業への貢献度：10% (2) 期末テスト：90%		
その他		



科目ナンバ	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)STA591J	AI活用とディープラーニングの基礎					2	1・2年	日本語	青沼君明		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○		○	○	○			○	○	○	○	
授業の概要・到達目標											
<p>IoT (Internet of Things : すべてがインターネットに繋がる世界)、AIの技術革新が今後どのような社会構造の変化をもたらすのかという結論を出すには、また早い状態ではある。しかし、それらの技術革新は短期間のうちに新たなビジネス形態を生み出し、人々の生活環境を一変させ、産業構造、雇用形態までも大きく変えてしまう可能性がある。この授業では、この授業では、以下の習得を目指す。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>IoT、AIの技術革新により、今後の企業活動がどのように変化するかについての検討する。</li> <li>テキスト・マイニング、ディープラーニングといった基本技術と、Pythonを用いたディープラーニングの実装方法の基礎を学び、実務の中での応用可能性を検討できるスキル構築を目指す。</li> </ol>											
授業内容											
週	テーマ	内容									
1.	AIとは何か	テーマ：①現在のAIが対応できる分野、②AIの活用例、③AIを導入するには、④AIの進展と個人のスキル、⑤AIの課題									
2.	ディープ・ラーニングの基礎	テーマ：①ディープラーニングの基礎、②人工知能とディープラーニングの基礎、③ニューラルネットワークのしくみ、④ニューロンモデル									
3.	ディープ・ラーニングに必要な数学	テーマ：①線形代数、②微分と偏微分、③距離とノルム、④合成関数、⑤確率									
4.	Pythonの基本	テーマ：①Pythonのインストール、②Pythonの基本文法									
5.	ニューラルネットワークの基礎(1)	テーマ：①Numpy, Matplotlibの利用、②ニューロンとパーセプトロン、③ソフトマックス関数とシグモイド関数									
6.	ニューラルネットワークの基礎(2)	テーマ：①損失関数、②勾配法、③バックプロパゲーション									
7.	畳み込みニューラルネットワーク(1)	テーマ：①畳み込みニューラルネットワークとは、②畳み込み演算、③深層畳み込みニューラルネットワーク									
8.	畳み込みニューラルネットワーク(2)	テーマ：①ゼロパディングによる畳み込み、②プーリング層、③全結合層									
9.	畳み込みニューラルネットワーク(3)	テーマ：①畳み込みニューラルネットワークによる学習、②オーバーフィッティングとドロップアウト									
10.	Pythonによるディープ・ラーニングの実装(1)	テーマ：①教師あり学習、②回帰モデル									
11.	Pythonによるディープ・ラーニングの実装(2)	テーマ：①線形規定関数モデル									
12.	Pythonによるディープ・ラーニングの実装(3)	テーマ：①ロジスティック回帰モデル、②勾配法による解									
13.	Pythonによるディープ・ラーニングの実装(4)	テーマ：①教師無し学習、②K-means法、③混合ガウスモデル									
14.	Pythonによるディープ・ラーニングの実装(5)	テーマ：①ニューラルネットワーク・ディープラーニング、②教師無し学習									
15.	期末試験										
注意：番号は、授業日程を示していない(テーマによって時間配分は異なる)											

履修上の注意点
AIを概念を学び、テストデータを用いてディープラーニングの実装と分析方法について学ぶ。授業では、Python、Jupyter、Kerasなどのフリーソフトを利用する。これらは、学内の環境では標準ソフトとして導入されていないものもあるため、必要なパーツをインターネットで都度ダウンロードして用いる。AIを実装するには、数学の基礎知識(確率、微分、線形代数)、プログラミング力が不可欠となる。本講座を受講する場合には、それらの基礎知識があることが前提となる。
準備学習(予習・復習等)の内容
この授業は、Pythonを用いたAIを実装することを目的としているため、プログラム力、数学(確率、微分、線形代数)を用いた分類基準などの知識が不可欠となる。Pythonについての知識は不要であるが、PCの利用に慣れていること、基礎数学についてキャッチアップしておくことが求められる。
教科書
“みんなのPython第4版”、柴田淳、SB Creative。 レジュメ、演習問題については、各テーマごとにクラスウェブ上で配布。なお、演習は各自復習することを前提とし、解答については遅れて配布する。
参考書
“みんなのPython第4版”、柴田淳、SB Creative。
課題に対するフィードバックの方法
課題(演習)の解答例については、クラスウェブにアップする。期末試験の準備として、期末試験対策資料をクラスウェブにアップする。また、期末試験の解説については、試験終了時点で模範解答を配布する。
成績評価の方法
(1) 授業への貢献度：10% (2) 期末テスト：90%
その他

科目ナンバー	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)STA591J	Pythonによる データサイエンティスト の基礎					2	1・ 2年	日本語	中山季之		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
		○	○	○			○	○	○		
授業の概要・到達目標											
<p>多くの企業では、データサイエンティスト、AI、デジタル化に対応可能なスキルを持った人材を求めている。この授業では、AIなどを実装するために、企業での導入実績の高いPython言語を利用し、データサイエンティストの基本スキルとなる回帰モデルなどの統計モデルを構築し、それを評価するために必要となる数学や統計について講義する。実務でよく用いられる題材を用いながら、ビジネスで利用されるデータ解析の適用方法についてPythonによるプログラミング実装と各種統計値の評価方法を中心に学習する。</p> <p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計の概要についてイメージをもてるようになる。</li> <li>・他人の統計分析やソフトウェアによる結果を正しく解釈でき、新たな分析を提案できるようになる。</li> <li>・Pythonによる簡単な統計分析ができるようになる。</li> <li>・分析に基づいた戦略立案においてリーダーシップを発揮できるようになる。</li> </ul>											
授業内容											
週	テーマ	内容									
1	イントロダクション	データサイエンス全体像、Pythonの動かし方、文法									
2	分析の準備	ScipyやPandasライブラリの使い方									
3	前処理	データのクレンジング、変換の目的と手法									
4	記述統計	表整理、グラフやヒストグラムによるデータ視覚化と基本統計量（平均、分散、相関係数）									
5	推測統計	信頼区間、仮説検定									
6	主成分分析	原理と活用事例									
7	因子分析	原理と活用事例									
8	判別分析	原理と活用事例									
9	単回帰モデル	原理と活用事例、説明変数の選択、モデルの前提確認、モデルの適合性確認									
10	重回帰モデル	原理と活用事例、説明変数の選択、モデルの前提確認、モデルの適合性確認									
11	ロジット回帰モデル	原理と活用事例、説明変数の選択、モデルの前提確認、モデルの適合性確認									
12	ポアソン回帰モデル	原理と活用事例、説明変数の選択、モデルの前提確認、モデルの適合性確認									
13	ベイズ統計	原理と活用事例									
14	機械学習の初歩	決定木の原理と活用事例									
15	期末試験										
履修上の注意点											
確率・統計やPythonの前提知識は必要としない。実務で使われる統計学やPythonを理解し、それを道具として使っていきたい学生を求める。											
準備学習（予習・復習等）の内容											
Pythonの前提知識は仮定せずに進めるが、もし余裕があれば事前に適当に動かして慣れてもらえれば学習を進めやすい。											
教科書											
使用しない。											
参考書											
『Pythonで学ぶあたらしい統計学の教科書』、馬場 真哉（日経印刷） 『東京大学のデータサイエンティスト+B62 育成講座 ～Pythonで手を動かして学ぶデータ分析～』、塚本邦尊、山田典一、大澤文孝（マイナビ）											
課題に対するフィードバックの方法											
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。											
成績評価の方法											
(1) 授業への貢献度：10% (2) 期末テスト：90%（プログラミングの出題予定はなく筆記試験）											

その他

科目ナンバ	授業科目名		単位数	配当年次	使用言語	担当教員				
(GB)ECN511J	経済学		2	1・2年	日本語	山村能郎				
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○	○			○		
授業の概要・到達目標										
<p>ミクロ経済学を中心にその基礎的理論について学習する。競争市場における様々な財・サービスの資源配分と効率性について解説するとともにその限界について議論する。講義の内容は、価格理論およびゲーム理論の基礎である。価格理論においては競争市場を前提とした消費者行動、企業行動の基礎理論に学習した後、市場の失敗としての外部性や独占市場について概説する。さらに、様々な社会経済政策について社会的効率性の観点から議論する。また、ゲーム理論の基礎では非協力ゲームにおけるナッシュ均衡の概念を理解すると共に、不完全競争市場、混合戦略まで考えた最適戦略など、企業や個人にとっての戦略行動について分析する方法について学習をする。本講義を通して市場の効率性を理解し、環境の変化がもたらす市場への影響を経済学的観点から把握できるようになることを目指す。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 消費者行動、企業行動についての理論的な理解を深め、環境変化に伴うマーケット参加者の行動変容など競争的なマーケットについて理解する。</li> <li>2. 余剰概念による経済的効率性を理解し、現実の市場で発生する外部性や独占市場などを通して社会経済政策の有効性、効率性を学習する。</li> <li>3. 非協力ゲームの枠組みによるナッシュ均衡について理解し、企業や家計にとって望ましい行動変容を誘引する方法・戦略について理解する。</li> </ol>										
授業内容										
1	経済学の考え方									
2	完全競争市場における需要と供給：弾力性									
3	消費者行動① 予算制約と効用関数									
4	消費者行動② 最適消費と需要									
5	企業行動① 生産関数									
6	企業行動② 利潤最大化と費用最小化行動									
7	企業行動③ 短期と長期の費用構造									
8	競争市場の効率性 社会的余剰とパレート効率性									
9	不完全競争 外部性と独占市場									
10	非協力ゲームとナッシュ均衡①									
11	非協力ゲームとナッシュ均衡②									
12	期待効用と混合戦略									
13	くり返しゲームと戦略									
14	情報の経済学									
15	まとめ									
履修上の注意点										
<p>経済学の基礎的な知識は必要としない。また、数学的な知識も前提とはしないが、数式を適宜使用することで市場の理解を深める。</p> <p>2019年度までに「経済学原理」の単位を修得したものは、「経済学」を履修することはできない。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
講義資料は事前配布を行うので、事前に学習した上で出席すること。										
教科書										
特に指定しない。										
参考書										
<p>神取道宏、「ミクロ経済学の力」、日本評論社  西村和雄、「ミクロ経済学入門」、岩波書店  奥野正寛、「ミクロ経済学入門」、日経文庫  川越敏司、「ビジュアル図でわかる経済学」、日経文庫  柳川隆他、「ミクロ経済学・入門--ビジネスと政策を読みとく」、有斐閣  アルマ  武藤滋夫、「ゲーム理論入門」、日経文庫</p>										
課題に対するフィードバックの方法										
レポート課題の解答例を Oh-o!Meiji にて掲示										

成績評価の方法
授業態度、授業中の発言などの貢献度（20%）、中間レポート・期末レポート（80%）
その他



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN591J	日本経済と経営	2	1・2年	日本語	吉村孝司					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
<p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済および経営に関する歴史的認識の涵養と事実に基づく社会科学の考察ができるようになる。</li> <li>・経済および経営の相互関係の理解を通じたマクロ的視点による分析ができるようになる。</li> <li>・加速度的に変容する経済ならびに経営環境に対応するために、客観的かつ科学的な視点を持つことができるようになる。</li> </ul> <p><b>【授業の概要】</b></p> <p>本講義は主に明治政府樹立以降の日本経済の過程と、日本企業の経営の展開について俯瞰することを目的としている。本講義においては、まずは17世紀以降の日本における社会構造の変遷とそれに伴う経済情勢の変化についての確認を基に、19世紀以降の近代国家建設時代以降の経済および経営の変遷についての検証を行う。特に第2次世界大戦以降の日本の経済過程を「経済復興期」、「高度経済成長期」、「国際通貨体制崩壊期」、「プラザ合意・EC型付加価値税期」、「戦後最長景気期」の5期に分類し、各ステージにおける日本経済の実態と、それに対応した日本企業の経営実態について、その概要を理解することで、明治政府樹立以降、二度の世界大戦を経て、日本の経済と経営が果たしてきた発展と変容に関する理解を目標とする。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	日本経済の概要と経営1	明治政府樹立以降の日本経済の発展過程 (明治政府樹立以降における日本経済の近代化過程についての考察)								
2	日本経済の概要と経営2	明治政府樹立以降の企業経営基盤の形成過程 (1) (明治政府樹立以降におけるわが国の企業の成立とその経営としての日本型経営システム基盤の生成過程についての考察)								
3	日本経済の概要と経営3	明治政府樹立以降の企業経営基盤の形成過程 (2) (明治政府樹立以降におけるわが国の企業の成立とその経営としての日本型経営システム基盤の生成過程についての考察)								
4	日本経済の概要と経営4	明治政府樹立以降の企業経営基盤の形成過程 (3) (明治政府樹立以降におけるわが国の企業の成立とその経営としての日本型経営システム基盤の生成過程についての考察)								
5	日本経済の発展過程1	第2次大戦に至る時期までの日本経済の発展過程と経営 (1) (第2次世界大戦に至る時期までの日本経済の発展過程と企業経営 (明治期から第2次世界大戦以前における日本経済と企業経営についての考察))								
6	日本経済の発展過程2	第2次大戦に至る時期までの日本経済の発展過程と経営 (2) (第2次世界大戦に至る時期までの日本経済の発展過程と企業経営 (明治期から第2次世界大戦以前における日本経済と企業経営についての考察))								
7	第2次世界大戦期から経済復興過程期における企業経営	第2次世界大戦以降における日本経済の復興過程と企業経営 (第2次世界大戦直後の日本経済の復興と企業経営の新たな展開についての考察)								
8	わが国の企業経営における経営合理化	第1次世界大戦以降における経営の合理化志向の導入と経営事例 (第1次世界大戦以降のわが国における経営の合理化の実態についての考察)								
9	経済復興過程における経済基盤の再構築	第2次世界大戦以降のわが国における経済復興と復興施策 (第2次世界大戦以降のGHQによるわが国の経済復興策にみる経済基盤の再構築についての考察)								
10	経済団体形成の歴史	わが国に特有の経済諸団体の形成過程と機能 (わが国における経済諸団体の形成過程と経済ならびに経営における機能についての考察)								
11	日本経済の高度成長と企業経営	日本の高度経済成長要因の分析と実態 (1960年代以降の日本経済の高度成長と企業経営についての考察)								

12	企業の社会的責任	高度経済成長期以降の経済発展ならびに企業経営の拡大と社会的責任 (日本経済の発展過程ならびに企業経営を背景とした企業の社会的責任についての考察)
13	国際通貨体制崩壊期における日本経済と企業経営	ニクソン・ショック以降の日本経済と企業経営の動向 (1970年代後半における国際通貨体制崩壊以降の日本経済と企業経営についての考察)
14	プラザ合意・EC型付加価値税期における日本経済と企業経営	プラザ合意以降の円高とバブル経済 (1980年代における日本経済と企業経営についての考察)
15	日本経済と経営の総括	わが国の近代過程にみる経済ならびに経営に関する俯瞰 (日本の近代化と経済発展ならびに日本企業の経営実態と動向にみる日本の経済と企業経営の総括)
履修上の注意点		
専門職大学院の講義を受講するうえでの相応の知見と、学習に対する真摯な姿勢が求められる。		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
本講義では各回の講義に先立ち、Oh-! Meijiにて講義資料をアップしておくので、事前に内容を確認するとともに、各回の講義ポイントについて予習しておくことが望ましい。また受講後は毎回、講義内容についての整理をしておくことが肝要である。		
教科書		
教科書は特に指定しない。なお、本講義では各回の講義に先立ち、Oh-! Meijiにて講義資料をアップしておくので、必要に応じてプリントアウトもしくはPC端末等で確認できるようにしておくことが望ましい。		
参考書		
特に指定しない。		
課題に対するフィードバックの方法		
講義期間中における課題 (期末課題レポートを除く) の実施予定はないが、講義内容等に関する質問等については随時受け付けることとし、所定の方法 (対面またはメール) により回答を行う。		
成績評価の方法		
受講時における研究姿勢ならびに研究成果 (全講義終了後の課題レポート) に基づいて評価するものとし、概ねの評価基準は、受講にあたっての取り組み状況を踏まえ、授業への貢献度20%、レポート80%とする。		
その他		

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ART691J	自己表現 (プレゼンス)	2	1・2年	日本語	三輪えり花					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○								
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>この授業はグローバルにビジネスを進めるにあたり必要不可欠なコミュニケーション能力の中でも、とくに、いま目の前にいる相手とその場で問題を解決し、双方がより良い結果を得られるようにするライブインタラクション能力を高めることを第一の目的とする。</p> <p>プレゼンテーションや交渉の場では、その中身がどんなに魅力的であろうとも、また、どんなに伝えたいことがあろうとも、それを表現する人間その人が魅力的であらねば効果は半減する。素晴らしいプレゼン台本やレジュメも、それを読み上げる人の表情や声の表情が乏しければ味気なくなり、喋り方が不明瞭では却ってつまらない印象を与える。その人個人が人間として魅力的であり、効果的な表現ができれば、予想以上の効果を上げることもできる。その魅力の元は、視線や声、腕の動きひとつだったりもするのだ。それらは俳優が使う演技訓練を応用することで身につけられる。講師である三輪えり花は演出家として多くの俳優を育てており、『英国の演技術』『シェイクスピアの演技術』の著者、『インプロ』の翻訳者でもあるため、いま目の前にいる相手とより良い関係を生むスキルを、実践的な能力として学生が身につけられるよう指導する。</p> <p>授業では、表現者としての自己を身体の根本レベルから見つめ直し、如何なる場に於いても魅力ある自分を演出できるような、ゆとりある心身を保ち且つ向上させるために、演劇的ワークショップの手法を用いる。緊張や焦燥で理想の自分を表現できなくなりそうな場でも生き生きと活動するために、自分自身を自由な状態へ解放していく方法を心理と身体の両方向から学びつつ、表現の武器としての声・表情筋ほか身体が微細に放つ意思表示や深層心理表示の能力を使いこなす技(わざ)、および自由に自分の身体や表情、心理を操る方法について研究する。授業の最終目標は、研究したことを実践で使える状態になることである。</p>										
<p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b></p> <p>この授業では、以下の点をそれぞれが研究し、発見を通して自らグローバルビジネスに対応できる準備を進める。</p> <p>〈自分のこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発声訓練を使用して声の表現能力を高め、意図した通りの話し方をする方法を理解し、使えるようになる。</li> <li>身体と心理の双方を解放する訓練を通し、意図した通りの自分を表現する方法を理解し、使えるようになる。</li> <li>突然の心理的プレッシャーに対応し、気持ちをコントロールする方法を理解し、使えるようになる。</li> <li>また、激務からのストレス解消のために、俳優のリラゼーションや激しい心理変化に対応する方法なども学ぶ。</li> <li>ストレスなく、状況に応じて様々な役柄を演じ分ける方法を探求する。</li> </ul> <p>〈相手のこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の微妙な顔の表情やボディランゲージ、声の質感などから相手の心理を読み解けるようになる。</li> <li>相手はどうしたいのか、を常に先回りして考えられるよう、人間の心理作用を理解し、実践で応用できるようになる。</li> </ul> <p>15回の授業を通し、異文化、異言語の相手と、ウィンウィンの関係を気持ちよく作りながらビジネスを進められるよう、人間の根本的なインタラクション(相互作用)を学ぶのだが、こうした事柄は一朝一夕で叶うものではない。しかしながら、この15回を利用して自己表現の何たるか、そしてそれに必要なことは何かを学ぶことはできる。授業の最中、そして授業後にも、場面に即して実践を続け、一生をかけて培ってゆかねばならない。世界の舞台にも立派に通用するリーダーとして振舞える自分を発見し、理論を自ら実践できる人間を育てることが、この授業の究極の目的である。</p>										
授業内容										
【授業の構造】										
1.	オリエンテーション。これから半期かけて、俳優が物語のキャラクターを演じるための訓練に使うさまざまな演技術を使って、三つのことができるようになりたい：A 自分を知り、使えるようになる B 相手を知り、良好なコミュニケーションを取れるようになる C 状況に応じる。最終的に、最後の3週間を使ってスピーチの発表をします。									
2.	『英国の演技術』Chapter 1 Body を使い、身体を自由に操るために、その仕組みを学ぶ。									

3.	『英国の演技術』Chapter 2 Movement を使い、身体を自由に操るために、その基礎を学ぶ。									
4.	『英国の演技術』Chapter 3 Voice から、声を自由に操るために、その仕組みを学ぶ。									
5.	『英国の演技術』Chapter 4 Acting から、相手と良好なコミュニケーションを結ぶために、さまざまなエクササイズを行う。									
6.	『英国の演技術』Chapter 4 Acting「表現力」を学ぶ。『インプロ』第2章「ステイタス」のエクササイズを使い、人間社会のパワーバランスを学ぶ。									
7.	『英国の演技術』Chapter 2 Movement から、他者との空間共有とそれが表す意味などを学ぶ。									
8.	『インプロ』第2～3章のエクササイズを使い、ひらめきを共有できる自信がどこからくるのかなどを学ぶ。									
9.	『インプロ』第4章のエクササイズを使い、ストーリーとナラティブをビジネスに用いる価値を研究する。									
10.	スピーチ練習：『英国の演技術』Chapter 3 を使い、声を出すことに慣れ、日本語を明快に操るための研究をする。									
11.	スピーチ練習：『英国の演技術』Chapter 4 を使い、スピーチの構造を理解する									
12.	スピーチ練習：遊び心で大胆に									
13.	スピーチ練習：繊細な変化をつける									
14.	発表									
15.	リベンジ発表と総括		〈まとめ〉 言葉とボディランゲージの双方を駆使したコミュニケーションについて考察し、今後の課題を明確にする。							
履修上の注意点										
動きやすい格好と靴で参加すること。スカート不可。服装と靴、髪型や化粧などによる変化もみるので、その都度指示する。なお、上記シラバスはあくまでも進行の目安であり、履修生のニーズと進行具合により変更の可能性があるのである。										
準備学習(予習・復習等)の内容										
1 映画『英国王のスピーチ』を観て、学びをレポートにすること。 2 スティーブ・ジョブズのスタンフォード大学卒業式のスピーチを観て、学びをレポートすること。 3 何を目的としてこの授業を履修するのか、この学期が終わった際にどんな自分でありたいのか、考えておくこと(1回目の授業で発表あり)。(いずれのレポートもA4レポート用紙1枚程度にまとめておくこと)										
教科書										
1. 『インプロ：自由自在な行動表現』キース・ジョンストン著 三輪えり花訳 而立書房 2. 『英国の演技術 British Style Acting』三輪えり花著 玉川大学出版『英国の演技術』『インプロ』ともに授業内で配布する。 『インプロ』は、冊数が足りなくなる場合があるので、その際は書店で購入するよう、授業内でお伝えします。										
参考書										
(1) 近代劇・現代劇の台本各種(資料配布) (2) The Use of The Self, by F.M Alexander, Victor Golancz, London, ed. 1995 (3) Your Voice and How To Use It, by Cicely Berry, Virgin Books, ed. 1994 (4) How to Win Friends and Influence People, by Dale Carnegie, Numitor Comun, Windsor, Canada										
課題に対するフィードバックの方法										
Oh-o! Meiji のクラスウェブにて個別に行う										
成績評価の方法										
(1) 授業内でのレポート等(30%) (2) 授業中での議論への参加(30%) (3) 最終発表成績点(30%) (4) 宿題(10%)										
その他										
世界を視野に入れたトップリーダーをめざす人から、基本的なコミュニケーション能力を研究したい学生まで幅広く受け入れる。プレゼンテーションや人前での発表といった実践と研究とを併せた授業である。										

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	グローバル・ビジネス研究Ⅱ (2019年度以前入学者) グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅶ (2020年度以降入学者)	2	1・2年	日本語	王京穂 山村能郎					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
	○	○		○						
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業概要】</b>          本科目は、グローバルの視点の形成に寄与するための海外研修科目である。授業に参加することで、中国の経済や企業の現状を体感する。授業は集中講義の形式をとり、訪問先は中国の重慶市を予定している。内容として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大学訪問（授業及び学生交流）</li> <li>2) 企業訪問（数社の予定）</li> <li>3) 開発区見学</li> </ol> 等を予定している。具体的内容は、7月ごろに公表する。 なお、参加人数により、海外渡航は変更する可能性がある。成果物として、レポート提出と発表が必要である。										
<p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国経済や中国の企業を体感する。</li> <li>・多様性への理解を形成する。</li> <li>・論理的、客観的思考を形成する。</li> <li>・チャレンジ精神を養成する。</li> </ul>										
授業内容										
1.	ガイダンス									
2.	渡航前研修									
3.	現地ビジネススクールの授業									
4.	ビジネススクール学生との交流									
5.	ビジネススクール学生との交流									
6.	企業訪問									
7.	企業訪問									
8.	企業訪問									
9.	企業訪問									
10.	新技術開発区見学									
11.	エコシティー見学									
12.	都市計画展示館見学									
13.	渡航後研修・まとめ									
14.	レポート発表									
15.	レポート発表									
履修上の注意点										
海外渡航関連費用等は学生自己負担。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
教科書										
授業の資料は事前に配布する。										
参考書										
特になし。										
課題に対するフィードバックの方法										
最終発表において、討論時間を用意する。										
成績評価の方法										
ディスカッション・授業貢献 60%、レポート・発表 40%										
その他										

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)MAN691E	グローバル・ビジネス研究Ⅲ (2019年度以前入学者) グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅶ (2020年度以降入学者)	2	1st-2nd Year	English	許佑旭 HSU Yu-Hsu (Sean)					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○			○	○		
Course Summary and Objectives										
<p>This year, we are planning to organize a field study trip to Taiwan to visit firms as well as universities. Lectures will be run by the local scholars/researchers in Taiwan. The trip will last for approximately 4 days. Details will be announced once the study trip is approved.</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understand the dynamics of firms in Taiwan, in particular family-owned firms.</li> <li>2. Identify the challenges faced by firms in Taiwan and offer sound advice.</li> <li>3. Learn different managerial approaches adopted by managers of Taiwanese firms.</li> </ol>										
Course Contents										
1.	Introduction (The purpose of the study trip.)									
2.	Preparation I									
3.	Preparation II									
4-15	Attending Lectures in Taiwan, Visiting Firms, Universities, Science Parks in Taiwan									
Prerequisites and registration requirements										
<p>In order to obtain the credit, students have to participate in the study trip to Taiwan.          Students have to finance their own travel.          All lectures will be held in English language.</p>										
Preparation and Review										
Students should review materials/articles regarding the topic selected prior to the study trip.										
Textbook(s)										
There is no textbook for this module.										
Reference(s)										
To be announced in class.										
How to provide Feedback to assignments										
Feedback will be offered either verbally or in a written form depending upon the style of assignments.										
Grading and Evaluation										
In-Class Participation: 40% Report: 60%										
Other										
The contents of the course may be altered depending upon the situation.										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	グローバル・ビジネス研究Ⅳ (2019年度以前入学者) グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅲ (2020年度以降入学者)	2	1・2年	日本語	村木信爾					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○			○	○		
授業の概要・到達目標										
<p>現代のビジネスにおいては、地球環境問題をはじめとする E（環境）S（社会）G（ガバナンス）の配慮は、事業を継続していく上で必須の事項となっている。また、企業経営において保有不動産を経営戦略に沿って適切に保持していくことは CRE（企業不動産）戦略として重視されてきているが、その中でも ESG の配慮が求められるようになった。</p> <p>本講座では、ESG の先進地域であるロンドンを中心とする欧州において、ESG に配慮したビルや再開発地区の現地学習を中心に、現地不動産マーケットに関する情報収集や現地の日本人駐在員との交流も行う予定である。</p> <p>受講者は、ESG に関する各種規制、制度、木造建築物、アフオーダブル住宅（エッセンシャルワーカーのための低賃料住宅）などのテーマを決めチームを結成し、事前学習の上主体的に本研修に取り組むことを求める。受講者自身が、ESG に関するテーマを自主的に設定ことも歓迎する。</p> <p>事前学習で担当テーマを決めた後、現地研修を実施し、帰国後各チームのレポートの発表会を行い、最終的には 1 つの報告書としてまとめる予定。</p> <p>【到達目標（Course ILO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者自身のビジネスにおける ESG の影響について、世界的レベルにまでその関心を深め、他人に説明できること。</li> <li>・自分自身のビジネスにおける ESG 配慮につき、何らかのテーマで執筆できること</li> </ul> <p>授業は、不動産分野専攻の学生のみならず全ての分野専攻の学生を歓迎する。 (なお授業の実施は、9 月から 12 月の期間で未定)</p>										
授業内容										
1.	概説 ESG に関する世界の潮流、不動産に関する ESG について概説 参加者の顔合わせと、テーマ設定、チーム結成案検討。									
2.	第 1 回の続き、および各チーム結成									
3.	現地研修（出発から帰国まで、約 1 週間。最初の往訪地はロンドンの予定。以下未定）									
4.	同上									
5.	同上									
6.	同上									
7.	同上									
8.	同上									
9.	同上									
10.	同上									
11.	同上									
12.	同上									
13.	同上									
14.	各チーム報告会									
15.	同上、まとめ									
履修上の注意点										
現地での英語の説明に関して、通訳はつけないが、適宜その内容を説明する。基本的には往復の基本ツアーを実施するが、現地参加も可。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
各自のテーマに従って事前に研究、調査しておく										
教科書										
無し										
参考書										
『企業不動産（CRE）戦略と ESG 投資（仮称）』村木信爾著（2024 年 8 月出版予定） その他、適宜指定する										
課題に対するフィードバックの方法										
最終授業の際、レポートについてコメントする。										

成績評価の方法
事前準備（20%） 現地における参加姿勢（30%） 提出レポートの内容（50%）
その他

科目ナンバー	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)MAN691M	グローバル・ビジネス研究Ⅵ (2019年度以前入学者) グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅶ (2020年度以降入学者)					2	1・2年	日本語	藤岡資正		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
		○		○							
授業の概要・到達目標											
<p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修を通じて、異文化コミュニケーション能力の構築をすることができる。</li> <li>一次データと二次データを突き合わせながら、仮説を導出する力を身につけることができる。</li> <li>既存理論や過去の事例から仮説を導出し、実際のデータを分析することで検証する仮説検証のプロセスを理解することができる。</li> <li>質的データを量的データに変換することの利点と問題点について理解を深めることができる。</li> <li>新興国市場におけるデータ収集の難しさと経営における一次情報の重要性を認識することができる。</li> <li>チームで結果を出すという経営の本質を理解し、その難しさを理解することができる。</li> </ul> <p>本クラスでは、グローバルビジネスの最前線の現場を実際に体験することを目的としている。現在日本企業の多くは、何らかの形で海外と接点を有しており、グローバル化の進展は、情報技術の発展とともに急速に進んできた。なかでも、近年、アジア新興諸国の社会・経済の発展のスピードは目覚ましく、これらアジア新興国の現状を体感的に把握しておくことは有意義なことである。</p> <p>本クラスでは、各グループでテーマ（たとえば、「ベトナムからの日本へのインバウンドツアーを考える」など）を選出し、そのテーマに沿って事前の資料収集などを行い、現地で得られた知見を基に、最終報告レポートをパワーポイント形式で作成する。その後、4泊5日程度の現地フィールド調査を通じて、実際にメコン経済圏の成長や課題を体感し、日系企業の地域事業戦略や現在日系企業が直面している課題について、政府機関、大学、企業などの関係機関へフィールド調査を行う。</p> <p>本年度は、メコン地域のうち、タイ、ラオス、ベトナムの数か国もしくは、このうち1か国を想定している。最終的な目的地は、現地の大学や関係各所との調整のうえ、夏前に発表する。</p>											
授業内容											
1	講義目的、講義概要、成績評価、フィールド調査の基本的な方法の説明										
2	世界経済におけるアジアの台頭、国際経営の時事問題について										
3	現地研修のガイダンス及びチーム編成										
4	チームごとにフィールド学習のリサーチトピックとリサーチクエスチョンについて報告										
5	現地フィールド研修：現地研究機関でのセッション										
6	現地フィールド研修：現地研究機関でのセッション										
7	現地フィールド研修：現地政府機関でのセッション										
8	現地フィールド研修：現地日本政府関連機関でのセッション										
9	現地フィールド研修：現地日系事業担当者によるセッション										
10	現地フィールド研修：現地日系企業事業担当者によるセッション										
11	現地フィールド研修：現地フィールド調査										
12	現地フィールド研修：現地フィールド調査										
13	成果発表										
14	成果発表										
15	全体のまとめと振り返り										
履修上の注意点											
<p>本クラスは、フィールドベース科目の一つであり、単位の修得には、4泊5日程度のフィールドスタディー研修が含まれているため、日程の調整をしていただく必要がある。単位取得は、海外現地研修に参加することが前提となる。現地での授業は、日本人ゲストの場合は日本語、海外のゲストの場合は基本的に英語となる。海外研修に参加できない場合には単位取得はできないので注意すること。渡航費用は学生の自己負担となる。授業は集中講義の形式をとる。</p> <p>帰国後にチームで分担し現地研修の成果発表を行い、説明資料（パワーポイント形式）を提出する。授業終了後に個人で研修の振り返りレポートを提出する。（A4で1から2枚程度）</p>											

準備学習（予習・復習等）の内容
<p>(1) 準備学習としては、アセアンや新興国に関する雑誌・新聞記事を意識して読んでおくと同時に、受講者が所属している企業の国際展開について調べておくことと理解がより一層進むと思います。</p> <p>(2) 実務未経験者は、授業内容にかかわる教科書や参考書などを手引きとしながら、興味のある企業の国際展開について簡単に良いので情報をまとめておくことと有意義でしょう。</p>
教科書
その都度、必要に応じて資料を配布するため、教科書は使用しません。
参考書
藤岡資正編著（2018）『新興国市場と日本企業』同友館
課題に対するフィードバックの方法
授業全般の課題に関するフィードバックは、クラス内で行います。また、個別のフィードバックが必要な場合は、アポイントメントベースでオフィスアワーやメールにてご対応します。
成績評価の方法
授業への参加度 30%、ディスカッション等授業への貢献度 20%、チーム別成果発表とレポート 40%、個人でのフィールド調査の振り返りレポート 10%
その他
特になし。



Course Number	Class Subject Name					Credits	Year	Language	Faculty Member		
(GB)MAN691E	グローバル・ビジネス研究Ⅶ (2019年度以前入学者) グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅶ (2020年度以降入学者) Global Business Research					2	1st- 2nd Year	English	山口不二夫 YAMAGUCHI Fuji		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
	○	○		○		○			○		
Course Summary and Objectives											
<p>In this lecture, we will take classes at AESE Business School in Lisbon, Portugal. Students from affiliated schools around the world at AESE Business School will come together to study several cases. In a global world with rapid changes, the Executive MBA intensive week contributes to the development of the participants. The experiences, knowledge and skills acquired and developed lead to better management and greater enterprising capacity, which is reflected in concrete progress. On top of opening new horizons and enabling international networking, the conferences given will provide the participants with a global and in-depth context of the trends and focus of today's executives. Please arrange transportation and accommodation to Lisbon at your own risk.</p>											
Course Contents											
1	Preparation Module 1 Selected Case Study at Meiji										
2	Preparation Module 2 Selected Case Study at Meiji										
3	Teamwork Teamwork for case IDEO										
4	Teamwork Teamwork for case SAP										
5	Case Study 1 -1 Case study about Design Thinking: IDEO										
6	Case Study 1 -2 Case study about Design Thinking: IDEO										
7	Case Study 1 -3 Case study about Design Thinking: SAP										
8	Case Study 1 -4 Case study about Design Thinking: SAP										
9	Teamwork Teamwork for cases: Novartis and Blackberry										
10	Teamwork Teamwork for cases: Amazon and Ricoh										
11	Interactive Lecture Interactive Lecture for the Case										
12	Case Study 2 -1 Case study about Novartis										
13	Case Study 2 -2 Case Study about Blackberry										
14	Case Study 2 -3 Case Study about Amazon										
15	Case Study 2 -4 Case Study about Ricoh										
Prerequisites and registration requirements											
<p>Students are recommended to be proficient as below.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TOEFL (iBT) 79 or above</li> <li>• TOEIC (L&amp;R) 800 or above</li> <li>• IELTS (Academic Module) 6.0 or above</li> </ul>											
Preparation and Review											
Please participate in the Preparation Module at Meiji. Please examine the case materials in advance.											
Textbook(s)											
Case Materials will be provided beforehand (by the end of July)											
Reference(s)											
It is not to be used.											
How to provide Feedback to assignments											
Feedback comments are made using the report section of Oh-o! Meiji.											
Grading and Evaluation											
MBS and AESE will evaluate students.											
Other											

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN662J	コーポレート・ファイナンス	2	1・2年	日本語	王 京穂					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○						
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業概要】</b>  コーポレート・ファイナンス理論の基本知識を学習する。企業価値及び事業価値の評価、事業戦略、資本政策等の基礎を学習し、考え方と実際の評価プロセスを理解する。企業価値の向上を目的とした資本政策、リスク管理や開示、事業ポートフォリオ等、新株予約権を利用する財務的施策や敵対買収対策等についても解説する。</p> <p>コーポレート・ファイナンスは、企業の経営戦略と事業戦略の意思決定をサポートする上で、重要な道具である。企業の事業戦略において、ファイナンスがどのように役に立つのか、を理解するための授業でもある。</p> <p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業・会社の仕組みが分かるようになる。</li> <li>・企業価値及び事業価値の評価のフレームワークが分かるようになる。</li> <li>・事業戦略の策定におけるファイナンス知識の応用方法が分かるようになる。</li> <li>・銀行等の金融機関とのコミュニケーション能力を身につく。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	授業概要	1) 授業概要 2) 会社の仕組み 3) 意思決定における判断基準 4) 復習問題：割引現在価値と永久債計算								
2	会社の仕組み	1) 株式会社の歴史 2) 資本と負債 3) 優先劣後構造 4) 会社の利益 5) ROAとROE 6) 資本の要求と負債の要求 7) 計算問題：WACC								
3	金融市場とリスク・リターン	1) 広義的金融市場 2) 金融市場の要求：リスク・リターン 3) 信用格付と負債の金利 4) 資本のリスクと株主の要求								
4	CAPM 理論	1) 分散投資をする投資家 2) システマティックリスクと個別リスク 3) 分散投資ポートフォリオにおける個別リスクの相殺 4) CAPM 理論 5) 演習問題：株価収益率とベータの計測								
5	最適資本構成	1) MM 理論 2) 倒産コストと負債比率 3) 税金効果 4) WACCと最適資本構成 5) 演習問題：最適資本構成								
6	企業価値と事業価値	1) 企業価値と事業価値 2) 異なる利益とその意味 3) 株主利益と株主要求利回り 4) 営業利益と WACC								
7	演習：事業価値の計算	1) DCF モデル 2) 割引金利と利益成長率 3) 投資価値の計算：NPVとIRR 4) 簡便法								
8	リスクとリスク管理	1) リスクとその分類 2) 保険的リスクとその対策 3) 信用リスクとその管理 4) 市場リスクのヘッジ 5) オペレーショナルリスク 6) リスク管理リスクマップ								
9	リスクと資本	1) リスクと資本との関係 2) リスクとWACCとの関係 3) 株主の視点：エージェンシーコスト 4) コングロマリット・ディスカウント 5) 総合商社のリスク管理の実践								
10	M & A	1) 事業戦略と M & A 2) シナジー効果 3) ポートフォリオ効果 4) バリュチェーン再編 5) 演習問題：事業ポートフォリオの改善								
11	株主とのコミュニケーション	1) 情報開示と IR 2) リスク管理とコンプライアンス 3) 配当政策 4) R & D 投資と将来利益 5) ESG 経営								
12	新株予約権	1) オプションと新株予約権 2) ストックオプションの報酬支払 3) 企業提携のツール 4) 敵対買収防衛 5) M & A における活用								
13	多様な債券	1) 固定金利・変動金利とゼロクーポン 2) 転換社債 3) 資産担保社債 4) オプションを利用する仕組み債								

14	資本の多様化	1)劣後債 2)優先株 3)匿名組合出資 4)種類株 5) 演習問題：株主構成と企業活力
15	整理とまとめ	1) 整理とまとめ 2) 最終レポート
履修上の注意点		
特になし。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
複数の宿題がある。要求する期限まで解答を作成して提出する。		
教科書		
特に指定しない。毎回講義用の資料を配布する。		
参考書		
『コーポレートファイナンスの原理』（2012）Stephen. A. Ross 等大野薫訳		
課題に対するフィードバックの方法		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回授業に解説と復習の時間を設けること</li> <li>・Oh-oi Meiji のディスカッションの利用</li> <li>・Oh-oi Meiji のレポートのコメントの利用</li> </ul>		
成績評価の方法		
ディスカッション・授業貢献 30%、宿題 30%、最終レポート 40%		
その他		
なし		

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN662J	リスク・マネジメント	2	1・2年	日本語	青沼君明					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○			○	○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>企業がビジネスを展開する上で、取引相手先の倒産、為替水準の変化、原材料コストの変化といったリスクを無視することはできない。倒産の可能性がある企業に対しては、例えば取引量を減らす、売掛金の回収期間を短くする、粗利を上げる、引当金を多くするなどの方法がとられる。また、為替リスクや原材料のコストなどをコントロールするためには、金融商品などが活用される。リスク・マネジメントとは、例えば経済のシナリオを想定して、将来のリスクを計量化し、そのリスクに対応するための引当金の計上、さらには引当金でカバーできない場合のリスク回避方法などを検討し、企業にとっての目標リターンを最小のコストで達成するための解決策を導くためのものである。今後のビジネスパーソンにとって必要不可欠なスキルとなっており、この授業では、以下の習得を目指す。</p> <p>ILO1：株価、債券価格、格付推移確率から、企業の将来の倒産確率を推定する（誘導モデル）。</p> <p>ILO2：貸借対照表のデータと株価から、企業の将来の倒産確率を推定する（構造モデル）。</p> <p>ILO3：推定された企業の将来の倒産確率から引当金の必要額を推定する。</p> <p>ILO4：推定された将来の倒産確率と、推定された将来の回収率から、倒産による損失額を推定する。</p> <p>ILO5：例えば、今後3年間、GDPが下降するというシナリオを想定した場合、取引相手先にどれほどの倒産が起き、それに対応できるようにするにはどのようなことを検討しておくべきかについて検討する。</p> <p>ILO6：実務のデータを EXCEL の分析ツールを使って解析する。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	リスク・マネジメントとは何か	テーマ：①リスクの分類と計測方法、②バリュアット・リスク (VaR: Value at Risk) の定義								
2.	マーケット・リスクの計量化	テーマ：①リスク・ファクターの特性評価と将来分布、②ルート T ルールによるリスク評価、③時価評価 (Mark to Market)								
3.	デルタ法による VaR の評価	テーマ：①リスク・ファクターのパラメータ (平均、分散共分散) 推定								
4.	ヒストリカル法によるリスク計測	テーマ：①1つのリスク・ファクターからなるポートフォリオの VaR、②複数のリスク・ファクターからなるポートフォリオの VaR、③経験分布のパーセント点								
5.	順序統計量による分布の評価	テーマ：①順序統計量と真の分布のパーセント点								
6.	ブートストラップ (Bootstrap) 法	テーマ：①ブートストラップ法によるヒストリカル・シミュレーション・ツールの作成								
7.	モンテカルロ・シミュレーションによるリスクの評価	テーマ：①正規乱数の生成、②相関を考慮した多次元正規乱数の生成、③コレスキー分解								
8.	信用リスクと死亡リスクとは	テーマ：①信用リスクと市場リスクの違い、②信用リスク評価モデルの種類、③倒産 (志望) 確率と存続 (生存) 率、④ハザード率とハザード関数								
9.	割引債価格と現在価格	テーマ：①無リスクな割引債価格の評価モデル、②信用リスク・死亡リスクのある割引債の評価モデル、③リスク調整済み割引率による信用リスク・死亡リスクの表現								
10.	金利とイールド・スプレッド	テーマ：①単利と複利、②スポット・レートとフォワード・レートの計算、③イールド・スプレッドと信用リスク								
11.	金融商品 (デリバティブ・保険) の価格付け	テーマ：①定義関数とキャッシュフローのイベント表現、②条件付き確率と生存確率								
12.	倒産 (死亡) 確率の推定	テーマ：①倒産 (死亡) 実績からの倒産 (死亡) 確率の推定、②線形の倒産 (死亡) 確率推定モデル、③モデルの良さ (適合度) の判定								

13.	非線形の倒産確率推定モデル	テーマ：①ロジット回帰モデルによる倒産 (死亡) 確率の推定、②リスク・ファクターが2つ以上ある場合の倒産 (死亡) 確率の推定
14.	コール・オプションとしての株価	テーマ：①構造モデルを適用し、株価を自己資本価値、行使価格を負債額として、株価をコールオプションとして評価
15.	期末試験とまとめ	注意：番号は、授業日程を示していない (テーマによって時間配分は異なる)
履修上の注意点		
<p>実務上の例題を用いながら、リスク回避方法について解説する。Excel を利用するので、Excel の基礎知識は持っていることを前提とする。また、データ分析が必要となるので、「ビジネス・データ解析」で触れられている内容は理解していることが望ましい。</p> <p>2021 年度までに「信用リスク・マネジメント」の単位を修得したものは、「リスク・マネジメント」を履修することはできない。</p>		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
データ分析が必要となるので、「ビジネス・データ解析」で触れられている内容は理解していることが望ましい。		
教科書		
レジュメ、演習問題については、各テーマごとにクラスウェブ上で配布。なお、演習は各自復習することを前提とし、解答については遅れて配布する。		
参考書		
青沼・村内 (2010)、「Excel で学ぶ信用リスク」、金融財政事情研究会。 青沼・村内 (2008)、「Excel で学ぶ VaR」、金融財政事情研究会。		
課題に対するフィードバックの方法		
課題 (演習) の解答例については、クラスウェブにアップする。期末試験の準備として、期末試験対策資料をクラスウェブにアップする。また、期末試験の解説については、試験終了時点で模範解答を配布する。		
成績評価の方法		
(1) 授業への貢献度：10% (2) 期末テスト：90%		
その他		



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN661J	金融工学基礎	2	1・2年	日本語	王 京穂					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○				○	○	
授業の概要・到達目標										
<p>【授業概要】</p> <p>授業は複雑な数式の使用を避け、図を利用して、金融工学とリスク管理の概念的理解と初歩的応用の習得を目的とする。</p> <p>基礎部分は主に、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 金融市場への理解</li> <li>2) 先渡取引とオプションへの理解</li> <li>3) リスク管理</li> </ol> <p>応用部分は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 為替リスクヘッジの事例</li> <li>2) 投資におけるオプションの利用</li> <li>3) 新株予約権の活用</li> <li>4) オプション理論の応用</li> </ol> <p>について講義する。講義内容の理解と確認のための演習の時間を設定する。</p> <p>【到達目標 (Course ILO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図を利用して、企業が抱えるリスクの認識と計測をする。</li> <li>・ 為替リスクとその消去 (ヘッジ) の方法を理解する。</li> <li>・ 金融商品の利用方法を習得する。</li> <li>・ リスクヘッジの考え方を理解する。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	授業概要	1) 授業概要 2) 3つの図 3) 図による金融商品の表現								
2.	資産価格の変動	1) 価格の変動と収益率の変動 2) 収益率変動の分布 3) 正規分布 4) 「最大値」と「最小値」								
3.	演習	1) ボラティリティとその推定 2) 正規分布に関する計算 3) 証拠金取引の証拠金計算								
4.	先渡取引	1) 金融市場概観 2) 現物取引と先渡取引 3) 売りと買い: PL 図による表現								
5.	先渡取引によるリスク相殺	1) PL 図上で見るリスク 2) 輸出企業のドル安リスク 3) 先渡取引によるリスクの相殺 4) リスク認識とリスク管理								
6.	演習	1) 先渡取引の複製と先渡理論価格 2) 農家のリスク管理と農産物先物								
7.	オプション取引	1) オプション 2) コールとプット 3) 円高保険と円安保険としてのオプション								
8.	オプション料	1) オプション料: 権利の対価 2) e ワラント 3) オプション料を考慮した PL 図 4) オプション戦略の整理								
9.	演習	1) ブラックショールズモデル 2) 連続複利と正規分布に関する計算 3) ヒストリカル・ボラティリティとインプライド・ボラティリティ								
10.	オプションによる応用	1) フロア付き外貨預金 2) デュアルカレンダー預金 3) トッピングとしてのオプション								
11.	新株予約権	1) 新株予約権 2) ストックオプション 3) 買収防衛 4) M&A における応用 5) 転換社債								
12.	演習	1) 時事解説								
13.	リアルオプション	1) 油田探掘権の価値 2) 旧借家法上の権利 3) 機会の価値と権利の価値								
14.	ディスカッションと期末レポート									
15.	復習とまとめ									
履修上の注意点										
特になし。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
授業の際に指示する。										

教科書
授業中に関連資料配布。
参考書
特に指定しない。
課題に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回授業に解説と復習の時間を設けること</li> <li>・ Oh-o! Meiji のディスカッションの利用</li> <li>・ Oh-o! Meiji のレポートのコメントの利用</li> </ul>
成績評価の方法
ディスカッション・授業貢献 (40%) レポート・宿題 (60%)
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN692J	証券投資論	2	1・2年	日本語	伊藤敬介					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○				○			○
授業の概要・到達目標										
<b>【到達目標 (Course ILO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>株式や債券などの証券の期待リターンやリスクを推計できるようになる。</li> <li>複数の証券に分散投資した「ポートフォリオ」の期待リターンやリスクを推計できるようになる。</li> <li>投資目標やリスク許容度を整理し、目標に即した最適な証券ポートフォリオを特定できるようになる。</li> <li>ポートフォリオのパフォーマンス測定や適切なパフォーマンス評価ができるようになる。</li> <li>上記計算に必要なエクセル・スキルを習得する。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	証券投資とは	株式や債券などの「証券」の市場概要、および証券投資の必要性や証券投資プロセスの概要								
2	株式の価値評価 (1)	企業・株式価値評価モデルの分類、配当割引モデル、資本コスト、株式評価尺度								
3	株式の価値評価 (2)	企業・株式価値評価モデルの分類、配当割引モデル、資本コスト、株式評価尺度に関する演習								
4	株式の期待リターンとリスク	株式の理論価格からの乖離、株式市場全体の期待リターンとの関係、株式投資の期待リターンとリスクの推計手法								
5	債券の期待リターンとリスク	債券の種類とキャッシュフロー、債券の価値評価手法、債券投資の期待リターンとリスクの推計手法								
6	ポートフォリオの期待リターンとリスク (1)	複数証券を組合わせたポートフォリオのリターンやリスクの計算方法、分散効果の考え方								
7	ポートフォリオの期待リターンとリスク (2)	複数証券を組合わせたポートフォリオのリターン、リスク、分散効果に関する演習								
8	投資方針の策定	自分の目指すリターンや許容できるリスク、流動性制約など、投資目標の整理の仕方、および投資方針記述書の紹介								
9	資本資産評価モデル (CAPM)	現代ポートフォリオ理論の中核に位置する「資本資産評価モデル (CAPM)」の解説、およびその応用事例の紹介								
10	アセット・アロケーションの重要性	資産運用パフォーマンスの約9割を左右すると言われるアセット・アロケーションの考え方の整理								
11	オルタナティブ投資	ヘッジファンドやプライベート・エクイティなど、オルタナティブ投資の類型と留意点の整理								
12	個人投資家のライフサイクル投資	個人投資家のライフサイクル投資の概要、個人投資家の資産配分実態、人的資産やターゲット・デット・ファンドの考え方								
13	ポートフォリオのパフォーマンス評価	途中で資金の追加や部分換金などを行った場合、通期のパフォーマンスをどのように把握すれば良いか、運用結果をどのように評価すれば良いかなど、パフォーマンス評価の考え方を紹介								
14	証券投資の実際	機関投資家や個人投資家の証券投資に関する近年の話題、ESG・サステナビリティを意識する背景、および当授業の総括								
履修上の注意点										
2018年度までに「株式投資とアセットアロケーション論」の単位を修得したものは、「証券投資論」を履修することはできません。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
特になし										

教科書
レジュメを毎回配布
参考書
<ul style="list-style-type: none"> <li>『新・証券投資論 II』伊藤敬介、荻島誠治、諏訪部貴嗣著、日本証券アナリスト協会編 (日本経済新聞出版社)</li> <li>『新・証券投資論 I』小林孝雄、芹田敏夫著、日本証券アナリスト協会編 (日本経済新聞出版社)</li> </ul>
課題に対するフィードバックの方法
解答例をクラスウェブに掲載
成績評価の方法
(1) 講義への貢献度 (30%) (2) 中間課題 (30%) (3) 期末レポート (40%)
その他

科目ナンバー	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)ECN691J	年金マネジメント					2	1・2年	日本語	大坪英二郎		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
			○								
授業の概要・到達目標											
<p>2019年6月に老後資金は年金だけでは2,000万円不足するという金融庁報告書が公表されて話題になったが、年金制度に関する知識は重要である。ただ、年金をマネジメントするということは、単に公的年金制度(国民年金、厚生年金)とその年金金額、企業年金制度、そして私的年金(iDeCo、個人年金)を知るだけでは意味がないと考えている。年金に関するそれらの知識を踏まえたうえで、医療や介護(親、配偶者、自分)などの「将来の見えざるリスク」にも備え、年金を含めた老後資金をマネジメントすることが大切である。そのため、この授業では年金対策と自助努力(iDeCo、NISA)の知識に加え、「見えざるリスク」としての認知症と介護保険制度について学習する。そして、財産管理の対応策として成年後見人制度と家族信託の活用についても説明していく。</p> <p>【到達目標 (Course ILO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公的年金制度を理解できるようになる。</li> <li>・老後資金にかかわるリスクや制度を理解できるようになる。</li> </ul>											
授業内容											
週	テーマ	内容									
1	高齢社会の基礎知識(1)	高齢社会におけるライフプランと年金の役割について学習する。									
2	高齢社会の基礎知識(2)	老後資金や年金に関する根拠や誤解などについて理解する。									
3	国民年金・厚生年金について	老後資金の柱である国民年金と厚生年金について学習する。									
4	公的年金制度と最近の改正について	公的年金制度と最近の年金制度の改正(2022年度以降)について理解する。									
5	遺族年金と生命保険について	必要死亡保障額の算出に必要な遺族年金の内容と生命保険の見直しについて理解する。									
6	年金対策と自助努力について	年金対策の考え方と手順、そして自助努力(iDeCo、NISA)について学習する。									
7	老後資金を脅かす介護リスクについて	介護保険制度について学習する。									
8	年金対策にかかわる見えないリスクについて	認知症について理解する。									
9	番外編1: キャリア論等について	これからの人生に役に立つキャリアマネジメント理論等について学習する。									
10	退職金制度(企業年金制度)について	退職金制度(企業年金制度)について学習する。									
11	財産管理に関する制度(1)	成年後見制度について理解する。									
12	財産管理に関する制度(2)	家族信託について理解する。									
13	番外編2: 人生やビジネスに活用できる「行動経済学」について	行動経済学について学習する。									
14	これまでの復習(1)	年金について確認する									
15	これまでの復習(2)	年金以外について確認する。									
履修上の注意点											
特になし。											
準備学習(予習・復習等)の内容											
次回授業に関する準備等指示がある場合には、予習を行うこと。											
教科書											
特に指定はしない。毎回講義用に資料を配布する。											
参考書											
田村正之『人生100年時代の年金・イデコ・NISA戦略』日経BP(2021)											

課題に対するフィードバックの方法
期末レポートに関するフィードバックに関しては、Oh-olMeijiシステムを利用して行う。
成績評価の方法
授業貢献度30%、期末レポート70%
その他

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN691J	パーソナルファイナンス	2	1・2年	日本語	大坪英二郎					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○							
授業の概要・到達目標										
<p>この授業では、日本ファイナンシャルプランナーズ協会（日本FP協会）の大学院制度（CFP®認定教育プログラム）によるAFP資格を取得することを目的として、最終的に日本FP協会に提出する課題提案書を作成するための知識を学習し、提案書作成スキルを習得する。授業形式としては、講義と演習が中心になる。なお、この科目の単位を取得していないとMBSのCFP®認定教育プログラムにおいて他の対象科目の単位を取得していても日本FP協会向けに課題提案書を提出することができないので注意が必要。</p> <p>【到達目標（Course ILO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題提案書の作成ができるようになる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	授業の進め方の説明や課題の確認。パーソナルファイナンスについて。								
2	提案書作成に関する確認（1）	提案書作成に関する説明や作成上の注意点などについて。								
3	提案書作成に関する確認（2）	課題提案書に関して学習する。								
4	社会保険制度	社会保険制度（医療保険、年金、介護保険等）について学習する。								
5	公的年金制度	国民年金、厚生年金について学習する。								
6	遺族年金（1）	遺族年金（遺族基礎年金と遺族厚生年金）について学習する。								
7	遺族年金（2）	必要死亡保障額（生命保険）と65歳以降の遺族年金について学習する。								
8	iDeCo（個人型確定拠出年金）	iDeCo（個人型確定拠出年金）の活用について学習する。								
9	教育資金	学資保険と新NISA（つみたて投資枠）について学習する。								
10	住宅取得資金と提案書に関する税金	住宅ローン、可処分所得、所得控除、税額控除（住宅ローン控除等）を学習する。								
11	キャッシュフロー表の作成（1）	キャッシュフロー表を具体的に作成する演習を行う。								
12	提案書作成演習（1）	提案書を作成してディスカッションする。								
13	キャッシュフロー表の作成（2）	キャッシュフロー表を具体的に作成する演習を行う。								
14	提案書作成演習（2）	提案書を作成してディスカッションする。								
15	まとめ	これまでの復習を行う。								
履修上の注意点										
エクセルを自習しておくこと。授業の資料は、全て毎回 Oh-o! Meiji にアップロードし、復習できるようにしたい。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
次回授業に関する準備等指示がある場合には、予習を行うこと。										
教科書										
資格の大原 FP 講座『24・25 読めばわかる！FP2 級 AFP 合格テキスト』大原出版（2024 年 5 月発行予定）。毎回講義用の資料も配付する。										
参考書										
日本FP協会『ファイナンシャル・プランニング 提案書の作り方（第4版）』（2018）										
課題に対するフィードバックの方法										
期末レポートに関するフィードバックに関しては、Oh-o!Meiji システムを利用して行う。										
成績評価の方法										
授業貢献度 30%、期末レポート 70%										

その他
-----

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN691J	行動ファイナンス論	2	1・2年	日本語	王 京穂					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○				○				
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業概要】</b>  行動経済学と行動ファイナンスの入門である。  内容は、1) 意思決定におけるバイアス、2) バイアスによる行動や投資行動への影響、3) 行動経済学による解釈、4) 応用の可能性の議論、から構成される。日常生活における事例から出発してバイアスの存在と理解をし、最終的にプロスペクト理論を軸に体系的整理を行う。バイアスが投資に与える影響やその回避の可能性も日常の事例を用いて説明を試みる。  人間や企業のバイアスを理解し、ファイナンスの問題だけではなく、マーケティングやブランディング等の問題への応用等、MBAが直面する諸問題への可能性に議論する。</p> <p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b>  ・人間のバイアスを理解し、論理的、冷静・客観的な思考を形成する。  ・心理的に感じる価値による投資行動やビジネスへの影響を理解する。  ・バイアスのマーケティングやブランディングへの応用が考えられるようになる。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	授業概要	1) "心" に着目する 2) 2の思考回路 3) ダニエル・カーネマン								
2	怠け者の知恵	1) 現状維持 2) フレーミング 3) 直感的因果関係の追求 4) バイアスとヒューリスティックス 5) ダン・アリエリー先生ビデオ: 本当に自分で決めているのか?								
3	住めば都	1) 古いスーツの買い取り 2) わが子が一番かわいい 3) 住めば都 4) ソッコン効果 5) 意思決定のコストの回避								
4	カッコよく	1) カッコよさがとても大事 2) Seeking Pride 3) Avoiding Regret 4) 株式投資におけるバイアス 5) 心理的価値と心理的コスト								
5	心の財布	1) Buy One Get One と 50%割引の違い 2) メンタルアカウンティング 3) 悪銭身につかず 4) 二の轍を踏まない 5) 土壇場のあがき								
6	価値の感じ方	1) 価値の構成と価値の知覚 2) 価値関数 3) 現状維持の合理性? 4) Seeking Pride & Avoiding Regret の合理性? 5) コストの構成と感受								
7	プロスペクト理論	1) 伝統的経済学とファイナンス理論 2) エコノミカスの意思決定: 効用と客観確率 3) ヒューマンの意思決定: 価値関数と主観確率								
8	プロスペクト理論 (続)	1) 評価と参照点 2) 感応度低減性 3) 損失回避性 4) 客観確率と主観確率								
9	演習	1) 応用問題: 宝くじの評価とくじの設計 2) 最小二乗法によるパラメータの推定								
10	代表性と利用可能性	1) 代表性ヒューリスティックス 2) PCR 検査とベイズ定理 3) アンカリング効果 4) 利用可能性ヒューリスティックス								
11	応用問題	1) 競馬とプロスペクト理論 2) 保険商品の価値 3) 金融商品の設計								
12	認知的錯覚	1) 自信過剰 2) ピーク&エンド法則 3) 認知的不協和 4) 数は力なり: Social Aspect 5) 株式投資と認知的錯覚								
13	幸せの構造	1) カーネマン先生のビデオ: 経験と記憶 2) 2つの自我 3) 不確かな記憶と確かな幸せ 4) ディスカッション: QOL (Quality of Life)								
14	行動ファイナンスと金融市場	1) 金融市場の効率性 2) 投資家の能力とハーディング 3) PER バイアスとPBR バイアス 4) 業種バイアス								
15	整理とまとめ	1) まとめ 2) 最終レポート								

履修上の注意点
授業資料を配布する。
準備学習 (予習・復習等) の内容
授業の際に指示する。
教科書
毎回資料配布
参考書
1) ダニエル・カーネマン (著)、村井 章子 (訳) ファスト&スロー (上、下)、早川書房 2) John R. Nofsinger, Investment Madness: How Psychology Affects Your Investing (Financial Times Press, 2001)
課題に対するフィードバックの方法
・次回授業に解説と復習の時間を設けること ・Oh-oi Meiji のディスカッションの利用 ・Oh-oi Meiji のレポートのコメントの利用
成績評価の方法
ディスカッション・授業貢献 50%、レポート 30%、発表 20%
その他

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN661J	金融論	2	1・2年	日本語	小田切尚登					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○			○			○
授業の概要・到達目標										
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な金融商品や金融機関・金融取引について学び、金融に関する基礎的な知識をつける。</li> <li>金融関係の仕事に従事している受講生は業務に直接役立つようなノウハウがつかようになる。金融と直接関係する業務を行わない人も、ビジネスの根幹である資金の流れに対する理解を深めることで、仕事に役立つ知見が得られる。</li> <li>金融に関する様々なリスクについての知見を高め、リスク管理の能力を高めることができるようになる。</li> </ul> <p>到達目標 (Course ILO)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルな金融の知見をつけていくことで、各自のビジネスの分野でグローバルな視点を持ったリーダーシップ及び管理能力を身に付け発揮できるようになる。</li> <li>株価や金利、外国為替などの様々な金融関連の指標についての情報を収集しデータ分析を行なう能力をつけられる。</li> <li>金融を通して資金の流れとリスク管理について学ぶことで、マネジメント及び経営管理に関連するマインドセットへの理解とその能力を発揮できるようになる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	金融市場・金融機関の概略	金融の基礎的知識を俯瞰する。金融に関する職業倫理について学ぶ。								
2	金融機関についてその1	銀行を中心に、カード会社、消費者金融など、主に貸出しを主業務とする機関について学習する。住宅ローンについて学ぶ。								
3	金融機関についてその2	証券会社、生命保険会社、損害保険会社、資産運用会社、プライベートバンク……を俯瞰する。								
4	リスク	様々なタイプのリスクに関して掘り下げて考える。ブラックスワンとは？								
5	債券	債券の仕組みと実務を学習する。国の財政、債券の価格形成、格付けなどについて学ぶ。								
6	株式 その1	株式市場の仕組みと株価について学習する。市場の形成、株式の上場など。								
7	株式 その2	企業の財務諸表などのデータから株価を類推してみる。株式アナリストの仕事を知る。								
8	株式 その3	各自選んだ企業の株式の株価について検討する。								
8	外国為替	外国為替の仕組みと実務を学習する。外国為替取引の特徴、リスクなどを学ぶ。								
10	デリバティブ	デリバティブの仕組みと実務の基本を学習する。オプションと先物の原理を知る。								
11	投資銀行業務	M&A や企業の資金調達についての仕組みと実務を学習する。								
12	資産運用	個人あるいは企業の資産運用はどのようにすべきか学ぶ。								
13	日本の金融	日本の金融市場・金融機関の独自性を学習する。								
14	世界の金融	欧米の金融市場・金融機関の特色を学習する。実際に欧米の大手金融機関で勤務した経験談も。								
15	まとめ	これから日本の金融そして経済はどうなっていくか。								

履修上の注意点
<p>金融についての予備知識・実務経験は要件としない。受講生の理解度や関心によって内容を調整していくので、知識の全くない人、逆に金融専門家も、どちらも臆せず受講していただければと思っている。一方通行の講義に終始するのではなく、双方向のコミュニケーションを重視したいので、授業では臆せず自分の意見を発言していただきたい。質問も随時受け付ける。講師は欧米の大手金融機関及び途上国の銀行の幹部職員・役員として長年実務経験を積んできた。その経験を活かしてグローバルな金融の世界で実際に起きていることや、そこから得られた知見を学生諸君に提供していく。また金融アナリストとして専門誌をはじめとして各所で積極的に発言している講師のデータ分析手法や金融全般についての考え方についても学ぶ場となる。</p>
準備学習 (予習・復習等) の内容
<p>特にテキストはない。金融に関する諸事情について日ごろからアンテナを張るようにしていれば、前向きに学習を進めていくことができるだろう。金融・経済について、断片的な知識の取得でなく、思考を深めていくことを目的としている。</p> <p>授業では講義以外に以下の課題を行なうことを予定している。予備知識が全くのゼロであることを前提として解説していく。</p> <p>小課題 (1) 株価が理論的・実際的にどのように決まるのかを学ぶ一環として、各自が会社を選び、その株価の変動等を追いかけていく。政治経済の環境の変化や会社の経営上の動きがある中で、株価がどう変動するかを見ていく。</p> <p>小課題 (2) 一定の金額を有しているという想定で、その運用のシミュレーションを試みる。</p> <p>最終レポート 具体的な内容については授業中に発表する。期末試験は行わず、最終レポートがその代わりとなる。</p>
教科書
なし。
参考書
特になし。金融関係の記事に目を通しておくとうまい。
課題に対するフィードバックの方法
小課題及び最終レポートの全体講評は毎回の授業中あるいは Oh-o! Meiji で適宜公開する。また個別のフィードバックも Oh-o! Meiji で行っていく。
成績評価の方法
<p>授業への貢献度・参加 30%</p> <p>小課題 30%</p> <p>最終レポート成績点 40%</p>
その他
なし。



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN671J	ケース・スタディ I (ファイナンス) －フィンテック－	2	1・2年	日本語	王 京穂					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○				○	○	○
授業の概要・到達目標										
スタートアップのためのファイナンスに関する科目である。										
【授業概要】										
スタートアップ企業の成功には、資金調達やファイナンスの諸問題を理解し、その解決の初歩的スキルを持つことが必須である。本科目は、「スタートアップのためのファイナンス」をケーススタディー形式で学習するもので、将来のビジネスリーダーや起業家が直面する資金調達等のファイナンスの課題に対処し、事業や企業を成功させるための基礎知識を学習する。										
・実践的スキルの習得										
スタートアップビジネスの成功には、ファイナンスに関する基本的な知識とスキルが重要である。授業において、事業計画、資金調達、経営戦略、財務計画などの現実の課題に対処するための実践的なスキルを学ぶ。										
・起業家精神の醸成										
新しい事業や企業を立ち上げ、成長させるためには、事業計画と資金調達・財務計画の能力だけではなく、野心的、挑戦的な姿勢も重要である。授業は、事例学習を通じて、自らのアイデアやプロジェクトを実現するための意欲と起業家精神を醸成する。										
・ビジネスコミュニケーションスキル										
事業計画や資金調達計画等の事例学習やディスカッションを通じて、客観かつ冷静でロジカルなビジネスコミュニケーションスキルを学ぶ。										
・金融テクノロジー										
ストックオプションや暗号資産による各種資金調達手法等の最新の金融テクノロジーの応用事例も紹介する。										
【到達目標 (Course ILO)】										
・スタートアップ企業のファイナンスの諸問題への理解力を形成する。										
・ビジネスコミュニケーションのスキルを養成する。										
・起業家精神の醸成をする。										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	イントロダクション	1) 授業の概要 2) 授業の目的 3) 自己紹介と問題意識								
2.	スタートアップ企業概観	1) スタートアップ企業 2) 企業の特徴による分類 3) ステージによる分類 4) 各ステージの特徴と経営課題								
3.	資金調達	1) スタートアップの資金調達 2) 企業類別の資金調達の課題 3) 各ステージにおける資金 4) 多様な投資家								
4.	エクイティストーリー	1) エクイティストーリーとは 2) 事業計画 3) 資金調達計画 4) 各シリーズ調達 5) 投資家の視点 6) エクイティストーリーの事例								
5.	企業価値の評価	1) 企業価値 2) 価値評価の手続き 3) 各種算定方法 4) 事業計画と資金調達計画 5) 割引現在価値モデル 6) 企業価値の評価の演習問題								
6.	チームディスカッション	“あなたの” 会社の価値を投資家に説明するためのエクイティストーリーを考えてください。								
7.	資本政策	1) 創業者のゴール 2) 投資家の出資目的 3) 創業者と出資者との関係 4) 出資者間の関係 5) 投資契約 (引受契約・株主間契約)								
8.	資本政策 (続き)	1) 議決権と経営の安定性 2) 種類株 3) 創業者議決権の確保 4) 事例紹介								
9.	CFO	1) CFO の日常 2) CFO の役割 3) 投資家との関係構築 4) 金融機関・監査法人とのコミュニケーション 5) 経営陣との連携								
10.	ストックオプションの活用	1) ストックオプション 2) ストックオプションを利用する投資 3) 転換社債 4) 役員・従業員へのインセンティブ付与 5) ストックオプション利用における注意事項 6) 事例紹介								
11.	出口	1) IPO 2) M&A 3) 非上場独立企業 4) 異なる投資家が意識する出口 5) IPO 事例紹介								

12.	暗号資産取引所	1) 暗号資産概要 2) 暗号資産取引所の役割と狙い 3) ICO・IDO・IEO 他 (暗号資産取引所への上場)
13.	スタートアップファイナンスにおける暗号資産の可能性	1) Web3 ファンド概要 2) ICO 等に適した企業・ビジネス 3) ICO 等利用のメリットとデメリット 4) 事例紹介 5) IPO と ICO 等の比較
14.	まとめ	1) まとめ 2) チームディスカッションの発表
履修上の注意点		
2022 年度までに「ケース・スタディ I (ファイナンス): フィンテックとリアルビジネス」の単位を修得した者は、「ケース・スタディ I (ファイナンス) - フィンテック」を履修することはできない。		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
事前に授業内容を予告し、各自で準備する。		
教科書		
特に指定しない。		
参考書		
特に指定しない。		
課題に対するフィードバックの方法		
・次回授業に解説と復習の時間を設けること ・ Oh-ol Meiji のディスカッションの利用 ・ Oh-ol Meiji のレポートのコメントの利用		
成績評価の方法		
ディスカッション・授業貢献 40%、最終レポート 60%		
その他		

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)ECN676E	CaN International 寄附講座 「Strategy for CFO and M&A Accounting」(M)	2	1st-2nd Year	English	大久保昭平 OKUBO Shohei 小田英毅 ODA Hideki					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○		○						
Course Summary and Objectives										
<p>Shareholders demand companies increase capital efficiency (eg. ROE) and corporate values more stringently than before. In such an environment, the roles of CFOs beyond traditional functions of finance and accounting are becoming increasingly important.</p> <p>This course will be conducted in basic English. Japanese students who are interested in international business and accounting &amp; taxation are also welcome.</p> <p><b>【Course Objectives (Course ILO)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Acquiring the minimum practical skills related to accounting and taxation as a CFO</li> <li>- Understanding how you would apply what you learn in the MBA courses to the real-life CFOs' tasks</li> </ul>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1	Introductions Roles of CFOs	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Orientation</li> <li>• Capabilities Required for CFOs</li> <li>• Country-by-Country Comparison</li> <li>• Careers as CFOs</li> </ul>								
2	CFOs' Basic Roles ①	Institutional and Financial Accounting <ul style="list-style-type: none"> <li>• Accounting System</li> <li>• Fundamentals of Financial Accounting</li> <li>• Various Financial Analyses</li> <li>• Annual Report</li> </ul>								
3	CFOs' Basic Roles ②	Management Accounting <ul style="list-style-type: none"> <li>• Roles of Management Accounting</li> <li>• Cost Accounting</li> <li>• Decision Making and Performance Evaluation</li> </ul>								
4	CFOs' Basic Roles ③	Financial Management <ul style="list-style-type: none"> <li>• Relationship between Accounting and Cash Flow</li> <li>• Business Plan Preparation</li> <li>• Fundraising Methods</li> <li>• Cash Management System</li> </ul>								
5	CFOs' Basic Roles ④	Corporate Governance <ul style="list-style-type: none"> <li>• Corporate Governance</li> <li>• Risk Management</li> <li>• Internal Control</li> </ul>								
6	Management Roles expected for CFOs (Guest speaker)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• (TBD) Guest speaker will lecture the roles of CFOs related to management and management support and will have discussions with students.</li> <li>• Subject to change</li> </ul>								
7	M & A ① M & A Strategies	<ul style="list-style-type: none"> <li>• M&amp;A Strategies</li> <li>• Synergy Analysis</li> <li>• Players in M&amp;A</li> </ul>								
8	M & A ② D u e Diligence	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Purpose and Effect of Dure Diligence</li> <li>• Overall Analysis</li> <li>• Balance Sheet Analysis</li> <li>• Profit and Loss Statement Analysis</li> <li>• Cash Flow Analysis</li> </ul>								
9	M&A ③ Valuation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Fundamentals of Valuation</li> <li>• Calculation of Equity Value</li> <li>• Income Approach</li> <li>• Market Approach</li> <li>• Net Asset Approach</li> <li>• Equity Value and Acquisition Price</li> </ul>								
10	M&A ④ Accounting	<ul style="list-style-type: none"> <li>• M&amp;A Schemes</li> <li>• Consolidated Accounting</li> <li>• Goodwill</li> </ul>								

11	M & A ⑤ C a s e Studies	• Case analysis
12	(TBD) CFOs and M & A (Guest speaker)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• (TBD) Guest speaker will lecture the roles of CFOs related to M&amp;A and will have discussions with students.</li> <li>• Subject to change</li> </ul>
13	CFOs and IPO, Initial Public Offering	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Overview of IPO</li> <li>• Securities Market</li> <li>• IPO Process</li> <li>• Capital Policy and Stock Price</li> <li>• Case Study</li> </ul>
14	Tax Planning by CFOs	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Basics of taxation</li> <li>• International taxation</li> <li>• Summary of the course</li> </ul>
15	(TBD) Assignment and Presentation or Guest speaker	• Presentation and Discussion
Prerequisites and registration requirements		
Accounting and finance knowledge preferable, but not mandatory.		
Preparation and Review		
Students will be instructed during the courses.		
Textbook(s)		
Materials will be provided by the instructor.		
Reference(s)		
The instructor will introduce reference materials during the courses.		
How to provide Feedback to assignments		
For the cases study within each class, explanations of the answers will be provided in the class. In addition, students will give their presentations on the final class, and feedback will be given to deepen students' understanding during the discussion on the presentations.		
Grading and Evaluation		
Class participation 30% Assignments 70%		
Other		
None		



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN571J	企業資金マネジメント	2	1・2年	日本語	サントスミゲル					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○			○			○
授業の概要・到達目標										
<p>本講義の到達目標（Course ILOs）は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スタートアップビジネス、ファミリービジネス、およびその他の企業の事業継続性に必読不可欠な資金管理の役割を理解し表示すること。</li> <li>財務データを使用し現金過不足の実態を評価し表示できること。</li> <li>市場状況、企業戦略と経営方針の分析に基づいて現金過不足を予測することができる。</li> <li>運転資金や事業継続性を確保できる戦略計画と財務計画を提案し実施することができる。</li> <li>運転資金マネジメントで生じるいくつかの倫理的なジレンマを認識・理解すること。</li> </ul> <p>理論と実践を結びつけるためにこの講義ではケースディスカッションを全般的に行う。</p> <p>これらの5つのILOを包含するこの講義の全体的な目的は、財務に携わらないマネージャーが運転資金マネジメントを理解し、それに使用される分析ツールを使う能力を確保することである。この講義が終了するまでに、そのマネージャーが財務機能をより良く理解し財務マネージャーとより良いコミュニケーションできるようになり、ラインマネージャー（マーケティング、調達、生産、販売、在庫など）としての意思決定がどのように企業の運転資金に影響を与えるのかを理解できるようになると期待する。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	講義の目的、学習方法、評価過程の紹介。事業持続性のための資金管理の重要性。資金管理で使用される基本的な概念と分析ツールの紹介・復習。								
2	運用効率と現金過不足の評価	ファミリービジネスとスタートアップビジネスにおける財務管理のいくつかの特殊性。財務諸表から測れる事業の運転効率と現金過不足。運転資本（WC）と運転資本要件（WCR）のマネジメント。WCRを管理する際に発生する倫理的な問題。必読：Piper、「カートライト・ランバー・カンパニー」、HBS、218-J20								
3										
4	現金過不足の予測	競争環境と企業戦略と方針に基づく現金過不足の予測。必読：Piper、「カートライト・ランバー・カンパニー」、HBS、218-J20								
5	季節性の強い売上高の下の資金管理	生産スケジュールと在庫管理の資金管理に及ぼす影響。売上高季節性の下でのWCRと資金管理。必読：Piper、「プライタイム・トイ・カンパニー」、HBS、218-J30								
6										
7	景気循環と資金管理	景気循環の下でのWCRと資金管理。必読：Kester、「シュアカート・シアース株式会社」、HBS、218-J35								
8	長期の生産サイクルの下での資金管理	長期の生産サイクルの資金管理。必読：Mullins、「ハンプトン・マシンツール・カンパニー」、HBS、218-J25。								
9										
10	高成長の下での資金管理	高成長の下での資金管理。必読：Ruback、「デルコンピューターの運転資本」、HBS、218-J13。								
11	剰余資金の運用	剰余資金の運用と使い道。必読：Froot、「インテル1992年」、HBS、9-214-J01								
12	資金管理と債務方針	債務方針の決定の基礎。債務方針と資金繰り。必読：Michell、「USTの債務方針」、HBS、9-212-J01。								
13										
14	レビュー	基本概念とその応用を復習する。								
15	期末試験	上記の内容に関する試験								
履修上の注意点										
<p>Excelの基礎知識を持つことが有用。</p> <p>2022年度までに「資金管理と事業持続性」の単位を修得した者は、「企業資金マネジメント」を履修することはできない。</p> <p>「企業資金マネジメント」と「Corporate Liquidity Management」は同一科目扱いのため、いずれかの履修しか認められない。</p>										

準備学習（予習・復習等）の内容
各授業の前にその週に指定されているケース（授業内容を参照）の準備が必要。それにはケースを読むだけでなく、授業の前に提示される「準備問題」に答える努力が必要。
教科書
この講義の履修には7つのケースの事前準備を必要とする。ケースは <a href="https://hbsp.harvard.edu/">https://hbsp.harvard.edu/</a> で購入できる。
参考書
学術論文などの参照は授業内で提案する。これらの論文は必読ではない。
課題に対するフィードバックの方法
<p>フィードバックの提供方法：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学習日記と試験は Oh-ol Meiji システムに。</li> <li>クラス活動の参加に関する質はクラスで口頭で。</li> </ol>
成績評価の方法
<p>履修評価は次の項目から構成される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>授業におけるディスカッションの質（週2-14；20%）</li> <li>学習日記（4週目、9週目、13週目以降に定められた期間内に提出；20%）</li> <li>グループ・レポート（20%）</li> <li>期末試験（週15；40%）</li> </ol> <p>この講義の5つのILOの達成は上記の4項目の到達度から評価する。学習日記の提出に関する指示は、最初の週に説明する。5名以上の学生がこのコースに登録された場合、最終試験は筆記試験になる。5名までの場合は、口述試験になる。</p>
その他

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)ECN571E	Corporate Liquidity Management	2	1st-2nd Year	English	サントス ミゲル SANTOS Miguel					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○			○			○
Course Summary and Objectives										
<p><b>【Course Objectives (Course ILO)】</b>  By the end of this course students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-Develop and show an understanding of the importance liquidity management for the sustainable continuity of corporations, start-ups and family businesses.</li> <li>-Develop and demonstrate the ability to analyze corporate financial data to assess the present business liquidity position of corporations, start-ups and family businesses.</li> <li>-Forecast business liquidity based on the market conditions, corporate strategy and management policies of corporations, start-ups and family businesses.</li> <li>-Acquire and display the ability to formulate and implement strategic and financial plans to ensure liquidity and business sustainability for corporations, start-ups and family businesses.</li> <li>-Show an understanding of some of the ethical dilemmas that may arise in short-term financial management.</li> </ul> <p>Encompassing these five ILOs, the overall objective of this course is to help non-financial managers develop an informed understanding of the basic issues surrounding corporate liquidity management and to help them develop their ability to employ the analytical tools most commonly used in cash-management and short-term financial planning. It is expected that by the end of this course non-financial managers will be able to understand and communicate better with financial managers and understand how their own decisions as line managers (in production, sales, procurement, inventory, etc.) will affect the liquidity position of their organizations.</p> <p>Case discussions will be used throughout this course to link the analytical frameworks of liquidity management to actual managerial practice.</p>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1	Introduction	Presentation of course objectives, learning methods and evaluation scheme. The importance of liquidity management for business sustainability. Introduction/review of some basic concepts and analytical tools used in corporate liquidity management.								
2-3	Assessing operational efficiency and liquidity	Some peculiarities of financial management in family businesses and in start-ups. Assessing operational efficiency and liquidity from financial statements: Introduction to financial analysis. The relation between Working Capital (WC) and Working Capital Requirements (WCR). Ethical issues arising in managing the WCRs. Required pre-reading: Piper, "Cartwright Lumber Company", Harvard Business School, 9-204-126								
4	Forecasting liquidity	Forecasting liquidity: the competitive environment and corporate strategy and policies. Sensitivity analysis. Required pre-reading: Piper, "Cartwright Lumber Company", Harvard Business School, 9-204-126								
5-6	Liquidity management under sales seasonality	Production schedules and inventory management: how they impact on the liquidity position of the firm. Managing WCR and liquidity under sales seasonality. Required pre-reading: Kester and Wang, "Polar Sports, Inc", Harvard Business School, 9-913-513								
7	Liquidity management and the business cycle	The impact of business cycles on WCR and WC. Managing WCR and liquidity under strong business cyclicity. Required pre-reading: Kester, "SureCut Shears, Inc.", Harvard Business School, 9-297-013								

8	Market power and liquidity management	The advantages of market power in liquidity management. Ethical issues in abusing market power to enhance the liquidity position. Required pre-reading: Sarabia and Rahnama, "Centros Comerciales Pryca, SA", IESE Business School, 0-294-019
9-10	Liquidity management under long production cycles	Managing the liquidity of a company in an industry with long-production cycles. Required pre-reading: Mullins, "Hampton Machine Tool Co.", Harvard Business School, 9-280-103.
11	Liquidity management in high growth businesses	Managing liquidity in companies in high growth businesses. Required pre-reading: Ruback, "Dell's Working Capital", Harvard Business School, 9-201029.
12-13	Bank loans and liquidity	Factors affecting a bank's decision to lend to business (corporations, start-ups and family businesses). Sensitivity analysis. Required pre-reading: Smith and Grasby, "Envy Rides Incorporated", Richard Ivey School of Business, 910N33.
14	Wrap-up and review	Wrap-up and overall review of the main concepts and their application in corporations, start-ups and family businesses.
15	Final Exam	Final Exam
Prerequisites and registration requirements		
To benefit fully from this course students should be familiar with Excel. "企業資金マネジメント" and "Corporate Liquidity Management" are the same course. Registering in either course will be admitted.		
Preparation and Review		
Students are expected to have prepared the assigned cases before each class (see Course Contents). This means reading the case and trying to answer the preparation questions (to be handed-out during the course) before coming to class.		
Textbook(s)		
<p>This course requires the pre-reading of seven cases (indicated in the Course Contents). The case for Week 8 (Centros Comerciales Pryca) may be acquired at: <a href="https://www.ielsepublishing.com/">https://www.ielsepublishing.com/</a>. All other cases may be acquired at: <a href="https://hbsp.harvard.edu/">https://hbsp.harvard.edu/</a>. A course pack at Harvard Business Publishing will be prepared for these cases.</p> <p>There is no required textbook. The recommended textbook is: James C. Van Horne and John M. Wachowicz, Fundamentals of Financial Management, 13th edition, Pearson, 2009, chapters 6 to 11.</p>		
Reference(s)		
References to academic and practitioner articles will be made in class. These articles are not required reading.		
How to provide Feedback to assignments		
<p>Feedback will be provided:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. On the Oh-o! Meiji system for the Learning Diary and Exam.</li> <li>2. Orally during or after class for quality of engagement in case discussion.</li> </ol>		
Grading and Evaluation		
<p>Grading and evaluation will include the following elements:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Quality of participation in case discussions (weeks 1-14; 20%)</li> <li>(2) Learning diary (to be submitted after weeks 4, 8, and 13; 20%)</li> <li>(3) Group report (20%)</li> <li>(4) Final exam (week 15; 60%)</li> </ol> <p>Achievement of the five ILOs of this course will be evaluated through the above four elements. Detailed information on the elaboration and submission of the learning diary will be given during the first week. The final exam will be a written examination if six or more students register for this course; otherwise, it will be conducted as an oral exam.</p>		
Other		

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)MAN551E	Corporate Value Management	2	1st-2nd Year	English	サントス ミゲル SANTOS Miguel					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○			○			○
Course Summary and Objectives										
<p><b>【Course Objectives (Course ILO)】</b>  By the end of this course you should be able to:  - Acquire and demonstrate a solid understanding of what imparts value to an asset and how the value of any asset can be estimated.  - Apply standard valuation models, including DCF, APV, and real options, in various business contexts.  - Analyze and navigate the decision-making structures and processes of corporations, start-ups, and family businesses through which investment decisions are made, implemented, and reviewed.  - Propose improvements to the organizational decision-making structures and processes of corporations, start-ups, and family businesses to ensure and enhance value creation.  - Demonstrate an understanding of ethical issues that may arise in the investment decision-making process.</p> <p>Comprising these five Intended Learning Outcomes, the primary goal of this course is to assist non-financial managers in cultivating an understanding of fundamental aspects related to corporate value creation and management. The course aims to enhance their proficiency in utilizing the analytical tools commonly employed in capital budgeting. By the course's conclusion, it is anticipated that non-financial managers will not only comprehend and communicate more effectively with financial counterparts but also grasp how their decisions as line managers—whether in production, sales and marketing, procurement, inventory management, etc.—directly influence the overall value of their business.</p> <p>Case discussions will be used throughout this course to link the analytical frameworks of value theory to actual managerial practice.</p>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1	Introduction	Presentation of course objectives, learning methods and evaluation scheme. What is value? How should it be measured? How can it be increased?								
2	Corporate strategy and value creation	Strategy as a pursuit of value. Profit, cash flow and enterprise value (EV). Implementing performance analysis. Strategy and real options. Value, values and corporate social responsibility (CSR).								
3	Appraising value creation	Overview of the main methodologies employed in value appraisal: multiples, DCF, APV, and real options.								
4	Comparing cash-flows	Net Present Value analysis. Evaluating projects with different lifespans. Required pre-reading: Samuel G. Hanson, Joel Heilprin, Charles Anderson, <i>Lighting the Way at the Manor House Hotel</i> , Harvard Business School, 9-214-006, 2015.								
5-6	Managing value in a product introduction	The launching of a new product: value for whom? Diverse stakeholders' interests. The choice of the proper valuation method for a new project. Assessing and modelling future cash flows: spotting sunk costs, opportunity costs, costs of using shared assets, cannibalization, overheads, working capital requirements, residual and terminal values, taxes and inflation. Real and nominal cash-flows. Using the NPV and the IRR. Required pre-reading: Timothy A. Luehrman, <i>Stryker Corporation: In-sourcing PCBs</i> , Harvard Business School, 9-207-121, 2009.								

7	Managing value in a corporate acquisition	Corporate valuation through DCF and market multiples analysis. Revenue forecasting, and margin improvement. EPS analysis. Valuation with Weighted Average Cost of Capital. Stock offers. Bidding contest. Required pre-reading: Thomas R. Piper, Heide Abelli, <i>Monmouth, Inc.</i> , Harvard Business School, 4226, 2010.
8	Corporate value and debt	How debt impacts on the value of a firm: the case of a SME. Required pre-reading: Mihir A. Desai and Elizabeth A. Meyer, <i>The Valuation and Financing of Lady M Confections</i> , Harvard Business School, 9-215-047, 2015.
9-10	Managing the corporate cost of capital	The estimation of the corporate cost of capital. The WACC: what it means and what it doesn't mean. The estimation of the divisional cost of capital. Required pre-reading: Timothy Luehrman and Joel Hailprin, <i>Midland Energy Resources, Inc.: Cost of Capital</i> , Harvard Business Publishing, 4129, 2009
11	APV	The APV methodology. The impact of debt on enterprise value. Required pre-reading: Gregor Andrade, <i>Sampa Video, Inc.</i> , Harvard Business School, 9-201-094, 2003.
12-13	Valuation of managerial flexibility	What option pricing models tell us about value. The real options valuation framework. The value of flexibility in managing corporate investments. Valuating and managing a FDI using the real options framework. Required pre-reading: Li and Li, <i>Dragon Beer</i> , Darden Business Publishing, UVA-F-1382, 2002.
14	Review and wrap-up	Wrap-up and overall review of the main concepts and their application in corporations and family businesses.
15	Final exam	Final Exam
Prerequisites and registration requirements		
To benefit fully from this course students should have some familiarity with Excel. “企業価値マネジメント” and “Corporate Value Management” are the same course. Registering either course will be admitted.		
Preparation and Review		
Students are expected to have prepared the assigned cases before each class (see Course Contents). This means reading the case and trying to answer the preparation questions (to be handed-out during the course) before coming to class.		
Textbook(s)		
This course requires the pre-reading of seven cases (indicated in the Course Contents). Cases may be acquired at: <a href="https://hbsp.harvard.edu/">https://hbsp.harvard.edu/</a> . A course pack at Harvard Business Publishing will be prepared. There is no required textbook. The recommended textbook is: James C. Van Horne and John M. Wachowicz, <i>Fundamentals of Financial Management</i> , 13th edition, Pearson, 2009, chapters 3 to 5 and 12 to 18.		
Reference(s)		
References to academic and practitioner articles will be made in class. They are not required reading.		
How to provide Feedback to assignments		
Feedback will be provided: 1. on the Oh-o! Meiji system for the Learning Diary and Exam. 2. Orally in class for quality of engagement during case discussion.		
Grading and Evaluation		
Grading and evaluation will include the following elements: (1) Quality of participation in case discussions (weeks 1-14; 20%) (2) Learning diary (weeks 4, 8, 13; 20%) (3) Group report (20%) (4) Final exam (week 15; 40%) Achievement of the five ILOs of this course will be evaluated through the above four elements. Detailed information on the elaboration and submission of the learning diary will be given during the first week. The final exam will be a written exam if 5 or more students register for this course. Otherwise, it will an oral exam.		
Other		

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN551J	企業価値マネジメント	2	1・2年	日本語	サントスミゲル					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○			○			○
授業の概要・到達目標										
<p>本講義の到達目標（Course ILOs）は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資産価値の源を理解し資産価値をどのように評価できるのかを理解し表示すること。</li> <li>DCF、APV、リアルオプションなどさまざまな価値評価モデルを異なったビジネスコンテキストで適用できること。</li> <li>スタートアップビジネス、ファミリービジネス、その他の企業が投資意思決定を行い、実施、レビューする過程におけるマネジメントの組織構造とその意思決定プロセスを分析し運営することができる。</li> <li>スタートアップビジネス、ファミリービジネス、およびその他の企業が企業価値の創造を確保するために組織構造とその意思決定プロセスの改善を提案し実施することができる。</li> <li>投資意思決定や企業価値の創造で生じるいくつかの倫理的なジレンマを認識・理解すること。</li> </ul> <p>理論と実践を結びつけるためにこの講義ではケースディスカッションを全般的に行う。</p> <p>これらの5つのILOを包含するこの講義の全体的な目的は、財務に携わらないマネージャーが企業価値の創造とそのマネジメントや管理を理解し、資本予算の運営で使用される分析ツールを使う能力を確保することである。この講義が終了するまでに、そのマネージャーが財務機能をより良く理解し財務マネージャーとより良くコミュニケーションできるようになり、ラインマネージャー（マーケティング、調達、生産、販売、在庫など）としての意思決定がどのように企業価値に影響を与えるのかを理解できるようになると期待する。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	講義の目的、学習方法、評価過程の紹介。価値とは？それはどのように評価できるのか？価値評価モデルの基礎概念。								
2	企業戦略と価値創造	価値の追求としての戦略。利益、キャッシュフロー、および企業価値（EV）。実施されるパフォーマンス分析。戦略とリアルオプション。価値、価値観、および企業の社会的責任（CSR）に関する事項。								
3	価値評価モデルの基礎概念。	価値評価で使用される主な方法の概要：マルチプル、DCF、APV、リアルオプション。								
4	キャッシュフロー価値比較	将来キャッシュフローの推計とキャッシュフローの価値の比較。必読：Hanson, Heilprin, Andersen, 「マナー・ハウス・ホテルの行く先を照らす」、Harvard Business Publishing, 220-J07.								
5-6	垂直統合の価値評価と価値マネジメント	増分キャッシュフローの推計。垂直統合適切な評価方法の選択。垂直統合の価値マネジメント。いろいろなアプローチによるの企業価値評価。市場倍率とDCF。必読：Luehrman, 「ストライカー・コーポレーション：プリント基板の内部委託」、Harvard Business School, 218-J23, 2009.								
7	企業買収における価値管理	DCF法および市場倍率分析による企業の評価。収益予測とマージン改善。EPS分析。加重平均資本コストによる評価。株式公開。入札競争。必読：Thomas R. Piper, Heide Abelli, 「モンマス社」、Harvard Business School, 9-419-J29, 2010.								
8	価値評価と融資	拡大を検討するとき、および外部投資家に株式を売却するとき、中小企業が行わなければならない意思決定プロセス分析する。必読：Desai, Meyer, 「レディー・エムへの査定と融資」、Harvard Business School, 220-J09								

9-10	資本コストのマネジメント	資本構成と資本コストの実践。WACC。企業の資本コストの推計。必読：Luehrman, Hailprin, 「ミッドランド・エネルギー・リソース社：資本コスト」、Harvard Business School, 9-419-J28, 2009.
11	APVの実践	レバレッジと企業価値マネジメント。APVとWACCによる価値評価。必読：Andrade, 「サンパビデオ社」、Harvard Business School, 218-J14.
12-13	投資運営の柔軟性の価値（I）	オプション価格モデルから得られる資産価値に関する洞察。リアルオプション価格モデル。リアルオプションによる新投資プロジェクトの価値評価とマネジメント。必読：Teichner, 「アルンデル・パートナース：続編映画プロジェクト」、Harvard Business School, 9-207-J05
14	レビュー	基本概念とその応用を復習する。
15	期末試験	上記の内容に関する試験
履修上の注意点		
Excelの基礎知識を持つことが有用。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
各授業の前にその週に指定されているケース（授業内容を参照）の準備が必要。それにはケースを読むだけでなく、授業の前に提示される「準備問題」に答える努力が必要。		
教科書		
この講義の履修には7つのケースの事前準備を必要とする。ケースは <a href="https://hbsp.harvard.edu/">https://hbsp.harvard.edu/</a> で購入できる。		
参考書		
学術論文などの参照は授業内で提案する。これらの論文は必読ではない。		
課題に対するフィードバックの方法		
フィードバックの提供方法： 1. 学習日記と試験は Oh-ol Meiji システムに。 2. クラス活動の参加に関する質はクラスで口頭で。		
成績評価の方法		
履修評価は次の項目から構成される。 ①授業におけるディスカッションの質（週2-13；20%） ②学習日記（週4、8、13；20%） ③グループ・レポート（20%） ④期末試験（40%） この講義の5つのILOの達成は上記の4項目の到達度から評価する。学習日記の提出に関する指示は、最初の週に説明する。5名以上の学生がこのコースに登録された場合、最終試験は筆記試験になる。4名以下の場合、口述試験になる。		
その他		

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN671J	不動産ファイナンス論	2	1・2年	日本語	山村能郎					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○	○					
授業の概要・到達目標										
<p>本講義では、不動産市場の構造の概念的な理解と初歩的な金利計算から始まり、不動産の価値評価法、不動産投資における資金調達とリスクの関係、不動産事業の事業リスク計測、不動産の証券化市場の概要について理解することを目的とする。</p> <p>具体的には、居住用不動産を対象としたモーゲージを中心に金利の決定要因と期限前償還リスクなど不動産ファイナンスに伴うリスク、固定金利ローンと変動金利ローンそれぞれにおける金利とリスクの関係、ローンの市場価値について講義する。また、不動産投資のリスクとリターンについてポートフォリオ理論により理解を深める。不動産事業のリスク計測の考え方を事例を通して学習する。さらに、不動産の証券化ではREIT (Real Estate Investment Trust) などの証券化商品、日本の証券化の仕組みについて解説する。不動産ローン証券 (Mortgage Backed Securities) になど不動産市場の証券化の方法についても講義する。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不動産市場の基礎的モデルから賃貸市場と所有権市場の関係を理解し、不動産価格の決定と要因および人口変動、経済環境変化が市場に与える影響について理解する。</li> <li>2. 不動産ローンにおける金利構造とローン価値、リスクの関係について考察し、資本コストの視点からローンの市場価値・リスクなど不動産ファイナンスについての基礎的な評価法を自ら実装できる能力を身につける。</li> <li>3. ポートフォリオ理論を中心に不動産投資に関連するリスク・リターンの構造およびリスクの計測方法について数値的に評価する能力を身につける。</li> <li>4. 不動産証券化の概要・仕組み・市場について学習する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	不動産市場の構造 (1)	不動産の所有権市場、賃貸市場、不動産投資との関連について資本コストアプローチによって整理する。								
2	不動産市場の構造 (2)	不動産所有権市場、賃貸市場、建設市場の循環について静学的に考察する。								
3	不動産の価値評価	DCF 法等の投資価値評価法について概説する。								
4	不動産のファイナンス (1)	居住用不動産を念頭にファイナンスの方法と不動産投資の資金調達方法について解説する。								
5	不動産のファイナンス (2)	ローンタイプの選択 (固定金利と変動金利)、住宅ローン額の決定、ローンとリスク (期限前償還など) について解説する。								
6	不動産のファイナンス (3)	ファイナンスコストとモーゲージ選択								
7	投資のリターンとリスク (1)	不動産投資におけるリスクの分類								
8	投資のリターンとリスク (2)	ポートフォリオ理論とCAPM: Capital Asset Pricing Model) によるリスク計量化								
9	事業リスクーリスクの捉え方と計測 (1)	不動産企業のリスクの考え方								
10	事業リスクーリスクの捉え方と計測 (2)	不動産事業のリスク計測例								
11	リアルオプションによる不動産価値評価ー不確実性から生じる価値 (1)	リアルオプション法の考え方								
12	リアルオプションによる不動産価値評価ー不確実性から生じる価値 (2)	リアルオプション法を活用した不動産価値評価例								
13	不動産の証券化 (1)	証券化のタイプと仕組みについて解説する。								

14	不動産の証券化 (2)	REIT の基本的な仕組みとその目的について解説するとともに、REIT マーケットについて解説する。
15	まとめ	
履修上の注意点		
下記の参考図書をもとに各自で講義内容を自習することを強く勧める。		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
講義前に講義資料を配付するので、必ず講義までに内容を把握することが求められる。		
教科書		
本講義では特に教科書を指定しない。適宜、講義用資料を配布し、それに基づき講義を進める。また、下記参考図書などを参考資料として使用する場合がある。		
参考書		
W.B. Brueggeman and J.D. Fisher, Real Estate Finance and Investment, McGraw-Hill/Irwin. D. Geltner and N.G. Miller, Commercial Real Estate Analysis and Investment, South-Western. G.R. Brown and G.A. Matysiak, Real Estate Investment: A Capital Markets Approach, Time-Prentice Hall		
課題に対するフィードバックの方法		
レポート課題の解答例を Oh-ol Meiji に掲載		
成績評価の方法		
(1) 授業態度、発言などの貢献度 (20%) (2) 中間・期末レポート (80%)		
その他		
ファイナンス基礎論の既習が望ましい。不動産投資における資金調達方法と不動産の証券化市場を解説しているため、並行して関連するファイナンス・リアルエステート領域の授業科目を履修することを推奨する。		



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ARC641J	不動産開発論	2	1・2年	日本語	信田直昭					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○	○	○						
授業の概要・到達目標										
<p>【到達目標 (Course ILO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乱高下基調が常態化した不動産市場において効果的・機動的な事業戦略を立案・実行することができる。</li> <li>・大衆迎動的・時代錯誤的なビジネスモデルに対する批判的かつ冷静な分析を基礎として、自己の事業計画を最適化することができる。</li> </ul> <p>不動産開発、とりわけ東京ミッドタウンや六本木ヒルズ等に代表される大規模な都市開発事業は、豊かな国土形成の一翼を担う戦略拠点ですが、それらを単につくり続けるだけでは、身近な地域社会ですら豊かなものにすることはできません。また、そのような大規模プロジェクトの実現には、国土形成の上位計画との整合性をもとより、資金調達、用地取得、開発企画、近隣調整、設計・建設、経営管理・運営に至る多様なプロセスを経るため、膨大な時間と労力が必要となります。本講義では、不動産開発の実現プロセスを学ぶとともに、投資マネーで直結され世界同時多発的な乱高下要因を内在するグローバル経済下における不動産開発の将来展望を考えていきます。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1 2	国土形成における上位計画と都市開発プロジェクトの役割～その有効性と限界・課題～	今回の一連の講義を始めるにあたり、豊かな国土形成に対する不動産開発とりわけ都市開発プロジェクトの役割・効用とその限界・課題を確認します。								
3 4	都市開発プロジェクトの実現プロセスと時代変化への対応	都市開発プロジェクトの実現プロセスは極めて多様で重層的であるため膨大な時間と労力が必要となります。また一旦竣工しても、社会経済環境等の変化に応じて常にダイナミックに変容していくことが求められます。本講義では、都市開発プロジェクトの実現・運用のダイナミズムに関して、六本木ヒルズ・アークヒルズを事例としてみていきます。								
5	不動産会社・ディベロッパーの業態フレーム (公的組織、民間企業)	不動産業界は、参入障壁が比較的低いため企業数は約32万社にも及びますが、大規模な都市開発プロジェクトを主導できる企業は極一部に限られます。本講義では、「開発」、「流通」、「賃貸」、「管理」等の多様な業態で都市開発プロジェクトの実現を支える不動産業界の全体像を概観します。								
6 7	都市開発プロジェクト事例研究 (開発の経緯・コンセプト・手法・波及効果)	都市開発プロジェクトは「敷地共同化の程度」と「開発用途の複合度合い」に応じて4つのカテゴリーに分類することができます。本講義では、東京を中心とした主要な大規模都市開発プロジェクト約26事例を取り上げ、その実態、存在意義、今後の課題等について考えます。								
8 9	グローバル経済下における都市開発プロジェクトを巡る環境変化と諸問題	投資マネーで直結されたグローバル経済下における自国の実体経済は、世界各国の様々な状況変化により極めて大きな影響を受けてゆきます。そのため、このような変動しやすい環境下では、膨大な時間と労力が必要となる都市開発プロジェクトの実現難易度は大きく高まっています。本講義では、今後の国土形成に不可欠な都市開発プロジェクトを、誰がどのようにして担っていくのかに関して総合的視点から考えます。								

10 11	不動産の証券化・ファンドビジネスの現状・課題・将来展望	バブル経済崩壊に伴う一連の金融制度改革を背景として、日本の不動産証券化が幕を開けました。しかし日本の不動産が金融商品化されグローバルマネーの投資対象になったことは、不動産価格の形成要因・サイクルに大きな変化を生じさせ、その影響は、日本経済の「潤滑油」であった不動産担保価値に対する認識にも抜本的な見直しを迫っています。本講義では、このような環境激変に伴う「日本不動産の将来展望」に関して、素朴な疑問・視点から根本的に議論してみたいと思います。
12	不動産マネジメントビジネスの現状・課題・将来展望	豊かな国土形成の一翼を担う都市開発プロジェクトは、不動産投資としての安定したキャッシュフローが存在して始めてその役割を果たすことができます。そのキャッシュフローの安定・極大化を、賃貸管理、ビル管理、修繕改修工事等の経営管理業務をつうじて実現していくのが不動産マネジメントビジネスです。本講義では、竣工後の都市開発事業がその役割を果たすための原動力である不動産マネジメントビジネスを概観します。
13	不動産再生・リノベーションビジネスの現状・課題・将来展望	戦後60年間で、日本の住宅政策は量的充足を達成し「質」の時代に突入しています。成熟経済下の住宅政策は、従来のスクラップ&ビルド型からリノベーション型に移行していきまますが、1980年に制定された新耐震基準を満たす建築物の多くが阪神大震災に遭遇しても大きな被害を免れた事実は、地震国・日本における不動産再生・リノベーションビジネスの可能性を飛躍的に高めたといえるでしょう。本講義では、日本で漸く始まったばかりの不動産再生・リノベーションビジネスの最前線を概観します。
14 15	グループ討論「50年後の日本」と都市開発・不動産業界はどのような変貌を遂げているか？	豊かな国土形成の一翼を担う都市開発・不動産事業は、産業経済・社会の「受け皿 (リアル・プラットフォーム)」です。そのため、日本の都市開発・不動産業界は、今後の日本がどのような「型」を目指すのかによって大きな影響を受けていきます。一連の講義を締め括るにあたり、50年後の日本と都市開発・不動産業界の姿を、2回連続の討論形式で炙りだしてみたいと思います。
履修上の注意点		
レポート課題は、「50年後の日本が現状の停滞から抜け出し大きく飛躍するためには、不動産・ディベロッパー業界は今から何をすべきなのか？」です。この課題を念頭に置き毎回の授業に参加してください。		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
授業の際に指示する。		
教科書		
なし (授業内容に沿った資料を毎回提示します)		
参考書		
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「新しい時代のビルマネジメント/PART2 (2002.7)」 (日本ビルディング協会連合会ほか)</li> <li>■ 不動産投資ゲーム (ウィリアム・ボルプー/ジェフリー・クルクシャンク/社団法人不動産証券化協会 日経BP社)</li> <li>■ 「ヒルズ 挑戦する都市」 (森稔 朝日新聞出版)</li> <li>■ 「キャッシュフロー時代のビル経営/プロパティマネジメントの実務と証券化不動産の利回り向上策」 (信田直昭 住宅新報社)</li> <li>■ 「オンリーワン時代の不動産マネジメントビジネス～デフレ克服のキャッシュフロー管理～」 (信田直昭/不動産マネジメントビジネス研究会 住宅新報社)</li> <li>■ 「不動産経営管理業務 出納・会計項目一覧及び解説 (2004.9)」 (日本ビルディング協会連合会ほか)</li> </ul>		
課題に対するフィードバックの方法		
課題受領・査読後、必要に応じて適宜フィードバック致します。		
成績評価の方法		
授業への貢献度、受講態度、質疑応答の内容：50%		
レポート：50% (課題設定の水準、論理展開の水準、結論と課題の明記)		
◆想定課題：50年後の日本が現状の停滞から抜け出し大きく飛躍するためには、不動産・ディベロッパー業界は今から何をすべきなのか？		
その他		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ARC641J	都市計画論	2	1・2年	日本語	山村能郎					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○	○					
授業の概要・到達目標										
<p>都市計画制度および地域計画制度は不動産市場・不動産価格に多大な影響を及ぼしている。都市計画は形態規制等を通して土地・不動産の利用を社会的に望ましい方向にコントロールしているが、その根拠は不動産という財が相互に空間的な影響を及ぼしあう「外部性」に起因している。本講義では、都市計画の各制度を解説するとともに、広く実施されている具体的な政策・計画と不動産価値との関係について議論する。また、家計や企業の価値観、行動が大きく変化の中でより都市計画制度も社会経済の変化を受けて常に変化している。まちづくりの新しい潮流についても解説する。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 都市計画の背景と都市計画制度の概略について理解する。</li> <li>2. マスタープランと各公園緑地計画、土地利用計画等の計画制度の基礎を理解する。</li> <li>3. 市街地開発事業、地区計画の事例等を通して実際の都市開発を学ぶと共に評価できる能力を身につける。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	都市計画制度の背景	都市の発達と計画制度								
2	都市問題	景観問題、住環境問題など計画制度関連する課題について概観する								
3	都市計画制度 (1)	としづくり・まちづくりの基本理念とマスタープランについて解説する								
4	都市計画制度 (2)	マスタープランをもとに立案される土地利用計画、交通計画について解説する								
5	都市計画制度 (3)	公園・緑地計画、景観計画などについて解説する								
6	都市計画制度 (4)	土地利用規制 (用途規制と形態規制) と不動産価格								
7	都市計画と市場経済	外部不経済と規制について論じるとともに都市計画制度の必要性について経済学的な論点から解説する								
8	土地区画整理事業	土地区画整理事業のプロセスとその効果								
9	市街地再開発事業 (1)	市街地再開発事業の概要と事例について解説								
10	市街地再開発事業 (2)	市街地開発事業の効果								
11	地区計画	より詳細な規制が可能な地区計画制度について解説する								
12	都市開発と開発利益の還元	都市開発と不動産価格、開発利益の還元論について解説する								
13	都市構造の集約化	立地適正化計画と都市構造のコンパクト化								
14	都市計画の新潮流	Maas、スマートシティなどの新しい都市政策について解説								
15	まとめ									
履修上の注意点										
特になし。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
配付資料をもとに事前学習すること。										
教科書										
特に指定しない。適宜、資料等を配布しながら講義を進める。										
参考書										
講義中に適宜紹介する。										
課題に対するフィードバックの方法										
レポート課題については授業時間内に相互フィードバックを実施予定										
成績評価の方法										
授業態度、授業中の発言などの貢献度等 (20%) とレポート (70%) によって評価する。										

その他
-----



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM691J	不動産実務・税制 (ファミリービジネス)	2	1・2年	日本語	村木信爾					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○	○				
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>少子高齢化、グローバル化、ICT、AIの発達等、社会・経済環境が急激に変化する中、大企業、中小企業を問わず企業の本業のあり方が問われているが、企業が保有する不動産を、本業を補完するために有効活用したり、事業承継を円滑に進める際の手段として活用したりすることが大きな課題になっている。</p> <p>本講義では、不動産実務に関する基本的事項（不動産関連法、不動産調査、鑑定評価、不動産事業、管理等）および不動産に関する税制（取得時、保有時、売却時）を総合的に取り上げるとともに、ファミリービジネス（同族経営が行われている中小企業）における不動産活用に焦点を当て、事業承継や相続における税と不動産の問題につき具体的に検討する。</p> <p>節税のためのアパート経営の問題点、老朽化したアパートの取り壊し時期、借地権、底地、共有不動産、使用貸借の問題点等の検討や、実際にアパート経営の簡単なシミュレーションを行う。</p> <p>不動産の基本的知識を持たない受講者にもわかりやすい講義を心掛けたい。</p> <p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <p>身近な資産である不動産に関する基礎力を身に着けるために</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 不動産について、物的観点、法的観点、経済的観点から、評価の基礎を理解することができる。</li> <li>2) 不動産の各実務における留意点を身に着けることができる。</li> <li>3) 不動産に関する税務についての基本的規定、考え方の基礎を、一括で身に着けることができる。</li> <li>4) 中小企業、ファミリービジネスにおける不動産活用について、経営戦略や事業承継の観点で考えることができる。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	不動産とファミリービジネス概説	不動産の基礎、不動産の有効活用（企業の不動産戦略、事業承継、有効活用等）との関係、ファミリービジネスとはについて概説								
2.	不動産関連法（1）	不動産に関する法令の基礎、民法、借地借家法、および土地利用、建築行為などの公的制限等								
3.	不動産関連法（2）	同上								
4.	不動産関連法（3）	同上								
5.	不動産調査（デューデリジェンス）	役所調査、法務局における権利調査、現地調査、および不動産マーケットの見方の基礎。土壌汚染問題等不動産取引におけるトラブル防止策のための留意点など。								
6.	不動産の価値評価（1）	不動産鑑定評価、不動産鑑定評価の基礎評価の3手法の基礎、主に相続税路線価による評価について								
7.	不動産の価値評価（2）	ホテル、商業施設、ヘルスケア施設等事業用不動産の価値の理解と評価。継続賃料の問題点や事業価値評価との違い等。								
8.	不動産管理	プロパティマネジメント、ファシリティマネジメントの基礎、不動産管理会社の活用等								
9.	不動産に関する税（1）	不動産に関する税、購入、売却時の税（居住用資産譲渡の特例等）、保有時の税（固定資産税等）								
10.	不動産に関する税（2）	借地権・底地に関する理解およびこれに関する税、等価交換時の税等								
11.	不動産に関する税（3）	相続時の税と不動産、中小企業の事業承継と税（事業承継時における税務と不動産コンサルティング）								
12.	不動産に関する ESG	現代では企業継続に必須の ESG の観点での不動産投資や利用について								
13.	不動産有効活用、不動産投資（課題）	貸家経営一般、老朽化貸家、借地権付建物、底地、使用貸借、共有不動産などの課題								
14.	不動産有効活用（ケーススタディ）	アパート経営と相続税等 事業手法（普通借地・借家契約か定期借地・借家契約か等）								

15.	CRE 戦略、プロフェッショナルサービスなど	中小企業にとっての CRE（企業不動産）戦略、不動産、税務のプロフェッショナルサービス論、ESG、SDGs、不動産テック、街づくりなど
履修上の注意点		
<p>不動産に関して、不動産の専門家のみならず、初学者でも基礎知識が得られるように配慮する。特に前提とする知識は要求しない。</p> <p>私法、公法的規制一般、不動産実務を幅広く、かつ不動産に係る税務を一通り概観する</p>		
準備学習（予習・復習等）の内容		
基本書の該当部分の予習、その他適宜授業で指示する。		
教科書		
<p>通常は、特に指定せず随時プリント等を配布する。</p> <p>「不動産の評価 権利調整と税務」鶴野和夫（清文社）          不動産・税務の専門家を目指す人は購入推奨。          テーマに応じて適宜授業にて紹介する。</p>		
参考書		
『不動産の評価 権利調整と税務』鶴野和夫他著（清文社）、 『不動産プロフェッショナル・サービスの理論と実践』村木信爾著（清文社）		
課題に対するフィードバックの方法		
中間、期末レポート採点后、メールにてフィードバックする。		
成績評価の方法		
(1) クラスへの貢献度 (30%) (2) 中間・期末レポート等 (70%)		
その他		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN642J	不動産市場分析	2	1・2年	日本語	山村能郎					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○		○	○					
授業の概要・到達目標										
<p>不動産市場を都市・地域全体の経済学的な観点から解説する。地域で集計化された不動産市場の指標を利用して、住宅市場あるいはオフィス市場における経済成長と不動産市場の循環、家計・企業といった経済主体と不動産との関係、住宅やオフィスの需要予測についてのモデル分析・方法を解説する。また、政府など公的主体の市場への影響を規制、公共投資といった観点から解説する。不動産市場の構造を理論的に理解できることを目指す。</p> <p>Course ILOs:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 不動産市場における企業、家計の立地行動について理解し、不動産価格の決定要因について学習する。</li> <li>2. 不動産市場と景気循環について学習し、市場予想法を実装できるようにする。</li> <li>3. 規制が不動産市場に与える影響について学習し、税制変更、インフラ整備が与える市場への影響について評価できる能力を身につける。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	マクロ的視点からみた不動産市場 (1)	個別の不動産ではなく集計化された不動産市場を概観する。								
2	マクロ的視点からみた不動産市場 (2)	社会経済変動が不動産市場に与える影響について考察する。								
3	住宅立地 (1)	家計の立地行動と不動産価格との関係について学習する。								
4	住宅立地 (2)	人口密度と住宅立地と不動産価格との関係について学習する。								
5	企業立地と不動産価格	様々な企業の立地活動とその結果としての不動産価格との関係について解説する。								
6	不動産市場とマクロ経済	マクロ的な経済変動と不動産市場関係について解説する。								
7	不動産市場と金融制度	不動産市場と不動産金融の制度との関連について考察する。								
8	住宅市場	住宅市場の特性と傾向について理解する。								
9	住宅市場と景気変動 (1)	住宅市場の循環メカニズムを説明するモデルを解説する。								
10	住宅市場と景気変動 (2)	具体的な市場循環モデルをシミュレーションを通して、市場参加者の期待形成と市場の循環が連動していることを確認する。								
11	非居住用不動産市場	オフィス、物流施設・工業施設のマーケット特性と傾向について説明する。								
12	非居住用不動産市場と景気循環	非居住用不動産市場の循環メカニズムを説明するモデルを解説する。								
13	政府・自治体と不動産市場	自治体などの公的部門が公共支出・規制によって直接・間接に不動産市場に与える影響について考える。								
14	開発規制と外部性	不動産の価格は近隣の不動産と相互に影響を与えているが、その外部性と自治体あるいは住民間で制定される開発規制と不動産価格との関係について解説する。								
15	まとめ									
履修上の注意点										
講義資料は事前配布を行うので、事前に学習した上で出席すること。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
担当パートの資料を事前作成すること。また、担当者以外も授業時まで各回の内容を事前学習し議論に参加すること。										
教科書										
レジメ資料を配布しそれに基づいて議論する。										
参考書										
黒田達夫・瀬古美喜、「都市と不動産の経済学」、創文社 (Denise DiPasquale, William C. Wheaton)										

課題に対するフィードバックの方法
授業時間内に各担当パートのプレゼンテーションを実施
成績評価の方法
授業態度、発言など授業への貢献度等 (20%) とレポート (80%)
その他

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	企業不動産(CRE)戦略・サービス論	2	1・2年	日本語	村木信爾					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○		○		○			
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>CRE（企業不動産）マネジメント（CRE 戦略）とは、「企業の事業継続に用いる事業用不動産を、全社的経営戦略に沿って総合的、戦略的に再構築することによって、不動産の潜在価値を引き出し、企業価値の増大の実現を図るための戦略」である。</p> <p>言い換えれば、企業の事業に供されるすべての不動産や投資用不動産について、</p> <p>〈1〉全社的経営戦略、財務戦略、マーケティング戦略、近年では ESG の視点等、との整合性を考え、</p> <p>〈2〉その戦略に適合するように売買、有効利用、ファイナンスなどの不動産ソリューションを実行し、</p> <p>〈3〉実際に利用・保有する不動産の管理、利用の合理性、効率性を高めること（ファシリティマネジメント）のことである。</p> <p>これらの各段階と共にこれらを支える基礎環境として、組織体制、経営情報システム（IT）、人材・人材育成が重要である。もちろんこれを有効に進めるには、経営側のコミットメントが前提にある。中小企業の場合は、特に事業承継の際に効果的な不動産の有効利用のために CRE 戦略が必要になる。</p> <p>本講義では、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各企業の経営者、財務担当者、不動産担当者等が、その保有する不動産の重要性を認識し、重要な経営資源として活用できるようになること、および、</li> <li>不動産のプロフェッショナルが顧客である企業の経営層等に対して、企業経営の視点をもって不動産のコンサルティングができるようになること、を目指す。</li> </ul> <p>また、プロフェッショナル、特に不動産のプロフェッショナルと呼ぶ人のサービスとはどういうものか、そのようなプロになるためのキャリアパスはどのようなものかについて研究し、受講者自身の問題として考える機会にする。</p> <p>なお、経営主体が公共団体の場合の PRE（公共不動産）戦略や、関連する街づくり、商店街活性化にも言及する。</p> <p>授業はケーススタディを含み、グループディスカッションを行う。</p> <p>授業は、不動産分野の専門家以外の学生にも理解しやすいように心掛けた。</p> <p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 経営にとっての不動産の重要性を理解し、かつ不動産を通して経営を見る視点を身に着けることができる</li> <li>2) 不動産の価値の本質を理解することができる</li> <li>3) 不動産のみならず各業界でプロフェッショナルとは何かを考え、自らのキャリアを形成について考える機会を得ることができる。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	概説	CRE が求められる背景と共に CRE マネジメントの全体像を概説する。また、不動産のプロフェッショナルによるサービスとはどういうものか概説する。								
2.	CRE 戦略総論 1	第 1 回の続き、および CRE 戦略を実施した場合の経営への影響を分析するツールを紹介し、CRE 戦略の先進事例を検討する。								
3.	CRE 戦略総論 2 (ケーススタディ出題)	企業における不動産の課題を、CRE コンサルタントの立場に立って総合的に検討し、経営者に提案するケース問題を出題。								
4.	経営戦略レベルの CRE 戦略 1	財務、ファイナンス、会計、等と不動産の関わりについて検討する								
5.	経営戦略レベルの CRE 戦略 2	立地戦略、ESG 投資（環境、社会、ガバナンス）・SDGs と不動産、不動産の BCP 対策に等を検討する。								
6.	不動産ソリューションレベルの CRE 戦略	戦略立案後の不動産ソリューションとして、売買、賃貸借、不動産ファイナンス等があるが、ここでは有効活用策である共同ビル事業を実施する場合等を取り上げる。								
7.	管理・利用レベルの CRE 戦略	プロパティマネジメント、ファシリティマネジメントを取り上げ、管理に関する財務分析、ワークプレイスマネジメント等に言及する。								

8.	PRE 戦略、街づくり	人口減少下における公共団体の不動産（PRE）戦略および街づくりの歴史、問題点を取り上げる。
9.	企業不動産の価値について	不動産鑑定評価の概要とともに、ホテル、商業施設、介護施設などいわゆる事業用不動産の価値の見方について言及。税・会計目的の評価についても概説する。
10.	中小企業の CRE 戦略	中小企業においては CRE 戦略は主に、事業承継時に必要になる。その法務対策、節税対策、相続争い回避のための不動産有効活用策等について言及する。
11.	不動産プロフェッショナルサービス (1)	現代におけるにおける不動産のプロフェッショナルについての要件を再定義し、そのプロフェッショナル・サービスについて、基本に戻って論じる。
12.	不動産プロフェッショナルサービス (2)	前回の議論を踏まえて不動産プロフェッショナルのキャリア形成について論じる。個人の価値観、様々な経験、教育・研修、資格取得などが、それに影響を与える。
13.	ケーススタディ 2 (プレゼンテーション)	第 3 回で出題済みの CRE ケースにつき、グループに分かれて、その解決策につき発表してディスカッションを行う。
14.	ケーススタディ 3 (プレゼンテーション)	第 11 回、第 12 回の講義を踏まえて、受講者自身のプロフェッショナルとしてのマーケティングや今後のキャリア形成についての課題を発表して、議論する。
15.	CRE 戦略従事者のためのサービスマーケティング	全体のまとめ、および CRE 戦略における組織内および外部不動産プロフェッショナルの業務を主にサービスマーケティングの観点で論じる。
履修上の注意点		
特に準備の必要なし。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
配布資料の事前・事後の通読、その他適宜授業で指示する。		
教科書		
特になし		
参考書		
<ul style="list-style-type: none"> <li>『CRE 戦略実践のために ガイドラインとてびき』合理的な CRE 戦略の推進に関する研究会（住宅新報社）</li> <li>『CRE 戦略と企業経営』CRE 研究会（東洋経済新報社）</li> <li>『不動産プロフェッショナル・サービスの理論と実践』村木信爾著（清文社）等</li> </ul>		
課題に対するフィードバックの方法		
レポート、ケーススタディの一部設問に関して解答例やコメントを、受講者全員へのメールでフィードバックを実施する。		
成績評価の方法		
(1) クラスへの貢献度 (30%) (2) ケーススタディ、授業における討論 (20%) (3) 期末レポート等 (50%)		
その他		

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	グローバル CRE (企業不動産) 戦略論	2	1・2年	日本語	佐藤俊明					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○	○	○						
授業の概要・到達目標										
<p>不動産のプロを目指す方、不動産のビジネスへのインパクトを理解したい方、グローバルな判断基準を身につけたい方はぜひ受講してください。企業にとって不動産とは、人が働き、企業が稼ぐための最重要インフラであり、人に次ぐ第二の経営資源である。コロナ後の世界的変化の中で、働き方の変革もオフィスや工場・店舗等の不動産の在り方によって大きく左右される。不動産実務のプロから、企業がいかに不動産を活用、投資、管理すべきかをグローバルな視野で実践的にレクチャーする。</p> <p>グローバルに専門キャリアとして注目が高まっている CRE (Corporate Real Estate) の実務の企業経営における重要性を学ぶために理論よりも実践的知識の習得に重点を置く。不動産を事業施設として活用するユーザー視点のみならず、不動産投資に従事する受講者へも役立つ実践的知識を解説する。</p> <p>日本企業や先進グローバル企業の最新事例を多く盛り込み、よりリアルに検証する。期末レポートのテーマでは、受講者が企業のグローバル CRE 担当者との想定で、それまでに学んだ内容を活用し、経営トップに簡潔かつグローバルな不動産活用最適化プランを作成し、プレゼンテーションするというユニークな方式を取り入れ好評を得ている。</p> <p>【到達目標 (Course ILOs)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業経営における不動産の重要性を理解し、経営改善やキャリアパスに役立てることができるようになる。</li> <li>CFO と対話ができ、投資実務にも活用できるレベルの企業不動産 (CRE) 財務の基本が身につく。</li> <li>グローバルに不動産市場、ロケーションを比較し、最適な企業不動産投資を行う実践的な分析力ができる。</li> <li>CRE 業界で活躍するために必要な知識・ステップ・業界知識を体系的に理解・習得することができる。</li> <li>グローバル不動産の知識を企業会計、財務分野でも活用できるレベルでサービス力・プレゼン力を向上させる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	概論	本講義を通じて受講者の学ぶべき知識と意義、活用方法について解説する。								
2	CRE (企業不動産) 戦略のこれから	コロナ禍を経て、世界中で激変する社会やビジネス環境からこれからの企業不動産の在り方を議論する								
3	グローバルな不動産取引プラクティス (1)	リース取引を中心に、国・地域によって特徴的な不動産取引の流れを学習								
4	グローバルな不動産取引プラクティス (2)	売買取引を中心に、国・地域によって特徴的な不動産取引の流れを学習								
5	グローバル不動産市場の把握、分析 (1) 立地戦略	企業のオフィス、物流拠点の立地に関する戦略的な分析方法、必要となる視点と知識を解説する。								
6	グローバル不動産市場の把握、分析 (2) 市場分析	オフィス、インダストリアル拠点に関する海外不動産市場の把握、分析方法。必要となる視点と知識、ソーシング								
7、8	不動産戦略と財務	不動産戦略、取引が及ぼす企業の財務的インパクトを解説								
9	トランザクションマネジメント	不動産取引をグローバルにより効果的に管理する方法を解説								
10	ファシリティーマネジメント	ファシリティーマネジメントの業務内容と運営方法								
11	不動産業務アウトソーシング	効果的アウトソーシングのあり方と重要性								
12	事例検証	企業の CRE 実践事例検証								
13	CRE 運営組織と機能	最新の不動産運営組織の在り方、企業インフラ管理、BCP 運営								
14	まとめ、総論	グローバル CRE 実践及びレポート完成に向けてのディスカッション								

15	発表・レポートプレゼンテーション	レポート最終提出前に、一人 15 分程度で経営トップへのプレゼンを想定した発表を行う。
履修上の注意		
英文資料もそのまま活用するが、概訳または理解促進のための内容解説を行う。 受講者が共有したいケースや知識があれば実施し、クラス討議を行う。		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>次回講義に向けての参考資料を配布する場合には、事前に目を通し理解しておくこと。</li> <li>最終授業で実施する模擬役員会への提案資料 (フリーフォーマット) が提出レポートとなる。</li> </ul>		
教科書		
授業開始時に講義資料を配布する。		
参考書		
<ul style="list-style-type: none"> <li>講師編集の教材および実務参考資料 (CRE 関連、海外市場資料、管理ツール、プレゼンテーションその他最新の CRE 関連情報、事例)</li> <li>外部業界団体 (CoreNet Global、JAFMA 等からの引用資料)</li> <li>その他 Jones Lang LaSalle 社からの情報含め、最新の CRE 関連情報等を講師により配布。</li> </ul>		
課題に対するフィードバックの方法		
最終日の授業にいて個々に発表していただく課題プレゼンテーションに対しコメントする形でフィードバックを行います。 必要に応じて、Eメールで具体的なアドバイスをお送りいたします。		
成績評価の方法		
(1) 受講意欲、授業への貢献 (40%) (2) ディスカッション (参加度合 20%) (3) レポート (理解度、プレゼンテーション力 40%)		
その他		



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW661J	証券化関連法	2	1・2年	日本語	片山典之					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○	○			○			○
授業の概要・到達目標										
<p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンリコースローン契約、その他不動産ファイナンスにかかる諸契約について、関連当事者のそれぞれの立場からの利害を指摘することができるようになる。</li> <li>・日本の民法、商法、会社法などの規律と、不動産ファイナンスの実務にかかる当事者の権利義務がどのように関係しているか、理解することができるようになる。</li> <li>・アセットファイナンスについて理解を深め、ストラクチャリングなどの企画立案をすることができる。</li> <li>・民法（財産法）の基本的な枠組みを理解し、不動産にかかる日本法上の所有権、担保権などの権利義務について理解をすることができる。</li> </ul> <p>本授業では、証券化と呼ばれる取引のうち、不動産の証券化をそのテーマとして扱う。</p> <p>不動産の証券化とは、不動産をその対象資産とし、証券発行などを利用して行われるアセットファイナンスとしての資金調達の仕事である。実務における法的な関心事としては、例えば、いわゆるSPCなどのピークルに関する法律問題（SPCの設立・存続や倒産法、倒産隔離にかかる問題）、資産の譲渡に関する民法などの規定、日本における不動産法制の特徴（賃貸借に関する問題）、信託や匿名組合に関する法律や金融商品取引法などを中心とした資金調達に関する問題などが挙げられる。本授業においては、担当教員の法律実務家（弁護士）としての経験をもとに、実務のストラクチャーやドキュメンテーション（不動産管理処分信託契約、受益権売買契約、ローン契約、担保関連契約、賃貸借（マスターリース）契約、プロパティマネジメント契約、投資家用の商品内容説明書類、その他関連当事者合意書など）のサンプルを参加者とともに検討する事を通じて、不動産の証券化の具体的な案件を取り扱う場面において、すぐに役立つような内容をできるだけ盛り込みたいと考えている。なお、本授業を取り扱う実務分野の動きなどに合わせて、授業のテーマの順番や内容を下記のものから変更する場合がございますことにご留意されたい。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	証券化概論	不動産のみならず、資産の証券化一般について検討する。テーマは、コーポレートファイナンス vs. アセットファイナンス、証券化対象資産としての不動産の特徴（主として、金銭債権との比較）など。								
2	不動産と金融の融合、よく使われる用語の確認	かつて金融取引とは無関係と考えられていた不動産取引の実務において、金融取引と融合してきた実際例や現在の到達点を検討する。また、不動産証券化の法務においてよく使われる用語も確認していきたい。								
3	信託を利用したスキーム	不動産の証券化、流動化にあたっては、現物（実物）不動産を受益権化することが実務では頻繁に行われている。この場合の実務上の留意点を中心に検討する。								
4	TK-GK (YK) スキーム	証券化、あるいは流動化は、不動産に対する投資のあり方を投資をする側が直接に保有する資産に着目した現象を指しているものに他ならないが、その中でも、エクイティ部分への投資、資金調達の方法としてよく使われる合同会社（GK）（有限会社（YK））と匿名組合（TK）の組み合わせの実例について検討を行う。								
5	資産流動化法上のTMKを利用したスキーム	不動産証券化にあたってのピークルとして、資産流動化法上の特定目的会社（TMK）を利用する場合について検討する。資産流動化法は、文字通り、資産の流動化を促進するために作られた法律であり、実務上もこれを利用するためのドキュメントの量や種類も多く、本授業では、実例を見ながら、実務上の留意点を検討する。								

6	開発型証券化	多くの不動産対象のファイナンスが既にキャッシュフローを生んでいるオフィスビルなどを対象にしているのに対し、いわゆる開発型の不動産証券化とは、不動産が開発される前の段階で開発のために必要な費用を証券化によって調達する点にその特徴がある。このような特殊性を中心に検討する。
7	J-REIT	2000年、それまで契約型しかなかった投資信託に、いわゆる会社型信託である「投資法人」という新しいコンセプトが投資信託法に導入された。この導入は、日本版の上場型不動産投資信託（いわゆるJ-REIT）の実現と大きな関係があり、かかる投信法の内容の理解がJ-REITに関わる実務担当者には重要性が高いと考えられる。投信法の趣旨などを中心に検討してみたい。
8	不動産特定共同事業法の利用	不動産の小口化商品の普及を目指して、先駆けとして作られたこの法律については、やや使い勝手が悪い部分があり、当初の期待ほど利用されなかった。これに対する実務の対応と、どのような場合に利用可能なのかなど、実例を通して検討する。
9	ノンリコースローン、社債発行などの資金調達のバリエーションについて	第4回やJ-REITにおける投資口（いわゆるJ-REIT株）などのエクイティに対峙するものとしてデットの投資がローンや社債による資金調達である。そのバリエーションの検討と、ローンを束にして行われるCMBSなどにも触れたい。
10	契約交渉シュミレーション (1)	オリジネータ、投資家、レンダーなどのチームに分かれて、それぞれの立場から、契約交渉のあり方を探ってもらう。
11	契約交渉シュミレーション (2)	同上
12	不動産業界の立場から（ゲストスピーカー）	不動産証券化の第一線で活躍する不動産会社の方をゲストスピーカーとして招いて、実際の現場の状況や実務上の注意点を話いただき、質疑応答を通じて、実務のあり方を検討する。
13	金融業界の立場から（ゲストスピーカー）	不動産証券化の第一線で活躍する金融機関の方をゲストスピーカーとして招いて、実際の現場の状況や実務上の注意点を話いただき、質疑応答を通じて、実務のあり方を検討する。
14		
15	まとめ	
履修上の注意点		
特になし。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
授業の際に指示する。		
教科書		
参考資料は講義時に配布予定。		
参考書		
(1)『不動産証券化ハンドブック』（社団法人 不動産証券化協会）、(2)その他、講義の時点であるべく新しい文献を紹介する予定。		
課題に対するフィードバックの方法		
授業時間内で課題を実施し、授業の最終日までに解説の時間を設ける。		
成績評価の方法		
(1) 最終レポート成績点 (40%)、(2) 授業中での議論への参加 (60%)などを考慮して評価する。		
その他		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN571J	ESG 投資と ESG 経営	2	1・2年	日本語	王 京穂					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○				○	○	
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業概要】</b></p> <p>ESG は、英語の Environment（環境）、Social（社会）と Governance（企業統治）の頭文字をとった造語である。投資家が企業に投資するとき、企業の財務指標を重視するが、それに加え、非財務情報である ESG の指標にも配慮する投資行動は「ESG 投資」である。投資家のこの投資姿勢に対応して、企業側が ESG を意識する行動をとることは、ESG 経営という。本科目は、この ESG 投資と ESG 経営の概念的理解、実践事例と企業業績に対する影響について、事例紹介を中心に学習する。</p> <p>ESG 経営と企業パフォーマンス、ブランディングの関係性、カーボン・ニュートラルが産業に与える影響についても議論をする。ゲスト講師による講義とチームワークの発表とディスカッションがある。</p> <p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ESG 投資と ESG 経営の理解。</li> <li>ESG が金融市場への影響の理解。</li> <li>ESG が企業行動、企業業績への影響の理解。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	授業概要	1) ESG 投資 2) ESG 経営 3) 授業概要								
2.	ESG 投資	1) ESG 投資の種類 2) エンゲージメント 3) インベストメントチェーン 4) 株式市場の動き 5) 銀行の動き								
3.	ESG 格付	1) 格付機関 2) 格付けの仕組み 3) Eスコア、SスコアとGスコア 4) リフィニティブ社の事例								
4.	企業の非財務情報	1) 統合報告書・サステナブルレポート 2) マテリアリティ 3) データブック 4) ソニーグループの事例								
5.	ESG 経営	1) 議論：ESG 経営とは？ 2) 議論2：ESG 経営の指標化？ 3) ESG 経営とリスク管理 4) ESG 経営と企業業績・株価								
6.	研究紹介：ESG 経営と企業業績・株価との関係	1) ESG 経営のメリットとコスト 2) 広義的リスク管理フレームワーク 3) 企業業績と株価への影響 4) 信用格付への影響								
7.	研究紹介（続き）									
8.	カーボン・ニュートラル	1) 地球温暖化 2) 温暖化ガス排出量の計測と管理 3) カーボン・ニュートラル 4) カーボンプライシング 5) CAFE 規制								
9.	TCFD レポート	1) 温暖化の影響の重大性 2) 気候関連のリスクと機会 3) 企業の温暖化対策戦略の開示 4) TCFD レポート								
10.	TCFD レポート（続き）	1) 経営戦略・事業戦略と温暖化との関係性 2) カーボン・ニュートラルと設備投資 3) SCOPE3 の計測								
11.	ESG と企業価値	1) ブランドの価値の構成 2) 社会通念とブランドのリスク 3) リスク管理としての ESG 4) ESG ブランディングと ESG マーケティング								
12.	チームワーク：	ESG による価値創造のパス								
13.	チームワーク（続き）									
14.	整理とまとめ	1) 整理とまとめ 2) 最終レポート課題								
履修上の注意点										
特に要求なし。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
特になし。										
教科書										
特になし。										
参考書										
授業時毎回資料を配布する。										

課題に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>次回授業に解説と復習の時間を設けること</li> <li>Oh-o! Meiji のディスカッションの利用</li> <li>Oh-o! Meiji のレポートのコメントの利用</li> </ul>
成績評価の方法
授業貢献・ディスカッション参加 40%、最終レポート 60%。
その他

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	スタートアップビジネスII	2	1・2年	日本語	石川 明					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
	○	○						○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>企業や各種組織に勤め将来組織からの新規事業創出を目指す人、もしくは経営者（事業承継予定者）として新規事業創出や業態変革を目指す人を対象とし、組織の中から事業を生み出すために必要な思考・スキル・知識を学ぶ。講義はワークショップ形式でグループ討議を中心に進める。</p> <p>各回の授業の最後に次回の討議テーマを提示するので、学生は「自分の会社であればどうするか」を考えた上で臨み、授業の中での積極的なグループ討議への参加を期待する。</p> <p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業人として必要なアントレプレナーシップとは何かを知る</li> <li>・ 自分の組織にはどんな新規事業展開が有望かを考えるためのフレームを知る</li> <li>・ 新規事業を生み出し続けられる組織であるためには何が重要かを考える</li> <li>・ 魅力的な新規事業案を考えるための思考フレームを知る</li> <li>・ 組織を動かして実現していくために重要な行動様式を知る</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	アントレプレナーシップ①	アントレプレナーに求められることは何か アントレプレナーのタイプ								
2	アントレプレナーシップ②	社内起業と独立起業で求められるアントレプレナーシップの違い 社内起業を成功させていく上で大事なことは何か								
3	自分のことを知る①	「WANT、CAN、NEED」の3つの輪から、自身の目指す社内起業家としての方向を知る								
4	自分のことを知る②	喜怒哀楽の感情から、自分の起業にかけるエネルギーの源泉を知る								
5	自社のことを知る①	自社の「WANT、CAN、NEED」の3つの輪から、自社に適した新規事業の方向を考える								
6	自社のことを知る②	自社の歴史を振り返り、自社の特性を知る（CFT分析等）								
7	新規事業を興せる組織①	新規事業を興し続けられる組織とそうでない組織は何が違うのか								
8	新規事業を興せる組織②	組織としてどうやって「壁」を越えて成長していくのか（9象限マトリックス）								
9	事業案の考え方①	事業とは「不」の解消であるという考え方に基づいて、これまでどんな顧客の「不」を解消してきたかという視点から自社の歴史を振り返る。								
10	事業案の考え方②	自社にとって新たなビジネスチャンスとなる「不」の探索の在り方 「不」を掘り下げするための「国算理社」思考法								
11	事業プランの考え方①	「国算理社」思考法を使った事業アイデアの掘り下げ方								
12	事業プランの考え方②	社内起案をしていくためにプランに盛り込む必要がある視点								
13	組織を動かす①	組織を動かしていくための「DeepSkill」								
14	組織を動かす②	組織を動かしていくために起案者として大事なこと								
15	組織を動かす③	組織を動かしていくためにリーダーとして大事なこと								
履修上の注意点										
<p>原則、企業に勤める人が経営者もしくは事業承継を予定している人が、自社の新規事業を考えることを前提とする。</p> <p>最終講義までに、自社で有望だと考える新規事業テーマ案もしくは自社の経営改革案を自身で考えるところまでをゴールとする。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
各講義の最後に、次回の講義で討議するテーマを提示するので、学生は討議の準備をした上で参加をしてもらいたい。事前準備にあたっては、指定する教科書を参考にすること。										

教科書
『はじめての社内起業』 石川 明（ユーキャン学び出版） 『新規事業ワークブック』 石川 明（総合法令出版） 『DeepSkill』 石川 明（ダイヤモンド社）
参考書
特になし
課題に対するフィードバックの方法
最終講義後にレポートを提出。提出されたレポートにコメントバックする。
成績評価の方法
最終レポート 51%、授業貢献度 49%
その他
講義はグループ討議を軸にしてワークショップ形式で行います。 講義内での積極的な発言を期待します。



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	戦略マネジメント	2	1・2年	日本語	歌代 豊					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○							
授業の概要・到達目標										
<p>〈授業概要〉</p> <p>本授業のテーマは「戦略アライメントー戦略の策定と実行をいかにマネジメントするか」であり、そのための理論、フレームワークを学び、マネジメント・システム（経営管理制度）、組織能力のあり方を検討する。したがって、経営戦略、組織論、マネジメント・コントロール等と密接に関連する領域である。</p> <p>本授業では、戦略アライメントを図るためのマネジメント・システムのあり方を検討するが、特に戦略策定サイドを主対象とする。具体的には、戦略創造フェーズでポジショニング・アプローチとRBVの両視点から戦略課題を抽出し、その後戦略体系化フェーズで戦略マップの組織展開を策定するという戦略策定プロセスを試行することにより、マネジメント・システムのあり方を評価する。</p> <p>〈到達目標〉</p> <p>本授業の到達目標として、以下を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略分析手法を活用し戦略策定を実践することができる</li> <li>・ 事業戦略の創造と体系化の方法・プロセスを設計することができる</li> <li>・ 戦略アライメント、戦略の策定と実行のマネジメントのあり方を検討できる</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクションー戦略とマネジメント	戦略マネジメントを検討する上で必要となる理論、基礎概念、そして戦略の創造と実行のマネジメントの全体プロセスを把握する。								
2	外部環境分析（理論編）	外部環境分析の必要性と基礎理論を理解し、ミクロ環境分析（5つの競争要因等）、マクロ環境分析（PEST分析）をフレームワーク・手法学ぶ。								
3	外部環境分析（実践編）	理論編を踏まえ、ミニ演習・ワークショップにより外部環境分析の演習を行う。								
4	内部資源分析（理論編）	内部資源分析の必要性と基礎理論を理解し、7S、価値連鎖分析、VRIO等のフレームワーク・手法を学ぶ。								
5	内部資源分析（実践編）	理論編を踏まえ、ミニ演習・ワークショップにより外部環境分析の演習を行う。								
6	SWOT分析と戦略課題の抽出と評価（実践編）	外部環境分析と内部資源分析によって得られる機会と脅威、強みと弱みを突き合わせ、対応すべき戦略課題抽出の考え方を学ぶ。ミニ演習・ワークショップによりSWOT分析を用いた戦略課題抽出の演習を行う。								
7	バランススコアカード（BSC）概論（基礎編）	戦略の構造化と実行管理の基本システムであるバランススコアカード（BSC）の概要を学ぶ。								
8	戦略のセオリー（基礎編）	抽出された戦略課題オプションを方向付ける規範を与えるのが、戦略のセオリーである。ポーターの基本戦略、トレーシー&ウィアセマの顧客価値提案等を学ぶ。								
9	戦略セオリーとテンプレート（基礎編）	BSCでは戦略マップにより戦略のロジックを具体化する。それに向け、戦略セオリー別に戦略ロジックのテンプレートを題材に、顧客価値ー業務プロセスー無形資産の関係を検討する。								
10	戦略課題の構造化と戦略マップ策定（実践編）	戦略のセオリーとテンプレートに基づくKJ法により戦略課題群の構造化方法を検討する。そして、ミニ演習・ワークショップにより戦略課題構造化と戦略マップ策定の演習を行う。								
11	戦略のカスケードとプログラム&プロジェクトBSC（基礎編）	BSCではスコアカードのカスケードにより戦略を展開するが、そこで生ずる一般的なカスケードの問題を議論し、プログラム&プロジェクト指向のカスケードの必要性を検討する。								

14	プログラム体系・カスケード構造の定義（実践編）	プロジェクト指向BSCに基づきミニ演習・ワークショップによりプログラム体系とカスケード構造の定義の演習を行う。
15	マネジメント・システムと組織能力の課題と討議	本授業のポイントを整理するとともに、戦略マネジメントの観点から今後のマネジメント・システム（経営管理制度）、組織能力のあり方を展望する。そして討議を通じて理解を深める。※授業の進展状況により、順序・時間配分を変更することがある。
履修上の注意点		
レクチャーが基本であるが、ミニ演習・ワークショップ・討議では積極的な貢献を求める。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
授業の際に指示する。		
教科書		
教科書は用いない。講義資料に基づいて授業を行う。		
参考書		
<p>下記に加え、授業の中で適宜参考図書を推薦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『戦略バランス・スコアカード』キャプラン&amp;ノートン（櫻井通晴監訳）東洋経済新報社、2001年。</li> <li>・『戦略マップ』キャプラン&amp;ノートン（櫻井通晴監訳）ランダムハウス講談社、2005年。</li> <li>・『プロジェクト・バランス・スコアカード』小原重信・浅田孝幸・鈴木研一編、生産性出版、2004年。</li> <li>・『バランス・スコアカード経営実践マニュアルー効果が上がるBSCプロジェクトの進め方』バランススコアカードフォーラム編、中央経済社、2004年。</li> </ul>		
課題に対するフィードバックの方法		
クイズ・ミニ演習・ワークショップについては授業内でレビューを行う。		
成績評価の方法		
(1) レポート（50%）		
(2) 授業への貢献（クイズ・ミニ演習・ワークショップ・討議等）（50%）		
その他		

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	ファミリービジネス概論	2	1・2年	日本語	加藤幸人					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○	○	○			
授業の概要・到達目標										
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリービジネスの経営に重要な「継続企業」の考えを理解することができる。</li> <li>ファミリービジネスにおける「事業承継」の全体像を把握することができる。</li> <li>ファミリービジネスを承継する者においては、将来の経営に役立つ知識を習得することができる。</li> <li>事業会社に勤務する者においては、今後のマネジメントに役立つ知識を習得することができる。</li> <li>税理士を目指す者については、税務の視点のみならず、経営の視点やお客様の視点で事業承継の知識を学ぶことができる。</li> </ul> <p><b>【授業の概要】</b></p> <p>ファミリービジネスというと、業歴が長い老舗企業、同族経営の企業、中小企業などのイメージを持つ方が多いと思うが、それらの企業の経営の本質として重要なことは、「継続企業」をつくることである。継続企業であるためには、理念を確立し浸透させ、企業価値やビジネスモデルを見直しながら、事業を発展させ成長し続けることが必要になる。そのためには、適切な経営管理を遂行して、さらには事業承継の課題を克服していく必要がある。</p> <p>本講義では、事業を承継する者、事業承継をコンサルする者、事業会社でさらなるマネジメントの向上を意識する者の方々向けに、ファミリービジネスや中小企業の継続企業としての重要性や事業承継の基礎知識について、幅広い視点でその全体像を解説していく。</p> <p>講師自身が、税理士法人という中小企業の経営者であり、事業承継の体験もあり、実務家として多くのお客様の経営を見てきており、それらの経験から、理念再構築、企業価値の向上、ビジネスモデル変革、会計・税務・財務・人事などの経営管理、さらにはDXなどの経営やマネジメントの諸問題を、多方面から複合的かつ総合的に掘り下げていく。</p> <p>よって、税理士を目指さない方々でも、わかりやすくファミリービジネスや事業承継について理解することができる。特に事業を承継する方々においては、新しいビジネスや顧客を創造していく「起業承継」の意識で事業承継を取り組むことを強く期待するところである。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	ファミリービジネスの概要 ①ファミリービジネスの本質	ファミリービジネスの基本的な定義やその本質について考える。最も重要なことを伝えるので、履修予定者には必ず出席していただきたい。								
2	ファミリービジネスの概要 ②事業承継の概要	ファミリービジネスの重要な課題である事業承継を考察するにあたり、事業承継ガイドラインなどの事業承継制度の概要や基本を理解する。								
3	ファミリービジネスの承継 ①経営の承継	ファミリービジネスの承継で重要なのは、経営の承継である。後継者の選定、ビジネスの再構築、組織管理の再構築の3つの観点から経営の承継を考察する。								
4	ファミリービジネスの承継 ②らしさの承継	ファミリービジネスの承継においては、価値観の共有、企業理念の浸透、ビジネス価値の再確認などファミリービジネスらしさの承継が重要となる点を整理する。								
5	ファミリービジネスの承継 ③株式の承継	株式の承継においては、相続、贈与、譲渡など株式移転の方法により税負担が異なる。株式承継の移転方法や株主対策について問題を整理する。								
6	ファミリービジネスの承継 ⑤財産の承継	株式の承継は相続とも絡んでくるため、相続税の基礎知識や相続対策、遺産分割対策について考察していく。								
7	ファミリービジネスの承継 ④株式評価	純資産が多く財務体質が良い中小企業においては、株価が高いことが大きな問題となる。株式評価の方法、株価対策について考える。								
8	ファミリービジネスの承継 ⑥事業承継税制	遺留分の民法特例を定めた経営承継円滑化法や、大幅に優遇された事業承継税制など、税制上の特例について考える。								

9	ファミリービジネスの承継 ⑦ファミリービジネスの承継の事例研究	ファミリービジネスの承継の事例である「青山電機の事業承継」(落合稔名誉教授作成)を題材にケーススタディと議論を行う。
10	ファミリービジネスの経営管理 ①会計(財務会計・管理会計)	決算書の作成に必要な財務会計の基本的な知識や決算書の見方、さらには各社各様で基本的にはルールがない管理会計の基本について考察していく。
11	ファミリービジネスの経営管理 ②財務	事業計画や資金計画を策定し経営を管理していくことは、経営の重要な要素である。キャッシュフロー計算書、資金調達、経営者保証ガイドライン等についても考察する。
12	ファミリービジネスの経営管理 ③人事労務	同一労働同一賃金、残業の上限規制、脱時間給制度などの働き方改革の基本知識や、ホワイト企業のための人事コンプライアンスについて考えていく。
13	ファミリービジネスの経営管理 ④税務	経営に必要な会社を取り巻く税金の基礎知識を学ぶとともに、中小企業経営者に関心が高い節税や優遇税制について考察していく。
14	ファミリービジネスの事業承継の実際の取り組み(特別講義)	ファミリービジネスの承継を継続中の承継者を招いて、ファミリービジネスに関する様々な取り組みの実体験について解説してもらう。
15	全体のまとめ	ファミリービジネスの経営や承継に関して、半年間の講義内容をふまえた総括を行う。ファミリービジネスの将来性や中小企業のあるべき姿についてまとめていく。
履修上の注意点		
・学習意欲のある方が望ましいです。		
準備学習(予習・復習等)の内容		
・特になし。		
教科書		
・毎回レジュメを配付します。		
参考書		
『ファミリービジネス MBA 講座』明治大学ビジネススクール編(同文館出版)2019年		
課題に対するフィードバックの方法		
期末のレポートに対して、まとめの授業で議論を行います。		
成績評価の方法		
①授業への貢献度 60% ②課題レポート 40%		
その他		
・授業内容によりゲスト講師を招いて講義を進めることがあります。		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN611J	中小企業論	2	1・2年	日本語	安達幸裕					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
	○		○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>(概要)</p> <p>本講義では、日本経済での中小企業の特徴、中小企業・ベンチャー企業・スタートアップ企業などの現状と課題について学ぶ。日本企業の99.7%は中小企業であり、その存在は経済活動の活性化に大きく貢献している。しかし、近年中小企業の総数が減少傾向にあり、市場の創出や雇用の創出という点からもその維持発展が大きな課題となっている。</p> <p>とくに産業構造、中小企業の意義、中小企業政策、中小企業金融、創業・廃業、中小企業経営などについて考える。中小企業をマクロな視点でとらえた場合の諸課題を、アカデミックな視点を踏まえたうえで、より実践的な視点に重きを置いて学んでいく。中小企業やベンチャー企業についてより関心をもち、授業終了時には中小企業やアントレプレナーを身近な存在として感じられるようになることを目標とする。</p> <p>(到達目標 (Course ILOs))</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中小企業の現状と課題を把握する</li> <li>2. 概当年度中小企業白書を体系的に読み込み、関係する項目について議論ができる。</li> <li>3. 学習した知識を各自の実践の場に当てはめて考え、行動に移す。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	講座の意義、授業の全体像、進め方など概要を説明する。								
2	経済・産業における中小企業動向	中小企業とは？中小企業についての意義を学ぶ。日本の経済・産業における中小企業の役割と現状について理解する。								
3	中小企業の構造と実態	企業数の変化や開廃業などの経済構造や財務面から見た中小企業の多様性などの特徴について学ぶ。								
4	中小企業と労働環境	人手不足など中小企業を取り巻く労働環境について学ぶ。								
5	中小企業の財務環境	中小企業の財務上の特徴と課題、資金調達状況について理解する。								
6	中小企業と事業承継(1)	中小企業の事業承継のうち主として引き継ぎ側の実態を学ぶ。								
7	中小企業と事業承継(2)	中小企業の事業承継のうち主として引き受け側の実態を学ぶ。								
8	中小企業と自己変革	中小企業の構造変革への対応の現状と期待される役割について学ぶ。								
9	中小企業の経営戦略(1)	中小企業の市場戦略や人・組織戦略の特徴について学ぶ。								
10	中小企業の経営戦略(2)	中小企業の海外戦略、技術戦略、コンプライアンス、ガバナンスについて学ぶ。								
11	中小企業とベンチャー企業	ベンチャー企業やスタートアップ企業、第二の創業について学ぶ。								
12	中小企業施策(1)	中小企業施策の中心となる中小企業基本法などを確認する。								
13	中小企業施策(2)	中小企業施策の個別施策の主なものを確認する。								
14	中小企業施策(3)	中小企業施策の重要施策となる金融政策を確認する。								
15	総括	講義全体を振り返りまとめを行う。								
履修上の注意点										
各自中小企業について関心のあるテーマを2～3選んでおくこと。										
準備学習(予習・復習等)の内容										
適宜授業にて個別に提示する。										
教科書										
中小企業庁編『中小企業白書2019年版』他各年版										
参考書										
小規模企業白書、新規開業白書										

課題に対するフィードバックの方法
授業日または Oh-o! Meiji で全体講評を公開する
成績評価の方法
授業への貢献度 60%、レポート 40%
その他
講義とディスカッションを基本とする。 できる限り双方向授業を目指す。

科目ナンバ	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)MAN621J	中小企業経営概論					2	1・2年	日本語	安達幸裕		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○	○		○	○		○					
授業の概要・到達目標											
<p>(概要)</p> <p>日本企業の大半は中小企業であり、その存在は経済活動の活性化に大きく貢献している。しかし、近年、中小企業の総数が減少傾向にあり、市場の創出や雇用の創出という点からもその維持発展が大きな課題となっている。一方で、取り巻く環境の複雑化・多様化は一層進んでおり、各企業にとってその舵取りが困難になってきている。そこで、中小企業を企業経営というよりミクロな視点からとらえ、抱える経営諸課題をアカデミックな視点をふまえながらも、より実践的な視点に重きを置いて学んでいく。経営や戦略の基本となる思考を養うという点では、大企業勤務者など企業規模にかかわらず企業経営、マネジメントに関心のある学生にも有意義と考える。</p> <p>本講義では中小企業経営について、経営の主体である経営者からの視点と支援者となる金融機関などの外部からの視点双方を理解することを目指す。中小企業やベンチャー企業についてより関心をもち、授業終了時には中小企業経営やアントレプレナーシップをより身近な存在として感じられるようになることを目標とする。</p> <p>(到達目標 (Course ILOs))</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中小企業経営の現状と課題を把握する。</li> <li>2. マネジメントの基本を踏まえながら、主に中小企業経営に関する項目について議論ができる。</li> <li>3. 学習した知識を各自の実践の場に当てはめて考え、行動に移す。</li> </ol>											
授業内容											
週	テーマ	内容									
1	イントロダクション	講座の意義、授業の全体像、進め方など概要を説明する。									
2	中小企業経営の現状と課題	各自書等から中小企業の役割と中小企業経営の実態を把握する。									
3	経営戦略の考え方	経営とは何か、戦略とは何かを理解する。									
4	経営者の役割 (1)	経営者の役割のうち「攻め」の分野を考える。									
5	経営者の役割 (2)	経営者の役割のうち「守り」の分野を考える。									
6	現状分析 (1)	市場分析の基本について学ぶ。									
7	現状分析 (2)	競合分析の基本について学ぶ。									
8	現状分析 (3)	自社分析の基本について学ぶ。									
9	市場浸透戦略	既存事業の市場シェア拡大の方法について考える。									
10	新市場開拓・新製品開発戦略	新規に行うべき具体的なターゲットや製品・商品・サービス開発について考える。海外戦略についても取り上げる。									
11	新事業開発戦略	業態の変更や新業態への参入、第二の創業などについて考える。									
12	組織・人材戦略	後継者育成・経営承継、人材育成、組織活性化について考える。									
13	財務戦略	資金調達と金融機関との付き合い方や事業計画策定 (開業計画書を含む) の意義を考える。									
14	その他の経営課題	ガバナンスとコンプライアンス、環境と IT などの課題について考える。									
15	総括	講義全体を振り返りまとめを行う。									
履修上の注意点											
各自中小企業について関心のあるテーマを2～3選んでおくこと。											
準備学習 (予習・復習等) の内容											
適宜授業にて個別に提示する。											
教科書											
中小企業庁編『中小企業白書』各年版 各回毎レジメ											
参考書											
小規模企業白書、新規開業白書											
課題に対するフィードバックの方法											
授業日または Oh-o! Meiji で全体講評を公開する。											

成績評価の方法
授業への貢献度 60%、レポート 40%
その他
講義とディスカッションを基本とする。 できる限り双方向授業を目指す。

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	ファミリービジネスと 企業家精神	2	1・ 2年	日本語	安達幸裕					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
	○		○	○		○				
授業の概要・到達目標										
<p>(概要)</p> <p>老舗企業にも必ず始まりがある。とくにファミリービジネス（オーナー企業）では創業者の熱い思いや変革に対応する力がその後の企業活動に大きく影響してきた。また、長寿企業では、創業者精神をいかに継続しながら維持発展していくかも重要な課題となっている。</p> <p>本講義ではファミリービジネス経営者の根幹をなす企業家精神について学ぶ。事例分析を通じ理論的背景を踏まえながらより実践的視点で学んでいく。事例は経営者がいかにして市場を見つけてきたかなどの革新的視点が主ではあるが、物事の見方、見立て方、切り口を学ぶという点では、企業活動に関わるすべての立場で参考となるものである。可能な限りディスカッションをし、参加者それぞれの環境に応じた運用ができることを目指す。</p> <p>(到達目標 (Course ILOs))</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファミリービジネスの現状と課題を理解する。</li> <li>2. 企業家活動と企業家精神と革新の関係が説明できる。</li> <li>3. ファミリービジネスの企業家精神事例を説明できる。</li> <li>4. 学習した知識を各自の実践の場に当てはめて考え、行動に移す。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	講座の意義、授業の全体像、進め方など概要を説明する。								
2	ファミリービジネスの現状と課題	ファミリービジネスの実態を把握する。								
3	経営者活動と企業家精神	ファミリービジネスの創業者精神や後継経営者に引き継がれる企業家精神について考える。								
4	事例 (1)	担当者が企業家精神事例を発表し、参加者でディスカッションすることで企業家精神の重要性を理解する。								
5	事例 (2)	担当者が企業家精神事例を発表し、参加者でディスカッションすることで企業家精神の重要性を理解する。								
6	事例 (3)	担当者が企業家精神事例を発表し、参加者でディスカッションすることで企業家精神の重要性を理解する。								
7	企業家精神の実際 (1)	ゲスト講師として実際のファミリービジネス経営者の講話を聞く。								
8	事例 (4)	担当者が企業家精神事例を発表し、参加者でディスカッションすることで企業家精神の重要性を理解する。								
9	事例 (5)	担当者が企業家精神事例を発表し、参加者でディスカッションすることで企業家精神の重要性を理解する。								
10	事例 (6)	担当者が企業家精神事例を発表し、参加者でディスカッションすることで企業家精神の重要性を理解する。								
11	企業家精神の実際 (2)	ゲスト講師として実際のファミリービジネス経営者の講話を聞く。								
12	事例 (7)	担当者が企業家精神事例を発表し、参加者でディスカッションすることで企業家精神の重要性を理解する。								
13	事例 (8)	担当者が企業家精神事例を発表し、参加者でディスカッションすることで企業家精神の重要性を理解する。								
14	企業家精神の実際 (3)	ゲスト講師として実際のファミリービジネス経営者の講話を聞く。								
15	総括	講義全体を振り返りまとめを行う。								
履修上の注意点										
各自関心のあるテーマについて、報告のための事前準備を行うこと。教科書掲載の事例研究を中心とする。事例を分担し、担当者が発表して全員で議論する。										

準備学習 (予習・復習等) の内容
適宜授業にて個別に提示する。
教科書
明治大学ビジネススクール編『ファミリービジネス MBA 講座』 同文館出版 (2019/6/26)
参考書
適宜指示する。
課題に対するフィードバックの方法
授業日または Oh-o! Meiji で全体講評を公開する。
成績評価の方法
授業への貢献度 60%、レポート 40%
その他
講義とディスカッションを基本とする。 できる限り双方向授業を目指す。

科目ナンバー	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)MAN631J	ファミリービジネスと人材戦略					2	1・2年	日本語	安達幸裕		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
	○	○		○		○					
授業の概要・到達目標											
<p>(概要)</p> <p>ファミリービジネス（オーナー企業）における人材育成の重要性が増々高まっている。企業が継続的に成長発展していくためには人材育成が欠かせない。しかし、カリスマ経営者や強力なリーダーシップを持つことが多いオーナー企業における社員の特徵として、指示待ち、創造性、自主性の欠如が挙げられている。</p> <p>本講義ではとくにファミリー企業における人材育成のポイントを学ぶ。体系的な理論的背景を踏まえながら、より実践的視点で学んでいく。経営者と社員双方からの視点で内容を理解することを目指す。可能な限りアウトプットとして参加者の状況に応じた具体的な計画策定も試みる。</p> <p>(到達目標 (Course ILOs))</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファミリービジネスの現状と課題を理解する。</li> <li>2. ファミリービジネスの人材育成の特徴や課題が説明できる。</li> <li>3. ファミリービジネスの人材育成体系案を作成する。</li> <li>4. 学習した知識を各自の実践の場に当てはめて考え、自らのキャリア開発の行動につなげる。</li> </ol>											
授業内容											
週	テーマ	内容									
1	イントロダクション	講座の意義、授業の全体像、進め方など概要を説明する。									
2	ファミリービジネスの現状と課題	各白書等からファミリービジネスの実態を人材育成面を中心に把握する。									
3	人事戦略概論と人材育成理論の歴史の変遷	経営戦略における人事戦略・人材育成の位置づけと人材育成理論の歴史の変遷について学ぶ。									
4	ファミリービジネスにおける人材育成(1)	ファミリービジネスでは最も重要な経営者の育成について考える。									
5	ファミリービジネスにおける人材育成(2)	方針、戦略浸透のために欠かせない幹部社員(部長・課長などのミドル層)の育成について考える。									
6	ファミリービジネスにおける人材育成(3)	戦略実行を具現化する現場社員である中堅、若手、高齢者の人材育成について考える。									
7	ゲスト講師	ゲスト講師として実際のファミリービジネス経営者から人材育成の講話を聞く。									
8	ケーススタディ	ゲスト講師のケースを通じたグループディスカッションを行う。									
9	次世代の経営幹部をどのように育てていくか	次世代の経営幹部の育成のポイントを学ぶ。									
10	人材育成と研修体系	人材育成のための研修制度や具体的な研修の設計ポイントを学ぶ。									
11	ファミリービジネスとCDP	新しい経営体制を構築するためのポイントを学ぶ。									
12	人材育成プランの開発①	参加者各自の状況に応じたプランを考える。									
13	人材育成プランの開発②	参加者各自の状況に応じたプランを考える。									
14	人材育成プランの開発③	ケースを通じたグループディスカッションを行う。									
15	総括	講義全体の振り返り									
履修上の注意点											
各自関心のあるテーマについて、事前準備を行うこと。演習、発表あり。											
準備学習（予習・復習等）の内容											
適宜授業にて個別に提示する。											

教科書
中小企業白書各年版 各回毎レジメ
参考書
適宜指示する。
課題に対するフィードバックの方法
授業日または Oh-o! Meiji で全体講評を公開する。
成績評価の方法
授業への貢献度 60%、レポート 40%
その他
講義とディスカッションを基本とする。 できる限り双方向授業を目指す。



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN651J	ファミリービジネスと経営計画策定	2	1・2年	日本語	安達幸裕					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○		○		○	○		○	
授業の概要・到達目標										
<p>(概要)</p> <p>ファミリービジネス（オーナー企業）では、その維持発展に経営者の勘や経験やセンスは欠かせない。一方で、時にはそれらに頼りすぎるための弊害も起こっている。企業現場では、計画策定・戦略策定が経営者の頭の中にある可視化されていないことも多い。実際の企業経営では、社内へ浸透させるための計画が必要であったり、支援者である金融機関から今後の計画が求められる。企業環境の複雑化、多様化が進むなかで、企業内外にむけての経営計画策定が必須となる。</p> <p>本講義ではファミリービジネスの有効な経営計画策定について、理論的背景を踏まえながら、より実践的視点で学んでいく。経営の主体である経営者側と支援者となる金融機関等双方からの視点で内容を理解することを目指す。</p> <p>(到達目標 (Course ILOs))</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファミリービジネスの現状と課題を理解する。</li> <li>2. ファミリービジネスと経営計画策定の特徴、関係と経営計画全体像を体系的に説明できる。</li> <li>3. 各自の環境に応じた経営計画案を策定し発表する。</li> <li>4. 学習した知識を各自の実践の場に当てはめて考え、行動に移す。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	講座の意義、授業の全体像、進め方など概要を説明する。								
2	ファミリービジネスの現状と課題	各自書等からファミリービジネスの実態を把握する。								
3	ファミリービジネスと経営計画	経営計画策定の必要性を内部要因と外部要因から考える。								
4	経営計画策定のフレーム	経営計画策定の全体像を理解する。								
5	あるべき姿 (1)	経営における理念、ビジョン、ドメインについて学ぶ。								
6	あるべき姿 (2)	参加者各自の状況にあてはめたあるべき姿を考える。								
7	現状分析 (1)	自社分析、市場分析、競合分析、SWOT 分析の基本について学ぶ。								
8	現状分析 (2)	参加者各自の状況にあてはめた現状分析を考える。								
9	戦略策定 (1)	全社基本戦略と部門戦略、機能別戦略について学ぶ。								
10	戦略策定 (2)	参加者各自の状況にあてはめた戦略策定を考える。								
11	各種計画策定	収支計画、設備計画、人員計画などについての基本を学ぶ。								
12	財務戦略	資金調達と金融機関との付き合い方やスタートアップ時の開業計画書を考える。								
13	プレゼンテーション (1)	各自策定の経営計画案を報告する。								
14	プレゼンテーション (2)	各自策定の経営計画案を報告する。								
15	総括	講義全体を振り返りまとめを行う。								
履修上の注意点										
演習、発表を並行して行う。「ファミリービジネスコンサルティング」他講座との関連あり。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
各自ファミリービジネスについて関心のあるテーマを2～3選んでおくこと。										
教科書										
各回毎レジメ										
参考書										
ファミリービジネス白書										

課題に対するフィードバックの方法
授業日または Oh-o! Meiji で全体講評を公開する。
成績評価の方法
授業への貢献度 60%、レポート 40%
その他
講義とディスカッションを基本とする。 できる限り双方向授業を目指す。



科目ナンバ	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)MAN691J	ファミリービジネス コンサルティング					2	1・2年	日本語	安達幸裕		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○	○	○		○		○	○				
授業の概要・到達目標											
<p>(概要)</p> <p>近年、ファミリービジネス（オーナー企業）の数が減少している。日本企業の99%を占めるファミリービジネスの存続は経済全体の活性化に大きく影響する。一方、100年以上続く長寿老舗企業といえども長期的な存続・成長が大きな課題となっている。企業環境が複雑化、多様化が進むなかで、外部からの支援も期待されている。</p> <p>本講義ではファミリービジネスのコンサルティングについて、理論的背景を踏まえながらより実践的視点で学んでいく。経営の主体である経営者と支援者となる外部コンサルティング双方からの視点で内容を理解することを目指す。</p> <p>(到達目標 (Course ILOs))</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファミリービジネスの現状と課題を理解する。</li> <li>2. ファミリービジネス支援者と経営コンサルティングの役割が説明できる。</li> <li>3. 学習した知識を各自の実践の場に当てはめて考え、行動に移す。</li> <li>4. 各自のキャリア開発とコンサルティングの関係を考察する。</li> </ol>											
授業内容											
週	テーマ	内容									
1	イントロダクション	講座の意義、授業の全体像、進め方など概要を説明する。									
2	ファミリービジネスの現状と課題	各白書等からファミリービジネスの実態を外部支援者の役割を中心に把握する。									
3	ファミリービジネスと支援者	企業経営の主体者となる経営者側の視点と支援者となる金融機関やコンサルティング会社の視点およびその関係性を理解する。									
4	ファミリービジネスとコンサルティング	コンサルティングの歴史について学びファミリービジネスコンサルティングの定義を考える。									
5	コンサルティングのフレーム (1)	コンサルティングアプローチの全体像を理解したうえで、経営における理念・価値観の意義・役割について学ぶ。									
6	コンサルティングのフレーム (2)	意思決定の前提となる現状分析の方法を学ぶ。									
7	コンサルティングのフレーム (3)	戦略策定の全体像を理解し、戦略実行の課題を考える。									
8	コンサルティングの実際 (1)	語源を辿りコンサルティングの内容とは何かの理解を深める。									
9	コンサルティングの実際 (2)	コンサルタントのタイプについて考える。									
10	コンサルティングの実際 (3)	実際におけるコンサルティングの種類、分類、顧客ニーズを理解する。									
11	コンサルティングの実際 (4)	外部講師として現役のコンサルタントの話を聞く。									
12	ファミリービジネスコンサルティング事例 (1)	顧客ニーズとコンサルティング提案のマッチングの事例を考える。									
13	ファミリービジネスコンサルティング事例 (2)	戦略策定と人材育成コンサルティングの事例を考える。									
14	ファミリービジネスコンサルティング事例 (3)	経営承継コンサルティングの事例を考える。									
15	総括	講義全体を振り返りまとめを行う。									
履修上の注意点											
「ファミリービジネスと経営計画策定」他講座との関連あり。											
準備学習（予習・復習等）の内容											
適宜授業にて個別に提示する。											
教科書											
各回毎レジメ											

参考書
伊丹敬之「よき経営者の姿」日本経済新聞出版社
課題に対するフィードバックの方法
授業日または Oh-o! Meiji で全体講評を公開する。
成績評価の方法
授業への貢献度 60%、レポート 40%
その他
講義とディスカッションを基本とする。 できる限り双方向授業を目指す。

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)MAN661E	International Business	2	1st-2nd Year	English	ベリッツァー マルコ PELLIZZER Marco					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○		○			○	
Course Summary and Objectives										
<p>The course aims to introduce the students to major concepts in international business from the manager's perspective, and will provide students with the knowledge, skills, and abilities to understand the global economic, political, cultural and social environment within which organisations operate.</p> <p>The course presents and explores a wide range of issues relating to the international business environment and applies these considerations to managing international operations. Disciplines such as trade theory and international economics, international finance, organizational theory and business strategy are addressed. Finally, the course examines the strategies and structures of international businesses and assess the special roles of an international business's various functions. It prepares students to formulate and execute strategies, plans, and tactics to succeed in international business ventures.</p> <p>By the end of the course students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● Demonstrate a systematic understanding of, and be able to apply concepts and skills relevant to, the problems of managing and understanding foreign operations.</li> <li>● Critically relate different theoretical perspectives and identify the role and impact of political, economical, social and cultural variables in international business.</li> <li>● Demonstrate critical analytical skills with respect to interpreting global business strategy issues.</li> <li>● Critically analyze business problems from the perspective of the parent and host management of a multinational company from a multi-centric perspective, avoiding ethnocentrism.</li> </ul>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1	Globalization: Past and Future	(1) Introduction to the course (2) The nature of globalization, its development and its recent trends (3) The nature of International business (4) PESTL framework, a systematic tool to approach international business								
2	Country Differences in political, economic and legal systems	(1) Explore the different political and economic systems, and legal environments, and assess the implications for international business ventures. (2) Critical international laws and regulations impacting business across borders. Assess areas of overlap and possible conflict.								
3	International Trade	(1) Trade Theories (2) International Trade and Balance of Payments (3) Government Policies on International Trade - Tariffs, Subsidies, Import and Export Quotas, Local content requirements, Administrative policies, Anti-dumping policies. (4) Arguments for Intervention (5) Recent trends and Developments in International Trade								
4	Regional Economic Integration	(1) Different levels of integration - Free Trade, Customs Union, Common Market, Economic Union, Political Union. (2) Group Presentations - Assignment 1 - Regional Economic Integrations - EU, NAFTA, MERCOSUR, ASEAN, Regional Trade Blocks in Africa.								

5	Technological Change and Infrastructure	(1) Technology as Physical Infrastructure. (2) Technology of Information Infrastructure. (3) Technology of Human Infrastructure. (4) Technology Trends in International Business. (5) Emerging Technology related Risks and Risk Management Strategies.
6	Managing across cultures	(1) Explore what culture is and its impact on business (internally and externally). (2) Cultural frameworks - cross cultural competence, cultural intelligence, cultural orientation frameworks.
7	Cross-cultural communication and negotiation	(1) Explore different aspects of communications: global verbal communications styles; the language of time; corporate language. (2) Global teams (3) Negotiating in a global setting. External Guest Speaker - Managing a diversified and global business. Details of the speaker will be shared closer to the class date).
8	Ethics, Corporate social Responsibility and Sustainability	(1) Explore the responsibilities of companies and their global social, ethical commitments to others. (2) Understand the ethical, corporate social responsibility, and sustainability issues faced by international business and the dilemma they pose. (3) Causes of unethical behaviors by managers. (4) Environmental sustainability. External Guest Speaker - Global rules versus Local Practices. (Details of the speaker will be shared closer to the class date).
9	Teams presentations	This session will be entirely dedicated to students to present their teamwork assignment (Assignment 2). Detailed instructions of the assignment 2 will be provided at the beginning of the course.
10	The Strategy of International Business	The course will now move its focus from the macro environment to the company level and more specifically to the decisions and actions managers must make to be competitive as international business. This session will address: (1) Strategy: value creation, strategic positioning, operations. (2) Global Expansion, Profitability, and Profit Growth. (3) Cost pressures and pressures for local responsiveness. (4) Choosing a strategy. (5) Strategic Alliances.
11	Country Selection and Entry Modes & International Organizational Structures	The first part of the session will deal with: (1) Market Assessment: decide which foreign market to enter. (2) Entry modes: export, turnkey projects, licensing, Franchising, Joint. Ventures, Wholly Owned Subsidiaries. (3) Selecting an entry mode mitigate risks. (4) Strategic options: make, buy, ally. The second part of the session will cover: (1) Types of Organizational Structures. (2) Organizational Control systems. (3) Reducing the need for coordination's among subsidiaries. (4) Horizontal subsidiary coordination.
12	Global Marketing and Business Analytics	(1) Market Segmentation (2) Business Analytics (3) Product Attributes (4) Distribution Strategy (5) Communication Strategy (6) Pricing Strategy (7) Product Development and R&D

13	Global Human Resource Management	(1) Strategic role of Global Human Resource Management (2) Staffing policies (3) Training and Management Development (4) Performance Appraisal and Compensation (5) Building a Diverse Global Workforce (6) International Labour Law Relations
14	Global Leadership	(1) The profiles of global managers (2) The traditional decision-making process and its limitations (3) Cultural differences in decision making styles (4) Cognitive biases (5) Strategic decision-making models (6) Explore features of a global manager External Guest Speaker - Global Leadership in Action (Details of the speaker will be shared closer to the class date).
15	Conclusion	The last session will be used to administer the final exam.
<b>Prerequisites and registration requirements</b>		
Foundational knowledge of business subjects and economics		
<b>Preparation and Review</b>		
In the course of each class, detailed instructions will be provided of the material students are expected to review, study and prepare, in addition to the textbook and supplementary references provided below.		
<b>Textbook(s)</b>		
International Business: International Adaptation, Third Edition by Shad Morris, James Old Royd, Wiley, 3rd Edition International Management, A stakeholder Approach, by Peter Stanwick and Sarah Stanwick, Elgar		

Reference(s)
<p>These references are not mandatory reading, rather are intended to be supplementary readings available to the students to explore the topics in more detail.</p> <p>Text books</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Global Business Today, Charles W.L. Hill and G. Thomas M Hunt, McGraw Hill Education, 11th edition</li> <li>- International Business, The Challenges of Globalization, John J. Wild, Kenneth L. Wild, Publisher: Pearson; 9 edition (1 May 2019)</li> <li>- International Business Competing in the Global Marketplace 14e Paperback, Charles W. L. Hill, McGraw Hill</li> </ul> <p>Lesson 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Joseph E. Stiglitz, 'Globalization and its Discontents'</li> <li>- Ronald Buye, 'Critical examination of the PESTLE Analysis Model'</li> <li>- Francis Fukuyama, The End of History</li> </ul> <p>Lesson 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Paul J Davies, 'HK regulator files E&amp;Y China secrecy test case', Financial Times, August 29 2012. Link: <a href="https://www.ft.com/content/13e9cd1c-f0ea-11e1-89b2-00144feabdc0">https://www.ft.com/content/13e9cd1c-f0ea-11e1-89b2-00144feabdc0</a></li> <li>- Office of Foreign Assets Control. Link: <a href="https://ofac.treasury.gov/">https://ofac.treasury.gov/</a></li> <li>- Penalties enforcement: <a href="https://ofac.treasury.gov/civil-penalties-and-enforcement-information">https://ofac.treasury.gov/civil-penalties-and-enforcement-information</a></li> </ul> <p>Lesson 3</p> <p>Lesson 6 / 7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- The Culture Map: Breaking Through the Invisible Boundaries of Global Business, Erin Meyer</li> <li>- Etinson, A. "Some Myths About Ethnocentrism", Australasian Journal of Philosophy (2018), Vol. 96, No. 2, pp. 209-224. <a href="https://doi.org/10.1080/00048402.2017.1343363">https://doi.org/10.1080/00048402.2017.1343363</a></li> </ul> <p>Lesson 8</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- A. B. Carroll, 1991. The Pyramid of Corporate Social Responsibility: Towards the Moral Management of Organizational Shareholders. Business Horizons. July-August: 39-48.</li> <li>- GlaxoSmithKline fined \$490m by China for bribery, Published by BBC, 19 September 2014. Link: <a href="https://www.bbc.com/news/business-29274822">https://www.bbc.com/news/business-29274822</a></li> </ul> <p>Lesson 15</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Mark E. Mendenhall, B. Sebastian Reiche, Allan Bird, Joyce S. Osland, Defining the "global" in global leadership, Journal of World Business, Volume 47, Issue 4, October 2012, pp. 493-503.</li> <li>- Green S., Hassan F., Immelt J., Marks M. and Meiland D., 'In Search of Global Leaders', Harvard Business Review, August 2003 - link: <a href="https://hbr.org/2003/08/in-search-of-global-leaders">https://hbr.org/2003/08/in-search-of-global-leaders</a>.</li> <li>- Bird A., 'The Challenge of Developing Global Leaders While Adapting to Global Environmental', Journal of Strategic Management Studies, Vol. 12, No. 2, 99-103.</li> </ul>
<b>How to provide Feedback to assignments</b>
Feedback assignment will be provided in writing to each assignment and exam.
<b>Grading and Evaluation</b>
20% class participation and contribution 20% Group Assignment 1 30% Group Assignment 2 30% Final Exam 3
<b>Other</b>

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	経営組織論	2	1・2年	日本語	野田 稔					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>Course ILO 経営組織論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>組織構造論、組織過程論などマクロ組織論の概要を理解する。</li> <li>組織デザインの演習を通じ、組織の組み立て方を疑似体験し、組織作りの基礎を学ぶ。</li> <li>将来、経営者として組織を構築・運営する際、悩んだときに学び直せる力を身につける。読むべき本を知る、検索すべきテクニカルタムを知るなどの学び直しのための基礎知識を身につける。</li> </ul> <p>組織論は大きく「マクロ組織論」と「ミクロ組織論」の二つに分類することが出来る。</p> <p>経営組織論はこのうちの「マクロ組織論」を取り扱う（ちなみに「ミクロ組織論」は組織行動論で扱う）。マクロ組織論は組織の形態を考察する「組織構造論」と、分業と調整をいかに果たしていくかを考察する「組織過程論」から主に成り立つ。本講義ではこの二つの領域を主として扱い、マクロ組織論の基本的な理論を学ぶ。加えて、近年語られることの多いグループ経営の問題や、ネットワーク組織論の概念についても議論を進めたい。経営組織論において、組織構造論と組織過程論の研究を通じて我々が目指すべきところは、組織デザイン力を向上させることである。組織をデザインするとはいかなることか、効果的な組織を構築するために考慮すべき点は一体何か、など理論だけでなくとどまらず理論の実践を念頭において講義を行う。講義は主として野田からのレクチャーを中心に行うが、学生同志のグループディスカッションや全体での討議も適宜織り交ぜる予定である。受講者に組織論に関する知識は要求しないが、自らの今までの組織体験を重視し、概念・理論と実体験との対比を行いながら議論を進める方法をとりたい。ゆえに、講義中の議論への積極的な参加が前提となることを銘記されたい。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション～マクロ組織論を学ぶ	組織とは何か？マクロ組織論とミクロ組織論の全体を概観する。								
2	組織構造論(1) 組織構造論の歩み	マックス・ウェーバーから始まる公式的組織に関する諸説を概観する。組織論の流れを感覚的につかんで欲しい。								
3	組織構造論(2) コンティンジェンシー理論	組織構造論の代表的な考え方であるコンティンジェンシー理論の成立とその内容について考察する。								
4	組織デザイン(1) 戦略と組織	戦略は環境に従い、組織は戦略に従う。故に組織は環境に従う。環境と組織の対応関係はコンティンジェンシー理論で述べる通りだが環境と組織の媒介変数である戦略について組織論的に考察したい。								
5	組織デザイン(2) 組織デザインの実際	分業と調整機能。組織デザインの2大要素を具体的に小組織を設計するにはどう扱うのか。具体的な方法論を解説する。								
6	組織デザイン(3) 組織の基本形	組織をまったく白紙からデザインする人は少なからう。手本とするプロトタイプがあって、これを手本に設計するのが通例だ。組織デザインの基本形をここでは学ぶ。								
7	組織デザイン(4) 分業の理論	分業には垂直分業、水平分業、機能別分業、並行分業などのタイプがある。分業の基本理論について理解する。								
8	組織デザイン(5)	組織デザインの総括を行う。実際にある企業の戦略に合わせて新たな組織デザインを行う。								
9	新しい組織形態(1)	組織をとりまく環境の変化を改めて認識し、組織に求められる要件を明らかにする。								
10	新しい組織形態(2)	新たな組織要件を満たす組織形態とはいかなるものであるかを示す。ホラクラシー、ディールといった概念を学ぶ。								

11	組織過程論(1) 調整の理論	組織デザインの次なるステップは分業した機能の相互調整である。事前調整としての標準化、事後調整としての階層化、直接的調整の可能性などの調整の理論を学ぶ。
12	組織過程論(2) コンフリクトの調整	組織を運営する上でコンフリクトは悪意のありなしに関わらず想定せざるを得ない大きな問題である。組織内のコンフリクトはいかにして解消されるべきであろうか。基本的な考え方を学ぶ。
13	ネットワーク組織論(1)	マクロ組織論の最後のテーマは組織間連携の問題である。親会社・子会社のグループ組織問題、企業間ネットワークの成功例など、組織と組織の関連性の問題に焦点を当てる。
14	ネットワーク組織論(2)	同上。
15	マクロ組織論の総括	講義全体を通じて学んだマクロ組織論の諸問題について包括的に議論する。学生各自は本コースで学んだ組織デザインの知見についてシェアリングすると共に疑問点を十分解消して欲しい。
履修上の注意点		
特になし。		
準備学習(予習・復習等)の内容		
講義後、自らのノートを見直すこと。		
教科書		
特に設定しない。		
参考書		
「組織論再入門(野田稔著、ダイヤモンド社)」		
課題に対するフィードバックの方法		
最終レポートに関するフィードバックを Oh-o! Meiji 上に掲載する		
成績評価の方法		
(1) 講義への積極的参加(発言、発表、質問、参加態度など)ならびにクラスへの貢献(40%) (2) 最終レポート成績点(60%)とする。		
その他		
組織論の知識は必要としないが今までの経験から組織についての興味は高めておいて欲しい。日常的に組織問題に興味を持ち疑問、意見を持つように努めて欲しい。		

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	組織行動論	2	1・2年	日本語	野田 稔					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○		○	○					○	
授業の概要・到達目標										
<p>Course ILO 組織行動論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モチベーション理論、リーダーシップ論などマイクロ組織論の概要を理解する。</li> <li>組織の中における人間行動を理解し、人間の多様性を受容できるマインドセットを身につける。</li> <li>将来、経営者として組織を構築・運営する際、悩んだときに学び直せる力を身につける。読むべき本を知る、検索すべきテクニカルタームを知るなどの学び直しのための基礎知識を身につける。</li> </ul> <p>組織論は大きく「マクロ組織論」と「マイクロ組織論」の二つに分類することが出来る。</p> <p>組織行動論はこのうちの「マイクロ組織論」を取り扱う（ちなみに「マクロ組織論」は経営組織論で扱う）。マイクロ組織論は組織の中で個人がいかに行動するかを分析・コントロールする学問である。人は組織の中で高貴かつ知的な振る舞いもする反面、卑しくおろかな振る舞いもする存在である。組織の中の人の振る舞いを、客観的ではあるが温かい目で観察してみたい。組織の中の人の振る舞いを当事者感覚で捉える視点を大切にしつつ講義を進めたい。講義は主として野田からのレクチャーを中心に行うが、学生同志のグループディスカッションや全体での討議も適宜織り交ぜる予定である。受講者に組織論に関する知識は要求しないが、自らの今までの組織体験を重視し、概念・理論と実体験との対比を行いながら議論を進める方法をとりたい。ゆえに、講義中の議論への積極的な参加が前提となることを銘記されたい。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション～マイクロ組織論の位置付けと本コースの概要	マクロ組織論とマイクロ組織論の関係性を明らかにする。マイクロ組織論が今日なぜ隆盛を極めていくかの議論にも触れる。								
2	組織行動論の流れ	ホーソン工場実験に端を発する組織行動論はいかなる経緯を経て今に至るのであろうか。人を中心とする経営論の系譜を概観する。								
3	動機付けの理論(1)	人の動機とは何か？人と組織の係わり合いの基本はどう変化したか？人の動機付けの基本を理解する。								
4	動機付けの理論(2)	内発的動機付けを中心に、人が自立的に動機付くメカニズムについて考察する。								
5	リーダーシップ論(1)	人をリードするとはいかなる行為であろうか。リーダーシップの本質に迫り、その基本的概念を理解する。本コースのメイン講義である。								
6	リーダーシップ論(2)	リーダーシップの基本理論を踏まえたうえで、人の心を根本から動かす「新のリーダーシップ」は何を源泉として生まれるのだろうか。心を動かすリーダーシップの事例を参考に、コミットメントを引き出すリーダーシップについて考える。								
7	リーダーシップ論(3)	自らのリーダーシップスタイルを知り、自らのリーダーとしての成長を考える。								
8	組織文化と組織アイデンティティ	組織文化組織風土とは何か。組織文化はいかに形成され、社員の行動にいかに関与を及ぼすかを学ぶ。社会的規範の意味とそのマネジメントについて学ぶ。								
9	組織開発(OD)①～組織変革の方法論	活性化した組織とは何か？組織を活性化するにはいかなることかを学ぶ。組織を健全にするための総合的方法論としての組織開発の全体像をつかむ。								
10	組織開発(OD)①～組織変革の方法論	同上								
11	組織開発(OD)②～学習する組織とイノベーション	組織が学習するとはどのようなことか。メンバーが自立的自律的に学び、成長できる組織をいかに作り上げるかを考察する。さらに、イノベティブな組織とは何かを学ぶ。								

12	組織開発(OD)③～組織市民行動(OCB)	組織市民行動(OCB)とは何か、その意義と展開の方法について学ぶ。
13	組織としての意思決定(1)	人は数多くの意思決定上のミスをする。後から考えれば理解しかねるようなミスも多い。また集団になると一人の時とは異なる意思決定上の問題も生じる。そのメカニズムを考える。
14	組織としての意思決定(2)	同上。
15	マイクロ組織論の総括	講義全体を通じて学んだマイクロ組織論の諸問題について包括的に議論する。学生各自は本コースで学んだ組織行動論の知見についてシェアリングすると共に疑問点を十分解消して欲しい。
履修上の注意点		
可能な限り「HRM・人材育成論」も履修すること。ただし必須ではない。		
準備学習(予習・復習等)の内容		
講義後、自らのノートを見直すこと。		
教科書		
特になし。		
参考書		
「組織論再入門(野田稔著、ダイヤモンド社)」他適宜講義中に指示する。		
課題に対するフィードバックの方法		
最終レポートに関するフィードバックを Oh-oi Meiji 上に掲載する		
成績評価の方法		
(1) 講義への積極的参加(発言、発表、質問、参加態度など)ならびにクラスへの貢献(40%) (2) 最終レポート成績点(60%)とする。		
その他		
組織論の知識は必要としないが今までの経験から組織についての興味は高めておいて欲しい。日常的に組織問題に興味を持ち疑問、意見を持つように努めて欲しい。		



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	HRM・人材育成論	2	1・2年	日本語	野田 稔					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
Course ILO HRM・人材育成論										
<ul style="list-style-type: none"> <li>人事管理（評価と処遇・タレントマネジメント・ダイバーシティマネジメント）・雇用と正社員問題・採用問題など並びに人材育成に関する基本的知識を学び、HRM領域のテクニカルタームを理解する。</li> <li>HRM・人材育成領域の企業における現実的問題を理解し、その対処法に関して議論を通じた疑似体験する。</li> <li>グループディスカッションの経験を通じて、効果的なミーティングファシリテーション、プレゼンテーションを身につける。</li> <li>将来、経営者として組織を構築・運営する際、悩んだときに学び直せる力を身につける。読むべき本を知る、検索すべきテクニカルタームを知るなどの学び直しのための基礎知識を身につける。</li> </ul>										
<p>「会社勤めをしている人の最大関心事は人事。自分に関する人事はもちろんのこと他人の人事も気にかかる。」—こういった表現で言われる“人事”とは一般には人事異動と評価・処遇に関する一連の人材マネジメントの結果をさす。社員に関心の高い人事ではあるが、（それ故に言うべきか）必ずしも社員から好意的に受け止められているとは限らない。自社の人事に関して不満を抱く社員がまったくいない会社は稀であろう。人事の問題は難しい。みんなが関心を持っていて、しかもみんなに配分できる原資（人件費やポスト）が圧倒的に不足しているとすれば当然だ。しかし、人的資源（ヒューマン・リソース）を適切に管理できないと企業は維持できない。HRMには人材調達（採用）、人材開発（育成）、人材活用（異動）、人材評価・処遇、福利厚生、人材ポートフォリオなど実に様々な分野が含まれる。本コースではどこかのファンクションに偏ることなく、広く扱っていききたい。人材育成に関しては、理論だけでなく実際のケースを利用しながら議論したい。HRM・人材育成（演習）とはセットで講義を進めるため、両コースを受講してもらいたい。受講者にHRM論に関する知識は要求しないが、自らの今までの職務体験を重視し、概念・理論と実体験との対比を行いながら議論を進める方法をとりたい。ゆえに、講義中の議論への積極的な参加が前提となることを銘記されたい。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	HRMの基本概念と人材育成 HRM・人材育成論で取り扱う領域の全体像を確認する。								
2	評価と処遇① （評価の理論と歴史の変遷）	人事評価に関する基礎的な概念を理解し、我が国企業における評価の変遷を知る。処遇の体系に関して理解する。								
3	評価と処遇② （成果主義とコンピテンシー評価）	成果主義とは何かを理解し、その問題について考える。コンピテンシー評価について理解する。								
4	正社員問題と人材の流動化	社会問題化している非正規労働の問題と日本固有の考え方である“正社員”に関して考える。								
5	ダイバーシティマネジメント	なかなか進まない我が国のダイバーシティに関して考える。								
6	これからのタレントマネジメント	タレントマネジメントの目的は社員の全能力発揮を実現するためにある。この概念を理解すると共に、いかにしてこれを実現するかを考える。								
7	人と組織に関する最新トピックス	人と組織を考える上でおさえるべき最新のトピックスについて学ぶ。								
8	人材育成の基本概念とその変遷	企業にとって人材育成するとはいかなる意味を持つのか、基本的な概念を理解し、その変遷について知る。								
9	研修プログラムの作成	人材育成の中核とも言える研修プログラムの実際的な作成方法を学ぶ。								
10	人材育成プログラムの検討①	新入社員導入研修、階層別研修、管理職研修などの基本的な人材育成プログラムに関して学ぶ。								
11	人材育成プログラムの検討②	リーダーシップ研修、次世代経営者育成研修などに関して学ぶ。								

12	人材育成プログラムの検討③	異業種交流研修、意識改革研修など、組織開発を指向した研修プログラムに関して学ぶ。
13	OJTの理論と実際	企業の人材育成の中心であるOJTに関して理解を深める。
14	キャリアデザインの推進	企業が社員のキャリア自立が必要と叫ばれるが、その意義を知り、キャリア自立をいかにして測るべきか考える。
15	組織開発と人材育成	組織活性化は企業にとって重要であるが、我が国においては発展途上である。組織開発の方法論に関して理解を深める。
履修上の注意点		
HRM・人材育成論（演習）との連続履修を必須とする。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
講義後、自らのノートを見直すこと。		
教科書		
特になし。レジュメを用いて講義する。		
参考書		
講義中に適宜示す。		
課題に対するフィードバックの方法		
毎回の講義で行われる学生のグループ発表に対して、講義中にフィードバックする		
成績評価の方法		
講義への積極的参加（発言、発表、質問、参加態度など）ならびにクラスへの貢献40%、期末レポート60%で評価する。		
その他		



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	HRM・人材育成論(演習)	2	1・2年	日本語	野田 稔					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○					○	
授業の概要・到達目標										
<p>Course ILO HRM・人材育成論(演習)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人事管理(評価と処遇・タレントマネジメント・ダイバーシティマネジメント・雇用と正社員問題・採用問題など並びに人材育成に関する基本的知識を学び、HRM領域のテクニカルタームを理解する。</li> <li>HRM・人材育成領域の企業における現実的問題を理解し、その対処法に関して議論を通じた疑似体験をする。</li> <li>グループディスカッションの経験を通じて、効果的なミーティングファシリテーション、プレゼンテーションを身につける。</li> <li>将来、経営者として組織を構築・運営する際、悩んだときに学び直せる力を身につける。読むべき本を知る、検索すべきテクニカルタームを知るなどの学び直しのための基礎知識を身につける。</li> </ul> <p>「会社勤めをしている人の最大関心事は人事。自分に関する人事はもちろんのこと他人の人事も気にかかる。」—こういった表現で言われる“人事”とは一般には人事異動と評価・処遇に関する一連の人材マネジメントの結果をさす。社員に関心の高い人事ではあるが、(それ故にと言うべきか)必ずしも社員から好意的に受け止められているとは限らない。自社の人事に関して不満を抱く社員がまったくいない会社は稀であろう。人事の問題は難しい。みんなが関心を持っていて、しかもみんなに配分できる原資(人件費やポスト)が圧倒的に不足しているとなれば当然だ。しかし、人的資源(ヒューマン・リソース)を適切に管理できないと企業は維持できない。HRMには人材調達(採用)、人材開発(育成)、人材活用(異動)、人材評価・処遇、福利厚生、人材ポートフォリオなど実に様々な分野が含まれる。本コースではどこかのファンクションに偏ることなく、広く扱っていきたい。人材育成に関しては、理論だけでなく実際のケースを利用しながら議論したい。HRM・人材育成とはセットで講義を進めるため、両コースを受講してもらいたい。受講者にHRM論に関する知識は要求しないが、自らの今までの職務体験を重視し、概念・理論と実体験との対比を行いながら議論を進める方法をとりたい。ゆえに、講義中の議論への積極的な参加が前提となることを銘記されたい。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	HRM・人材育成論に関するシェアリング	開講にあたり、クラスにおけるチームビルディングを行う目的でHRM・人材育成に関する経験の共有を行う。								
2	評価と処遇①(演習)	評価の変遷を理解した上で、我が国企業の人事評価の特性を議論する。								
3	評価と処遇②(演習)	成果主義の概念並びにコンピテンシーについて理解した上で、これからの人事評価のあり方に関して議論する。								
4	正社員問題と人材流動化(演習)	非正規社員問題ならびに人材の流動化問題を今後どのように解決するかを考える。								
5	ダイバーシティマネジメント(演習)	企業におけるダイバーシティの推進について議論する。								
6	タレントマネジメント(演習)	企業におけるタレントマネジメントのあり方について議論する。								
7	人と組織に関する最新トピックス	トピックス各々についてディスカッションにより考察を含める。								
8	企業戦略と人材育成(講義)	企業の戦略実現の手段としての人材育成と個人のキャリアパスをいかにシンクロナイズするかに関して考える。								
9	研修プログラムの作成(演習)	研修プログラム作成の方法論を学んだ上で、実際に研修プログラムを設計してみる。								
10	人材育成プログラムの検討①(演習)	階層別研修を実際に設計し、運用上の課題について考える。								
11	人材育成プログラムの検討②(演習)	次世代経営者育成プログラムを実際に設計し、運用上の課題について考える。								

12	人材育成プログラムの検討③(演習)	意識改革プログラムを実際に設計し、運用上の課題について考える。
13	OJTの実践に関する議論	OJTをいかにすすめるかについてディスカッションする。
14	キャリアデザインに関する議論	キャリア開発をいかにすすめるかについてディスカッションする。
15	人材育成体系構築に関する議論	講義の総括として、会社の人材育成体系を構築する。
履修上の注意点		
HRM・人材育成論との連続履修を必須とする。		
準備学習(予習・復習等)の内容		
講義後、自らのノートを見直すこと。		
教科書		
特になし。レジュメを用いて講義する。		
参考書		
講義中に適宜示す。		
課題に対するフィードバックの方法		
毎回の講義で行われる学生のグループ発表に対して、講義中にフィードバックする		
成績評価の方法		
講義への積極的参加(発言、発表、質問、参加態度など)ならびにクラスへの貢献40%、期末レポート60%で評価する。		
その他		

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)MAN566E	International Family Business(M)	2	1st-2nd Year	English	許 佑旭 HSU Yu-Hsu (Sean)					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○	○	○	○			
Course Summary and Objectives										
<p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Understand the essential concepts and theories of multinational family firms.</li> <li>Critically evaluate the challenges faced by multinational family firms.</li> <li>Identify the problems associated with multinational family firms and offer sound advice.</li> </ol> <p>Building upon the fundamental understanding of family business gained in the previous semester, in this module, topics regarding national culture and internationalisation are incorporated into our study of family businesses. Firstly, we explore family businesses in various cultural settings including the US, Europe and Asia. This provides students with opportunities to analyse critically differences and similarities in terms of management styles and practices generated by the national culture amongst those family businesses. Next, we move on to investigate issues in the context of international family businesses. These issues include entry mode strategies, international human resources, organisation structures and control mechanisms between headquarters and overseas affiliates.</p> <p>Case studies and discussion are the main methods utilised in this module.</p>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1 • 2	<b>Introduction to the module internationalization and family businesses</b>	A brief review of the key concepts of family businesses. The basic concepts of internationalization of firms.								
3 • 4	<b>The challenges faced by multinational family businesses (I)</b>	How does national culture impact multinational family businesses?								
5 • 6	<b>The challenges faced by multinational family businesses (II)</b>	Except for the national culture, other elements which yield challenges to multinational family businesses will be discussed.								
7 • 8	<b>Group project presentation</b>									
9 • 10	<b>Family business in the East</b>									
11 • 12	<b>Family business in the West</b>									
13 • 14	<b>Multinational family business and business ethics</b>									
15	<b>Final presentation</b>									
Prerequisites and registration requirements										
<p>It would be extremely beneficial for students taking this module also to attend the module of 'Family Business' or 'Family Business A'.</p> <p>Participating in discussion is crucial.</p> <p>Please note that this course is provided as an online Media-based course.</p>										
Preparation and Review										
Students should read the material and cases assigned.										
Textbook(s)										
Details will be announced in the first lecture of the semester. Students may be asked to purchase cases if needed.										
Reference(s)										
<p>Casillas, J, Acedo, F. and Moreno, A. ( 2007 ) International Entrepreneurship in Family Businesses. Cheltenham: Edward Elgar Publishing.</p> <p>Gordon, G. and Nicholson, N. (2008) Family Wars: Classic Conflicts in Family Businesses and How to Deal with Them. London: Kogan Page Ltd.</p> <p>Yanagisako, S.J. (2002) Producing Culture and Capital: Family Firms in Italy. New Jersey: Princeton University Press.</p>										
How to provide Feedback to assignments										
Feedback will be offered either verbally or in a written form depending upon the style of assignments.										

Grading and Evaluation
In class participation: 40%
Presentation: 20%
Group Project: 10%
Final Report: 30%
Other

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)MAN566E	Human Resource Management(M)	2	1st-2nd Year	English	許 佑旭 HSU Yu-Hsu (Sean)					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○			○	
Course Summary and Objectives										
<p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understand the basic concept and theories in the field of HRM.</li> <li>2. Demonstrate the challenges associated with HRM encountered by firms and offer sound advice.</li> <li>3. Critically evaluate the advantages and disadvantages of HRM practices.</li> </ol> <p>Human Resource Management (HRM) is a module which provides students with insights into how an economic organisation's competitive advantages can be yielded from and maintained by the effective management of a firm's human resources. Key issues and contemporary problems associated with HRM will be explored and discussed by using case studies since this postgraduate module targets students who have had several years of working experience or who have had a position in management...Case studies are deemed to be an effective method to employ as they not only serve as a platform for mutual learning amongst students in an educational setting, but they also enable students to apply theories/models learnt from the module and equip them with sound analytical skills which will have a significant impact on their future career.</p> <p>Human Resource Management/Human Resource Management A focuses on basic concepts of HRM.</p>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1 • 2	<b>Introduction to the module</b> <b>What is HRM?</b>	Contemporary challenges regarding HRM will also be discussed.								
3 • 4	<b>Staffing and recruitment</b>									
5 • 6	<b>Training</b>									
7 • 8	<b>Motivation and retention</b>									
9 • 10	<b>Group project presentation</b>									
11 • 12	<b>Employee assessment and managing employee performance</b>									
13 • 14	<b>Child Labour and Diversity and HRM</b>									
15	<b>Final Presentation (individual)</b>									
Prerequisites and registration requirements										
Participating in discussion is crucial. Please note that this course is provided as an online Media-based course.										
Preparation and Review										
Students should read the articles and cases assigned.										
Textbook(s)										
There is no textbook for this module. Yet, students may be asked to purchase cases.										
Reference(s)										
<p>Bach, S. and Sission, K. (eds.) (2000) Personnel Management: A Comprehensive Guide to Theory and Practice. Oxford: Blackwell.</p> <p>Chartered Institute of Personnel and Development (CIPD) (2009) Employee Relations: An Overview. Available at <a href="http://www.cipd.co.uk/subjects/empreltns/general/emprelsovr.htm">http://www.cipd.co.uk/subjects/empreltns/general/emprelsovr.htm</a>.</p> <p>Kang, S. Morris, S. and Snell, S. (2007) "Relational archetypes, organizational learning, and value creation: extending the human resource architecture", <i>Academy of Management Review</i>, 32 (1): 236-256.</p> <p>Legge, K. (1995) <i>Human Resource Management: Rhetorics and Reality</i>. Basingstoke: Macmillan Business.</p> <p>Mabey, C. (2008) "Management development and firm performance in Germany, Norway, Spain and the UK", <i>Journal of International Business Studies</i>, 39 (8): 1327-1342.</p> <p>White, G. and Druker, J. (eds.) (2000) <i>Reward Management: A Critical Text</i>. London: Routledge</p>										

How to provide Feedback to assignments
Grading and Evaluation
In class participation: 40% Presentation: 20% Group project presentation: 10% Final Test: 30%
Other

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	M&A 概論	2	1・2年	日本語	岡 俊子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>M&amp;A は、企業が持続的成長を実行するために活用できる重要な経営のツールである。</p> <p>本授業では、M&amp;A の歴史を振り返り、M&amp;A をとりまく環境、M&amp;A の意義をカバーしたうえで、バリュエーション（企業価値評価）、M&amp;A の手法、TOB、アクティビストの動向、同意なき買収、利益相反が起こる構造などをみていく。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>わが国における M&amp;A の歴史、昨今の M&amp;A をとりまく環境と課題を理解する。</li> <li>会計とファイナンスのつながりや違いを理解する。</li> <li>事業価値・企業価値・株主価値の違いを理解し、企業価値の算定ができるようになる。</li> <li>M&amp;A の手法を理解したうえでスキーム作りの際に何をどう考慮すべきかを理解する。</li> <li>アクティビストなど、昨今の M&amp;A にまつわるテーマを理解する</li> <li>M&amp;A 取引における利益相反の構造と公正性担保措置を理解する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	企業はなぜ M&A に向かうか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ昨今 M&amp;A が増加しているのか</li> <li>わが国における M&amp;A の歴史を振り返る</li> <li>プラザ合意（1985 年）以降の M&amp;A の特徴をさぐる</li> </ul>								
2.	企業価値を理解するための会計のレビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>M&amp;A の世界では貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書をどうみるか？</li> </ul>								
3.	ファイナンスの観点からみる財務諸表、財務指標（ROA と ROE）、エクイティ（自社株買い）	<ul style="list-style-type: none"> <li>会計とファイナンスの橋渡し、</li> <li>財務諸表をファイナンスの見方で組み替えてみる</li> <li>ROA・ROE とは？</li> <li>エクイティはどういう構造になっているか？</li> <li>自社株買いとはどういう意味があるのか？</li> </ul>								
4.	企業価値・事業価値・株主価値の概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>この3つの価値の違いを明確に理解する</li> <li>バリュエーションの手法について理解する</li> <li>価値算定の目的と状況により、どの手法が最適かを理解する</li> </ul>								
5.	テスト&資本コストとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト1回目</li> <li>資本コストの定義、資本コストの算定方法</li> <li>資本コストがなぜ重要か？</li> </ul>								
6.	資本効率性と ROIC	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ今資本コストが声高に言われるのか？</li> <li>資本コストは高いほうが良いか？低いほうが良いか？</li> <li>資本効率性をみるための ROIC とは？</li> </ul>								
7.	バリュエーション：DCF 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>DCF 法をステップ毎に手計算しながら、DCF 法の構造を理解する</li> <li>自己学習としてエクセルで演習するケースを準備してある。</li> </ul>								
8.	バリュエーション：マルチプル他	<ul style="list-style-type: none"> <li>マルチプルの計算方法を理解する</li> <li>市場株価法、純資産法について理解する</li> <li>各手法で算定した結果が何を意味するかを理解する</li> </ul>								
9.	M&A の手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOB の仕組みを理解する</li> <li>株式交換、合併などの株対価の手法を理解する</li> <li>第三者割当増資について理解する</li> <li>企業対ではなく、事業を譲渡する仕組みについて理解する</li> </ul>								
10.	テスト&桐生工業のケース	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト2回目</li> <li>スキーム作りの際に何を考慮するかを理解する</li> <li>どの M&amp;A の手法を使うと、意図した目的が達成されるのかを、ケースで体験する。</li> </ul>								
11.	非上場化と利益相反取引（MBO と親子上場解消）	<ul style="list-style-type: none"> <li>非上場化する取引に内在する利益相反性</li> <li>MBO（マネジメントバイアウト）とは</li> <li>親子上場解消とは</li> </ul>								

12.	関西スーパー事件	<ul style="list-style-type: none"> <li>関西スーパーをめぐる2社の戦いは、TOB と株式交換だった。</li> <li>なぜ手法が異なったのかを理解する</li> <li>特別委員会がどういう役割を果たしたのかを理解する</li> <li>経済合理性だけでは判断できない株主の行動についてみていく</li> <li>株主総会におけるプロクシーの仕組みについてみていく</li> </ul>
13.	同意なき買収（敵対的買収）、アクティビスト、株主提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国における同意なき買収の最近の動向と具体的なケース</li> <li>アクティビストの活動の実態と具体的事例</li> <li>株主提案が増えている実態</li> </ul>
14.	テスト&東芝から学ぶこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト3回目</li> <li>東芝のケースをみていく</li> </ul>
履修上の注意点		
<p>貸借対照表（BS）、損益計算書（PL）、キャッシュフロー計算書について基礎知識があることが望ましいが、必要要件ではない。</p> <p>演習でエクセルを用いるため、基本的な使い方については、事前に習得しておくこと。</p> <p>開始後に、受講生の理解状況によって、本シラバスの内容を多少変えることがある。</p>		
準備学習（予習・復習等）の内容		
<p>事前にクラスウェブで配布するマテリアルを予習してくることを。クラス終了後に振り返りをする。</p>		
教科書		
<p>図解&amp;ストーリー「資本コスト」入門 改訂版 中央経済社 岡俊子著            図解&amp;ストーリー子会社売却の意思決定 中央経済社 岡俊子著</p>		
参考書		
必要に応じて指示する		
課題に対するフィードバックの方法		
テスト実施後に、解説の時間を設ける		
成績評価の方法		
議論への参加度合い		50%
中間テスト、最終テスト		50%
その他		

科目ナンバー	授業科目名		単位数	配当年次	使用言語	担当教員				
(GB)MAN691J	M&A 基礎スキル演習		2	1・2年	日本語	岡 俊子				
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○		○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>M&amp;Aは総合格闘技と言われます。  MBAホルダーがM&amp;Aの仕事に携わっていることが多いものです。  M&amp;Aに携わるために必要な基礎スキルを授業のなかで養成します。  この基礎スキルは、一般のビジネスパーソンにとっても、これからの世の中を生き抜くためには必要なスキルです。</p> <p>Course ILOs:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理的思考を身につける。</li> <li>2. PPT技法を身につける。</li> <li>3. プレゼン技法を身につける。</li> <li>4. ファシリテーション技法を身につける。</li> <li>5. 会食時のマナーを身につける。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	MBAホルダーに期待されるスキル・問題解決技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題の特定、要因分析、解決策の提案</li> <li>・あるべき姿の設定、問題の特定、原因の深堀り、解決策の考案</li> </ul>								
2.	ロジカルシンキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループビンゴ</li> <li>・構造化</li> <li>・ピラミッド構造</li> <li>・Why so? So what?</li> <li>・MECE</li> <li>・二項対立</li> <li>・用語のレベル感</li> </ul>								
3.	デザイン思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講義（三菱商事）</li> </ul>								
4.	シナリオプランニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講義（デロイトトーマツコンサルティング）</li> </ul>								
5.	プレゼン技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5W2H</li> <li>・見てくれ</li> <li>・言葉の髭と髭退治</li> <li>・人前で話してみる</li> </ul>								
6-8.	PPT技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙の鉄則</li> <li>・9チャート</li> <li>・縦の論理と横の論理</li> <li>・データ分析</li> <li>・アラインメント</li> <li>・スケジューリング</li> <li>・推敲の技</li> </ul>								
9.	ファシリテーション技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションのやり方</li> <li>・オープニング、ボディ、クロージングという会議の進め方</li> </ul>								
10-12.	プレゼンテーションの実技（評価対象）									
13.	ウィスキーと米国内産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師による講義（元米国大使館員）</li> </ul>								
14.	ワインと米国情勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲスト講師による講義（元外資系証券会社）</li> </ul>								
履修上の注意点										
<p>事前準備は必要ない。  授業開始後に、受講生の理解状況によって、本シラバスの内容を多少変更することがある。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
13回目はウィスキーグラスを一脚、14回目はワイングラスを三脚、自分用に持参してください。										
教科書										
各回ごとに（事前）配布。										
参考書										
<p>図解&amp;ストーリー「資本コスト」入門 改訂版 中央経済社 岡俊子著  図解&amp;ストーリー子会社売却の意思決定 中央経済社 岡俊子著</p>										

課題に対するフィードバックの方法	
講評を Oh-o! Meiji または講義時に、適宜のタイミングで公開する	
成績評価の方法	
議論への参加度合い	30%
アンケート提出	20%
実技	50%
その他	

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	ディールサイクル	2	1・2年	日本語	岡 俊子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○				○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>M&amp;Aは、持続的成長を実行するための重要な経営のツールである。本授業では、「マツモト電工」という架空の会社が「杉森メディコ」を買収するという題材を用いて、ディールをケーススタディ形式で疑似体験する。</p> <p>Course ILOs:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレM &amp; Aにおいて何をすべきかについて学ぶ。</li> <li>2. M&amp;Aを実行するエグゼキュションにおいて何をどう実行するかを学ぶ。</li> <li>3. ポストM&amp;Aにおいて統合作業をスムーズに進めるための要諦を掴む。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	経営戦略とM&A戦略:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M&amp;Aを実施することを前提とした経営戦略の作り方</li> <li>・M&amp;A戦略と経営戦略は何か違うのか。中計はどう位置付けられるのか</li> <li>・思考を助けてくれる便利なフレームワークの紹介</li> </ul>								
2.	何を達成するためのM & A? :	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買収目的を明確化するにはどういうことか</li> <li>・マツモト電工のケース紹介</li> <li>・社内でのディール検討体制</li> <li>・ちょっと寄り道: 自社が売却されることについて</li> </ul>								
3.	セットアップ:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実現可能性と魅力度によってディールの優先順位を決める</li> <li>・ディールを支援してくれるプロフェッショナル(アドバイザー、弁護士、コンサルティング会社など)のリテイン</li> </ul>								
4.	テスト&講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、アプローチと推進体制について解説する</li> <li>・誰がいつどのように対象会社にアプローチすべきか? その際の留意点とは?</li> </ul>								
5.	デューデリジェンス(DD):	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象会社が買収意向を受け入れた後に実施するデューデリジェンスとはどういうものか</li> <li>・DDでは、どういうプロセスで作業が進められるのか</li> <li>・財務DD、税務DD、法務DD、ビジネスDD、その他のDDの概要</li> </ul>								
6.	ビジネスDDと売り手視点:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスDDにおいて何を実施するか</li> <li>・モデリングのやり方</li> <li>・ビジネスDDを仕事としたい方、ビジネスDDをする立場の経営企画の方へのティップス</li> </ul>								
7.	買い手にとってのバリュートとプライシング:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M&amp;Aが高値つかみになる構造を解説</li> <li>・買い手が考慮しなければいけない取引コスト</li> <li>・セラーズバリュー、スタンドアロンバリュー、バイヤーズバリューとはどういうものか?</li> </ul>								
8.	対象会社のジレンマとAcquihiring:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライシングにおける対象会社の関与</li> <li>・対象会社の経営陣や社員のモチベーション</li> <li>・人を獲得するためのM &amp; Aの難しさ</li> </ul>								
9.	テスト&講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、契約からクロージングまでをみる</li> <li>・M&amp;Aでは、どういう契約書を締結しているか</li> <li>・表明保証とは</li> </ul>								
10.	ゲスト講師による講義:	弁護士に外部講師として登壇してもらう予定								
11.	取締役会決議とコーポレートガバナンス:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い手は機関決定を通して情報開示するが、昨今のコーポレートガバナンスの環境下、社外取締役とのコミュニケーションはどうすべきか?</li> <li>・執行と監督を分ける会社が増えてきているが、M&amp;Aにおいてはどこまでが執行か? この線引きが難しい背景</li> </ul>								

12.	セカンドDDとPMI:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セカンドデューデリジェンスの実態</li> <li>・100日プラン、グループ子会社に対するガバナンス体制</li> </ul>
13.	グループ経営とダイバーシティ&インクルージョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クロージング直後のことをPMIと言うが、グループ経営のこと。</li> <li>・グループ経営で何が重要かを解説する</li> <li>・ダイバーシティ&amp;インクルージョンについて、皆で議論する</li> </ul>
14.	テスト&講義:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は、カーブアウト型M &amp; Aについて</li> </ul>
履修上の注意点		
バリュエーションに関する基礎知識があること(M&A概論の受講でも可)が望ましいが、必要要件ではない。 秋学期開始後に、受講生の理解状況によって、本シラバスの内容を多少変更することがある。		
準備学習(予習・復習等)の内容		
事前にクラスウェブで配布するマテリアルを予習してくること。 クラス終了後に振り返りをする。		
教科書		
各回ごとに、クラスウェブ上で事前配布する。		
参考書		
図解&ストーリー「資本コスト」入門 改訂版 中央経済社 岡俊子著 図解&ストーリー子会社売却の意思決定 中央経済社 岡俊子著		
課題に対するフィードバックの方法		
中間テストと最終テスト実施後に、解説の時間を設ける		
成績評価の方法		
テスト	50%	
授業への参加度合	50%	
その他		



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	プライベートエクイティファンド概論	2	1・2年	日本語	岡 俊子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○				○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>ゲスト講師を招聘するオムニバス方式のクラスである。プライベートエクイティファンドの業界関係者を招聘する。わが国における PE ファンドの歴史は、まだ数十年に過ぎない。PE ファンドがわが国に持ち込まれたとき、わが国は、不良債権処理に腐心していた時代だった。その頃、ディストレストと分類される PE ファンドが不良債権処理の一端を担っていたため、PE ファンドという「ハゲタカ」と誤解されてきた。</p> <p>本講座では、本来の PE ファンドの役割は何かについて理解を深める。PE ファンドの世界では、人間としての付き合いが基礎にある。どうやって企業の経営者とコミュニケーションをとるのかについてもゲスト講師に語ってもらう。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. PE ファンドとは何か? PE ファンドの投資環境や歴史について理解する。</li> <li>2. 我が国の PE ファンドの社会的な役割を理解する。</li> <li>3. PE ファンドのファンドレイズから EXIT までの機能を理解する。</li> <li>4. PE ファンドと事業会社とのからみについて理解する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	講義：わが国の PE ファンド、PE ファンドのユニバース	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プライベートエクイティの定義を確認する</li> <li>・PE と VC の相違点を理解する</li> <li>・わが国における PE ファンド誕生からの歴史をみていく</li> </ul>								
2.	ゲスト講師：戦略系コンサルティング会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・BCG のパートナーを招聘し、戦略系コンサルティング会社と PE ファンドとの仕事上の係りを語ってもらう</li> <li>・コンサルティング会社からみた各 PE の特徴についても語ってもらう</li> </ul>								
3.	ゲスト講師：PE ファンドからの投資を受けた事業会社の経営陣による講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PE ファンドからアポイントされた会社の経営について語ってもらう</li> </ul>								
4.	講義：PE のファンドレイズ	<p>ミニテスト①：1 回目の講義内容から            チェーミング：6 回目以降のゲスト講師について受講者によるプレゼンテーションのチェーミング</p>								
5.	ゲスト講演：外資系 PE ファンドのファンドマネージャーによる講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外資系 PE ファンドの特徴について語ってもらう</li> </ul>								
6.	プレゼンテーション：7 回目と 8 回目のゲスト講師の PE について受講者によるプレゼンテーション	<p>講義：PE のバリューアップ            ミニテスト②：4 回目の講義内容から</p>								
7.	ゲスト講演：国内 PE ファンドのファンドマネージャーによる講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内系 PE ファンドの特徴について語ってもらう</li> </ul>								
8.	ゲスト講演：国内 PE ファンドのファンドマネージャーによる講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内系 PE ファンドの特徴について語ってもらう</li> </ul>								
9.	プレゼンテーション：10 回目と 11 回目のゲスト講師の PE について受講者によるプレゼンテーション	<p>講義：PE の EXIT            ミニテスト③：6 回目の講義内容から</p>								
10.	ゲスト講演：国内 PE ファンドのファンドマネージャーによる講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内系 PE ファンドの特徴について語ってもらう</li> </ul>								

11.	ゲスト講演：国内 PE ファンドのファンドマネージャーによる講話	・国内系 PE ファンドの特徴について語ってもらう
12.	プレゼンテーション：13 回目と 14 回目のゲスト講師の PE について受講者によるプレゼンテーション	講義：ESG と SDGsT ミニテスト④：9 回目の講義内容から
13.	ゲスト講演：国内 PE ファンドのファンドマネージャーによる講話	・国内系 PE ファンドの特徴について語ってもらう
14.	ゲスト講演：国内 PE ファンドのファンドマネージャーによる講話	・国内系 PE ファンドの特徴について語ってもらう
履修上の注意点		
<p>基本的な M&amp;A の用語について理解している (M&amp;A 概論の受講でも可) ことが望ましい。</p> <p>授業開始後に、受講生の理解状況によって、本シラバスの内容を多少変えることがある。</p> <p>ゲスト講師の日程により、順番が前後する可能性がある。</p>		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
<p>受講者には、輪番制で、プレゼンテーションを実施してもらう。担当は、4 回目のクラスで決定する。</p>		
教科書		
特になし。		
参考書		
<p>図解&amp;ストーリー「資本コスト」入門 改訂版 中央経済社 岡俊子著            図解&amp;ストーリー子会社売却の意思決定 中央経済社 岡俊子著</p>		
課題に対するフィードバックの方法		
<p>アンケートのフィードバック等を Oh-ol Meiji または講義時に、適宜のタイミングで公開する</p>		
成績評価の方法		
<p>テスト 50% (4 回のテストのうち、良いスコア 3 つをとる)            クラスへの貢献 30%            プレゼンテーション評価 20%</p>		
その他		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN696J	事業継承と M&A (M)	2	1・2年	日本語	岡 俊子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○				○	○	○	○		○	
授業の概要・到達目標										
<p>事業承継の際、M&amp;A は、一つの重要なツールになる。</p> <p>本授業の前半 12 回では、LIXIL (旧トステムと旧イナックスの合併会社、両社ともオーナー企業) という水回りソリューションの上場会社を題材にして、未公開企業であったオーナー企業がどのように上場の兆円企業に成長していったのか、その足跡を辿りながら、ケーススタディをする。</p> <p>後半の 13～15 回目は、M&amp;A を使って、どのようにオーナー上場企業を成長させていくことができるかを理解することが到達目標である。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未上場時、親の事業を承継するか、否かの判断はどこにあるかを理解する。</li> <li>2. ファミリービジネスにおける M&amp;A を使った成長戦略と実行について理解する。</li> <li>3. IPO (株式公開) を事業承継の手段とすることについて、その考え方やプロセスを整理する。</li> <li>4. オーナー企業同士の合併における課題について理解する。</li> <li>5. オーナー企業が所有と経営の分離をすることはどういうことかを理解する。</li> <li>6. オーナー企業が上場すること、上場企業としてのガバナンスについて理解する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1.	ファミリービジネスの事業承継	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリービジネスの定義</li> <li>・企業と事業の違い</li> <li>・アフターコロナにおける中小企業</li> <li>・非上場企業にとっての事業承継</li> <li>・上場企業であるファミリー企業</li> </ul>								
2.	父の事業を継承しなかった健次郎氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講座で取り上げる LIXIL のケース説明</li> <li>・旧トステムの実質的創業者は同業である父の事業を継承しなかった。その背景を探る</li> <li>・上場前の順風満帆ではなかったトステムの経営をみていく</li> </ul>								
3.	「買収王」健次郎氏の事業拡大策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧トステムのオーナーである潮田家が未上場時代にどのように事業拡大を図ったかを探る</li> <li>・中小企業の M&amp;A 業界、アドバイザー、地域金融機関の中小 M &amp; A に対する取り組み、政府の支援措置の実態を解説する</li> </ul>								
4.	トステムの IPO とグループ会社の上場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧トステムの IPO (株式公開) と IPO 後の経営体制</li> <li>・イナックスとの統合前に実施したボード体制とそれに込めた健次郎氏の思い</li> <li>・子会社を上場させる意味について考える</li> </ul>								
5.	伊奈家という家の承継	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代に遡る歴史を誇る伊奈家の事業承継とは？</li> <li>・養子縁組の活用</li> <li>・伊奈輝三氏の経営哲学</li> <li>・森村グループの一員としての矜持</li> </ul>								
6.	経営統合前のイナックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トステムと経営統合する前のイナックスの経営状況のなか、自分だったらトステムと経営統合するか？について議論する</li> </ul>								
7.	トステムとイナックスの経営統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーナー企業同士の統合を後押しした持株会社方式</li> <li>・持ち株会社 (ホールディングス) の在り方</li> <li>・持参金付きの統合について、どう考えるか</li> </ul>								
8.	上場企業における世襲、構造改革が必要となった洋一郎氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上場企業であるオーナー企業の経営承継の在り方</li> <li>・社名変更の意味</li> <li>・世間の洋一郎氏評</li> <li>・時代の変遷とともに事業構造改革が必要となっていた 洋一郎氏はそれにどう取り組んだか？</li> <li>・洋一郎氏が取り組んだガバナンス改革</li> </ul>								

9.	プロの経営者藤森 CEO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洋一郎氏は、外資系企業 CEO を歴任した藤森氏を CEO として招聘</li> <li>・藤森氏は、海外大型 M&amp;A を実行 ところがその M&amp;A は失敗</li> <li>・それを見ていた洋一郎氏は、何を考えたか？</li> </ul>
10.	二代目プロの経営者瀬戸 CEO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今度は日本企業で手腕を発揮したプロ経営者の瀬戸 CEO を招聘</li> <li>・瀬戸 CEO は、事業売却に走る</li> <li>・いつしか、二代目プロ経営者も洋一郎氏と対峙することに</li> </ul>
11.	解任された瀬戸氏の反撃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指名委員会を通じてプロ経営者を瀬戸氏を解任</li> <li>・ところが、瀬戸氏からの反撃にあい</li> <li>・洋一郎氏が会社を去ることに</li> <li>・経営権争奪時のガバナンスの在り方</li> <li>・LIXIL のラップアップ</li> </ul>
12.	LIXIL 関係者をお呼びしての特別講演	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元 LIXIL の執行役を招聘して、当時のことを語ってもらう</li> </ul>
13.	MBO に走る上場オーナー企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニチイ学館などをケースとして、昨今のオーナー上場企業の非上場化をみていく</li> </ul>
14.	お家騒動で使われる MBO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シダックスなどをケースとして、昨今のオーナー上場企業におけるお家騒動の実態をみていく</li> </ul>
15.	アクティビストに狙われる上場オーナー企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーナー企業による M &amp; A</li> <li>・ヤマウチファミリーなどのファミリーオフィスの社会的役割をみていく</li> <li>・オーナー企業による M &amp; A の特徴をみていく</li> </ul>
履修上の注意点		
<p>貸借対照表 (BS)、損益計算書 (PL)、キャッシュフロー計算書について基礎知識があることが望ましいが、必要要件ではない。</p> <p>授業開始後に、受講生の理解状況によって、本シラバスの内容を多少変えることがある。</p>		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
<p>事前にクラスウェブで配布するマテリアルを予習してくる。</p> <p>クラス終了後に振り返りをする。</p>		
教科書		
<p>図解&amp;ストーリー「資本コスト」入門 改訂版 中央経済社 岡俊子著</p> <p>図解&amp;ストーリー子会社売却の意思決定 中央経済社 岡俊子著</p>		
参考書		
<p>『決戦！株主総会』</p> <p>一ドキュメント LIXIL 死闘の 8 カ月</p> <p>秋場 大輔 著</p> <p>文藝春秋</p> <p>2022/06 360p 1,870 円 (税込)</p> <p>『熱意力闘』</p> <p>私の履歴書</p> <p>LIXIL の基盤を作った男</p> <p>潮田健次郎 著</p> <p>日本経済出版社</p>		
課題に対するフィードバックの方法		
<p>講評を Oh-o! Meiji または講義時に、適宜のタイミングで公開する</p>		
成績評価の方法		
<p>議論への参加度合い 50%</p> <p>レポート 50%</p> <p>細かい点は授業のなかで指示する</p>		
その他		

科目ナンバー	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)MAN696J	ベンチャーのエコシステム (M)					2	1・2年	日本語	岡 俊子		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○	○		○	○				○	○	○	
授業の概要・到達目標											
<p>わが国が失われた30年を取り戻し、力強く成長するためには、科学技術やイノベーションを短期間でマネタイズできるベンチャー企業の存在が必須である。</p> <p>岸田政権も「スタートアップ元年」を標榜し、日本にスタートアップを生み育てるエコシステムを創出することを目指している。</p> <p>本授業では、わが国におけるベンチャー企業の実情と課題を認識し、どうすればさらに社会貢献できるエコシステムが構築できるのかを探っていく。</p> <p>前半（1回～6回）では、講義および外部講師による講話を中心に、後半（7回～15回）では受講者によるプレゼンをもとにディスカッションを進展させていく。</p> <p>Course ILOs：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>わが国のベンチャーのエコシステムの実態や課題を理解する。</li> <li>海外先進事例から学ぶ。</li> <li>民間VCやCVCの動向を理解する。</li> <li>大学発ベンチャーや地方発ベンチャーの動向を理解する。</li> </ol>											
授業内容											
週	テーマ	内容									
1.	わが国のベンチャーのエコシステムの現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今のベンチャーをとりまく環境を概観する</li> <li>・日本のユニコーンの事例を紹介する</li> <li>・オリエンテーション</li> </ul>									
2.	外部講師による講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米国のシリコンバレー事情の紹介</li> <li>・わが国におけるVC事業環境</li> </ul>									
3.	外部講師による講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンチャー企業における採用の実態と課題</li> <li>・ベンチャー企業における営業活動の実態と課題</li> </ul>									
4.	スタートアップの資金調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェルギア社（仮名のケース）の資金調達をステップごとにみていく</li> <li>・デットの活用</li> </ul>									
5.	VCの仕組み、ユニコーン、VCのユニバーサス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VCはどのようなしくみで運営されているのかをみていく</li> <li>・ユニコーンの実態（国別、テーマ別など）についてみていく</li> <li>・どのような属性のVCが活動しているかをみていく</li> </ul>									
6.	外部講師による講話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分でスタートアップを立ち上げた創業者に経験談を語って頂く</li> </ul>									
7.	プレゼンと講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、国民性がスタートアップ、VCにどのような影響を与えているかを議論</li> </ul>									
8.	プレゼンと講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、米国のスタートアップとVCの実態を紹介</li> </ul>									
9.	プレゼンと講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、VCへの投資家にはどういった種類の機関があるか、VCにとってのファンドレイズを議論</li> </ul>									
10.	プレゼンと講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、VCのEXIT（M&amp;AとIPO）の実態とその課題を議論</li> </ul>									
11.	プレゼンと講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、大学発ベンチャーの実態やその課題を議論</li> <li>・10兆円ファンドについて解説</li> </ul>									
12.	プレゼンと講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、地方創生ファンドや官民ファンドの実態やその課題を議論</li> </ul>									
13.	プレゼンと講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、欧州のスタートアップとVCの実態を紹介</li> </ul>									
14.	プレゼンと講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、インドやアジアのスタートアップとVCの実態を紹介</li> </ul>									
15.	プレゼンと講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、直近のVCの動向をキャッチアップ</li> <li>・全体のラップアップ</li> </ul> <p>以上の内容は、実施回が前後する可能性がある。</p>									

履修上の注意点
<p>ベンチャー企業の経営に興味がある受講者、参加型のクラスを指向する受講者に履修を薦めたい。</p> <p>授業開始後に、外部講師のスケジュールや、受講生の理解状況によって、本シラバスの内容を多少変えることがある。</p>
準備学習（予習・復習等）の内容
<p>事前にクラスウェブで配布するマテリアルを予習してくる。</p> <p>クラス終了後に振り返りをする。</p>
教科書
<p>図解&amp;ストーリー「資本コスト」入門 改訂版 中央経済社 岡俊子著</p> <p>図解&amp;ストーリー子会社売却の意思決定 中央経済社 岡俊子著</p>
参考書
<p>特になし</p>
課題に対するフィードバックの方法
<p>講評を Oh-! Meiji または講義時に、適宜のタイミングで公開する</p>
成績評価の方法
<p>議論への参加度合い 50%</p> <p>レポート 50%</p>
その他

Course Number	Class Subject Name					Credits	Year	Language	Faculty Member		
(GB)MAN661E	Strategic Management					2	1st-2nd Year	English	沼田優子 NUMTA Yuko		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○	○	○	○	○					○		
Course Summary and Objectives											
<p>Strategic Management revolves around setting ambitious goals, creating plans to achieve these targets, and implementing and reviewing them. This is an ongoing process that any individual at any level of an organization must go through, and it is not restricted to managers. Thus, learning to effectively undergo this process will help students differentiate themselves from others. Given abundant academic research on strategic management, building students' knowledge bases is an efficient way to add to their tools for implementation. Nevertheless, it is important to note that implementation is often a trial-and-error process that requires time and training. To succeed in the field, practitioners must balance and integrate these components, which necessitates certain skills.</p> <p><b>【Course Objectives (Course ILO)】</b></p> <p>By taking this course, students will be able to accomplish the following:</p> <p>Acquire the knowledge necessary for (a) strategic analysis, (b) strategy formulation, (c) strategy implementation, and (d) its review</p> <p>Understand and analyze real-world corporate and business strategies through case studies and simulations</p> <p>Select a strategic theory and methods for tackling strategic management issues when encountered and accordingly succeed in their respective fields</p>											
Course Contents											
Week	Theme				Contents						
1	Introduction				The overall introduction of the course						
2	What Is Strategy and the Strategic Management Process?				Basic understanding of what defines strategic management / Barney (2019)						
3	Evaluating a Firm's External Environment				Learn to analyze the external environment of a corporation / Barney (2019)						
4	Evaluating a Firm's Internal Capabilities				Learn to analyze the internal resources and capabilities of a corporation / Barney (2019)						
5	Cost Leadership				Define and understand cost leadership strategy / Barney (2019)						
6	Product Differentiation				Define and understand product differentiation / Barney (2019)						
7	Vertical Integration				Define and understand vertical integration. Discuss how vertical integration can create value / Barney (2019)						
8	Corporate Diversification				Define corporate diversification and describe five types of corporate diversification / Barney (2019)						
9	International Strategy				Learn how international strategy is different from domestic strategy / Hitt (2019)						
10	Organizing to Implement Corporate Diversification				Identify organizational structure to be used in the corporate diversification strategy / Barney (2019)						
11	Corporate Governance				Learn what corporate governance is and why it is crucial in sustainable management / Hitt (2019)						
12	Strategic Alliances				Define and understand strategic alliances / Barney (2019)						
13	Mergers and Acquisitions				Learn what merger and acquisition is, and how it impacts corporate-and business-level strategies / Barney (2019)						
14	Strategic Leadership				Learn what defines strategic leadership / Hitt (2019)						
15	Strategic Entrepreneurship				Learn what defines strategic entrepreneurship / Hitt (2019)						

Prerequisites and registration requirements
There will be no prerequisites for admission into the course, and anyone interested in strategic management is welcome. Active participation in class will be expected. Students may be asked to purchase case studies or pay an access fee for online simulations from US publishers such as Harvard Business School Publishing. All lectures and discussions will be conducted in English.
Preparation and Review
Students are to read the chapters of the textbook or course materials before joining the class. If they do not finish in-class work, I will require them to catch up by the next session. Assignment and presentation preparation will require some time outside of class.
Textbook(s)
Barney, J. B., Hesterly, W. S (2019). <i>Strategic Management and Competitive Advantage: Global Edition</i> . Pearson Education.
Reference(s)
Hitt, M. A., Ireland, R. D., and Hoskisson, R. E. (2019). <i>Strategic Management: Competitiveness &amp; Globalization, Concepts and Cases</i> . Cengage Learning.
How to provide Feedback to assignments
The overall feedback on your weekly assignment will be provided in the following class
Grading and Evaluation
Participation: 60% Assignments: 40%
Other

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN661J	経営戦略論	2	1・2年	日本語	沼田優子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>経営戦略は、挑戦的な目標を設定し、その目標を達成するための計画を作成し、実行し、見直すことを中心に展開されます。これは、経営者に限らず、組織のあらゆるレベルの個人が経験しなければならない持続的なプロセスです。そのため、その効果的なプロセスを学ぶことは、差別化につながります。経営戦略に関する先行研究は豊富なことから、知識の蓄積は実践に必要なツールを増やす効率的な方法となり得ます。一方で、実践は試行錯誤の連続であり、時間とトレーニングが必要です。そのため、実践者は、知識と経験をバランスよく統合する必要があります、そのためにもある種のスキルが必要となります。</p> <p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b>  従って、この講座を受講することにより、履修生は  ①戦略要因分析、②戦略の策定、③戦略の実行と④その評価に必要な知識を身につけられます。  ケーススタディ等を通して、実在する企業・事業の戦略を理解・分析できるようになります。  経営戦略上の課題に直面しても根拠とすべき理論とその解決手法を選択し、その課題に取り組むことができるようになります。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	コースの概要、運営等に関する全体的な紹介								
2	戦略および戦略経営プロセスとは何か	戦略要因分析について概要を理解する (バーニー (2019))								
3	外部環境の分析	企業の外部環境の分析の仕方を学ぶ (バーニー (2019))								
4	内部環境の分析	企業の内部資源やケイパビリティ等の分析の仕方を学ぶ (バーニー (2019))								
5	コスト・リーダーシップ戦略	コスト・リーダーシップ戦略を定義し、その要因を理解する (バーニー (2019))								
6	製品差別化戦略	製品差別化を定義し、その要因を理解する (バーニー (2019))								
7	垂直統合	垂直統合を定義し、垂直統合が経済的価値をもたらす仕組みを説明できるようになる (バーニー (2019))								
8	多角化	多角化を定義し、多角化が経済的価値をもたらす仕組みを説明できるようになる (バーニー (2019))								
9	国際戦略	国際戦略が国内戦略とどのように異なるかを学ぶ (ヒット (2021))								
10	経営多角化に向けた組織体制の構築	多角化戦略の実行において、用いる組織構造を理解する (バーニー (2019))								
11	コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンスとは何か、なぜこれが持続可能な経営に不可欠なのかを学ぶ (ヒット (2021))								
12	戦略的提携	戦略的提携とは何か、またこれを効果的に実施する方法を学ぶ (バーニー (2019))								
13	合併・買収	M&A とは何か、M&A が企業や事業の戦略に与える影響について学ぶ (バーニー (2019))								
14	戦略的リーダーシップ	戦略的リーダーシップとは何かについて学ぶ (ヒット (2021))								
15	戦略的アントレプレナーシップ	戦略的アントレプレナーシップとは何かについて学ぶ (ヒット (2021))								
履修上の注意点										
<p>授業内でのディスカッションやアクティビティへの積極的な参加を期待する。本講座は経営戦略論の初学者や戦略策定の実務経験のない履修者も歓迎する。</p>										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
教科書等の該当箇所や予習資料を読んでから授業に参加すること。										

教科書
バーニー, J. B. & ヘスタリー, W. S. (2021) 『[新版] 企業戦略論』上・中・下巻 ダイアモンド
参考書
ヒット, M. A., アイルランド, R. D., & ホスキソン, R. E. (2021) 『戦略経営論 (第3版) 競争力とグローバリゼーション』バンローリング
課題に対するフィードバックの方法
課題等の全体的なフィードバックは翌週の授業で行う。
成績評価の方法
授業参加度 (60%) と課題 (40%)
その他

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN631J	キャリア開発	2	1・2年	日本語	中西 晶					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>〈授業の概要〉</p> <p>本講義では、現在大きな転換期にある「個と組織の関係」について「キャリア」という視点から検討する。本講義の第一の目的は、キャリアに関する基本的な理論を理解するとともにキャリアをめぐる現状と課題を認識することである。さらに、その課題解決に向けて、政策レベル、組織レベル、個人レベルで何をすべきかを考えることを第二の目的とする。したがって、受講者は自己のキャリア開発についてはもちろん、所属組織におけるキャリア開発施策についての強い興味を持ち、雇用・労働環境や社会状況などマクロ的な経営環境についても常に目を向けていくことが求められる。</p> <p>受講者の経歴、人数にもよるが、以下のような内容を考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>前半はキャリア開発に関する基本的な理論・概念を理解する。 受講者は毎回、理論・概念に関するワークを行う。 概念・理論の確認のあと、事例の提示やディスカッションを行う。</li> <li>後半はキャリア開発に関する事例研究を行う。 講師よりキャリア開発に関する事例を提示し、全員でディスカッションを行う。 人数によっては、グループワークとする。</li> </ol> <p>〈到達目標〉</p> <p>自らのキャリアについて主体的に捉え直すとともに、所属組織の制度構築や政策提言などにもつなげられるようになること。</p>										
授業内容										
授業は以下の様なスケジュールで行う。ゲストなどの都合などで若干前後する可能性がある。										
【1 インTRODクシヨン-キャリアとは何か】										
1. 授業の進め方、学習目標を確認するとともに、キャリアをめぐる問題について概要を紹介する。										
2. 代表的な研究者のキャリアに関する定義を確認し、「キャリア」の意味について理解する。										
【2 エドガー・シャインの古典的キャリア論】										
3. 現在でもキャリア開発の理論的・実践的な中核となっているシャインの組織内キャリアの概念についての基本を理解する。										
4. また、シャインのキャリア・アンカーの概念について確認するとともに、個人的、組織的、社会的にどのように適用できるかを考える。										
【3 多様なキャリア論】										
5. 社会学者グラノベターの弱い絆（ウィーク・タイ）理論を紹介し、社会ネットワークとキャリアの関連性を考える。また、心理学者クランボルツらの理論である計画された偶然（ブランド・ハプスタンス）を紹介し、キャリアにおける「偶然」の重要性とそれを利用した事例などを紹介する。										
6. これらを踏まえたうえで、ルソーのパウンドリレスキャリアやホルのプロティアンキャリアの概念について議論する。										
【4 中間まとめ】										
7. これまでのミクロ的キャリア論を整理し、個人でのまとめを行う。										
8. 個人でまとめた結果を全体で共有する。										
【5 マクロ的視点から】										
9. COVID-19の影響等も踏まえたうえで、日本における社会経済状況からマクロ的に検討する。初期キャリアについては、「Z世代」といわれる現代の若年層が抱える問題と組織へのエントリー時に必要な活動について考える。										
10. 「ジョブ型雇用」や「働き方改革」など企業の新たな動きのなかでの中堅～ミドルのキャリア形成の方向性を考える。また、近年「働かない中高年」などと議論されがちなキャリア後期における問題の本質は何かを議論する。										
【6 トピック研究 (1)】										
11. キャリア教育、ジェンダーとキャリア、マイノリティとキャリア、グローバルな比較など、さまざまな視点からキャリアを検討する(個人ワーク)。										
12. 個人で検討した結果を全体で共有し、議論する。										
【7 トピック研究 (2)】										
13. 組織におけるキャリア開発施策の事例やキャリアに関連する政策のあり方などについて、受講者の視点から検討する。										
14. 個人で検討した結果を全体で共有し、議論する。										

【8 最終まとめ】
15. 学習成果を活かして自らのキャリア形成を考えるとともに、組織のキャリア開発施策もしくはキャリア政策についての提言を行う。
履修上の注意点
<p>本学の教育支援システム Oh-o! Meiji を積極的に活用する予定なので操作には十分に慣れておくこと。</p> <p>ヒューマンリソース・マネジメントもあわせて受講することが望ましい。</p>
準備学習 (予習・復習等) の内容
自らのキャリアについて振り返っておくとともに、今後のキャリアについて検討する習慣をつけておくこと。
教科書
使用しない。 授業に必要な資料を紹介・配布する。
参考書
授業中適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業の開始時・終了時に行う。 また、質問や相談についてはシラバスにあるメールアドレスで受け付ける。
成績評価の方法
<p>毎回のワーク 50%</p> <p>クラスへの貢献度 20%</p> <p>最終レポート 30%</p>
その他



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN621J	オペレーション	2	1・2年	日本語	竹之内隆					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○						○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>問題解決を、ある種の論理思考やフレームワークと考えるむきもあるだろう。この授業では、正しく、データの裏付けをもって問題発生時の“兆し”や、起きてしまった問題の“特徴”を捉える練習を行う。</p> <p>原因を論理的にとらえ、データの裏付けをとりつつ改善の糸口を見出す訓練を行う</p> <p><b>【到達目標 (Course ILOs)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>結果的に、問題の原因や特徴をデータから学習できれば、未然に防いだり、被害を最小限に抑え込むことができるようになる。</li> <li>データを生かす力を体感し、データの特徴に合わせたデータサイエンスの勘所が分かるようになる。</li> <li>問題解決に論理とデータの裏付けをとることが、自然に実行できるようになる</li> </ul> <p>蛇足ではあるが、統計検定2級レベルは理解できるようになる。数学の知識は不問。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	問題解決技法 (1)	マインドマップを使って自分の思考と論理と対話してみよう。何がわかることで、何がホワイトスペースかわかる。								
2	問題解決技法 (2)	ロジカルシンキングによって『結論から申し上げますと……』というビジネス思考が生まれる。								
3	問題解決技法 (3)	チームでブレークスルーを見いだすにはルールと集団で洞察力を働かせる工夫が必要だ。論破するのではなく、妥協でもない第三の道はどこからきたのか？								
4	プロジェクト管理 (1)	プロジェクトの定義がわかるだろうか？ 日常業務とプロジェクトの関係について考える。PERT 手法を基礎として学ぼう。								
5	プロジェクト管理 (2)	同時に複数のプロジェクトを任されている方が大半だ。複数プロジェクトを管理するにはノウハウとマネジメント手法が必要。CCPM について概説する。								
6	プロジェクト管理 (3)	映画「八甲田山死の彷徨」をケーススタディ。失敗の本質をプロジェクト管理の視点から学ぼう。								
7	データ分析の基礎の基礎	データを診たときに「平均値」と「バラツキ」から診てみよう。その診方は Excel を使えば簡単だ。								
8	原因と結果の関係をデータで診てみよう	曜日、気温、価格、客数というデータと「売上」というデータには相関関係がある。Excel でこの相関関係を診てみよう。								
9	需要予測と意思決定	Excel で指数平滑法、重回帰予測について実習する。実企業のデータ分析を演習してみよう。								
10	データサイエンスの基礎 (1)	IoT の代表的な「故障予知」などに使われるデータ分析手法について学ぶ。(ロジスティック回帰ほか)								
11	デジタルマーケティングにおける機械学習 (2)	教師なし学習 (K-平均法)								
12	最適化の使い方 (Excel ソルバー)(3)	予測誤差をパターン分けし、法則性をみだすことで機械学習することを理解する。身の回りで使われる人工知能について学ぼう。								
13	季節商品の近似予測 (4)	最適化ソルバーでゴンベルツ曲線をあてはめる								
14	チーム演習 (1)	データ分析をつうじて店舗の問題について整理し、ブレークスルーをチームで考えてみる。								
15	チーム演習 (2)	ロジカルシンキングを用いて整理し、発表し、相互にディスカッションする。								

履修上の注意点
PC を使用する講義がある。 ハイブリッド授業以外の場合は、その旨を連絡する
準備学習 (予習・復習等) の内容
自分の会社、身近な組織の問題点を整理しておく
教科書
指定しない
参考書
『イシューからはじめよ』安宅和人 著
課題に対するフィードバックの方法
<ol style="list-style-type: none"> <li>課題提出はクラウド上の MIRO (ラインホワイトボード) への提出かファイルでの提出。フィードバックは個々のファイル、もしくは MIRO に直接コメントでフィードバック。</li> <li>チーム演習はチームプレゼン当日に講評する。</li> </ol>
成績評価の方法
授業への貢献度、受講態度、個人演習の成果 40% + 授業参画 30% + チーム演習 (プレゼン内容) 30% で決まる。
その他
企業での実務経験が 3 年以上有ることが望ましい。 数学の知識は不問。

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	ヘルスケア・マネジメント	2	1・2年	日本語	田中智恵子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○										
授業の概要・到達目標										
【到達目標 (Course ILO)】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の医療が直面している諸問題について理解できる</li> <li>・諸問題について原因やメカニズムを考察できる</li> <li>・現場で起きている諸問題を医療システム、医療政策の方向性から解決策を考えられる</li> <li>・ヘルスケアの課題からビジネスモデルを立案できる</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	医療政策と医療	日本の医療の特徴を理解する								
2	医療制度	日本の医療制度の仕組み 病院と診療所の動向、機能								
3	医療費の仕組み 診療報酬の仕組み	病院と診療所の動向、機能								
4	急性期医療・高度先進医療の課題	急性期医療の収入構造								
5	医療の質のマネジメント	質のコントロール法 クリニカルパスの仕組み								
6	終末期医療の課題	終末期の医療費 治療の選択 ACP								
7	周産期医療・小児医療の課題	妊婦新生児の医療の課題 出産ビジネス								
8	精神科医療の課題	精神科医療の現状と課題								
9	産業保健のしくみと課題 健康経営	メンタル疾患対策 健康経営								
10	生活習慣病と予防のマネジメント	検診受診率 検診費用								
11	医療従事者のヒューマンリソースマネジメント	医療専門職の役割とマネジメント								
12.	まとめ	医療マネジメントからビジネスのシーズ、ニーズを考える								
13.										
14										
履修上の注意										
特になし										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特になし										
参考書										
その都度紹介する										
課題に対するフィードバックの方法										
各授業のテーマごと授業の最初に課題を設定する 講義を聞き、課題に対する解決策をグループディスカッションし発表する 発表毎にその場でフィードバックする										
成績評価の方法										
①授業への貢献度 受講態度 20%										
②各授業でのディスカッションへの発言、参加 30%										
③最終プレゼン (ヘルスケアマネジメントについての一考察) 50%										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	ヘルスケア産業のマネジメントと経済学	2	1・2年	日本語	姉川知史					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○							
授業の概要・到達目標										
<p>人々の健康を左右するサービスである「ヘルスケア」における倫理、ガバナンス、経営について事例教材を用いたケースメソッドを中心に、さらに講義で補い、概観、検討する。</p> <p>ヘルスケアは医療・介護機関、専門職、研究機関、企業、NPO、政策主体、消費者等の多様な主体が関与する。それぞれの主体の経営・マネジメントならびに個々の主体と全体のシステムの関係を題材として検討する。ヘルスケア・システムと資金循環、健康の決定要因、医療サービスの特長とシステム、健康の価値と医療技術、市場・倫理・規制の関係、研究開発と知的財産権、医療機関、医薬品企業、医療機器企業の経営、国あるいは地域としての課題、グローバル・ヘルス、SDGsにおける位置づけ等の題材をとりあげる。今回、COVID-19を重視し、そのワクチン開発等のR&amp;D、雇用、教育とメンタル・ヘルスの問題、政策、リスクコミュニケーション、マクロ経済学との関係等を検討する。</p> <p>「教育方法」として次の方法を採用する。「ケースメソッド」「講義メソッド」「Report作成・発表」を組合わせて授業を行う。ケースメソッドでは1つの主題当たり10から50ページの「事例教材」を使用し、学生の事前予習を前提としたクラス討議を行う。事例教材の大半は講師作成のものであり、その購入、入手、複写方法は別途、事務室から指示する。</p> <p>講義メソッドではケースメソッドにおける分析と知識を提供する。</p> <p>Reportでは学生が各自、関心をもつ題材を選択して作成する。また、授業においてもそれを発表してクラスで質疑を行う。</p>										
【到達目標 (Course ILO)】										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスケアに関する個人、企業、医療機関、産業、社会の全体像の俯瞰を獲得する。</li> <li>2. 日本のヘルスケアの課題を設定し、それを解決する展望と能力を獲得する。</li> <li>3. ヘルスケアを分析するときの基本枠組み、分析方法、分析結果を理解する。</li> <li>4. 事例教材の分析能力と討議能力を獲得する。</li> </ol>										
授業内容										
Session1										
〈主題：統計データ、確率、意思決定〉										
資料1「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」の「事例1」										
資料2「疾患とデータ」事例1-5										
アサインメント										
1-1. 資料2「疾患とデータ」「事例2 Gender Bias」について検討せよ (宿題1)。										
1-2. 資料2「疾患とデータ」「事例5 乳癌検診の効果」について分析せよ。まず、マネジメントのデータ分析方法によって検討せよ (宿題2)。										
1-3. 資料1「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」の「事例1」どのタクシー会社が事故を起こしたのか」を分析せよ。										
Session2										
〈コーポレート・ガバナンス、医療倫理、危機管理〉										
資料1「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」の「事例2 Johnson&Johnson, Tylenol 青酸カリ混入事件」										
アサインメント										
2-1. Johnson&Johnsonの企業理念、Credo、倫理、文化、その他を検討し、Tylenol 青酸カリ混入事件に対する対応を分析せよ。										
Session3										
〈主題：経済政策とヘルスケア産業の俯瞰 Part1〉										
事例1「2018年の日本経済の現状と成長」										
事例2「2018年の日本経済とヘルスケア産業」										
資料1「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」の「事例3. Principal and Agent 問題」										
事例10「日本企業のコーポレート・ガバナンス」KBS(資料)										
事例13「データと医療」										
アサインメント										
今後10年から20年の中期における日本の経済と社会の重要課題とは何か。そこでのヘルスケア産業はどうあるべきか。安倍政権(2012-2020)はこれらについてどのように課題設定をし、どのように対応したのか (Report 課題候補1)。										
Session4										
〈主題：医療、リスク、意思決定〉										
事例11「デジジョン・ツリー分析」										

<p>資料1「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」の「事例4. 期待効用理論ーリスク・所得・効用」「事例5. 期待効用理論ー健康・余命・効用」ならびに「付属資料1. 期待効用理論」</p> <p>アサインメント</p> <p>4-1. 上記を参考にして、所得、健康に関するあなたの効用関数を求めよ（宿題3）。</p> <p>4-2. 資料1「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」「事例8. HPV ワクチン接種」を分析し、自身の娘にHPV ワクチン接種を勧めるべきかについてデジジョン・ツリー分析も用いながら検討せよ（宿題4）。</p>
<p>Session5</p> <p>〈医療サービス、価格、倫理〉</p> <p>事例6「医薬品・医療機器の価格設定」</p> <p>資料3「医療倫理の原則」</p> <p>アサインメント</p> <p>5-1. 医療従事者の行動規範と、ビジネスの行動規範の相違を検討せよ。</p> <p>5-2. 医薬品・医療機器の価格設定を「独占理論」の観点から分析せよ。</p>
<p>Session6</p> <p>〈主題：経済政策とヘルスケア産業の俯瞰 Part2〉</p> <p>Part1 事例、資料</p> <p>資料09 財務省『日本の財政関係資料』2023年最新版</p> <p>アサインメント</p> <p>6. 安倍政権（2012-2020）における社会保障と財政改革について論点を整理し、「税と社会保障の一体改革」、医療費削減を含めた社会保障改革の目的と方法、財政改革ならびにヘルスケア産業を中核とする成長政策を評価せよ（Report 課題候補2）。</p>
<p>Session7</p> <p>〈主題：技術的不確実性のマネジメント〉</p> <p>事例6「Project Portfolio Management at XYZ Pharma」</p> <p>事例7 Appendix: Project data of「XYZ Simulation Estimated Data」</p> <p>アサインメント</p> <p>7-1. 医薬品研究開発 Project のように技術的、制度的な不確実性がある場合に NPV 法をどのように修正すべきか、その Project 価値評価方法を資料ファイルの Project1 について検討せよ（宿題5）。</p> <p>7-2. 大規模医薬品企業が多数のプロジェクトを管理するための Product Portfolio Management、また、Startup で製品販売によるキャッシュフローがない段階で Project Management で留意すべきマネジメントを検討せよ。</p>
<p>Session8</p> <p>〈COVID-19 とワクチン政策ー疾患・イノベーション・制度設計〉</p> <p>事例8「COVID-19の危機管理ーワクチン接種 2021年6月」</p> <p>事例3「2018年の日本経済と医薬品産業ー環境変化とグローバル・ヘルス」</p> <p>アサインメント</p> <p>8. 日本のワクチン開発と接種について明らかになった問題を特定し、関係主体のマネジメントを分析して、問題と解決策を提言せよ（Report 課題候補3）。</p>
<p>Session9</p> <p>〈主題：経済政策とヘルスケア産業の俯瞰 Part3 職域・地域・世代とケア〉</p> <p>Part1、2の事例と資料</p> <p>資料4（非配布）『事例を通じて、我がまちの地域包括ケアを考えよう「地域包括ケアシステム」事例集成～できること探しの素材集～』日本総合研究所</p> <p>厚生労働省「地域包括ケアシステムの構築に関する事例集」</p> <p>資料1「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」「事例10. 地域中核拠点病院の移転」</p> <p>アサインメント</p> <p>9-1. 『事例を通じて、我がまちの地域包括ケアを考えよう「地域包括ケアシステム」事例集成～できること探しの素材集～』第1章と第2章から、関心をもった地域事例を選択して、自身の課題を設定し、分析せよ。</p> <p>9-2. 国は企業の職域別の「健康経営」を奨励している。この現状と課題について、事例をあげて検討せよ。</p>
<p>Session10</p> <p>資料01「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」「事例9. 腎臓移植と臓器売買」</p> <p>資料02「疾患とデータ」「事例8. 音楽と健康」</p> <p>資料05「臨床的意思決定における経済的分析」Douglas L. McGee, 2015『MSD マニュアル、プロフェッショナル版』</p> <p>資料06 津川友介「医療政策研究と因果推論」</p> <p>資料07 津川友介『「原因と結果」の経済学』の無料公開！</p> <p>資料09「Parachute use to prevent death and major trauma when jumping from aircraft: randomized controlled trial」</p>

<p>参考文献（平易な内容）津川友介「費用効果分析（CEA）と医療技術評価（HTA）」</p> <p>エステル・デュフロ他『政策評価のための因果関係の見つけ方』日本評論社、2019.</p> <p>アサインメント</p> <p>10-1. 「疾患とデータ」「事例8. 音楽と健康」について、音楽療法の健康効果を確認する方法を検討せよ（宿題6）。</p> <p>10-2. 資料01「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」「事例9. 腎臓移植と臓器売買」について、腎透析、腎移植についてその効果と費用を検討するときの「医療技術評価（Health Technology Assessment）」の目的、方法、体制を検討せよ。</p>
<p>Session11</p> <p>〈主題：COVID-19 と日本〉</p> <p>事例9「新型コロナウイルス感染症：2021年8月、第5波」</p> <p>事例10「COVID-19: Global Perspectives, 2020-2021」</p> <p>事例12「新型コロナウイルス感染症：2020年2月 Breakout」</p> <p>事例13「Impact of COVID-19 on Mental Health of Youth-Anxiety, Stress, and Recklessness-」</p> <p>資料08 OECD Youth Week、Youth and COVID-19, Response, Recovery and Resilience</p> <p>資料13「Impact of COVID-19 on Mental Health of Youth-Anxiety, Stress, and Recklessness-」</p> <p>アサインメント</p> <p>11-1. 日本の医療制度と社会制度について、COVID-19 で明らかになった課題と解決策を検討せよ。</p> <p>11-2. COVID-19 対策が経済、ビジネス、社会に与える影響を分析せよ。</p>
<p>Session12</p> <p>事例14「ある老人の終末期医療ー死生と意識」</p> <p>事例15「老化と社会」</p> <p>シェリー・ケーガン『「死」とは何か イェール大学で23年連続の人氣講義』Kindle 版</p> <p>アサインメント</p> <p>12-1. 高齢者の終末期医療について検討せよ。（Report 課題候補4）。</p> <p>〈主題：総括〉</p> <p>アサインメント</p> <p>13-1. 安倍政権（2012-2020年）の成長産業としての日本のヘルスケア産業についてどのように評価するか、</p> <p>13-2. COVID-19 対策の望ましい「政策パッケージ」と「実施方法」を提言せよ（Report 課題候補5）。</p>
<p>履修上の注意点</p>
<p>事例教材を用いた「ケースメソッド」を中心的な方法として採用する。このため、講義部分は全体の5分の1程度である。ケースメソッドの実施方法は初日にオリエンテーションを行う。ケースメソッドで学習することに意欲的に取り組む学生を歓迎する。少なすぎず、多すぎない、一定数の学生が履修することが望ましい。このため本科目履修について関心があり、履修について疑問のある学生は講師に対して事前に関心をもちたい。</p> <p>ヘルスケアの多岐の題材を概観する科目であり、履修学生は次の条件を備えることが望ましい。第1に、ヘルスケアの広範な題材に関心を持っていること。第2は、その分析のために様々な分析手法を駆使する方法を学ぶことに関心を持つこと。第3は、本科目で多用するミクロ経済学、マクロ経済学の入門科目（初級あるいは中級）、財務理論等について既習、未習の場合はそれを授業期間で補う意欲があること。第4は、事例教材をケースメソッドによって学習することに関心があること。</p> <p>2022年度に「ケース・スタディ I（マネジメント）」の単位を修得した者は、「ヘルスケア産業のマネジメントと経済学」を履修することはできない。</p>

準備学習（予習・復習等）の内容
<p>授業で使用する事例教材と関連資料を指定する。事例教材は購入する方法を別途指定する。事例教材を用いたケースメソッド授業の場合、指定された事例教材は教室での討議時間の1.5倍の時間の予習が必要である。学生単独で読んで、分析し、さらに必要に応じて、数人のグループで予習することも望ましい。ケースメソッドについては授業1日目にオリエンテーションを行い学習方法を説明する。また、通常の講義メソッドでは授業後に指定された教材の復習が必要である。Report課題は、これらの授業、予習、復習を活用し、自らの課題設定を調べ分析する作業が加わる。本科目の予習と復習の時間数は、授業時間の3倍を想定する。</p> <p>Assignment（アサインメント）（設問と課題） 「予習」Assignmentを中心に予習する。Assignment課題は当日の授業の中心課題として討議する。</p> <p>「宿題」については別途指定する日時に提出する。 提出期限・場所：別途指示 様式：文字数はA4用紙1ページあたり1,000文字で構成。ページ数は指定しないが、数ページを想定する。1枚目に氏名と学生番号、提出日時を記載し、1ファイル（できるだけPDFファイル）にまとめる。 ファイル名「学生ID Number_氏名_Home Work」とする。 「最終レポート」授業をふまえて「宿題」を加筆修正した内容ならびに、アサインメント課題において赤字で「Report課題1-5」と付記されたもののうち、Report課題1から3のうち1つを選択し、さらにReport課題4のうち1つを選択し、合計2つについて記述し提出する。分量はそれぞれ1,000字1ページ程度でよいが、それが多くなっても可。Report課題については自由な選択と記述とする。宿題部分は毎日の授業開始時に提出している場合も、修正をして、また、修正がない場合もそのまま再掲して最終レポートに含めること。それを採点対象とする。</p> <p>提出期限・場所：別途指示 様式：文字数はA4用紙1ページあたり1,000文字で構成。ページ数は指定しないが、数ページを想定する。1枚目に氏名と学生番号、提出日時を記載し、1ファイル（できるだけPDFファイル）にまとめる。 ファイル名「学生ID Number_氏名_Final Report」とする。</p>

教科書
<p>（番号は資料番号）KBS：慶應義塾大学大学院経営管理研究科、LBS：London Business School。</p> <p>「事例教材」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>0. アサインメント・設問</li> <li>1. 事例「2018年の日本経済の現状と成長」講師作成・KBS事例教材</li> <li>2. 事例「2018年の日本経済とヘルスケア産業」講師作成・KBS事例教材</li> <li>3. 事例「2018年の日本経済と医薬品産業—環境変化とグローバル・ヘルス」講師作成・KBS事例教材</li> <li>4. 事例「デシジョン・ツリー分析」講師作成・KBS事例教材</li> <li>5. 事例「事例6「医薬品・医療機器の価格設定」</li> <li>6. 事例「Project and Portfolio Management of XYZ Pharma」LBS教材</li> <li>7. 資料ファイル、Appendix: Project data of「XYZ Simulation Estimated Data」LBS教材</li> <li>8. 事例「COVID-19の危機管理—ワクチン接種2021年6月」講師作成教材</li> <li>9. 事例「新型コロナウイルス感染症：2021年8月、第5波」講師作成教材</li> <li>10. 事例「COVID-19: Global Perspectives, 2020-2021」講師作成教材</li> </ol> <p>「参照資料」（一部のみ使用）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 事例「日本企業のコーポレート・ガバナンス」講師作成・KBS教材（「5経済学の企業理論」参照）</li> <li>12. 事例「新型コロナウイルス感染症：2020年2月 Breakout」講師作成教材（背景説明、参照のみ）</li> <li>13. 事例「Impact of COVID-19 on Mental Health of Youth-Anxiety, Stress, and Recklessness-」（新型コロナウイルス感染症：2020年8月、第2波）（背景説明、参照のみ）</li> </ol> <p>「配布資料」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>01 資料1「Ethics and Governance of Healthcare 補足資料」（2021改訂版）講師作成教材</li> <li>02 資料2「疾患とデータ」（2023年改訂版）講師作成教材</li> <li>03 資料3「医療倫理の原則」</li> </ol> <p>「配布しない資料」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>04 資料4「事例を通じて、我がまちの地域包括ケアを考えよう「地域包括ケアシステム」事例集成～できること探しの素材集～」日本総合研究所、平成26（2014）年3月（配布なし、検索閲覧） <a href="https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000073805.pdf">https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12400000-Hokenkyoku/0000073805.pdf</a></li> <li>05 資料5「臨床的意思決定」「臨床的意思決定における経済的分析」Douglas L. McGee, 2015『MSD マニュアル、プロフェッショナル版』 <a href="https://www.msmanuals.com/ja-jp/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%83%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%8A%E3%83%AB">https://www.msmanuals.com/ja-jp/%E3%83%97%E3%83%AD%E3%83%95%E3%82%A7%E3%83%83%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%83%8A%E3%83%AB</a></li> <li>06 資料6. 津川友介「医療政策研究と因果推論」 <a href="https://healthpolicyhealthecon.com/2014/09/26/evaluative-science-and-statistics/">https://healthpolicyhealthecon.com/2014/09/26/evaluative-science-and-statistics/</a></li> <li>07 資料7. 津川友介『「原因と結果」の経済学』の無料公開！ <a href="https://healthpolicyhealthecon.com/2017/12/02/causal-inference-book/">https://healthpolicyhealthecon.com/2017/12/02/causal-inference-book/</a></li> <li>08 OECD Youth Week, Youth and COVID-19, Response, Recovery and Resilience</li> <li>09 財務省『日本の財政関係資料』（最新版） <a href="https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202104.html">https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202104.html</a> あるいは最新の2023年版</li> </ol>



参考書
池上直己『日本の医療と介護 歴史と構造、そして改革の方向性』日本経済新聞出版、2017。(授業では使用しない) 〈中級教科書〉
1. ビンダイク、ルビンフェルド『ビンダイク & ルビンフェルド ミクロ経済学 (1)』KADOKAWA/中経出版、2014、978-4046011022
2. ビンダイク、ルビンフェルド『ビンダイク & ルビンフェルド ミクロ経済学 (2)』KADOKAWA/中経出版、2014、978-4046011039
3. マンキュー、N. グレゴリー『マンキュー マクロ経済学 I 入門篇 (第4版)』東洋経済新報社、2018、ISBN-10 : 4492315047、ISBN-13 : 978-4492315040
4. アセモグル/レイブソン『マクロ経済学』東洋経済新報社、2019、ISBN-10 : 4492315128、ISBN-13 : 978-4492315125
5. 福田 慎一、照山 博司『マクロ経済学・入門 第5版』(有斐閣アルマ)、有斐閣、2016年、ISBN-13 : 978-4641220669
6. 齊藤 誠、岩本 康志、太田 聡一他『マクロ経済学 新版 (New Liberal Arts Selection)』有斐閣、2016、ISBN-10 : 4641053847、ISBN-13 : 978-4641053847
〈初級教科書〉
7. ジョセフ E. スティグリッツ、カール E. ウォルシュ『スティグリッツ 入門経済学 第4版』2012、東洋経済新報社
〈財政資料〉
8. 財務省『日本の財政関係資料』(最新版) 現時点は 2021 年 4 月版 <a href="https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202104.html">https://www.mof.go.jp/policy/budget/fiscal_condition/related_data/202104.html</a>
〈医療経済学〉
9. 『日本の医療と介護 歴史と構造、そして改革の方向性』池上直己日本経済新聞出版、2017、978-4532134693
10. 『医療経済学』漆 博雄編、東京大学出版会、1998。ISBN-10 : 4130421050、ISBN-13 : 978-4130421058
課題に対するフィードバックの方法
Report は採点后返却する。
成績評価の方法
ケースメソッドを加味した授業のため以下の基準で成績評価をする。 1. 授業参加と発言その他の授業貢献度 50% 2. 宿題・Report(試験を実施する場合もある) 50%
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	ビジネスイノベーション	2	1・2年	日本語	首藤明敏 狩谷真治					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
	○		○	○		○		○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>これからの不確実性の高い社会において、如何にイノベーションを実現し、持続的な事業成長を図るか。この命題は、スタートアップ企業だけでなく、企業内イントレプレナー、事業承継を行うファミリービジネスなど、あらゆるレベルで求められている。本授業では、数多くのイノベーションエコシステムの創出に寄与してきたデロイトトーマツベンチャーサポートの全面的協力の下、イノベーションや起業の枠組みへの理解を図る。同時に、同社が主催する日本最大規模のイノベーションアワードへの参加を想定し、具体的な事業プランを作成、プレゼンテーションコンペを行い、起業家として立脚する機会に繋げていく。</p> <p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イノベーションや起業に向けた課題と、実現に向けた枠組みや方法論を理解する。</li> <li>事業プラン作成やプレゼンテーションを体感し、イノベーションや起業のプロセスを体感する。</li> <li>起業家、ベンチャーマインドを身に付けるとともに、それを実現する足掛かりを得る。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1～3回と最終回のビジネスプランの発表以外は、各回、デロイトトーマツ担当者による講義とグループワークを組み合わせた形式をとる。										
1	イントロダクション	授業の概要とイノベーションや起業の重要性とビジネスキャリアにおける意義を理解する。								
2+	イノベーション概論	日本国内及びグローバルにおける時価総額上位企業やユニコーン企業の分析を行った上で、組織内に留まらず、外部のアイデアや資源を取り入れることで生み出されるオープンイノベーションの考え方を理解する。ベンチャー企業の事例を介して専門領域の知見をビジネスに活かす手法を学ぶと共に、産学連携の具体例についても理解する。								
3										
4+	新規事業アイデアの発想法	新規事業アイデアはどのように生み出されるか、またそれを半強制的に生み出すにはどのような手法を用いれば良いかをベンチャー起業家が事業アイデアをどのように発想しているかを追体験しながら考える。また、海外の成功事例を調査しアイデアを生み出す手法についても学ぶ。								
5										
6+	リーンキャンパスの活用	リーンキャンパスの概要を理解し、考案したビジネスアイデアをいかに価値の創造と収益を生み出すビジネスモデルに整理していくかについて学ぶ。サブスクリプション、シェアリングエコノミー等、昨今注目されているビジネスモデルにも着目し理解を深める。								
7										
8+	シード期から成長期における資金調達	事業規模を拡大していくために必要な企業の成長ステージにあわせた資金調達について、資金調達の流れや種類、資金の出し手の属性等に関して事例を交えて学ぶ。								
9										
10+	ビジネスプラン策定	経営目標の策定・管理方法や事業計画策定・管理方法など実践的な経営手法の概要を学ぶことで企業経営への理解を深める。								
11										
12+	プレゼンテーション	ベンチャー経営における重要なスキルの一つであるプレゼンテーションの極意について学ぶ。国内の優れたベンチャー起業家のプレゼンテーションを観察しながら、プレゼンテーションにおける重要な要素について理解し、自身のプレゼンテーションスキルの向上を図る。								
13										

14 +	ビジネスプラン発表、まとめと振り返り	授業期間を通して作成してきたビジネスプランを基に授業内で疑似ピッチコンテストを実施する。ピッチ体験を通じて、事業アイデアの磨きこみとプレゼンテーションスキルの習得を目指す。最後に、これまでの講義や参加者の発表を振り返り、自分自身や社会にとってのイノベーションや起業の意味を考察する。
<b>履修上の注意点</b>		
グループワーク及び最終プレゼンは、スタートアップや社内起業テーマを持つ生徒を中心としたチームによって行う。受講者数に応じてチーム数やチーム内の人数を調整するが、希望に応じて1人チームも可とする。グループワークでは積極的かつ建設的な発言に努めること。		
<b>準備学習（予習・復習等）の内容</b>		
予習、復習の内容は特に定めない。ただし授業内容は多岐に渡るため、各回のテーマに応じて、予習、復習をしっかり行い、知識の定着を図ること。		
<b>教科書</b>		
レジュメを適宜配布するため、特に指定しない。		
<b>参考書</b>		
特に指定しない。		
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>		
最終授業において、チームによる最終プレゼンへのフィードバックを行う。加えて、全受講生による360度評価を実施する。		
<b>成績評価の方法</b>		
<p>ビジネスプランの内容やプレゼンなどのチーム評価と、クラスやチームへの質的・量的貢献に基づく個人評価を総合的に判断する。評価には、教員の評価に加え、デロイトトーマツ担当者の評価、チームメンバーの相互評価も含める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームのプレゼンテーション及びレポート内容 50%</li> <li>・チーム内での質的・量的貢献度 30%</li> <li>・授業への参加度及び振り返り個人レポート 20%</li> </ul>		
<b>その他</b>		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	ケース・スタディⅢ (マネジメント)	2	1・2年	日本語	野田 稔					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○		○			○	
<b>授業の概要・到達目標</b>										
<p>Course ILO ケーススタディⅢ（マネジメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織問題、HRM 問題など、人と組織に関するケース・スタディを通じて、人と組織の複雑さを疑似体験し、この領域の問題に直面した時の、自分なりの考え方の指針（人と組織のマネジメント持論）を得る。</li> <li>・グループディスカッションの経験を通じて、効果的なミーティングファシリテーション、プレゼンテーションを身につける。</li> <li>・将来、経営者として組織を構築・運営する際、悩んだときに学び直せる力を身につける。読むべき本を知る、検索すべきテクニカルタームを知るなどの学び直しのための基礎知識を身につける。</li> </ul> <p>ケーススタディは、マネジメント上の問題解決を疑似体験できるツールである。実際の企業に起きたことを題材に、問題解決に疑似体験を行いたい。ケーススタディⅢ、Ⅳは経営戦略と組織論を中心としたケースを選び議論する。経営組織論（マクロ組織論）、組織行動論（ミクロ組織論）、人材育成論、ヒューマンリソース論など一連の人事・組織系各講座との連携を考えながら講義を進める。独立した講義として位置づけるが、場合によっては各講義の延長線上の議論を行うこともあることを含んでいただきたい。従って、可能な限り上記各講義も受講することが望ましい。ただし、必須ではない。また、年度をまたがった受講でもかまわない。ただし、ケーススタディⅣはケーススタディⅢと連続して行われるので、受講の際は同じ期に同時に受講すること。</p>										
<b>授業内容</b>										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	ケーススタディの進め方について理解する。効率的な議論が出来るように、ミーティングマネジメントの基礎を講義する。併せて受講者同士の相互理解を深める。								
2	事業と組織（1）	「組織は戦略に従う」とはかのアルフレッド・チャンドラーの言葉だが、組織と戦略、組織と事業の適合は極めて重要なマネジメントのテーマである。何回かに分けてこの問題を扱う。(続く)								
3	事業と組織（2）	事業と組織では、P&Gのグローバル化と組織再編問題、グラクソとスミスクリンビーチャムの合併に伴う組織問題、メルクの環境変化対応などをケースとして扱う予定である。(続く)								
4	事業と組織（3）	なお、扱うケースは講義の進捗状況などにより随時変更されるものであることをあらかじめ理解いただきたい。								
5	組織変革（1）	組織変革は企業が生き残る上において避けて通れない道である。しかし、組織を構成する生身の人間は、とかく変革を恐れ、面倒くさがり、効果を疑うものである。組織変革の問題を数回に分けて扱う。(続く)								
6	組織変革（2）	ここで扱うケースとしては、新生銀行の企業文化統合と再生、GE ジャックウエルチの企業変革、アサヒビールの組織変革などを取り上げる。(続く)								
7	組織変革（3）	なお、扱うケースは講義の進捗状況などにより随時変更されるものであることをあらかじめ理解いただきたい。								
8	HRM（1）	精緻に組み上げられた組織もこれを運用する人材の能力と意欲が伴わなければ、絵に描いた餅となる。いかにして人材の能力を高め、意欲を掻き立てるか、各社の取り組みを数回に分けて取り扱う。(続く)								
9	HRM（2）	ここで取り扱うケースとしては、ABBの人材マネジメント、マッキンゼーのコンピタンスマネジメント、マブチモーターのグローバル人材マネジメントなどを取り上げる。(続く)								



10	HRM (3)	なお、扱うケースは講義の進捗状況などにより随時変更されるものであることをあらかじめ理解いただきたい。
11	リアルケース (1)	ケーススタディの最終テーマとして、実際の企業が現在取り組んでいる課題を取り上げ、チームとしてのソリューションを考える。(続く)
12	リアルケース (2)	実際に企業変革担当者呼び、リアルに問題意識を語ってもらうことを想定している。
13	映像ケース (1)	ドキュメンタリー映画をベースに、組織の中で人の振る舞いについての理解を深める。
14	映像ケース (2)	同上。
15	ケーススタディの総括	リアルケースのソリューションをチームごとに発表し、相互に意見交換する。この発表をコース全体の評価の対象とする。
<b>履修上の注意点</b>		
このコースは組織・人事系講義の一環として位置づけられる。従って、経営組織論、組織行動論、ヒューマンリソース論、人材育成論などの講義をあらかじめ受講する、もしくは同時履修していることが望ましい。ただし、これを必須条件とはしない。なお、ケーススタディIII、IVは必ずセットで受講すること。		
<b>準備学習 (予習・復習等) の内容</b>		
事前に当該回のケースを読み込むこと。		
<b>教科書</b>		
各回ケースを各自入手すること。ケース入手法に関しては第一回の講義時に指示する。		
<b>参考書</b>		
講義の中で適宜指示する。		
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>		
毎回の講義で行われる学生のグループ発表に対して、講義中にフィードバックする		
<b>成績評価の方法</b>		
(1) 講義への積極的参加 (発言、発表、質問、参加態度など) ならびにクラスへの貢献 (40%) (2) 最終レポート成績点 (60%) とする。		
<b>その他</b>		
ケーススタディ法は正解がない講義である。自らの頭で論理的に考え、これを適切な方法で伝えることが求められる。講義への積極的な参加が大前提となることを認識していただきたい。		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	ケース・スタディⅣ (マネジメント)	2	1・2年	日本語	野田 稔					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○		○			○	
<b>授業の概要・到達目標</b>										
Course ILO ケーススタディⅣ (マネジメント)										
<ul style="list-style-type: none"> <li>組織問題、HRM 問題など、人と組織に関するケース・スタディを通じて、人と組織の複雑さを疑似体験し、この領域の問題に直面した時の、自分なりの考え方の指針 (人と組織のマネジメント持論) を得る。</li> <li>グループディスカッションの経験を通じて、効果的なミーティングファシリテーション、プレゼンテーションを身につける。</li> <li>将来、経営者として組織を構築・運営する際、悩んだときに学び直せる力を身につける。読むべき本を知る、検索すべきテクニカルタームを知るなどの学び直しのための基礎知識を身につける。</li> </ul>										
<p>ケーススタディは、マネジメント上の問題解決を疑似体験できるツールである。実際の企業に起きたことを題材に、問題解決に疑似体験を行いたい。ケーススタディIII、IVは経営戦略と組織論を中心としたケースを選び議論する。経営組織論 (マクロ組織論)、組織行動論 (ミクロ組織論)、人材育成論、ヒューマンリソース論など一連の人事・組織系各講座との連携を考えながら講義を進める。独立した講義として位置づけるが、場合によっては各講義の延長線上の議論を行うこともあることを含んでいただきたい。従って、可能な限り上記各講義も受講することが望ましい。ただし、必須ではない。また、年度をまたがっての受講でもかまわない。ただし、ケーススタディIVはケーススタディIIIと連続して行われるので、受講の際は同じ期に同時に受講すること。</p>										
<b>授業内容</b>										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	ケーススタディの進め方について理解する。効率的な議論が出来るように、ミーティングマネジメントの基礎を講義する。併せて受講者同士の相互理解を深める。								
2	事業と組織 (1)	「組織は戦略に従う」とはかのアルフレッド・チャンドラーの言葉だが、組織と戦略、組織と事業の適合は極めて重要なマネジメントのテーマである。何回かに分けてこの問題を扱う。(続く)								
3	事業と組織 (2)	事業と組織では、P&Gのグローバル化と組織再編問題、グラクソとスミスクラインビーチャムの合併に伴う組織問題、メルクの環境変化対応などをケースとして扱う予定である。(続く)								
4	事業と組織 (3)	なお、扱うケースは講義の進捗状況などにより随時変更されるものであることをあらかじめ理解いただきたい。								
5	組織変革 (1)	組織変革は企業が生き残る上で避けて通れない道である。しかし、組織を構成する生身の人間は、とかく変革を恐れ、面倒くさがり、効果を疑うものである。組織変革の問題を数回に分けて扱う。(続く)								
6	組織変革 (2)	ここで扱うケースとしては、新生銀行の企業文化統合と再生、GE ジャックウエルチの企業変革、アサヒビールの組織変革などを取り上げる。(続く)								
7	組織変革 (3)	なお、扱うケースは講義の進捗状況などにより随時変更されるものであることをあらかじめ理解いただきたい。								
8	HRM (1)	精緻にくみ上げられた組織もこれを運用する人材の能力と意欲が伴わなければ、絵に描いた餅となる。いかにして人材の能力を高め、意欲を掻き立てるか、各社の取り組みを数回に分けて取り扱う。(続く)								
9	HRM (2)	ここで取り扱うケースとしては、ABBの人材マネジメント、マッキンゼーのコンピタンスマネジメント、マブチモーターのグローバル人材マネジメントなどを取り上げる。(続く)								

10	HRM (3)	なお、扱うケースは講義の進捗状況などにより随時変更されるものであることをあらかじめ理解いただきたい。
11	リアルケース (1)	ケーススタディの最終テーマとして、実際の企業が現在取り組んでいる課題を取り上げ、チームとしてのソリューションを考える。(続く)
12	リアルケース (2)	実際に企業変革担当者と呼び、リアルに問題意識を語ってもらうことを想定している。
13	映像ケース (1)	ドキュメンタリー映画をベースに、組織の中で人の振る舞いについての理解を深める。
14	映像ケース (2)	同上。
15	ケーススタディの総括	リアルケースのソリューションをチームごとに発表し、相互に意見交換する。この発表をコース全体の評価の対象とする。
<b>履修上の注意点</b>		
このコースは組織・人事系講義の一環として位置づけられる。従って、経営組織論、組織行動論、ヒューマンリソース論、人材育成論などの講義をあらかじめ受講する、もしくは同時履修していることが望ましい。ただし、これを必須条件とはしない。なお、ケーススタディIII、IVは必ずセットで受講すること。		
<b>準備学習 (予習・復習等) の内容</b>		
事前に当該回のケースを見直すこと。		
<b>教科書</b>		
各回ケースを各自入手すること。ケース入手法に関しては第一回の講義時に指示する。		
<b>参考書</b>		
講義の中で適宜指示する。		
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>		
毎回の講義で行われる学生のグループ発表に対して、講義中にフィードバックする		
<b>成績評価の方法</b>		
(1) 講義への積極的参加 (発言、発表、質問、参加態度など) ならびにクラスへの貢献 (40%) (2) 最終レポート成績点 (60%) とする。		
<b>その他</b>		
ケーススタディ法は正解がない講義である。自らの頭で論理的に考え、これを適切な方法で伝えることが求められる。講義への積極的な参加が大前提となることを認識していただきたい。		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	知的資本戦略論	2	1・2年	日本語	関 大地					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○								
<b>授業の概要・到達目標</b>										
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特許権等の知的財産権を含む、会社が有する無形の経営資源 (知的資本、知的資産) に関するフレームワークが理解できる。</li> <li>・M&amp;A等の各種目的に応じた、知的資本 (知的資産) に関する評価手法を理解することができる。</li> <li>・会社の強みを理解し、その強みを活かして将来どのようなビジネス価値を創造するか、事業構想の基礎を習得できる。</li> <li>・本講義を通じて、会計・ファイナンス・事業構想に関する基礎知識を習得することができる。</li> <li>・人的資本経営や ESG や SDGs、統合報告等知的資産に付随する最新テーマのフレームワークを体系的に理解できる。</li> </ul> <p>一般的に、知的資本 (Intellectual Capital) は在庫や機械設備といった有形資産以外の資産を指すが、その厳密な定義については一般的な合意は得られていない。いずれにしても、技術、ノウハウ、ブランド、特許といった、企業に蓄積されている無形資産 (あるいは知的財産) であると理解すればイメージできよう。</p> <p>近年、マスコミや書籍などでこれら知的資本 (無形資産、知的財産、知的資産) に関する議論を目にする機会が多くなってきた。これは企業経営の中でこれら知的資本の占める重要性が高まってきていることと無関係ではない。アメリカのシンクタンクによる調査結果によれば、企業価値の約70%はこれら知的資本により構成されるといわれている。すなわち、企業価値創造の源泉である知的資本の有効な活用こそが今後の企業価値の最大化に資すると言っても過言ではない。</p> <p>以上のことを背景として、本講義では以下の4つの視点を大きな柱として講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) まず、知的資本とは何かについて基本的な理解を深めるとともに、知的資本がどのようにして価値創造をなし、企業価値の向上につながっていくのかについての基本的なフレームワークを説明する。</li> <li>(2) 一方、近年増加傾向にある M&amp;A においてもシナジー効果の源泉としての知的資本の重要性が高まっている。そこで、M&amp;A プロセスにおける知的資本の認識手法についても実務的な観点から考察を加える。同時に、M&amp;A と知的資本の関係に絡む近年の会計の動向 (特に国際会計基準 (IFRS)) についても説明する。</li> <li>(3) (1)、(2) を踏まえて知的資本の経済的価値の評価手法についてその概要、メリット、デメリットについての説明を行う。その上で、これら知的資本の経済的価値の評価について具体的な事例を用いて説明していく。これら評価事例は可能な限り多くの時間を割きたい。</li> <li>(4) 近年、人的資本経営や ESG や SDGs や統合報告といった非財務の開示、あるいは内閣府が公表した「経営デザインシート」のように企業の無形の資源を将来にいかに関係するかの議論が活発になっている。いずれも知的資本と深く関係している。本講座では「人的資本」、「SDGs・ESG」、「経営デザインシート」ごとに独立したコマで講義を行う。</li> </ol> <p>なお、本講義では、知的資本に関する基礎的な知識がなくても理解できるように行っていくが、知的資本に係る領域はファイナンス、会計等学際的な領域である (なるべくファイナンスや会計に関する基礎的な知識を習得していることが望ましいが、そこまで意識しなくても良い。実際、基礎的な知識がなくても受講した履修生は多い)。</p>										
<b>授業内容</b>										
週	テーマ	内容								
第1回	知的資本論のフレームワーク	知的資本戦略の講義の狙い、知的資本と企業価値・リスクの枠組の関係を、グローバルな視点と日本の現状から理解する。								
第2、3回	知的資本に係る会計の基礎	知的資本に係る会計について基礎的な概念、考え方を整理、理解する。								
第4、5回	M&A と知的資本	M&A をメインテーマに M&A に関する基礎知識 (背景、手法、プロセス等) を概観したあとで、被買収企業の有する知的資本の補足手法を解説する。								

第6、7、8回	知的資本の評価	(1) 知的資本の経済的価値の評価手法についてそのロジック、メリット、デメリットを理解する。 (2) 知的資本の評価手法のうち、紛争処理目的（特許侵害訴訟）における評価の考え方を解説する (3) 売買目的やM&Aなどの知的資本の代表的な評価手法を解説する。ケーススタディ形式で解説する。
第9回	知的資本の評価（ブランド価値評価）	知的資本のうち、ブランド価値評価手法の中で代表的な手法を紹介する。経済産業省モデル、伊藤/日経モデル、インターブランドモデルを中心に議論する。
第10、11回	知的資本の評価（リアルオプション）	リアルオプションによる評価を2回に分けて行う。11回はエクセルスプレッドシートを用いたケーススタディを行う。なお、極度数学を用いない形で行うので極度の心配は無用です。
第12回	経営デザインシート	2018年に内閣府から公表された経営デザインシートの解説を行う。
第13回	人的資本経営	2020年に「人材版伊藤レポート」の公表以来、人的資本経営に注目が集まっているが今後更なる発展の見込まれる領域である。人的資本経営の歴史的背景や、人材版伊藤レポートの含意、今後のあるべきフレームワーク等講義時点における最新の状況をアップデートする。
第14回	ESG、SDGs、統合報告	近年、特に2015年以降において企業情報のディスクロージャーにおける知的資本等の非財務情報の役割に国際的な注目が集まっているがそこでの議論の中心はESG、SDGsであり、これらのレポートリングの手段が統合報告である。ここではESGやSDGsのフレームワークについて歴史的経緯も踏まえてその具体的な中身を理解するとともに、これらと知的資本との関連性を明らかにする。
第15回	まとめ	これまでの議論を振り返り、知的資本を考える上での主要なポイントをまとめて本講座の締めくくりとする。
履修上の注意点		
特に評価のところでは会計やファイナンスの議論が比較的出てくると思われるので、当該分野についての受講または独習を事前に行っていることが望ましい（但し、絶対ではない）。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
授業の際に指示する。		
教科書		
特に指定は行わない。 必要な資料は事前に配布する。		
参考書		
(1) 『THE VALUE REPORTING REVOLUTION—企業情報の開示』 エクレス、ハーツ、キーガン、フィリップス（中央青山監 査法人・PwCコンサルティング訳、東洋経済新報社） (2) 『入門 知的資産の価値評価』 山本大輔・森智世（東洋経済新報社）		
課題に対するフィードバックの方法		
最終授業日にレポートの課題の解説の時間を設けている。		
成績評価の方法		
(1) 講義への貢献度 40% (2) レポート 60%		
その他		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ECN641J	中国経済事情	2	1・2年	日本語	王 京穂					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○		○					○	
授業の概要・到達目標										
【授業概要】 中国の市場や企業を紹介する授業である。 中国企業の経営戦略、ビジネスモデル、内部管理等も触れ、自動車、電機等の製造業、インターネット関連企業の発展、廉価の労働力を競争力の源泉とした中国から、テクノロジー・ブランドに熱心に投資する中国の姿を紹介する。 中国の先進的企業のグローバル化やビジネスモデルはかなり成功している。日本企業にとって学ぶことが多い。中国企業の実践と成功を知ることで、多くの刺激と示唆が得られる。 中国経済の発展は、海外の資本・技術と市場に大きく依存することも含め、中国企業と海外資本・企業との関係性も紹介する。米中関係の悪化やデカップリングの影響とその可能性についても議論する。中国はこれから多くの課題を抱えることになるが、大量なエンジニアを有し、国内に大きな未開発市場、国際的に一帯一路の市場があり、今後の発展の可能性は引き続き高く、注目に値する市場である。 事前に予習をしてもらい、ディスカッションの時間を設ける。										
【到達目標（Course ILO）】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>中国経済や中国の企業を知る。</li> <li>多様性への理解を形成する。</li> <li>論理的、客観的思考を形成する。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	授業概要	1) ニクソン・ショック 2) 中国を複眼で見る 3) 授業概要								
2	BYD 自動車	1) 中国の自動車市場 2) 外資系自動車 3) 彎道超车戦略 4) BYD 自動車								
3	電気自動車市場の発展	1) テスラ 2) 電気自動車市場の活況 3) 多様な電気自動車 4) NIO								
4	三一重機	1) 三一重機 2) 企業特色 3) 積極的海外進出 4) 中国的管理モデル								
5	インターネットビジネス	1) インターネットビジネス 2) 米国の資金と技術 3) 四大ポータルサイトと Baidu 4) アリババとテンセント								
6	インターネットドリブン・イノベーション	1) インターネット+ 2) 伝統産業へのインパクト 3) イノベーションの連鎖								
7	インターネットドリブン・イノベーション2	1) Luckin Coffee（瑞幸咖啡） 2) Shein								
8	力の源泉	1) 市場 2) 優秀な労働力 3) 経験型ではない新しい経営者 4) 利益追求志向 5) ダイナミック・ケイパビリティ								
9	LENOVO	1) LENOVO 2) IBMのPC事業 3) 蛇吞象 4) ポストM&Aの工夫と努力 5) 企業文化の改革								
10	HUAWEI 技術	1) 事業内容 2) 技術・ブランドへのシフト 3) グローバル化への努力 4) テクノロジーオリエンテッド								
11	ブランド戦争	1) ブランドへの熱い視線 2) 王老吉ブランド争奪戦 3) 茅台酒のブランド戦略 4) Volvo								
12	問題と挑戦	1) 経済成長の持続可能性 2) デカップリング 3) 高齢化問題 4) 格差問題 5) 人件費								
13	将来の可能性	1) 産業高度化への投資 2) エンジニアボーナス 3) 国内未開発市場 4) 一帯一路								
14	ディスカッション	1) 日本企業の機会とリスク 2) 中国企業の機会とリスク								
15	整理とまとめ	1) 整理とまとめ 2) 最終レポート								

履修上の注意点
特になし。
準備学習（予習・復習等）の内容
授業の際に指示する。
教科書
授業時に関連資料配布。
参考書
特に指定しない。
課題に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回授業に解説と復習の時間を設けること</li> <li>・Oh-o! Meiji のディスカッションの利用</li> <li>・Oh-o! Meiji のレポートのコメントの利用</li> </ul>
成績評価の方法
ディスカッション・授業貢献 60%、レポート・発表 40%。
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN611J	企業戦略論	2	1・2年	日本語	土屋 繼					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○							
授業の概要・到達目標										
<p>企業戦略の根幹となるビジネスモデルについて体系的に学習する。  具体的にはビジネスモデルをいくつかのサブモデルに分解し、どのように操作できるのかを検討し、収益の上げ方ならびに競争優位性の構築、競合との差別化など企業戦略立案の視点を学習する。  そしてそれらを、受講者自身が属する業界や業種に当てはめた時に何が見えてくるのかについて考えるきっかけとし、企業戦略というもの身近なこととして体感することを目的に置く。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル環境の最先端で起きている社会、文化の変容を捉え、自社の戦略立案においてより精緻な環境分析を行えるようになる</li> <li>・その上で、様々な事例から自社の戦略に対して適用可能な要素を抽出できるようにする</li> <li>・そして戦略立案に関する方法論を新たに習得できるようにする</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1日目										
1	ビジネスモデルとは何か	企業戦略に関する概論とビジネスモデルに関する概論を俯瞰的に理解するための講義								
2	ビジネスモデルの分解とプロフィットモデル	ビジネスモデルをサブモデルに分解し、その1つとなるプロフィットモデルの12分解を理解するための講義								
2日目										
3	登場人物モデル①	登場人物自体を操作するプロフィットモデル								
4	登場人物モデル②	登場人物の関係性を操作するプロフィットモデル								
3日目										
5	登場人物モデル③	登場人物の役割を操作するプロフィットモデル								
6	商品・サービスモデル①	商品・サービスの種類を操作するプロフィットモデル								
4日目										
7	商品・サービスモデル②	商品・サービスの形態を操作するプロフィットモデル								
8	商品・サービスモデル③	商品・サービスの機能を操作するプロフィットモデル								
5日目										
9	価格モデル①	課金先自体を操作するプロフィットモデル								
10	価格モデル②	課金額を操作するプロフィットモデル								
6日目										
11	価格モデル③	課金のタイミング・期間を操作するプロフィットモデル								
12	情報モデル①	情報の流れを操作するプロフィットモデル								
7日目										
13	情報モデル②	情報の量を操作するプロフィットモデル								
14	情報モデル③	情報の質を操作するプロフィットモデル								
最終日										
15	まとめとレポート発表	ビジネスモデルに関する理解度を把握するためのレポート提出ならびに発表とまとめ講義								
履修上の注意点										
<p>一方的な講義というよりは、ディスカッションと発表、ならびに質疑応答を中心に進めるため、授業への積極的な参加ならびに割り当てられた発表が求められる。したがって対面受講を強く推奨するが、オンラインでも実施します。</p> <p>ただしオンライン受講は最大3回までとします。(対面受講が5回以上必須)  またオンライン受講の場合はビデオオンを必須とし、ビデオオフの場合は欠席扱いとする。</p>										

準備学習（予習・復習等）の内容
割り当てられた発表の際には発表資料の準備が求められる。
教科書
特に定めない。
参考書
『ビジネスモデルの教科書』（今枝昌宏）
課題に対するフィードバックの方法
最低1回の授業中レポート並びに最終授業日のレポートに対してはショートコメントを返す。
成績評価の方法
受講態度 10% 授業参加・貢献度（発言の質・量）60% 発表・レポート（回数・内容）30%
その他

Course Number	Class Subject Name					Credits	Year	Language	Faculty Member		
(GB)CMM691E	Business Communication					2	1st-2nd Year	English	小田切尚登 ODAGIRI Naoto		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
	○	○		○							
Course Summary and Objectives											
Course ILOs:											
<ol style="list-style-type: none"> <li>The students will be able to demonstrate leadership and management competency with a global perspective by engaging in various discussions under the guidance of the lecturer who is a veteran international banker.</li> <li>The students will be able to develop a solid foundation in business communication skills and management expertise that are essential for successful international and cross-cultural businesses.</li> <li>The students will be able to foster a global and innovative approach by deepening the understanding of various issues through exchanging views with other classmates and the lecturer.</li> </ol>											
Course Contents											
Week	Theme				Contents						
1	Introduction				Understand why communication skills are important in international business.						
2	Real World (I)				The lecturer who has extensive experience in international businesses discusses his experience including the problems he has faced.						
3	Real World (II)				Learn what type of communication skills are needed in international businesses such as banking, finance, and other industries.						
4	Discussion (I) Higher education				(The discussion classes will be interactive sessions, conducted among the lecturer and students with various backgrounds.) We will discuss how/why advanced degrees are needed (or not).						
5	Discussion (II) Japanese industry				Learn about the status of Japanese businesses/industries that are known to be quite unique in the international context, and discuss merits/demerits						
6	Discussion (III) English language				Discuss the importance of English proficiency in conducting business.						
7	Presentation Skills				Learn about making presentations in verbal and written forms.						
8	Presentation (I)				Students will deliver presentations. Discuss its contents and the related issues.						
9	Presentation (II)				Students will deliver presentations. Discuss its contents and the related issues.						
10	Presentation (III)				Students will deliver presentations. Discuss its contents and the related issues.						
11	Reading and writing				Learn how to write effective business reports/memos.						
12	Discussion (IV) Income inequality				Discuss the current conditions and possible solutions if any.						
13	Discussion (V) Uniqueness of Japanese culture				Discuss the uniqueness (or not) of Japanese culture						
14	Discussion (VI) Investments				Discuss and learn how the surplus money should be invested.						
15	Summary				Communication skill alone does not mean anything: Into the future						
Prerequisites and registration requirements											
International experience or English language proficiency is a plus, but not a requirement. Those who are inexperienced in business, poor at English, or shy are equally welcome. Active class participation is highly encouraged. Don't be afraid of making mistakes in front of others.											



Preparation and Review
In the class, we will discuss various issues. You can contribute to the class if you share your thoughts and experience with other classmates. Special advice/care may be provided for those participants who are not comfortable speaking English. All the participants are required to make a formal presentation, which will be the main event of this course. Also, some assignments will be given in order to see the level of understanding of the students. There will be no final examinations.
Textbook(s)
None.
Reference(s)
The lecturer will distribute English language materials (newspaper articles, etc.) from time to time.
How to provide Feedback to assignments
Overall feedback/comments will be provided during the class or on Oh!Meiji.
Grading and Evaluation
Contribution to class 50%, Presentation 35%, Assignments 15%,
Other
None.

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ARS611J	新興市場のマネジメント	2	1・2年	日本語	藤岡資正					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○		○						
授業の概要・到達目標										
<p>到達目標 (ILO2, ILO4, ILO5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新興市場の特徴と課題について理解することができるようになる。</li> <li>・新興市場における日系企業の戦略的課題と現状について理解できるようになる。</li> <li>・新興市場を分析する際のグローバル経営のフレームワークを学び、マクロ・ミクロデータの利用の仕方や分析上の留意点を理解することができるようになる。</li> <li>・グローバル・バリューチェーンの概念を理解し、多国籍企業による国境を跨いだ価値創造活動が社会経済に及ぼす影響について理解することができるようになる。</li> <li>・社会的・制度的・文化的な実践としての企業経営を捉えることの重要性を理解することができるようになる。</li> <li>・企業の社会的責任について具体的な事例とともに実践的な課題について問題意識を持つことができるようになる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
<p>新興市場のマネジメントでは、近年急速に経済成長を果たし、我が国との関わりも深い新興アジア諸国に焦点を合わせ、日系企業のアジア展開について理解を深めていく。特に、タイ国を中心とするメコン地域は、地政学的にも地経学的にも日系企業にとって非常に重要な地域であり、当該地域における製造業を中心とする海外直接投資を歴史的に整理したうえで、日系企業のアジア展開について戦略を構想していくための理論的フレームワークを習得する。</p> <p>まずは、なぜ企業は国境を越えるのか？企業（あなた）にとっての国際化やグローバル化とは何を意味するのか？どのようなプロセスを経て事業活動の海外展開が進められていくのか？といった基本的な問いに向き合うためのグローバル経営の基礎理論をしっかりと学んでいく。そのうえで、実際の企業のケース事例を取り上げ、グローバル経営の各理論のどの部分が通用し、どの部分に修正が必要であるかを双方向型のディスカッションを通じて明らかにしていく。</p> <p>こうしたプロセスを通じて、国際ビジネスの全体像を理解した後、アセアンを含む新興市場を捉えるために必要となる、グローバルとローカルの間にあるリージョナルという視点から、タイ国を中心とするメコン地域の事例を通じて、日本企業のリージョナルビジネスの可能性と課題について、理解を深める。グローバルな事業展開を構想する際に求められる時空間的な境界をいかにして定義し、統合と分散という異なる圧力に対応していくためのフレームワークを理解し、ケーススタディを通じてグローバル経営の本質に迫っていく。</p>										
1	本講義の射程・学習目的・教授法・使用教材・使用ケースなどについて説明をしたうえで、社会科学として経営学を学ぶことの意義について理解を深める。									
2	アセアンの政治経済事情の基本 (1)	日本と繋がり深い東南アジア諸国の政治・経済の基本的な事項について学ぶ。特にメコン地域に焦点を合わせ、各国の状況を比較しながら、現代政治・経済の現状と課題について理解を深める。								
3	アセアンの政治経済事情の基本 (2)	タイ国に焦点を合わせ、タイ国を中心とするメコン地域における日系製造業の事業展開について各種統計資料をもとに理解を深めていく。								
4	グローバル経営の考え方 (1)	グローバルとは何か？多国籍企業とは何か？								
5	グローバル経営の考え方 (2)	企業活動の国際展開に関する論理 国際化の発展段階、海外直接投資の論理、国際プロダクトサイクル理論、OLIパラダイム								
6	グローバル経営の考え方 (3)	従来の理論の限界と近年の理論展開の整理								
7	グローバル戦略論の基礎 (1)	グローバル戦略の類型とIR フレームワーク								
8	グローバル戦略論の基礎 (2)	セミ・グローバリゼーションと地域事業戦略 (ASEAN 諸国の事例をもとに)								
9	グローバル戦略論の事例 (3)	CAGE フレームワーク、AAA 戦略 (日系企業の ASEAN 戦略の事例をもとに)								



10	日本企業のアセアン戦略 (1)	製造業を中心とする日系企業のアセアン展開について理解を深める：迂回輸出の拠点から販売拠点としてのシフト (自動車産業・家電電子産業の事例をもとに)
11	日本企業のアセアン戦略 (2)	地域事業戦略の実践：AAA 戦略の具体的な方法論としてのタイランド+ワン戦略の在り方と実践について学ぶ (食品メーカー・化粧品メーカーの事例をもとに)。
12	グローバル戦略に際して経営者が直面するトレードオフについて理解をする。	
13	グローバル戦略のシフトに際して組織が直面する課題を理解する。	
14	新興国にて事業展開する際に留意すべき社会的・制度的・政治的文脈への対応と企業の社会的責任について理解する。	
15	日アセアン戦略的互恵関係の構築に向けて	経済産業省・外務省・JICA などとの実際のプロジェクトについてディスカッション
<b>履修上の注意点</b>		
<p>原則として、「新興国市場のマネジメント (演習)」とセット履修となりますので、履修の際には注意してください。</p> <p>また、このクラスは、双方向型の教育効果の観点から原則対面のみとなっておりますので、ハイブリッドでの授業は行いません。</p> <p>非常事態宣言など感染状況に応じてオンラインへ切り替えることもございますが、その場合は「参加者すべてがオンライン」となりますので履修の際には留意してください。</p> <p>また、海外現地研修を行うことが難しい可能性が高いことから、二次資料を用いた現地市場調査や遠隔インタビューなどを通じてコロナ禍における海外事業展開に求められるスキルを身につけていけるような工夫をしたいと思います。</p> <p>2018 年度までに「アセアンの政治経済事情」及び「同 (演習)」の単位を修得したものは、それぞれ「新興国市場のマネジメント」及び「同 (演習)」を履修することはできません。</p>		
<b>準備学習 (予習・復習等) の内容</b>		
<p>(1) 準備学習としては、アセアンや新興国に関する雑誌・新聞記事を意識して読んでおくとともに、受講者が所属している企業の国際展開について調べておくことと理解がより一層進む。</p> <p>(2) 実務未経験者は、授業内容にかかわる教科書や参考書などを手引きとしながら、興味のある企業の国際展開について簡単に良いので情報をまとめておくこと。</p>		
<b>教科書</b>		
<p>(本科目が基礎理論の整理で依拠しているテキストだが、購入を必要はない)</p> <p>Christopher A. Bartlett and Paul W. Beamish (2014) <i>Transnational Management</i> (7th edition) McGraw-Hill</p>		
<b>参考書</b>		
<p>(必ずしも購入する必要はないが一部報告書を除き、日本語で読めるものを挙げておく)</p> <p>浅川和宏 (2003) 『グローバル経営入門』日本経済新聞社</p> <p>パートレット・C ゴッシャル・S (1990) 『地球市場時代の企業戦略』日本経済新聞社</p> <p>フリードマン・T (2006) 『フラット化する世界 上・下』日本経済新聞社</p> <p>ゲマワット・P (2009) 『コークの味は国ごとに違うべきか』文藝春秋</p> <p>大石芳裕ほか監修 (2012) 『多国籍企業と新興国市場』文真堂</p> <p>藤岡資正編著 (2015) 『日本企業のアセアン戦略：メコン地域での価値共創へ向けて』同友館</p> <p>藤岡資正編著 (2018) 『新興国市場と日本企業』同友館</p> <p>末廣昭 (2009) 『タイ中進国の模索』岩波新書</p> <p>アジア開発銀行 (2011) <i>Asia 2050: Realizing the Asian Century</i>.</p>		
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>		
<p>授業全般の課題に関するフィードバックは、クラス内で行います。</p> <p>また、個別のフィードバックが必要な場合は、アポイントメントベースでオフィスアワーやメールにてご対応します。</p>		
<b>成績評価の方法</b>		
<p>(1) クラスにおける貢献度 (発言・グループワークなど) 40%</p> <p>(2) 期末試験 (レポート) 60%</p>		
<b>その他</b>		
特になし。		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ARS612J	新興国市場のマネジメント (演習)	2	1・2年	日本語	藤岡資正					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○		○						
<b>授業の概要・到達目標</b>										
<p>到達目標 (ILO2、ILO4、ILO5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新興国市場の特徴と課題について理解したうえで、適切な問いを立て、それを仲間と共有するための概念やツールを使いこなすことができるようになる。</li> <li>・一次データと二次データを突き合わせながら、仮説を導出する力を身につけることができる。</li> <li>・新興国市場における日系企業の戦略的課題と現状について理解したうえで、実践的な解決策を提示するための論理的思考を鍛えることができる。</li> <li>・新興国市場を分析する際のマクロ・ミクロデータの利用の仕方や定量分析を実施する上での留意点を理解することができるようになる。</li> <li>・グローバル・バリューチェーンの概念を理解し、貿易統計と付加価値計算による価値計算の相違点を捉えることができるようになる。</li> <li>・新興国市場の課題を理解し、適切な問いを立て、ビジネスモデルに落とし込んでいくプロセスを学ぶことができる。</li> </ul> <p>本演習では、新興国市場のマネジメント (講義) で学習した各種フレームワークや理論の実践への応用力を養成していくことを目的としている。具体例を挙げると、新興国市場のマネジメント (講義) で学んだグローバル統合とローカル適応のトレードオフを止揚するための思考を鍛えるために、ケースメソッドを用いて国際戦略の類型・ガバナンスの在り方・子会社の管理・企業の国際化における言語や文化の問題・異文化コミュニケーション・チェンジマネジメント・企業の社会的責任・企業倫理・クライシスマネジメントなど現実の経営実践を追体験しながら、国際経営の本質に迫っていく。ケースメソッドを用いたセッション (3セッション程度) では、受講者はケースの主人公である経営者やマネージャーの立場を疑似体験し、各ケースを読み込み、それぞれに設定されたケースクエストについて積極的にディスカッションをしていくことが期待される。また、ケースメソッドに加えて、グループ学習を行うことで、新興国市場のマネジメント (講義) の内容を継続・補完していきながら、多面的に新興国ビジネスを捉える力を養成していく。</p> <p>本演習では、グループごとに実際に企業 (展開したい製品・サービス) を一社取り上げ、当該企業のアジア展開に関する事業計画を作成し、理論編で学んだフレームワークを実際に用いながら、先進国における事業計画と新興国における事業計画の相違点について理解を深めていく。グループ研究テーマの設定後は、必要に応じて外部実務家やコンサルタントを招聘し、アセアンを中心とする新興国における経営実務についての知見を深めていくとともに、実務家との対話を通じて各グループで設定した研究テーマ及び導出仮説を洗練していく。その後、3泊4日程度のバンコクへの現地フィールド調査を通じて、実際にアセアンの中心国であるタイの経済成長を体感し、日系企業の課題について企業や関係機関へのフィールド調査を行う。</p>										
<b>授業内容</b>										
<p>「新興国市場のマネジメント」(講義)とのセット履修を前提としています。各セッションでは「新興国市場のマネジメント」で扱ったテーマに関連して、実際の企業の事例を扱いながら、グループワークを通じて、アセアンの政治、経済、社会の基礎を習得していく。演習の進め方は、感染症の状況や履修者の習熟度などを考慮しながら行います。グループでの作業を通じて限られた時間での資料のまとめ方や新興国事業のプレゼンテーションの効果的な行い方やコミュニケーションの仕方などを学んでいきます。</p>										

履修上の注意点
<p>原則として、「新興国市場のマネジメント」（講義）とセットで履修すること。</p> <p>また、当演習では、6月第2週に3泊4日程度のバンコク・フィールドスタディー研修が含まれているため、日程の調整をしていただく必要がありますが、今年は感染症の影響で渡航できない可能性が高くなっています。</p> <p>原則として、「新興国市場のマネジメント（演習）」とセット履修となりますので、履修の際には注意してください。</p> <p>また、このクラスは、双方向型の教育効果の観点から原則対面のみとなっておりますので、ハイブリッドでの授業は行いません。</p> <p>非常事態宣言など感染状況に応じてオンラインへ切り替えることもございますが、その場合は「参加者すべてがオンライン」となりますので履修の際には留意してください。</p> <p>また、海外現地研修を行うことが難しい可能性が高いことから、二次資料を用いた現地市場調査や遠隔インタビューなどを通じてコロナ禍における海外事業展開に求められるスキルを身につけていけるような工夫をしたいと思えます。</p> <p>2018年度までに「アセアンの政治経済事情」及び「同（演習）」の単位を修得したものは、それぞれ「新興国市場のマネジメント」及び「同（演習）」を履修することはできません。</p>
準備学習（予習・復習等）の内容
<p>本演習では、アセアン地域や新興国における日系企業を中心とする海外事業展開を様々な角度から取り上げるため、日頃から注意してアジア新興国に関するニュースや記事に目を通しておくこと。また、フィールドベースの学習を促進するため、本年度はバンコクへのフィールド調査を予定している。</p>
教科書
<p>（特に購入の必要はない）</p> <p>ゲマワット・P（2009）『コークの味は国ごとに違うべきか』文藝春秋</p> <p>藤岡資正・チャイボン・ボンパニッチ・関智宏（2012）『タイビジネスと日本企業』同友館</p> <p>藤岡資正（2015）『タイの経営・日本の経営』カナリア書房</p> <p>藤岡資正（2018）『新興国市場と日本企業』同友館</p> <p>末廣昭（2009）『タイ中進国の模索』岩波新書</p>
参考書
<p>その都度、各グループや受講生の関心のあるテーマに合わせた参考文献を紹介していく。</p>
課題に対するフィードバックの方法
<p>授業全般の課題に関するフィードバックは、クラス内で行います。</p> <p>また、個別のフィードバックが必要な場合は、アポイントメントベースでオフィスアワーやメールにてご対応します。</p>
成績評価の方法
<p>(1) クラス内及びフィールド調査での貢献度 50%</p> <p>(2) 最終レポート及びプレゼンテーション 50%</p>
その他
<p>特になし。</p>

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC631J	財務会計論	2	1・2年	日本語	山口不二夫					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○			○			○
授業の概要・到達目標										
<p>本講義は会計学をつとめて理論的に学習する。簿記会計は理論より暗記が優先されることが多いが、本講義では無反省的に「慣行」と「暗記」で済まされてきた会計の考え方や知識を、できるだけ少数の前提からの演繹的推論で説明する。さらに会計学の理論的フロンティアの課題についても解決の糸口を提供したい。</p> <p>現在、会計の世界は急速な変転を続けている。このような激変時には、暗記で得られた知識は数年の寿命しかない。真に有効な知識とは普遍性と応用力のある知識であり、それは過去の卓越した少数の理論とそれらを使いこなす思索力からもたらされると考える。本講義は大きく分けると3部から構成される。</p> <p>第1部では、会計利益の利益データの特徴を明らかにするために、単純化されたモデルを用いて経済学的利潤概念との比較をおこなう。さらに物価変動をモデルの条件に付加することによって、会計利潤の特徴をより鮮明にする。これは価格変動会計、時価会計の基礎理論につながる。</p> <p>第2部では、複式簿記の論理的再構成をおこなう。簿記は習うより慣れるといわれるが、ここではあたりまえと考えられる会計処理も、原点に立ち返ってひとつひとつ定義しながら意味を考え、簿記・会計を演繹的に再構成する。今年度より一部英文資料や英語での説明を交える。</p> <p>第3部では現代会計の問題と課題をIFRSとこれから何が必要か、過去から何を学べるか考える。学生による課題図書の内容報告。</p> <p>今年は、できるだけ3部の内容を充実させたい。</p> <p>本講義は中上級用が組み込まれているが、すでに会計学を学習済みの者はアカウンティング基礎論との並行履修も可能である。</p> <p>本講義の到達目標 (Course ILOs) には、以下の点が含まれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルな視点と社会的責任と倫理観をもって経営問題を解決できる。</li> <li>2. 経営管理のための基盤となる能力を身につける。</li> <li>3. リーダーシップと管理能力を身につける。</li> <li>4. 情報収集とそのデータの分析ができる。</li> <li>5. 戦略プラン策定のための視点を提供する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	講義の概要説明と会計とは何か	履修方法、参考文献の説明および会計学の研究対象の議論 財務諸表とはどのようなものか 財務諸表の概要: 会計政策と粉飾、企業倫理								
2	経済学利潤概念: 主観利潤と実現可能利潤	経済学的利潤概念: 将来収益の割引現在価値の変化分としての主観利潤、実現可能利潤の提示と説明 (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 9章) 経済学利潤概念との比較による会計利益の特徴 実現可能利潤との比較による会計利益の特徴の発見、資本財の減耗と減価償却 (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 9章)								
3	物価変動の影響	物価変動を考慮した際の会計利益と経済学的利潤概念の比較、インフレーション会計の基礎理論、資本維持概念の説明 (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 10章)								
4	資本取引と経過勘定項目	資本と利益の区分と経過勘定項目の説明 (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 10章) 複式簿記の論理的再構成1 記帳の対象、財産目録、実在勘定定義、取引の定義の説明 (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 2章)								
5	複式簿記の論理的再構成2	損益の名目勘定と損益計算書、キャッシュフロー計算書 (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 2章)								

6-1	収益の認識基準	モデルによる収益の認識基準の理論的な説明 (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 3章) 実務における収益の認識基準、海運業の収益認識基準、工事進行基準など (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 3章)
6-2	収益費用対応の原則	貨幣データの流れと物量データ、収益費用の個別対応と期間対応について学習 (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 4章) 棚卸資産の評価 FIFO、LIFO、平均法、低価基準の説明、実際の財務諸表の読み方 (齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会 4章) 固定資産の評価・減損会計と割引現在価値評価 固定資産の評価・減損会計の理論について学習する。
7	無形資産の問題	
8	会計史からのアプローチから	ソール『帳簿の世界史』
9	概念フレームワークとは何か	概念フレームワークについての学生の報告
10	IFRSでなにかかわるか	IFRSと会計の動向について学習する。(資料配布)
11	会計学の方法とIFRS (Tomo 鈴木文献購読)	
12	会計の再生は可能か (レブ・ゲーの文献購読)	
13	最新の会計論文の購読と解説 中央経済社企業会計、森山書店会計掲載の論文など	
14	古代シュメールの会計、東インド会社の会計、ジャーディンマテソン商会の会計などから我々は何を学ぶか	
15	会計の役割と倫理	全体のまとめ、質疑応答
履修上の注意点		
本講義は簿記会計の初学者でも履修できる。あらゆる分野の前提的学問知識を必要としない。学部等での会計既習者、企業での経理担当者、公認会計士、税理士、アナリスト等にもすでに得ている知識を体系づけるのに有用であるのでぜひ参加されたい。		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
授業中に指示する。		
教科書		
授業開始時に説明する。		
参考書		
齋藤静樹『企業会計とディスクロージャー』東大出版会: 抽象的すぎて難解かもしれない。 講義の6、7、9、10、11回については、山口『企業分析: 増補版』白桃書房 III、IV章がわかりやすい。 Edwards & Bell, <i>The Theory and Measurement of Business Income</i> , 1961 California Univ. Press (邦訳『意思決定のための利潤計算』日本生産性本部、1964年) 井尻雄士『会計測定の理論』東洋経済新報社 Tomo 鈴木、Oxford Report: ネットで閲覧可能 レブ・ゲー『会計の再生』中央経済社 『会計理論学会第34回全国大会報告要旨集』(授業時に配布する) ソール『帳簿の世界史』 本格的な会計史の本として、橋本寿哉『中世イタリア複式簿記生成史』 無形資産については 山口 RIETI ディスカッションペーパー あるいは 小栗・陣内『会計のオルタナティブ』中央経済社: ここには付加価値や最新の会計の論文も含まれている		
課題に対するフィードバックの方法		
Oh-o! Meiji でレポートとして提出してもらいコメント欄を用いてフィードバックを行う		
成績評価の方法		
(1) 授業での貢献 (50%) (2) 報告・提出課題の評価 (50%)		
その他		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	企業分析	2	1・2年	日本語	山口不二夫					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○			○			○
授業の概要・到達目標										
<p>本講義は企業分析の理論を学習し、データを用いて実際の企業の分析ができることを目的とする。</p> <p>企業分析の方法を大きく2つに分類すると、定性分析と定量分析に分けることが可能である。定量分析とはおもに財務（会計）データを用いて、企業を分析する方法であり、定性分析とは非財務データを用いて企業を分析する方法である。現在最も、確度の高い企業評価は社債の格付けと企業の売買取のときのデューデリジェンスであると呼ばれている。それら企業評価の局面では定量分析を定性データで補正する方法がとられている。</p> <p>本講義では財務データを用いた定量分析を初歩から学習する。定量分析を中心とする理由は、財務データという抽象度の高いデータを用いることで、定性分析よりも業界や時代、地域性に左右されない、普遍性の高い分析方法を習得することができるからである。</p> <p>授業の前半は、企業分析の理論をケースを用いて学習する。さらに資料収集の方法、ケースを用いたの趨勢分析、比率分析、企業評価、標準的企業についてのコンサルティングレポートについてケースを用いて学習を行う。そののちに各自企業を選び、企業分析コンサルティングレポートの作成方法を指導する。</p> <p>授業で使用するケースは、阪急電鉄、楽天、ソフトバンク、JT、ライブドア、オリンパス、Apple、シャープ、Panasonic、ニトリ vs 大塚家具、などが候補ですすでに準備済みである。皆さんの一番興味をもてる企業をとりあげたい。</p> <p>アカウントニング基礎論で一部ケースが取り上げられているので、本講義では企業分析ソフトを受講者に配り、各自が選定した企業を分析することを主眼とする。</p> <p>また英文財務諸表による分析も考えており Apple などが候補である。</p> <p>本講義の到達目標（Course ILOs）は、以下の点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルな視点と社会的責任と倫理観をもって経営問題を解決できる。</li> <li>2. 経営管理のための基盤となる能力を身につける。</li> <li>3. リーダーシップと管理能力を身につける。</li> <li>4. 情報収集とそのデータの分析ができる。</li> <li>5. 戦略プラン策定のための視点を提供する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	講義の概要説明と企業分析とは何か	履修方法の説明および企業分析とは何か（テキスト山口『企業分析』白桃書房、第I、II章）								
2	財務資料の見方	ケースを用いた損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書の見方（以下、ケース資料を用いる）								
3	趨勢分析	経営基本指標と損益計算書の趨勢分析（VII章） 貸借対照表の趨勢分析（VII章） 収益力の分析；収益力の指標、売上高諸費用比率（VIII章）								
4	活動性の分析；回転率の指標による分析（VIII章）	生産性の分析；付加価値と生産性の指標による分析（IX章） 損益分岐点分析；損益分岐点分析の方法と限界、問題点（IX章）								
5	企業評価の方法	総合評価、企業評価、格付け、コンサルティングレポートの書き方（XI章）								
6	ケースによる定性分析の報告と討論1									
7	ケースによる定性分析の報告と討論2									
8	ケースによる定性分析の報告と討論3									
9	ケースによる定性分析の報告と討論4									
10	ケースによる定量分析の報告と討論1									
11	ケースによる定量分析の報告と討論2									
12	ケースによる定量分析の報告と討論3									
13	ケースによる定量分析の報告と討論4	（ゲストレクチャーの場合もある）								
14	ケースによる定量分析の報告と討論5	（ゲストレクチャーの場合もある）								

15	まとめ、粉飾と企業倫理	T社、O社の例などとりあげる。
履修上の注意点		
<p>アカウントニング基礎論を学習済みあるいは並行履修が望ましい。財務会計についての基礎的な知識を必要とする。</p> <p>今年度は演習を中心にして、各自自分の好む企業を選定し、定性分析1回、定量分析1回を行い、その両者を統合して最終レポート（企業分析レポート）を作成することを目指す。</p>		
準備学習（予習・復習等）の内容		
<p>ケース学習に入ると、週末までにケースをクラスウェブで配付する予定なので、予習をしておく学習効果がある。</p> <p>そのケースによるグループディスカッションも予定している。</p>		
教科書		
山口『企業分析：増補版』白桃書房（改訂中）改訂がおこなわれなければ資料配布		
参考書		
<p>会計学については、齋藤静樹『企業会計入門』有斐閣、パレプ他著、斉藤訳『企業分析入門』東京大学出版会（「入門」とあるが中・上級者向け、統計、ファイナンスの知識を必要とするが良書）</p> <p>経営分析の論文については、本学『MBSレビュー』に掲載された、経営分析論文を参照されたい。ネットで検索すれば手に入ります</p>		
課題に対するフィードバックの方法		
<p>Oh-oi Meiji でレポートとして提出した場合は、コメント欄を用いてフィードバックを行う</p> <p>当日画面表示の場合は、その場でコメントや修正を施す</p>		
成績評価の方法		
(1) 授業への参加度 (30%) (2) 企業分析・コンサルティングレポートの提出 (70%)		
その他		

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)MAN692E	Business Analysis (Seminar)	2	1st-2nd Year	English	許 英姿 KYO Eishi					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○					○		○
Course Summary and Objectives										
<p>The purpose of this class is to promote students' ability to make consulting reports about companies using the method of financial statement analysis.</p> <p>To make reports, students shall take the following steps. 1. Select their own target company. 2. Analyze the financial statements of the company with the teacher. 3. Present the qualitative aspects of the company, and discuss them with classmates and the teacher. 4. Make a data sheet or figures using a certain analytical method. 5. Present the quantitative aspects of the company, and discuss them with classmates and the teacher. 6. Correct the data sheet and figures according to the teacher's comments, and submit the documents to the teacher. 7. Make the final report of the company.</p> <p>各自が選択した企業を分析し、財務諸表を読み取り、プレゼンテーションを行う。企業分析レポートを作成できることを目的とする。各自の分析力に応じた指導をする。</p> <p>本講義の到達目標（Course ILOs）は、以下の点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な財務諸表分析の手法を身につける。</li> <li>2. ビジネスと財務諸表上の数字の関連性を見つけることができる。</li> <li>3. 情報収集とそのデータの分析ができる。</li> <li>4. 会計管理のための視点を提供する。</li> </ol>										
Course Contents										
Week	Theme	Contents								
1	Guidance and Overview	What is business analysis								
2	Lecture and Discussion 1	Case 1, Presentation and Discussion 1								
3	Lecture and Discussion 2	Case 1, Presentation and Discussion 2								
4	Lecture and Discussion 3	Case 2, Presentation and Discussion 3								
5	Lecture and Discussion 4	Case 2, Presentation and Discussion 4								
6	Presentation of Qualitative Analysis and Discussion of Group 1	Presentations and Discussions								
7	Presentation of Qualitative Analysis and Discussion of Group 1	Presentations and Discussions								
8	Presentation of Qualitative Analysis and Discussion of Group 3	Presentations and Discussions								
9	Presentation of Qualitative Analysis and Discussion of Group 4	Presentations and Discussions								
10	Presentation of Quantitative Analysis and Discussion of Group 1	Presentations and Discussions								
11	Presentation of Quantitative Analysis and Discussion of Group 2	Presentations and Discussions								
12	Presentation of Quantitative Analysis and Discussion of Group 3	Presentations and Discussions								

13	Presentation of Quantitative Analysis and Discussion of Group 4	Presentations and Discussions
14	Lecture and Discussion 5	Lecture and Discussion for all Presentations 1.
15	Lecture and Discussion 6	Lecture and Discussion for all Presentations 2.
Prerequisites and registration requirements		
<p>Basic accounting knowledge is required. This class is given mainly in English, but to promote the analytical skills of the students. Japanese may be used supplementarily.</p> <p>基本的な会計知識が必要である。参加者の英語力に応じて行う。</p>		
Preparation and Review		
<p>Materials distributed beforehand should be previewed.</p> <p>事前に配布した資料を予習する必要がある。</p>		
Textbook(s)		
No required.		
Reference(s)		
Bernard, Healy & Palepu, Business Analysis and Valuation: Using Financial Statements, South-Western Pub., 2007.		
How to provide Feedback to assignments		
Set a question time for each class.		
Grading and Evaluation		
Presentation and participation 50%, Final Report 50%.		
Other		



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC691J	非営利組織の会計	2	1・2年	日本語	山口不二夫					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○					○			
授業の概要・到達目標										
<p>本講義は企業分析で扱うことのできなかった公社・公団、大学、病院など標準的でない財務諸表の分析技法と定性要因についての分析を学習する。そのなかで最も特殊な財務諸表の一つである学校法人など非営利組織を含む経営分析の方法を、ケースを用いて学習する。これらについては財務諸表自体が、標準的なものと異なることから、まず財務諸表の様式を学習し、データを用いて実際の組織の分析ができるようになることを目的とする。</p> <p>本年度は非営利組織の会計の演習の時間がないため、希望者にはその希望する組織の経営分析を指導する。方法は一回目は業界分析と定性分析を行い、対象組織の特徴を捉える。2回目は財務データを収集し6年以上の表をもとに定量分析を行う。可能な限り多くの参加者が取り組まれることを推奨する。自身で行う経営分析は、営利組織であっても構わない。</p> <p>さらに時間が許せば、非営利組織の評価のためにはサービスの評価が必要なことから、市場化されていない（市場で評価されていない）サービスの評価方法、非貨幣による組織の評価方法を考える。このことは結局、組織の無形資産の認識と無形資産の評価の問題であることを確認し、無形資産の会計処理さらには物量会計、Non Monetary Accounting を考える。これらの無形資産や物量会計は営利企業においても重要な課題となりつつあるからである。</p> <p>本講義の到達目標は、以下の点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルな視点と社会的責任と倫理観をもって経営問題を解決できる。</li> <li>2. 革新的なアプローチの提供。</li> <li>3. リーダーシップと管理能力を身につける。</li> <li>4. 情報収集とそのデータの分析ができる。</li> <li>5. 戦略プラン策定のための視点を提供する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	講義の概要説明履修・評価方法の説明およびテキスト資料の説明	経営分析とはどのようなものか。								
2	公社・公団・独立行政法人の経営分析2	道路公団などケースを用いた公社公団、独立行政法人の会計と分析方法 あるいは、博物館・美術館・オーケストラの経営分析								
3	学校法人の経営分析	ケースによる学校法人の経営分析								
4	公益法人の経営分析	公益法人の経営分析方法（老人ホーム・保育園、病院など）								
5	NHKと民放の分析	NHKと民放の財務分析								
6 から 13	参加者とケースを用いての分析あるいはゲスト講義	参加者の希望組織について分析する。								
14	参加者とケースを用いての分析あるいはゲスト講義	自治体のバランスシートの分析 自治体のバランスシートと行革コスト計算書の分析方法								
15	倫理と財務規律、まとめ質疑応答									
履修上の注意点										
<p>企業分析の履修、並行履修、あるいは財務会計についての基礎的な知識を必要とする</p> <p>参加者は、なるべく自分の分析したい組織の財務諸表を準備し、1回目は定性分析、2回目は定量分析を行っていただきたい。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>できるだけ前の週に翌週のケース資料を配布するので、事前に読み込んでおくこと。</p> <p>参加者のおおくが自分の選定した組織の分析を行うことが望ましい。</p>										
教科書										
現在のところなし										
参考書										
山口他『私立大学の財政分析ができる本』大月書店、授業時に指示する。										

課題に対するフィードバックの方法
Oh-o! Meiji でレポートとして提出してもらいコメント欄を用いてフィードバックを行う
成績評価の方法
(1) 授業での貢献 (30%) (2) 各自が選定した組織の経営分析・コンサルティングレポートの評価 (70%)
その他
<p>授業内容は、各年次の参加者の興味によって一部回のテーマが複数回取り上げられ、深く掘り下げられることがある。その分他の回が省略されることがありえるので、ご承知いただきたい。</p> <p>各自、自分の希望する組織の経営分析をおこなうことが望ましい。</p>



科目ナンバー	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)ACC641J	戦略とマネジメント・コントロール・システム					2	1・2年	日本語	藤岡資正		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○			○	○							
授業の概要・到達目標											
【到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> <li>経営戦略の理論的發展を歴史的に理解することができるようになる。</li> <li>競争優位性を明確に定義し、その獲得を巡る異なる視角について理解することができるようになる。</li> <li>経営戦略やマーケティングの基本的な分析フレームワークを実際に事例に当てはめて分析し、財務成果と結びつけて理解することができるようになる。</li> <li>各種フレームワークの限界を理解することができるようになる。</li> <li>財務諸表から企業の業績を理解できるようになるとともに、そこから戦略的意図を見出すことができるようになる。</li> <li>経営管理のための会計情報の役割と戦略と活動を結びつけるマネジメント・コントロールと一連のプロセスを支える MCS について理解することができるようになる。</li> <li>代表的な経済的価値計算のロジックを理解し、理論と実践の乖離について学ぶことができる。</li> <li>価値とは何かについてさまざまな角度から思考することができるようになる。</li> </ul>											
【授業の概要】											
<p>管理会計は、経営管理者が企業内部の意思決定や業績評価を中心とした経営管理に役立てることを目的とした会計です。戦略とマネジメント・コントロール・システムでは、まず、経営戦略論の基礎を理解するために、経営戦略とはどのようなものであり、企業をはじめとする組織において、経営戦略がどのように策定され、実行されているのかについて学んでいきます。その上で、経営戦略の策定及び履行において、会計情報がどのように役立てられているのかについて理解を深めていきます。企業をはじめとする組織が目的・戦略的に活動するためには、組織目的や戦略目標を実現するための仕組みが必要になります。そのための情報ベースの仕組みのひとつがマネジメント・コントロール・システム (MCS) であり、管理会計システムに基づく会計情報と非財務的指標を含む経営情報は、企業経営において大きな役割を担っています。</p> <p>本講義では、管理会計の構造と機能について基本的な知識を習得するとともに、具体的な管理会計の問題についての事例研究を通じて、会計情報が経営者の意思決定や業績評価のみならず、組織成員やステークホルダーに対して影響を及ぼす影響システムとしての側面についても理解を深めていきます。今日の経営環境の変化によって、管理会計技法については、予算管理や利益計画や経営計画などの伝統的な管理会計技法に加えて、原価企画やミニ・プロフィット・センターなど、わが国の実務で培われてきた日本の管理会計に対する関心が高まりました。また、バランス・スコアカードや活動基準原価計算など欧米発の「戦略的」管理会計技法にも注目が集まりました。これに加えて、会計機能以外の側面を内包したマネジメント・コントロールの様々なフレームが提示されたことにより、マネジメント・コントロールの捉え方も変化を続けています。そこで、本講義では、経営戦略とマネジメント・コントロールを内包する管理会計とのかかわりについて、伝統的な管理会計技法のみならず、企業の競争優位の確立と持続のために重要な役割を果たすマネジメント・コントロール・システムの利用について、組織成員や企業内部を越えた利害関係者へ及ぼす影響システムとしての側面についての理解を深めていきます。</p> <p>また、本講義では、その都度、企業実践や社会的実践を取り上げますが、経営学を学ぶことの意義について、会計学の有用性についても社会・経済・組織という文脈において機能し、行為する Accounting について受講生の皆様と議論を深めていきます。</p>											
授業内容											
週	テーマ	内容									
1・2	オリエンテーション (本コースの学習目標)	経営戦略と管理会計のかかわり：社会学的思考とは？ 様々な図やクイズを用いてディスカッションを行う。									
3・4	経営戦略とマネジメント・コントロール・システムとは	戦略、経営管理、会計の関係について企業の事例を通じて考える									
5・6	階層的理解について 全社戦略、事業戦略、機能戦略について	コストリーダーシップと差別化戦略の実際（企業の事例や既存の定量調査の結果を用いて説明）									

7・8	階層的理解について 戦略的コントロール (ハーバードビジネススクールの Lego Crisis)	サイモンズの4つのレバーの適用 (LEGO ケース)
9・10	事業ドメインの設定 について (エーベル の3次元モデル)	BCGのポートフォリオ分析 ハーフィンダール・ハーシュマン指数 (HHI) の分析 (Lego Crisis)
11・12	戦略、MCS、組織の 関係について	SCP 分析 (産業組織論、参入障壁、移動障壁、撤退障壁) について、過去の企業データを用いて分析・議論
13・14	競争戦略・競争優 位性について	Porter, Barney, Ghemawat による産業分析の結果を議論
15	ポジショニング・ア プローチ (ポーター の5要因分析)	ファイブ・フォー+ス・モデルを使った分析 (HONDA(A) ケース)：異なる戦略観について学ぶ
履修上の注意点		
<p>クラスでは、各種会計課題の演習や企業のケースを用いて講義内容に関連したグループワーク及びその発表・討論を実施する予定です。</p> <p>2018年度までに「経営戦略会計」及び「同 (演習)」の単位を修得したものは、それぞれ「戦略とマネジメント・コントロールシステム」及び「同 (演習)」を履修することはできません。</p>		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
講義の準備は事前に指定されたリーディングを読むこと。復習には、クラス内で配布する資料をよく読んでください。		
教科書		
<p>(本科目が基礎理論の整理で依拠しているテキストですが、購入する必要はありません)</p> <p>サイモンズ, R. 『戦略評価の経営学—戦略の実行を支える業績評価システムと会計システム』、ダイヤモンド社、2003年</p> <p>チャップマン, C 『戦略をコントロールする』(澤邊紀生・堀井悟史監訳) 中央経済社、2008年</p> <p>加登豊 『原価企画：戦略的コストマネジメント』、日本経済新聞社、1993年</p> <p>青島矢一・加藤俊彦 『競争戦略論 (第2版)』 東洋経済新報社、2012年</p> <p>【論文】</p> <p>伊藤邦雄・鈴木智英 (2018) 「果たして会計の再生は可能か」『企業会計』Vol.70 (12)、2018年</p> <p>辻山栄子 (2019) 「現代会計の危機」『企業会計』Vol.71 (1)、2019年</p> <p>鈴木智英 (2019) 「会計と幸福」『企業会計』Vol.71, No.1、2019年</p> <p>* 必要資料は各講義にて配布。</p>		
参考書		
<p>(特に購入する必要はありません)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>稲盛和夫 『稲盛和夫の実学：経営と会計』 日本経済新聞社、2000年</li> <li>B. レブ &amp; F. グレー著 (伊藤邦雄監訳) 『会計の再生』 中央経済社、2018年</li> <li>スズキ、トモ 『オックスフォードレポート：日本の経済社会に対する IFRS の影響に関する調査研究金融庁ディスカッションペーパー』、2012年</li> <li>Ansoff, H. (1960) Corporate Strategy, McGraw-Hall.</li> <li>Johnson &amp; Kaplan (1987) Relevance Lost, Harvard Business School Press.</li> <li>C.S. Chapman (2005) Controlling Strategy, Oxford University Press.</li> <li>伊丹敬之 (1986) 『マネジメント・コントロールの理論』 岩波書店など</li> <li>マイケル E. ポーター 『競争戦略論 I・II』 ダイヤモンド社、2018</li> <li>アンソニー (1968) 『経営管理システムの基礎』</li> <li>ロバート・サイモンズ (2003) 『戦略評価の経営学』 (伊藤邦夫監訳) ダイヤモンド社</li> <li>ミンツバーク他 『戦略サファリ』 東洋経済。</li> <li>エーベル (1984) 『事業の定義』 (石井淳蔵訳)</li> <li>嶋口充輝・石井淳蔵 (1991) 『現代マーケティング』 有斐閣。</li> <li>Barney, J.B. (1998) Gaining and Sustaining Competitive Advantage</li> <li>青島・加藤 (2012) 『競争戦略論』 東洋経済新報社</li> <li>浅羽茂 (2004) 『経営戦略の経済学』 日本評論社。</li> <li>中橋國蔵 『経営戦略のフロンティア』 東洋経済情報社。</li> </ul> <p>* 必要資料は各講義の最初に配布。</p>		

課題に対するフィードバックの方法
<p>授業全般の課題に関するフィードバックは、クラス内で行います。</p> <p>また、個別のフィードバックが必要な場合は、アポイントメントベースでオフィスアワーやメールにてご対応します。</p>
成績評価の方法
<p>講義内容の正確な理解度を、クラス内のディスカッション、グループプレゼンテーション、クイズ、最終レポートなどを通じて、多角的に評価します。最終レポート 45%、グループプレゼン 30%、クラス内のディスカッションへの参加・貢献 25%</p>
その他
<p>履修者と相談の上、上記の内容が変更になることがあります。セッションによっては、外部からのゲストスピーカーの特別講義が含まれることもあります。</p> <p>クラスでは、各種会計課題の演習や企業のケースを用いて講義内容に関連したグループワーク及びその発表・討論を実施する予定です。</p> <p>原則として、「戦略とマネジメントコントロール（演習）」とセット履修となりますので、履修の際には注意してください。</p> <p>また、このクラスは、双方向型の教育効果の観点から原則対面のみとなっておりますので、ハイブリッドでの授業は行いません。</p> <p>非常事態宣言など感染状況に応じてオンラインへ切り替えることもございますが、その場合は「参加者すべてがオンライン」となりますので履修の際には留意してください。</p>

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC642J	戦略とマネジメント・コントロール・システム（演習）	2	1・2年	日本語	藤岡資正					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○						
授業の概要・到達目標										
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理会計領域における経営戦略に関連した理論やフレームワークを用いて事例研究を行うことで分析能力を身につけることができる。</li> <li>・情報システムとしての見らなず影響システムとしてのマネジメントコントロールシステムを理解することができる。</li> <li>・財務指標からビジネスモデルを読み取る能力を身につけることができる。</li> <li>・財務指標の利用の仕方とその限界を企業価値評価の事例を取り上げながら理解することができる。</li> <li>・行き過ぎた株主重視の経済価値計算によって引き起こされた現実の問題を取り上げることで企業の社会的責任や近年注目を集めている ESG 投資の意義などについて理解することができる。</li> <li>・ケーススタディやグループワークを通じて、実践能力を涵養することができる。</li> </ul> <p><b>【授業概要】</b></p> <p>管理会計は、経営管理者が企業内部の意思決定や業績評価を中心とした経営管理に役立てることを目的とした会計です。経営戦略会計では、まず、経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業をはじめとする組織において、経営戦略がどのように策定され、実行されているのかについて学んでいきます。その上で、経営戦略の策定及び履行において、会計情報がどのように役立てられているのかについて理解を深めていきます。企業をはじめとする組織が合目的・戦略的に活動するためには、組織目的や戦略目標を実現するための仕組みが必要になります。そのための情報ベースの仕組みのひとつがマネジメント・コントロール・システム（MCS）であり、管理会計システムに基づく会計情報と非財務的指標を含む経営情報は、企業経営において大きな役割を担っています。</p> <p>本演習では、管理会計の構造と機能に関連する基本的な知識をもとに、具体的な管理会計の問題について、各自関連のある企業を取り上げ、事例研究やグループワークを通じて、会計情報が経営者の意思決定や業績評価のみならず、組織成員やステークホルダーに対して影響を及ぼす影響システムとしての側面についても理解を深めていきます。</p> <p>各セッションでは、実際の企業の事例を扱いながら、グループワークを通じて、戦略とマネジメント・コントロール・システムの基礎を習得していきます。演習の進め方は、履修者の習熟度などを考慮しながら、別途スケジュールに基づきます。作業に必要な資料等は適宜、こちらのほうで提供し、グループごとに決め細やかに指導していきます。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	ポジショニング・アプローチ（ポーターの5要因分析）	ファイブ・フォース・モデルを使った分析（HONDA(A) ケース）：異なる戦略観について学ぶ								
2・3	ポジショニング・アプローチ（バリューチェーンとコストドライバー）	価値連鎖を使った分析（Lego のケースおよびチョコレートファクトリーのケース）								
4・5	責任センターの概念整理	組織構造と管理会計の関係：松下電器、三菱商事などの事例								
6・7	資源ベース・アプローチ	コアコンピタンス分析、バーニーの VRIO 分析の適用								
8・9	競争優位の獲得と持続について	技術革新・グローバル化などによってビジネスランドスケープがどのように変遷していくのかについて議論する								
10・11	戦略管理会計：戦略的コストマネジメント	管理会計の基本技法：損益分岐点、価値連鎖分析、原価企画等								
12・13	戦略的コントロールシステム	バランススコアカードの実際								
14・15	社会、組織、会計：社会を構築する会計（企業の社会的責任）	会計の社会構造的側面を理解する：ワンアディショナルラインの例を用いて								

履修上の注意点	
<p>本科目は、「経営戦略会計」（講義）とセットで履修することを前提としています。演習クラスでは、各種会計課題の演習や企業のケースを用いて講義内容に関連したグループワーク及びその発表・討論を実施する予定です。</p> <p>2018年度までに「経営戦略会計」及び「同（演習）」の単位を修得したものは、それぞれ「戦略とマネジメント・コントロールシステム」及び「同（演習）」を履修することはできません。</p>	
準備学習（予習・復習等）の内容	
<p>講義の準備は事前に指定されたリーディングをしっかりと理解しておくこと。復習には、クラス内で配布する資料をよく読んでください。</p>	
教科書	
<p>（本科目が基礎理論の整理で依拠しているテキストですが、購入する必要はありません）</p> <p>サイモンズ、R.『戦略評価の経営学—戦略の実行を支える業績評価システムと会計システム』、ダイヤモンド社、2003年</p> <p>チャップマン、C『戦略をコントロールする』（澤邊紀生・堀井悟史監訳）中央経済社、2008年</p> <p>加登豊『原価企画：戦略的コストマネジメント』、日本経済新聞社、1993年</p> <p>青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論（第2版）』東洋経済新報社、2012年</p> <p>* 必要資料は各講義にて配布。</p>	
参考書	
<p>（特に購入する必要はありません）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・稲盛和夫『稲盛和夫の実学：経営と会計』日本経済新聞社</li> <li>・ミンツバーグ他『戦略サファリ』東洋経済社。</li> <li>・中橋國威『経営戦略のフロンティア』東洋経済情報社。</li> <li>・J.K. Shank &amp; Govindarjan, V.J. (1993) Strategic Cost Management, The Free Press.</li> <li>・キャプラン&amp;ノートン(1998)『コスト戦略と業績管理の統合システム』ダイヤモンド社。</li> <li>・櫻井通晴(2019)『管理会計（第7版）』同文館。</li> <li>・ロバート・サイモンズ(2003)『戦略評価の経営学』（伊藤邦夫監訳）ダイヤモンド社。</li> <li>・Barney, J.B.(1998) Gaining and Sustaining Competitive Advantage 及び関連論文</li> <li>・青島矢一・加藤俊彦(2012)『競争戦略論』東洋経済新報社</li> <li>・加登豊(1993)『原価企画』日本経済新聞社</li> <li>・スズキ・トモ(2022)『新しい資本主義』のアカウントティング』中央経済社</li> <li>・國部克彦ほか(2017)『計算と経営実践』有斐閣。</li> <li>・Hopwood &amp; Miller (1994) Accounting as Social and Institutional Practice, Cambridge University Press</li> </ul> <p>* 必要資料は各講義の最初に配布。</p>	
課題に対するフィードバックの方法	
<p>授業全般の課題に関するフィードバックは、クラス内で行います。</p> <p>また、個別のフィードバックが必要な場合は、アポイントメントベースでオフィスアワーやメールにてご対応します。</p>	
成績評価の方法	
<p>通常クラス内での貢献 20%、個人・グループ報告 40%、提出課題 40%</p>	
その他	
<p>履修者と相談の上、上記の内容が変更になることがあります。セッションによっては、外部からのゲストスピーカーの特別講義が含まれることもあります。</p> <p>クラスでは、各種会計課題の演習や企業のケースを用いて講義内容に関連したグループワーク及びその発表・討論を実施する予定です。</p> <p>原則として、「戦略とマネジメントコントロール（講義）」とセット履修となりますので、履修の際には注意してください。</p> <p>また、このクラスは、双方向型の教育効果の観点から原則対面のみとなっておりますので、ハイブリッドでの授業は行いません。</p> <p>非常事態宣言など感染状況に応じてオンラインへ切り替えることもございますが、その場合は「参加者すべてがオンライン」となりますので履修の際には留意してください。</p>	

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW541J	租税法概論	2	1・2年	日本語	池田義典					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
【到達目標（Course ILOs）】										
1 租税法に共通する基本的な仕組み及び考え方の原則を理解できる。										
2 所得税法・法人税法等の主要な個別税法の概要を理解できる。										
3 ファミリービジネス/スタートアップビジネスの経営者等が直面する基本的な税務リスクを、自ら認識・判断し、マネジメントを行うための基礎を習得できる。										
授業内容										
1	はじめに—租税法の学習について									
2・3	第1章 租税法の基本原則									
4・5・6	第2章 所得税									
7・8・9	第3章 法人税									
10・11	第4章 相続税・贈与税									
12	第5章 消費税									
13	第7章 租税手続法									
14	第8章 税務行政・税理士制度									
15	まとめ—現代租税法の課題									
履修上の注意点										
<p>本科目は、日常生活や事業活動を行う上で基礎となる、租税法に関する基礎的な知識・素養及び考え方の習得を目的とする。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>租税法の基本的な知識は、（税務の専門家のみならず）事業活動や家庭生活において誰もが必要とする素養であることをよく理解し、能動的な姿勢で前広に学習することが望ましい。</p>										
教科書										
『基本テキスト租税法』池上健・大野雅人ほか著（同文館出版、2022）										
『租税法判例六法（第6版）』（有斐閣、2023）										
参考書										
『租税法〔第24版〕』金子宏（弘文堂、2021）										
『租税法判例百選〔第7版〕』中里・佐藤・増井・渋谷編（有斐閣、2021）										
課題に対するフィードバックの方法										
<p>期末レポート等を掲載後の講義において、必要な復習の手順及び設問に係る出題の意図を解説する。</p>										
成績評価の方法										
(1) レポート 70% (2) 討議等への参加度 30%										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC581J	タックス・マネジメント基礎	2	1・2年	日本語	鈴木孝直					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○		○		○	○			○	○
授業の概要・到達目標										
<p>個人事業者や中堅・中小企業にとって、税務リスクを認識し総合的な経営判断を行うことは、予想可能性を高め付加価値の高い経営を実現するために必須である。</p> <p>本授業では、主要な税務リスクのうち一般に事業者が直面することの多い基本的な事項を取り上げ、説明・報告・討議を通じて実践能力の習得を目指す。</p> <p>到達目標（Course ILOs）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・租税法及び租税実務における基本的事項を理解することができる。</li> <li>・ファミリービジネスなどの経営を行う上での一般的な税務リスクを認識することができる。</li> <li>・税務リスクについて自ら判断を行い、総合的なマネジメントを行う基礎を習得することができる。</li> </ul>										
授業内容										
1.	イントロダクション（授業の進め方）									
2.	租税法の基本原則									
3.	租税法の解釈と適用									
4.	所得税の概要									
5.	事例検討①（家事費・家事関連費の必要経費不算入）									
6.	事例検討②（親族が事業から受ける対価の必要経費不算入）									
7.	事例検討③（事業所得と給与所得の区分）									
8.	法人税の概要									
9.	事例検討④（交際費Ⅰ・法解釈）									
10.	事例検討⑤（交際費Ⅱ・事実認定）									
11.	事例検討⑥（過大役員退職金）									
12.	相続税・贈与税の概要									
13.	事例検討⑦（親族名義預金の帰属）									
14.	事例検討⑧（相続税法における「住所」の意義）									
15.	事例検討⑨（小規模宅地の特例）									
履修上の注意点										
租税法の基礎的な知識を習得していることが望ましい。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
事例検討の対象となった裁判例及び関連条文等を予めよく読んで理解し、討議の場で他の履修生と意見交換できるように準備しておくこと。										
教科書										
事例検討の対象となる判決文、説明資料等を、事前にクラスウェブに掲載する方法で提供する。										
参考書										
『租税法 [第 24 版]』金子宏（弘文堂） 『租税判例百選 [第 7 版]』中里・佐藤・増井・渋谷編（有斐閣） 租税関係法令集 初學者用の基本テキストとして、『基本テキスト租税法』池上・大野・橘・飯島・鈴木・袴田（同文館）										
課題に対するフィードバックの方法										
授業の中で随時コメントを行う。										
成績評価の方法										
(1) 事例検討での報告・レポート 80% (2) 事例検討での質疑、コメント等 20%										
その他										
担当教員メールアドレス：tsuzuki8@meiji.ac.jp										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC681J	タックス・マネジメント応用	2	1・2年	日本語	池田義典					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○	○	○	○	○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>個人事業や中・小規模企業の経営において、将来の予測可能性を高め付加価値の高い経営を実現するためには、生じうる課税リスクを認識し、そのリスクを踏まえた総合的な経営判断を行うことが不可欠である。</p> <p>本授業では、個人事業主、法人の役員・株主、その親族・後継者に係る税務上のリスクについて、重要かつ頻繁に生じる事項・テーマを取上げ、判例等の報告及び教授による講義に基づいて説明・報告・討議を行い、総合的なマネジメントを可能とする実践能力の習得を目指す。</p> <p>Course ILOs:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 租税法及び課税実務における基本原則を理解する。</li> <li>2. ファミリービジネスなどの経営を行う上での代表的な税務リスクを認識する。</li> <li>3. 直面する可能性の高い課税リスクとその対応策を理解し、タックス・マネジメントにおいてより適切な判断を行う実践能力を習得する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
第1回	イントロダクション	授業内容の概要と進め方について説明する。								
第2回	事例検討①	租税回避及び借用概念に係る事例について報告・討議を行う。								
第3回	法人成り	個人事業と法人組織の比較について税務面から説明・討議を行う。								
第4回	事例検討②	租税法主義（信義則・趣旨的変更）に係る事例について報告・討議を行う。								
第5回・第6回	低額譲渡	個人・法人間における低額譲渡の態様及び課税方法について説明・討議を行う。								
第7回	事例検討③	譲渡（相続）財産の評価に係る事例について報告・討議を行う。								
第8回	税務調査	当局による税務調査の最新の状況について説明・討議を行う。								
第9回	事例検討④	悪徳税理士との意思疎通と重加算税賦課等に係る事例について報告・討議を行う。								
第10回・第11回	事業承継	事業承継と課税に関する基礎的な事項について説明・討議を行う。								
第12回	事例検討⑤	公正処理基準（法人税法 22 ④）及び更正の請求に係る事例について報告・討議を行う。								
第13回	損失の取扱い	所得税における損失（譲渡損・損害）の取扱いについて説明・討議を行う。								
第14回	事例検討⑥	海外進出に係る事例について報告・討議を行う。								
第15回	まとめ	総合的な経営判断を行う上で重要性の高い課税リスクについてまとめを行う。								
履修上の注意点										
租税法（所得税法・法人税法・相続税法）の基礎的な知識があることが望ましい。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
事例検討で取り上げる判例や関係する条文等については、予め資料を十分読み、自身の経験も踏まえて質問と討議を行えるレベルまで内容を理解しておくこと。										
教科書										
税法関係の法令集（①租税法判例六法 [第 6 版]（有斐閣、2023）、②実務税法六法（新日本法規、毎年改定）、③税務六法（ぎょうせい、毎年改定）など） 『租税判例百選 [第 7 版]』中里・佐藤・増井・渋谷編（有斐閣、2021）										
参考書										
『租税法 [第 24 版]』金子宏（弘文堂、2021） 『スタンダード所得税法（第 4 版）』佐藤英明（弘文堂、2024） 『スタンダード法人税法（第 3 版）』渡辺徹也（弘文堂、2023）										



課題に対するフィードバックの方法
与えた課題及びレポートで検討を要するポイントについて、標準的・模範的な考え方（理論及び実務）を次回講義等の中で解説する。
成績評価の方法
(1) 報告 60% (2) 討議への参加 40%
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW631J	タックス・マネジメント 国際	2	1・2年	日本語	池田義典					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○	○	○	○	○				
授業の概要・到達目標										
<p>企業経営等において国際税務と経営判断の総合的マネジメントを行うための実践能力の修得を目的として、わが国の企業や個人が海外進出する際に直面するテーマを取り上げ、わが国及び主要国の課税制度、租税条約の仕組み及び税務上の課題・リスクについて解説及び討議を行う。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際課税法の基本原則を理解する。</li> <li>2. わが国税法において国際取引を規律する実務上重要な規定を理解する。</li> <li>3. 租税条約の基本ルール及びわが国法令との適用関係を理解する。</li> <li>4. 国際取引において頻出する課税リスクを理解し、タックス・マネジメントについての実践能力を習得する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
第1回	イントロダクション	国際課税問題の現在								
第2回・第3回	国際課税制度の概要	わが国におけるインバウンド課税・アウトバウンド課税制度の概要								
第4回	租税条約の概要(1)	わが国の租税条約ネットワーク、租税条約の種類、租税条約の標準的な構成、所得配分のルール								
第5回	租税条約の概要(2)	主要な規定(投資所得、譲渡収益、事業所得、給与所得)による扱い								
第6回	租税条約の概要(3)	税務当局間の協力規定(情報交換、相互協議、徴収共助等)など								
第7回	新型コロナの影響	コロナ禍と海外派遣に係る給与所得課税								
第8回	国際資産税(相続・贈与)の基礎(1)	納税義務者の判定、財産の所在の判定など								
第9回	国際資産税(相続・贈与)の基礎(2)	米国の扱い、国外財産の評価など								
第10回	国際資産税(相続・贈与)の基礎(3)	国外財産調書、出国税、FATCAとCRSなど								
第11回	国際源泉徴収	外国への支払いに係る所得類型ごとの源泉徴収の実務								
第12回	移転価格税制(1)	独立企業間原則、税務調査・事前確認・相互協議の現状、BEPSプロジェクトと近年の税制改正など								
第13回	移転価格税制(2)	文書化義務、算定手法の選択、税務調査を受けやすい企業、移転価格税制の展望など								
第14回	移転価格税制(3)	重要判例の確認(日本ガイシ事件、みずほ銀行事件、本田技研工業事件、アドビ事件など)								
第15回	まとめ	実務上重要な国際課税問題及びその他の重要課題の指摘								
履修上の注意点										
国際課税についての基礎的知識があることが望ましい。										
準備学習(予習・復習等)の内容										
講義で取り上げる各テーマに関する①制度の概要及び②問題の所在(何が問題となっているのか)について、「教科書」・「参考書」掲載の各資料や近時の記事の検索などにより各人が可能な範囲で予習し、自身の経験も踏まえて質問や討議が可能なレベルまで準備するよう努めること。										
教科書										
『国際租税法(第4版)』増井良啓・宮崎裕子(東京大学出版会、2019) 『租税判例百選[第7版]』中里・佐藤・増井・渋谷編(有斐閣、2021)										
参考書										
『国際課税の基礎知識(11訂版)』川田剛(税務経理協会、2021) 『租税法(第24版)』金子宏(弘文堂、2021) 財務省ホームページ「わが国の税制の概要>国際課税」( <a href="https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/international/index.htm">https://www.mof.go.jp/tax_policy/summary/international/index.htm</a> ) 『移転価格税制20問20答【実践編】』辻・本郷税理士法人(東峰書房、2021)										

課題に対するフィードバックの方法
与えた課題及びレポートで検討を要するポイントについて、標準的・模範的な考え方（理論及び実務）を次回講義等の中で解説する。
成績評価の方法
授業への貢献等 40%＋期末レポート 60%。
その他
特になし。

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC681J	山田コンサルティンググループ寄附講座「事業承継・M&A・資産承継の税務」	2	1・2年	日本語	奥村忠史 前田 祐					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○	○				
授業の概要・到達目標										
<p>【到達目標（Course ILO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーナー企業の定性・定量情報をもとに、事業承継の手法に関する基本的な選択肢を複数立案できるようになる。</li> <li>・上記立案をもとに、オーナー企業の経営者に対し各手法の基本的な計算や留意点を提示できるようになる。</li> <li>・複雑な事業承継の事案に関しては、どのような専門家との連携が必要か、想定することができるようになる。</li> </ul> <p>近年、日本では企業経営者の高齢化が進んでおり、円滑な世代交代・事業承継が社会的課題となっている。加えて、国内企業の約2/3が後継者不在という調査もあり、このまま事業承継が進まなければ、多くの企業が廃業を余儀なくされ、地域経済に深刻な影響を与えかねない。事業承継を考える際には、企業の10-20年後の将来の経営戦略を踏まえた上で、親族内承継、MBO（役員・従業員への承継）、M&amp;A（親族外承継）、場合によっては上場（IPO）も含めたすべての選択肢を検討することが必要であり、そのために自社株等の資産を承継する際の税務知識が特に重要である。</p> <p>本講義では、事業承継に関する税務が体系的に理解できるようなカリキュラムとしている。まずは、親族内承継等を考える上で必須となる先代経営者から後継者に自社株等の資産承継する際の税務やM&amp;Aについて体系的に理解する。さらに、会社経営をしていない個人や、事業承継を終えた元企業オーナー、上場会社創業者などの保有する個人資産をどのように保全し、次世代に承継するかという点についても考察する。</p> <p>本講義の進め方として、経験豊富なコンサルタントが事例を交えて対話形式で解説すること、各回にケースを用いた検討を行うこと、ゲスト講師としてオーナー経営者等を招き、事業承継の実体験を聞くことを特徴としている。本講義を通じて、まずは実践的な事業承継に関する知識や間接経験を身につけることを目標としている。本講義が、将来オーナー経営者に対し、ビジネスとして事業承継を支援できる人材となるためのきっかけとなることを目指す。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	事業承継概論	事業承継に関して考えなければならないポイントの全体像をとらえる。講義全体の進め方についても説明する。								
2	事業承継における税務・法務の基礎	事業承継に必要な税務（相続税・所得税・法人税など）や法務（民法・会社法など）の基礎知識を学ぶ。現場に必要な税務知識の幅広さや司法書士が手掛ける相続や遺留分、株式と議決権などに関する法務の現場を知る。								
3	非上場株式の評価方法	事業承継における重要な財産である自社株（非上場株式）の評価方法（財産評価基本通達等）を学ぶ。計算の構造と特徴、事業承継の現場で留意すべき事項を大つかみで理解する。								
4	事業承継の手法	事業承継税制の特例措置を含め、直近の税制改正も踏まえて最新の事業承継に関する税制の活用方法を学ぶ。コンサルタントがオーナー経営者に事業承継の解決策を提案するための引き出しとして、2の講義で理解した知識の組み合わせが必要であることを知る。直近の税制改正も踏まえて最新の事業承継に関する税制を学ぶ。								
5	特別講義①	事業承継に取り組むオーナー経営者や事業承継・税の専門家による経験談を聞き、質疑応答を行うことで、事業承継の意思決定におけるプロセスを間接経験で学ぶ場とする。								
6	ケーススタディ①	事前に配布されたケースを通じたグループディスカッションを実施することで、事業承継に関するオーナー経営者への提案を疑似体験し、他者の考え方や自身の検討プロセスの良い点、不足している点を知る。								



7	M&A・MBOについて	事業承継の選択肢であるM&A、MBOの手法・ポイントを学ぶ。第三者や役員に事業承継をする場合の効果と課題を理解する。事業承継を広くとらえ、それぞれの選択肢を取るうえで、どのような検討プロセスを取るべきかを知る。
8	事業承継・資本政策としての上場と上場企業における留意点を学ぶ。事業承継を広くとらえ、それぞれの選択肢を取るうえで、どのような検討プロセスを取るべきかを知る。	
9	グループ経営や組織再編のポイント	ホールディングス化(持株会社化)、組織再編(合併、分割、株式交換など)と事業承継との関連について学ぶ。グループ経営を行うオーナー経営者が留意すべき経営上・制度上のポイントを知る。
10	ケーススタディ②	事前に配布されたケースを通じたグループディスカッションを実施することで、事業承継に関するオーナー経営者への提案を疑似体験し、他者の考え方や自身の検討プロセスの良い点、不足している点を知る。
11	医療法人及び財団・社団法人と事業承継	現場で特に対応しているメンバーを交え、医療法人や財団・社団法人に固有の制度と事業承継のポイントを学ぶ。事業承継における通常の解決策との違いや、株式会社とのルールの違いを知る。
12	特別講義②	事業承継に取り組むオーナー経営者や事業承継・税の専門家による経験談を聞き、質疑応答を行うことで、事業承継の意思決定におけるプロセスを間接経験で学ぶ場とする。
13	税務と経営・組織	あえて税務上有利な事業承継手法にとらわれず、経営・組織のビジョンや適正な後継者選定・育成と折り合いをどのようにつけていくかを考える。
14	資産承継の留意点	個人として、ファミリーの一員として、自社株など事業に関連する資産以外の財産承継におけるポイントを学ぶ。上場企業創業家における資産承継も理解する。事業承継のプロセスにおいて、個人としての資産承継までを見据えておくことの重要性を知る。
15	現場の最前線から	事業承継や税務に関する最新のニュース(税務の判例など)やトピックを知り、事業承継に関する仕事を行ううえで大事なこと、事業承継に関わる人材に求められることを知る。全講義の総括として位置付ける。
<b>履修上の注意点</b>		
制度の詳細を学習する場ではなく、事業承継における手法や考え方のポイントを理解することで、個別の企業にとって最適な事業承継や資産承継の進め方を考えるきっかけとすることを目的としている。事業承継の選択肢に特定の正解は無いという前提で、幅広く可能性を検討するプロセスを重視する。		
<b>準備学習(予習・復習等)の内容</b>		
原則として、各講義の内容は各講義で説明する(ただし、事前に各回のレジュメのうち必要なものをアップしておく。ケーススタディ①②は、事前に資料を配布した上で、各自が検討した上で講義に臨むことを想定している)。また、各回の講義内で簡単なケースを提示し、簡単なディスカッションを行うため、終了した講義の内容は復習し、自身の得た知識や考え方を整理した上で講義に臨むことが望ましい。		
<b>教科書</b>		
オリジナルのレジュメ(講義内容とケース)を使用する。各講義の前に必要なレジュメをアップする。		
<b>参考書</b>		
『失敗事例から学ぶ事業承継対策・相続対策』山田コンサルティンググループ株式会社ほか編著(大蔵財務協会)		
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>		
各回の講義終了後に講師が教室に残り(zoom接続も継続し)、質問や意見交換の場を作る。また、個別の問い合わせにはメール等に対応し、全受講生向けには課題に対する考え方、ポイント等を講師から適宜 Oh-o!Meijiにて発信する。		

成績評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への貢献度(主に講義の場等で、自身の考えを積極的に発信すること): 50%</li> <li>・レポート(数字や論理、自身の仮説や立ち位置を明確にしたレポートが作成できているか): 50%</li> </ul> <p>を想定している。単純に制度の詳細を知っているだけでなく、様々な可能性を検討・議論し、アウトプットできることを重視する。</p>
その他
講義のスケジュールは、特別講義との兼ね合い等でテーマが前後する場合があります。

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW641J	所得税法	2	1・2年	日本語	鈴木孝直					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○		○		○		○	○
授業の概要・到達目標										
<p>本授業では、租税法の基本的考え方を基礎として、我が国の現行所得税法の基礎を十分理解することが中心となる。</p> <p>授業の中心は条文解釈と適用であり、計算は原則として取り上げない。</p> <p>税法適用の実際を理解するため、必要に応じ裁判例を取り上げる。</p> <p>所得税法の基礎を理解することにより、事業活動及び日常生活に伴い発生する税務リスクについて自ら認識し判断を行い、総合的なマネジメントを行うための基礎を習得することが目標となる。</p> <p>到達目標 (Course ILOs)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所得の概念から所得税額計算過程まで所得税の基本的事項を理解することができる。</li> <li>・所得税に係る重要な裁判例の内容を知ることができる。</li> <li>・発生する税務リスクについて自ら認識し判断を行い、総合的なマネジメントを行う基礎を習得することができる。</li> </ul>										
授業内容										
1.	イントロダクション (租税法の基本原則、租税法の解釈と適用)									
2.	所得の概念									
3.	課税単位									
4.	所得税額算出手順の概観									
5.	利子所得・配当所得									
6.	譲渡所得 (その1)									
7.	譲渡所得 (その2)									
8.	給与所得・退職所得 (その1)									
9.	給与所得・退職所得 (その2)									
10.	事業所得・雑所得 (その1)									
11.	事業所得・雑所得 (その2)									
12.	収入・必要経費の年度帰属、収入金額・必要経費									
13.	損益通算・純損失の繰越し等、所得控除、税額計算									
14.	源泉徴収制度									
15.	まとめ									
履修上の注意点										
租税法の基本的な知識を習得していることが望ましい。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
『スタンダード所得税法 (第4版)』佐藤英明 (弘文堂) の該当箇所を読むこと										
教科書										
『スタンダード所得税法 (第4版)』佐藤英明 (弘文堂)										
参考書										
『租税法 (第24版)』金子宏 (弘文堂) 『租税判例百選 (第7版)』中里・佐藤・増井・渋谷編 (有斐閣) 租税関係法令集 初学者用の基本テキストとして、『基本テキスト租税法』池上・大野・橋・飯島・鈴木・袴田 (同文館)										
課題に対するフィードバックの方法										
期末レポート提出期限後、総評をクラスウェブに掲載する。										
成績評価の方法										
(1) 期末レポート 80% (2) 授業参加姿勢 20%										
その他										
担当教員メールアドレス: tsuzuki8@meiji.ac.jp										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW631J	国際租税法	2	1・2年	日本語	大野雅人					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>ビジネスの拡大成長に伴い、会社が海外に支店・子会社等を設け、事業展開することも多い。企業経営における国際税務と経営判断の総合的なマネジメントについて実践能力を修得することを目的として、企業の海外進出に係る税制の概要、租税条約の仕組み及び税務上の課題・リスクについて解説する。</p> <p>到達目標 (Course ILOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①国際租税法の基本原則を理解する。</li> <li>②非居住者・外国法人に対する、我が国における課税の仕組みを理解する。</li> <li>③居住者・内国法人に適用される、我が国の国内税法の概要を理解する。</li> <li>④我が国の国内税法と我が国が締結している租税条約との適用関係理解する。</li> <li>⑤上記の理解を通じて、企業の国際租税戦略を構築していくことができる能力を習得する。</li> </ol>										
授業内容										
第1回	国際課税の基本原則									
第2回	国内法の規定 (1) 非居住者・外国法人に対する課税 (その1)									
第3回	国内法の規定 (2) 非居住者・外国法人に対する課税 (その2)									
第4回	国内法の規定 (3) 過少資本税制と過大支払利子税制									
第5回	国内法の規定 (4) 外国子会社合算税制 (その1)									
第6回	国内法の規定 (5) 外国子会社合算税制 (その2)									
第7回	国内法の規定 (6) 移転価格税制 (その1)									
第8回	国内法の規定 (7) 移転価格税制 (その2)									
第9回	国内法の規定 (8) 国際最低税率制度									
第10回	国内法の規定 (9) 国外輸出時課税、国際相続									
第11回	国内法の規定 (10) 国際取引に係る消費税									
第12回	租税条約 (1) 二国間租税条約 (その1)									
第13回	租税条約 (2) 二国間租税条約 (その2)									
第14回	租税条約 (3) 多国間租税条約									
第15回	国際課税の将来: OECDにおけるデジタル課税と最低税率の議論									
履修上の注意点										
国際租税法の初学者を対象とする講義であり、国際課税に関する特段の予備知識は必要ない。ただし、所得税法・法人税法についての基本的知識は必要である。また、授業は関係条文の理解を確認しながら進めるので、租税特別措置法 (66条の4～66条の9の4)、同法施行令・施行規則等の関係条文は各自で準備すること。租税条約と租税条約等実施特例法については授業で配付する。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
事前配付する資料と教科書の当該箇所を予習しておくことが求められる。										
教科書										
『基本テキスト租税法』大野雅人ほか (同文館、2022)										
参考書										
『租税法判例六法 (最新版)』中里実ほか編 (有斐閣) 『租税法 (第24版)』金子宏 (弘文堂、2021) 『入門国際租税法 (改訂版)』村井正・編著 (清文社、2020) 『国際租税法 (第4版)』増井良啓・宮崎裕子 (東京大学出版会、2019) 『図解国際税務 (最新版)』望月文夫 (大蔵財務協会)										
課題に対するフィードバックの方法										
学期中に2回程度のミニレポート (基本的事項の理解を問うもの) の提出を求める。提出されたレポートについては、採点して返却するとともに、模範解答を提示する。										
学期末には期末レポートの提出を課す。提出されたレポートについては、採点して返却するとともに、模範解答を提示する。										
成績評価の方法										
平常点 (主としてミニレポートにより評価する) 40% + 期末レポート 60%。										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW641J	法人税法	2	1・2年	日本語	池上 健 大野雅人					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○					
授業の概要・到達目標										
<p>「法人税法」では、租税法の基本的な考え方をベースとして、法人税法の基礎について十分な理解を図ることが中心となる。</p> <p>授業の中心は条文の読解による解釈と理論であり、計算は原則として取り上げない。また、税法の適用の実際を理解するためには、裁判例や国税不服審判所の裁判例を学ぶことが不可欠となるため、具体的な事例を多く取り上げ、考察しながら授業を進める。</p> <p>こうした授業により、単に条文や計算について学ぶのではなく、法人税法の基本的な考え方や理論を十分に理解し、実践に活かせる応用力を身に付けることが目標となる。</p> <p>到達目標（Course ILOs）：</p> <p>①法人税法の課税標準算出の考え方を理解すること  ②法人税に係る重要な裁判事例を知り、判決の考え方を理解すること  ③グループ法人間の取引及び組織再編税制に係る課税の考え方を理解すること</p>										
授業内容										
1	法人税法の基礎 ①（税法の読み方、法人税の性格、課税要件等）									
2	法人税法の基礎 ②（課税物件、納税義務者、課税所得の範囲等）									
3	法人税の課税標準（第22条を中心とした課税所得計算の基本的事項等）									
4	益金の計算（第22条を中心とした益金の考え方等）									
5	損金の計算 ①（減価償却費及び貸倒損失等①）									
6	損金の計算 ②（減価償却費及び貸倒損失等②）									
7	損金の計算 ③（役員給与を巡る論点等）									
8	損金の計算 ④（交際費・寄附金を巡る論点等）									
9	税額の計算（税額の計算方法、税額控除、申告等）									
10	同族会社（同族会社の考え方、課税の特例等）									
11	繰越欠損金の取扱い（原則及び合併時の取扱い）									
12	グループ法人税制 ①（グループ法人課税の考え方の基本）									
13	グループ法人税制 ②（組織再編税制）									
14	グループ法人税制 ③（グループ法人間取引に関する課税）									
履修上の注意点										
租税法の基本的な知識を習得していることが望ましい。併せて、民法の基本的な知識があると理解が深まるであろう。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
原則として、予め授業のレジュメを配付するので、予習をしておくことが望ましい。										
教科書										
各回の授業前に配付するレジュメ及び資料が中心であるが、次の教科書の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい。『基本テキスト租税法』池上健編（同文館出版）										
参考書										
『租税法（最新版）』金子宏（弘文堂）、『スタンダード法人税法（最新版）』渡辺徹也（弘文堂）										
課題に対するフィードバックの方法										
課題レポートの解答に係るポイントを、提出期限終了後に Oh-! Meiji 上に掲載する。										
成績評価の方法										
授業への参画状況や議論への貢献度 10%、レポートの評価 90%										
その他										
受講生の習熟度や授業の進捗に応じ、講義の内容等を変更することがある。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW641J	租税手続法	2	1・2年	日本語	大野雅人					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>企業経営において税務リスクは不可欠な経営判断要素である。本講義では、租税手続の基本的項目について、最近の法改正と裁判例を踏まえて学習する。具体的には、納税義務の成立、税額の確定・修正、課税所得等の更正・決定、税務調査、犯罪事件の調査（査察）、滞納処分、附帯税（延滞税、各種加算税等）、課税処分に対する不服審査・訴訟等について説明する。経営管理における税務マネジメントの基本を習得することを目標とする。</p> <p>到達目標（Course ILOs）</p> <p>①租税債権の成立・確定・変更手続と税務調査手続について理解し、税務調査に適切に対応するための知識を習得する。  ②滞納処分と行政ペナルティー（附帯税）について理解し、リスクと負担の最小化を図るための知識を習得する。  ③租税争訟手続について理解し、課税庁の処分に対する不服申立てと訴訟提起の適否の判断を行うための知識を習得する。</p>										
授業内容										
第1回	講義内容の説明、租税手続法の概観、国税通則法総則									
第2回	納税義務の成立と税額の確定手続									
第3回	税額の変更等（1）修正申告と更正の請求									
第4回	税額の変更等（2）更正と決定									
第5回	税額の変更等（3）期間制限									
第6回	税務調査（1）一般調査と資料調査課による調査									
第7回	税務調査（2）犯罪事件の調査（査察部による調査）									
第8回	国税の納付と徴収、滞納処分手続									
第9回	附帯税（1）延滞税と利子税									
第10回	附帯税（2）過少申告加算税、無申告加算税、不納付加算税									
第11回	附帯税（3）重加算税									
第12回	附帯税（4）附帯税のまとめ									
第13回	租税争訟（1）租税争訟総論、不服申立手続									
第14回	租税争訟（2）税務訴訟手続の概観、証明責任									
第15回	租税争訟（3）税務訴訟の訴訟物等									
履修上の注意点										
租税手続についての基礎から応用までを取り扱う授業であり、特段の予備知識は必要ない。 各税法を学習する上でも、税法の修士論文を作成する上でも必要な、基本的授業であるので、特に税法コースの学生は積極的に受講していただきたい。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
『租税法（第24版）』金子宏（弘文堂、2021）の該当箇所及び事前配付する裁判例を読んでおくこと。										
教科書										
『租税法（第24版）』金子宏（弘文堂、2021）										
参考書										
『租税法判例六法（最新版）』中里実ほか編（有斐閣） 『国税通則法の基本』野一色直人（税務研究会出版局、2020） 『国税通則法（最新版）』税務大学校（税務大学校ウェブサイト） 『図解国税通則法（最新版）』黒坂昭一・佐藤謙一（大蔵財務協会） 『税務訴訟入門（第5版）』中尾巧（商事法務、2011） 『税務訴訟の法律実務（第2版）』木山泰嗣（弘文堂、2014）										
課題に対するフィードバックの方法										
学期中に2回程度のミニレポート（基本的事項の理解を問うもの）の提出を求める。提出されたレポートについては、採点して返却するとともに、模範解答を掲示する。 学期末には期末レポートの提出を課す。提出されたレポートについては、採点して返却するとともに、模範解答を掲示する。										
成績評価の方法										
平常点（主としてミニレポートにより評価する）40%＋期末レポート60%。										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW641J	資産課税法	2	1・2年	日本語	鈴木孝直					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○		○		○			○
授業の概要・到達目標										
<p>本授業では、租税法の基本的考え方を基礎として、我が国の相続税法の基礎を十分理解することが中心となる。</p> <p>授業の中心は条文解釈と適用であり、計算は原則として取り上げない。</p> <p>税法適用の実際を理解するため、必要に応じ裁判例を取り上げる。</p> <p>相続税法の基礎を理解することにより、事業活動及び日常生活を通じて発生する税務リスクについて自ら認識し判断を行い、総合的なマネジメントを行うための基礎を習得することが目標となる。</p> <p>到達目標 (Course ILOs)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相続税・贈与税に係る基本事項及び相続税額・贈与税額算出過程に係る基本的考え方を理解することができる。</li> <li>・相続税・贈与税に係る重要な裁判例の内容を知ることができる。</li> <li>・発生する税務リスクについて自ら認識し判断を行い、総合的なマネジメントを行う基礎を習得することができる。</li> </ul>										
授業内容										
1.	イントロダクション (租税法の基本原則、租税法の解釈と適用)									
2.	民法の基礎知識 (民法第五編相続)									
3.	相続税① (相続税の機能、課税方式)									
4.	相続税② (納税義務者、課税財産、非課税財産)									
5.	相続税③ (課税価格及び税額計算 I)									
6.	相続税④ (課税価格及び税額計算 II)									
7.	贈与税① (納税義務者、課税財産、課税価格、税額計算)									
8.	贈与税② (相続時精算課税制度)									
9.	相続税・贈与税 (申告・納付の方法)									
10.	財産評価									
11.	小規模宅地の特例									
12.	事業承継制度									
13.	事例研究①									
14.	事例研究②									
15.	まとめ									
履修上の注意点										
租税法の基本的な知識を習得していることが望ましい。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
相続税・贈与税の理解には民法の知識が不可欠である。第2回授業で概説はするが、履修生は主に民法第五編相続部分について、各自のレベルに応じて自発的に学習しておくことが望ましい。										
教科書										
レジュメを配付する。										
参考書										
『租税法 [第24版]』金子宏 (弘文堂) 『租税判例百選 [第7版]』中里・佐藤・増井・渋谷編 (有斐閣) 租税関係法令集 初学者用の基本テキストとして、『基本テキスト租税法』池上・大野・橘・飯島・鈴木・袴田 (同文館)										
課題に対するフィードバックの方法										
期末レポート提出期限後、総評をクラスウェブに掲載する。										
成績評価の方法										
(1) 期末レポート 80% (2) 授業参加姿勢 20%										
その他										
担当教員メールアドレス: tsuzuki8@meiji.ac.jp										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW641J	消費税法	2	1・2年	日本語	大野雅人					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○			○				○
授業の概要・到達目標										
<p>昭和63年12月に消費税法(昭和63年法律108号)が成立してから36年が経過し、いまや消費税は国税の中で最大の税収をもたらす税目となった。しかし、所得税や法人税といった伝統的税目に比して、その論理的・構造的な研究は十分に進んでいるとはいえない。</p> <p>本講義は、消費税の創設経緯と基本構造を理解した上で、事業者(課税事業者、免税事業者)、資産の譲渡等(課税取引、不課税取引、非課税取引)、仕入税額控除(個別対応方式と一括比例配分方式)、国境を越える取引に対する消費税(電気通信利用役務の提供等を対象としたリバースチャージ)、租税回避行為への対抗策、他国の制度(EUのVAT、豪州のGST等)との比較等についての履修者の理解を深めることを目的とする。</p> <p>単に申告・納付のための計算を学ぶのではなく、消費税法の基本的な考え方や理論を十分に理解し、実務に活かせる応用力を身に付けることを目標とする。</p> <p>到達目標 (Course ILOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①消費税法の課税標準の算出(資産の譲渡等)と税額の算出(仕入税額控除)についての考え方を理解する。</li> <li>②消費税に関する典型的な租税回避事例と脱税事例、及びその対処策について理解する。</li> <li>③消費税に関する重要な裁判例について学び、判決の考え方を理解する。</li> <li>④我が国の消費税と他国の類似税制(EUのVAT、豪州のGST等)との違いについて理解し、グローバルな視点から我が国の消費税の特徴・改善点につき考察ができるようになる。</li> </ol>										
授業内容										
第1回	消費税の基本構造 (1)									
第2回	消費税の基本構造 (2)									
第3回	消費税法の概要 (1) 納税義務者、免税事業者									
第4回	消費税法の概要 (2) 資産の譲渡等、課税取引、不課税取引、非課税取引									
第5回	消費税法の概要 (3) 税率、軽減税率、地方団体への配賦									
第6回	消費税法の概要 (4) 仕入税額控除、インボイス制度									
第7回	消費税法の概要 (5) 納税義務の成立と確定、申告と納付									
第8回	諸問題への対応 (1) 中古資産の譲渡									
第9回	諸問題への対応 (2) 課税仕入れと非課税仕入れの区分									
第10回	諸問題への対応 (3) 自動販売機スキーム等への対処									
第11回	国境を越える取引と消費税 (1) 輸出取引と輸入取引									
第12回	国境を越える取引と消費税 (2) 電気通信利用役務の提供等とリバースチャージ									
第13回	国境を越える取引と消費税 (3) シェアリング・エコノミー									
第14回	諸外国の消費税 (その1)									
第15回	諸外国の消費税 (その2)									
履修上の注意点										
消費税の基本構造について講義する授業であり、特段の予備知識は必要ない。基礎から入って、順次、高度な内容を取り扱っていく。租税法の授業であるので、中里実ほか編『租税法判例六法』(有斐閣、最新版は2023年出版の第6版)を授業に携行すること。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
教科書(『スタンダード消費税法』佐藤英明=西山由美 (弘文堂、2022))の該当箇所を予習・復習しておくこと。 重要な裁判例と論文については、授業で配付する。										
教科書										
『スタンダード消費税法』佐藤英明=西山由美 (弘文堂、2022)										
参考書										
『租税法 (第24版)』金子宏 (弘文堂、2021) 『租税判例百選 (第7版)』中里実ほか編 (有斐閣、2021)										



課題に対するフィードバックの方法
学期中に2回程度のミニレポート（基本的事項の理解を問うもの）の提出を求める。提出されたレポートについては、採点して返却するとともに、模範解答を掲示する。 学期末には期末レポートの提出を課す。提出されたレポートについては、採点して返却するとともに、模範解答を掲示する。
成績評価の方法
平常点（主としてミニレポートにより評価する）40%＋期末レポート60%。
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC691J	中小企業の会計	2	1・2年	日本語	小川晃司					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○			○				
授業の概要・到達目標										
<p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「中小企業の会計に関する基本要領」「中小企業の会計に関する指針」を実務において活用できるようになる。</li> <li>・中小企業の会計を活用して、財務経営力を強化することができるようになる。</li> <li>・中小企業の会計を活用して、資金調達力を強化することができるようになる。</li> </ul> <p><b>【授業の概要】</b></p> <p>わが国の中小企業は、（日本の）企業数全体の99%および雇用全体の65%を占めている。もっとも、大学における会計学は、その多くが大企業を対象としており、中小企業の会計制度に視点を置いた研究はあまりなされていない。本授業では、まず、大企業とは異なる中小企業独特の属性を理解したうえで、わが国において近年公表された中小企業の会計規範である「中小企業の会計に関する指針（中小会計指針）」（2005年公表）、「中小企業の会計に関する基本要領（中小会計要領）」（2012年公表）を、実務において活用出来るまで理解することを主たる目的とする。わが国において、これら中小企業の会計規範の適用企業は、約260万社あるといわれ、その数は大企業に比して圧倒的に多い。このように大多数を占める中小企業会計を研究することは、わが国における経済面、中小企業金融といった観点からも大変有意義である。特に中小会計要領は、①中小企業の経営者に役立つ会計②利害関係者への情報提供に資する会計③会計と税制の調和を図る会計④中小企業に過重な負担を課さない会計という4つの視点が総論において示され、中小企業の属性をより重視しているため、その内容を理解することは重要である。複線化する会計規範の意義を体系的に理解することで、会計の全体像がより明確になる。</p> <p>また、多くの中小企業は、資金調達手段として、間接金融、つまり、金融機関の借入に依存している。融資を受ける中小企業は、自社の決算書を提出し、金融機関の融資審査を受けることになるが、情報の非対称性の問題等、中小企業の決算書の信用力は決して高くはない。そのため、実際多くの融資の現場では、経営者本人の人的保証や、不動産の物的保証などの担保が企業から金融機関へ提供されている。これらが経営者本人の担保さえあれば決算書（企業業績）を重視しなくとも良いといった意識付けや、円滑な事業承継にも支障を来たしており、大きな社会問題となっている。このような時代背景のもと、近年わが国の中小企業施策の一つとして「経営者保証ガイドライン」が公表され、中小企業の経営者が健全な経営に資することを応援するといった、従来の中小企業金融を改革する動きとなってきている。昨今の中小企業金融の動向も踏まえ、中小企業における決算書の信用力向上の意義および施策についても理解が重要である。</p> <p>本授業では、「中小会計要領」、「中小会計指針」の理解を通じてわが国における中小企業の会計の特徴を学び、会計規範の内容だけでなく、中小企業を取り巻く環境を理解するとともに、中小企業の会計を戦略的に活用する方法を講義する。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	中小企業の属性、中小企業を取り巻く現状と課題	各種公開データにより、中小企業の属性を明らかにしたうえで、中小企業の現状と課題を示し、中小企業の会計が必要となった背景を解説する。								
2	中小企業の会計におけるビジネス倫理	ファミリービジネスが中心である中小企業の会計に関するビジネス倫理として中小企業における不適切会計を題材として解説する。								
3	ステークホルダーから見た中小企業会計(1)	中小企業を取り巻くステークホルダーである金融機関が中小企業会計をどのように見ているか、活用しているかを解説する。								
4	ステークホルダーから見た中小企業会計(2)	中小企業を取り巻くステークホルダーである金融機関の監督官庁として金融庁が行ってきた金融行政と金融機関の現状を含めて解説する。								
5	ステークホルダーから見た中小企業会計(3)	融資審査や「経営者保証ガイドライン」の運用に必要な中小企業の決算書の信頼性保証の方法について解説する。								

6	ステークホルダーから見た中小企業会計(4)	中小企業を取り巻くステークホルダーである国税当局が中小企業会計をどのように見ているか、税理士がどのように関わっているのか、また、中小企業を取り巻くステークホルダーである経営者が会社法的面から中小企業会計とどのように関わっているのか解説する。
7	中小企業会計の変遷(1)	わが国において近代会計の始まりは明治時代とされている。その明治時代の中小企業における会計(複式簿記)の変遷について解説する。
8	中小企業会計の変遷(2)	わが国における中小企業の会計(複式簿記)について昭和初期から「中小会計指針」、「中小会計要領」が公表されるまでの変遷について説明する。
9	中小企業会計の特徴(1)	総論 「中小会計要領」の総論から、その特徴を明らかにし、実務での導入の留意点を解説する。さらに「中小会計要領」における記帳の重要性の意義を解説し、実務における中小企業の記帳の実態のあるべき姿を解説する。
10	中小企業会計の特徴(2)	各論(収益・費用、資産・負債、金融債権・債務) 「中小会計指針」「中小会計要領」を会計基準・税法基準と比較しながら、その特徴を明らかにし、実務での導入の留意点を解説する。
11	中小企業会計の特徴(3)	各論(貸倒損失・貸倒引当金、有価証券、棚卸資産) 「中小会計指針」「中小会計要領」を会計基準・税法基準と比較しながら、その特徴を明らかにし、実務での導入の留意点を解説する。
12	中小企業会計の特徴(4)	各論(経過勘定、固定資産、繰延資産、リース取引) 「中小会計指針」「中小会計要領」を会計基準・税法基準と比較しながら、その特徴を明らかにし、実務での導入の留意点を解説する。
13	中小企業会計の特徴(5) 中小企業会計の実践(1)	各論(引当金、その他) 「中小会計指針」「中小会計要領」を会計基準・税法基準と比較しながら、その特徴を明らかにし、実務での導入の留意点を解説する。 実際にホームページにて公表されている中小企業の決算書から、中小企業会計の活用状況を解説する。
14	中小企業会計の実践(2)	実際にホームページにて公表されている中小企業の決算書から、中小企業会計の活用状況(管理会計)を解説する。
15	期末試験および本講義のまとめ	
<b>履修上の注意点</b>		
<p>税務・会計に関する基本知識があることが望まれますが、初心者でも理解できるように授業をすすめていきます。中小企業の会計のあるべき姿とその活用法を学ぶことは、会計事務所勤務されている方にとっても、中小企業会計の利用者である、中小企業経営者、金融機関関係者の方々にとっても、有用な内容かと思えます。</p>		
<b>準備学習(予習・復習等)の内容</b>		
<p>授業中に配布するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問すること。 事前に教科書の指定箇所を読んでおいてください。</p>		
<b>教科書</b>		
<p>授業中に配布するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があれば授業で質問してください。 事前に教科書の指定箇所を読んでおいてください。</p>		
<b>参考書</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・『詳解 中小企業の会計要領』河崎照行・万代勝信【編著】(中央経済社)</li> <li>・『中小会社の会計』武田隆二(中央経済社)</li> <li>・『中小企業の財務管理入門 第2版』坂本孝司(中央経済社)</li> <li>・『日本の中小企業会計制度』小川晃司(中央経済社)</li> </ul>		
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>		
<p>授業最終日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。</p>		
<b>成績評価の方法</b>		
<p>(1) 受講態度、授業への貢献度 70% (2) 期末試験 成績点 30%</p>		

<b>その他</b>
<p>いわゆる会計学の知識の習得ではなく、実務に直結した仕事に活かせる会計の習得を主目的としています。例えば、管理職になった場合にぶつかる様々な疑問(取引先の財務諸表の見方、金融機関への決算状況の説明、自社のプロジェクトの採算性の吟味、効率的な部門別損益管理手法、管理会計的視点など)を意識しながら、講義を受けていただければ理解が進むものと思われます。</p>



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC641J	企業価値評価論	2	1・2年	日本語	富田竜一					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○				○			○
授業の概要・到達目標										
【到達目標 (Course ILO)】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>企業価値評価のための各アプローチ、評価法それぞれの意義・長所・限界を理解し、個別事案(企業価値評価案件)の内容に応じて合理的な評価法を選択できるようになる。</li> <li>中小規模の非上場会社について、株式譲渡などを想定した株式価値を評価算定できる。</li> <li>企業価値評価の手法・計算を巡って多様な考え方があることを理解し、ある考え方に対して、肯定的または否定的に検討できる。</li> </ul>										
【概要】										
<p>株式譲渡、M &amp; A、組織再編、資本取引等に係る経営トップの交渉・意思決定においては企業価値評価が重要となります。本講座では、企業価値評価の理論と実践を取扱い、計算手法の把握にとどまらず、各評価法の特長や限界も考察し、さらには企業価値評価を巡る争点において主張が対立する実際の裁判事例も検討します。</p> <p>必ずしも一物一価ではない株式価値等について、対象事案の内容を踏まえて評価方針を検討するマネジメントレベルの方を意識した講座です。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	企業価値評価の目的、各種価値の概念、評価アプローチの概要	講義の全体を俯瞰し、企業価値評価が必要とされる局面、「事業価値」、「企業価値」、「株主価値」などの重要概念、および、評価アプローチ・各評価法の全体体系を概説します。								
2	企業価値評価のための財務分析	財務諸表や事業計画は、企業評価における重要な情報となります。財務諸表に基づく分析手法を扱います。								
3	企業価値評価のための数学知識	企業価値評価(特にDCF法)を行ううえで必要となる統計学・数学(割引現在価値、等比級数、回帰分析等)を、わかりやすい図解や表計算ソフト(Excel)を用いた計算例を交えて説明します。								
4	時価純資産法による評価	静態的な価値を評価するコスト・アプローチの代表的評価法である時価純資産法について解説します。また、その内容を踏まえ、あらためて時価純資産法の特質(特長、限界)について考察します。								
5	類似上場会社法による評価	市場での取引環境を反映するマーケット・アプローチの代表的評価法である類似上場会社法(EBITDA マルチプル法)について解説します。また、その内容を踏まえ、あらためて類似上場会社法の特質(特長、限界)について考察します。								
6	DCF法による評価(1)	3回の連続講義で、動態的な価値を評価するインカム・アプローチの代表的評価法であるDCF法について解説します。また、その内容を踏まえ、あらためてDCF法の特質(特長、限界)について考察します。 手法については、実務での手順に従い、事業計画書(将来損益計算書)からのFCF(フリーキャッシュフロー)の算出、リバードβの算出、WACCの算出、非事業性資産の評価と税効果の反映、結果の吟味について計算例を交えて解説します。また、リスクフリーレート、エクイティリスクプレミアム等の基礎パラメータの情報源についてもふれます。								
7	DCF法による評価(2)	(前回のつづき)								
8	DCF法による評価(3)	(前回のつづき)								
9	その他の評価法による評価	市場株価法、取引事例法、配当還元法などの評価法それぞれの特質や適用局面を考察します。								

10	評価アプローチ・評価法の選定	評価を実践するにあたっては、さまざまな評価アプローチ・評価法のなかから、当該個別事案の内容に応じた合理的な方法を選択することが重要です。その際の考慮要件について考察します。
11	ケーススタディ	これまでに学んだ内容を総合的に実践すべく、企業価値評価のケーススタディに取り組みます。
12	実務上の留意事項	主要な評価法を実践する上での留意事項(ストックオプションによる希薄化の取扱い、合併比率・株式交換比率について、その他)を説明します。また、実務で企業価値評価を行う際に最初に調査・入手すべき情報についてふれます。
13	株式価値に係る裁判	著名な裁判事件を取り上げ、主要争点における申立人および被申立人それぞれの主張内容、それに対する裁判所の判断結果をみてゆきます。
14	プレゼンテーション(学生による発表)および補足講義	事前に指名した2~3名の学生による中間レポートの発表およびディスカッション。ならびに、みなさんの関心が高い事項に関連する補足講義。
15	まとめと期末試験	総括および理解度を確認する期末試験を行います。
履修上の注意点		
<p>講義内容は日頃、M &amp; A、企業価値評価とはあまり関係をもたれていない方々を対象に構成しております。既にこの分野で多くの実務経験をお持ちの方は物足りないと感じられるかもしれません。</p> <p>シラバスには各回の講義予定を記載していますが、受講者のバックグラウンド、学習状況や講義の進み具合などに応じて変更する可能性があります。</p> <p>授業形態は、毎回原則として対面授業(ハイブリッド対応なし)を予定しています。講座の性質上、受講者からの質問やディスカッションの場面で実際の投資案件やそれに関連した意思決定、利害調整のポイントが話題になることが多く、参加者全員が教室にいるほうが効果的な議論がしやすいと考えられています。</p>		
準備学習(予習・復習等)の内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>本講座受講の前提として、B/S(貸借対照表)、P/L(損益計算書)、基本的な会計仕訳(簿記検定3級ないし2級(商業簿記のみでよい)程度)を習得しておいてください。また、基礎レベルの財務分析(売上高営業利益率、自己資本利益率、売上債権回転期間など10個~15個程度の経営指標の算出と意味)を習得しておいてください。(独学なら20時間程度)。</li> <li>毎回の予習は必要ありません。ただし各回の授業内容を次の授業までに復習すること(各回1時間程度)。疑問点は早めに授業で質問し、解消すること。たとえば第11週(ケーススタディ)までに、第1週から第9週までの内容を理解し身に付けておくこと。授業での質問は大歓迎である。</li> </ul>		
教科書		
<p>教科書は使用しません。(教科書として市販書籍を購入する必要はありません。)</p> <p>毎回配布するオリジナル・レジュメを使用します。</p>		
参考書		
<p>お勧めできる参考書として、「企業価値評価ガイドライン」(日本公認会計士協会 経営研究調査会研究報告 第32号)を挙げます。第4回講義時に配布予定です。</p>		
課題に対するフィードバックの方法		
<p>中間レポート(小論文)に対するフィードバックの方法</p> <p>中間レポートは Oh-o! Meiji システムのレポート機能を経由して提出いただけます。</p> <p>フィードバックとして、全体的総評を授業でお話しするほか、各提出者ひとりひとりに、中間レポートの評価、コメント(短評)を Oh-o! Meiji システム経由でお送りします。また、興味深い、面白いレポートを書いた提出者2~3名を指名しますので、プレゼンテーション(第14週)をお願いいたします。</p>		
<p>期末試験に対するフィードバックの方法</p> <p>後述「成績評価の方法」のとおり評価し、後日成績評価結果としてフィードバックします。</p>		

成績評価の方法
(1) 授業への参加度 30% (2) 中間レポート 35% (3) 期末試験 35% (注1) 中間レポート(小論文)は1回(11月後半を予定)。課題提示から提出期限までは12~14日間を予定。 (注2) 期末試験では下記の持込みを許可します。 (A) 電卓(通信機能や文書保存機能を有しない通常の電卓) (B) 自分自身で手書きで作成したメモ1枚(A4サイズの紙1枚に手書きで算出公式や重要ポイントを簡潔に記入したメモ)。 *期末試験に(B)のメモ1枚を持込可とした理由は、算出公式や知識の単なる暗記にエネルギーを費やすのはあまり意味がなく、それよりも内容の実質的な理解とスキルの習得、思索にエネルギーを振り向けてほしい、と考えているためである。また、1枚のメモを作成する際に、自分にとって何が重要であるかを考え絞り込んでゆくこととなる。そのプロセスが講義内容のさらなる習得に役立つ。
その他
担当教員の所属および連絡先 ----- 富田公認会計士事務所 代表 公認会計士 富田竜一 Email rtomita@ms01.jicpa.or.jp https://www.tomita-kizaiken.com/ -----

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC691J	キャッシュ・フロー・マネジメント会計	2	1・2年	日本語	高橋篤史					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○						○	○
授業の概要・到達目標										
<b>【到達目標 (Course ILO)】</b> ・キャッシュ・フロー計算書の構造を理解し、問題点を指摘できるようになる。 ・投資や財務へのキャッシュの配分と効果を測定できるようになる。 ・事業におけるキャッシュ・フローを高めるための方策を検討できるようになる。 ・企業価値向上の施策を立案できるようになる。										
<b>【授業の概要】</b> キャッシュフローは、企業活動における投下資本と活動成果を資金面から捉えるものである。 過去数年における右上がりの生産経済・金融経済のなかでは、投下資本すなわち有形資本・金融資本・知的資本を如何にマネジメントするかがキャッシュフローを高め企業価値を向上させる上で重要なキファクターであった。一方、金融危機を端緒とした実態経済の低迷期においては、投下資本の源泉となるキャッシュフローの確保は企業にとって最重要な課題であり、とりわけ事業そのものが生み出すキャッシュフローを高めるマネジメントが重要となる。企業実務において、キャッシュフローに対する事業活動の有効性・効率性を評価しマネジメントする実務力をつけるためにキャッシュフローの構造を理解し、その改善プロセスと分析力を習得することを目標とする。 本講義では、企業実務の事例をベースに、キャッシュフローによる企業価値向上のためのマネジメント手法を (1) キャッシュフロー構造の理解 (2) キャッシュフローを高めるためのビジネスプロセス (3) (1)(2)を踏まえ、キャッシュフローの分析を通じた企業価値向上施策の検討 の3つの側面から、キャッシュフロー・マネジメントの今日的テーマと課題を実務面から掘り下げていく。 企業経営で経営企画、財務企画、IR、コンサルテイング、インベストメントバンキング、ベンチャーキャピタル、プロジェクトファイナンスなどの仕事をを目指す人に必要な基礎知識を習得していく。										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	キャッシュ・フロー・マネジメント会計概論	本講義の狙い、キャッシュフローと企業価値の関係を理解し、キャッシュフロー・マネジメント会計の本質を理解する。								
2	キャッシュフロー構造(1)	キャッシュフローを、財務情報との関係を通じて学び、キャッシュフロー作成の基礎を理解する。								
3	キャッシュフロー構造(2)	キャッシュフローの作成方法を事例を通じて学び、企業価値向上の視点にたったキャッシュフロー構造の理解を深める。								
4	キャッシュフロー構造(3)	資金実績表と資金計画を事例を通じて学び、資金の効率性・安全性を理解する。								
5	キャッシュフロー・マネジメント実務(1)	キャッシュフローのマネジメント実務を事例を通じて学ぶ。 テーマは利益マネジメント(事業計画①)								
6	キャッシュフロー・マネジメント実務(2)	キャッシュフローのマネジメント実務を事例を通じて学ぶ。 テーマは利益マネジメント(事業計画②)								
7	キャッシュフロー・マネジメント実務(3)	キャッシュフローのマネジメント実務を事例を通じて学ぶ。 テーマは投資戦略マネジメント(キャッシュフロー分析①)								
8	キャッシュフロー・マネジメント実務(4)	キャッシュフローのマネジメント実務を事例を通じて学ぶ。 テーマは財務戦略マネジメント(キャッシュフロー分析②)								
9	キャッシュフロー・マネジメント演習(1)	企業事例を通じて、キャッシュフローによる企業価値分析を行い、企業価値向上のためのマネジメントを学ぶ。								

10	キャッシュフロー・マネジメント実務(5)	キャッシュフローのマネジメント実務を事例を通じて学ぶ。 テーマは業務プロセスマネジメント（販売プロセス①）
11	キャッシュフロー・マネジメント実務(6)	キャッシュフローのマネジメント実務を事例を通じて学ぶ。 テーマは業務プロセスマネジメント（販売プロセス②）
12	キャッシュフロー・マネジメント実務(7)	キャッシュフローのマネジメント実務を事例を通じて学ぶ。 テーマは業務プロセスマネジメント（購買プロセス）
13	キャッシュフロー・マネジメント実務(8)	キャッシュフローのマネジメント実務を事例を通じて学ぶ。 テーマは業務プロセスマネジメント（在庫プロセス）
14	キャッシュフロー・マネジメント演習(2)	各自が選択した企業事例を通じて、キャッシュフローによる企業価値分析を行い、企業価値向上のためのマネジメントを学ぶ。
15	キャッシュフロー・マネジメント演習(3)	各自が選択した企業事例を通じて、キャッシュフローによる企業価値分析を行い、企業価値向上のためのマネジメントを学ぶ。
<b>履修上の注意点</b>		
本講義はファイナンス領域、マネジメント領域、アカウンティング領域の基礎知識を有していなくても理解ができるようにできる限り事例を中心に講義を行うが、座学ではなく、事例における課題や方法論について、積極的に討議する形式で行うので、各領域の基礎知識を有していることが望ましい。		
<b>準備学習（予習・復習等）の内容</b>		
レジュメの最後に次回のテーマを記載する。復習と合わせてレジュメを積極的に活用すること。また、講義ではできるだけ事例に基づいた検討を行うことから、各回の講義で扱った内容について、他の事例に当てはめ各自検討すること。		
<b>教科書</b>		
レジュメを毎回配布する。		
<b>参考書</b>		
特に定めない。		
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>		
講義内で実施した課題については、講義中に解説・フィードバックを行う。Oh-o!Meijiにて提出された課題については、Oh-olMeijiのコメント欄にてフィードバックを行う。		
<b>成績評価の方法</b>		
(1) 授業内における課題への取組状況、授業態度（40%） (2) クラスへの貢献度（20%） (3) レポート、課題発表（40%）		
<b>その他</b>		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)ACC671J	国際会計実務	2	1・2年	日本語	許 英姿					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○		○						
<b>授業の概要・到達目標</b>										
<p>本講義は、近年グローバル範囲で適用が広がりつつある国際財務報告基準における、固定資産の減損会計、無形資産とのれんの会計、リース会計等、個別の会計基準および適用事例を取り上げる。各会計基準について理解をすると同時に、リアリティの会計数字（財務報告書）を読む・分析ことを通じて、会計基準が企業の業績にあたる影響について考察、企業の会計政策、財務管理の問題について理解を深める。</p> <p>財務報告書を読む・分析する際には、比例縮尺図を利用し、企業の経営に関連させ、同業者と比較することによって、当該企業の財務的特徴を理解する。上記の作業を反復することによって、以下のことが獲得できる（Course ILOs）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務報告書における数値の意味を読み解ける基礎力を獲得できる。</li> <li>・財務報告書上の数字と経営の関連性について理解できるようになる。</li> <li>・企業の会計方針について理解できるようになる。</li> <li>・企業の財務管理の重要性について理解が深められる。</li> </ul> <p>本講義は討論の形式で進める。理論と制度は最低限に、専門用語は平易に説明する。会計理論ではなく、財務報告書を読むことに重点をおいてある。会計数字を企業の会計政策、財務管理に関連して説明する。会計の基礎知識が少ない方も十分に理解できるように配慮する。</p>										
<b>授業内容</b>										
週	テーマ	内容								
1,	ガイダンス	IASB という組織と IFRS (IAS) 適用の現状 IASB の歴史と目的、IFRS (IAS) が世界における普及状況、 日本基準との主な違い、IFRS に従った財務諸表の様式 比例縮尺図の意味と作り方								
2,	減損会計 (1)	基準：減損会計の概念と特質、減価償却との違い 事例分析：減損計上のタイミングの問題と減損会計の特質								
3,	減損会計 (2)	事例分析：グルーピングの問題、減損会計の特質と利益管理								
4,	減損会計 (3)	事例分析：グルーピングの問題、減損会計の特質と利益管理								
5,	のれんの会計 (1)	基準：のれんの性質、会計処理、日本基準との違い、 U.S.、EU 諸国、日本におけるのれん計上の現状と問題点 事例分析：のれん会計と企業の会計政策								
6,	のれんの会計 (2)	事例分析：「負ののれん」の財務効果とその問題点								
7,	無形資産会計 (1)	基準：無形資産の会計処理、日本基準との違い、 グローバル範囲における無形資産計上の現状。 事例分析：日本企業における無形資産計上の実務								
8,	無形資産会計 (2)	事例分析：無形資産の特質 (4S)、無形資産経営について考える								
9,	リース会計 (1)	基準：リース資産の会計処理と本質、メリットとデメリット、財務指標との関連 事例分析：リース会計の財務効果								
10,	リース会計 (2)	事例分析：リース会計の財務効果								
11,	キャッシュ・フロー計算書 (1)	概要：キャッシュ・フロー計算書の意義と構成、各構成の意味 事例分析：キャッシュ・フローから読む企業の財務政策								
12,	キャッシュ・フロー計算書 (2)	事例分析：キャッシュ・フローから読む企業の財務政策								
13,	事例分析 (1)	企業の会計政策と財務管理								
14,	事例分析 (2)	企業の会計政策と財務管理								
15,	会計不正と法規制	事例分析：グローバル企業の会計不正と法規制								

履修上の注意点
「アカウンティング基礎論」を履修した方、またはそれに相当する知識を有する方を対象とする。 できるだけ双方向の講義を目指すので、積極的な参加を求める。
準備学習（予習・復習等）の内容
ケースの予習が必要ある。
教科書
特に事前に指定しない。講義資料をその都度、配布する。
参考書
1.「ビジネス・アカウンティング」、山根節等、中央経済社、2019年。 2.「決算書&ファイナンス」、西山茂、東洋経済新報社、2020年。 3. 関連する日本経済新聞記事。
課題に対するフィードバックの方法
講義中および講義後の課題を、同日または翌週に解説の時間を設ける。
成績評価の方法
講義への参加度 30%、課題 20%、期末レポート 50%。
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW641J	租税法演習 I	2	1・2年	日本語	大野雅人					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>毎回の授業で租税法（主として所得税法、法人税法、消費税法）に関する裁判例を受講者が報告・分析し、受講者全員で関係法令の解釈・適用等について検討・討議する。</p> <p>到達目標（Course ILOs）</p> <p>①各税法の体系を理解し、各税法の各条文を適切に読み解釈する能力を習得する。</p> <p>②裁判例を、その意義・位置付けや先行研究も含めて、適切に読み解釈する能力を習得する。</p> <p>③企業活動を行っていく中で生じる、租税に関する諸問題について、税法及び判例に基づき適切に判断する能力を習得する。</p>										
授業内容										
所得税法、法人税、消費税法を中心として、最近における重要な判例を担当の受講者が報告し、その後全員によるディスカッションを行う。										
履修上の注意点										
租税法の基礎知識があることを前提に授業を行う。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>報告者となる受講者は、各自の報告裁判例について、十分な資料収集と検討を行うことが求められる。</p> <p>また、報告者以外の受講者も、事前に報告レジュメ及び報告対象の裁判例等を読み込んでおくことが求められる。</p>										
教科書										
特になし。										
参考書										
『租税法判例六法（最新版）』中里実ほか編（有斐閣） 『租税法（第24版）』金子宏（弘文堂、2021） 『スタンダード所得税法（最新版）』佐藤英明（弘文堂） 『スタンダード法人税法（最新版）』渡辺徹也（弘文堂） 『スタンダード消費税法』佐藤英明＝西山由美（弘文堂、2022） 『租税判例百選（第7版）』（有斐閣、2021）等										
課題に対するフィードバックの方法										
受講者の報告に対しては、毎回授業でコメントする。										
成績評価の方法										
<p>報告課題の発表（最終報告レジュメを含む）60%、ディスカッションでの貢献度 40%。</p> <p>期末試験又は期末レポートは実施しないが、受講者は学期末に各自の報告レジュメの最終版を提出することが求められる。</p>										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW641J	租税法演習Ⅱ	2	1・2年	日本語	池田義典					
Programme ILOs					Cluster ILOs					
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○	○	○					
授業の概要・到達目標										
<p>租税法に関する実務上重要な裁判例を受講者が報告・分析し、受講者全員で関係法令の解釈・適用等について検討・討議する。</p> <p>到達目標（Course ILOs）</p> <p>①各税法の体系を理解し、各税法の各条文を適切に読み解釈する能力を習得することができる。</p> <p>②裁判例を、その意義・位置付けや先行研究も含めて、適切に読み解釈する能力を習得することができる。</p> <p>③企業活動を行っていく中で生じる、租税に関する諸問題について、税法及び判例に基づき適切に判断する能力を習得することができる。</p>										
授業内容										
租税法（所得税法・法人税法・消費税法・相続税法など）に関する重要な裁判例について、担当の受講者が事実関係及び裁判所の判示内容等を報告し、その後全員によるディスカッションを行う。										
履修上の注意点										
租税法の基礎知識があることを前提に授業を行う。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>報告者となる受講者は、各自の報告裁判例について、十分な資料収集と検討を行うことが求められる。</p> <p>また、報告者以外の受講者も、事前に報告レジュメ及び報告対象の裁判例等を読み込んでおくことが求められる。</p>										
教科書										
特になし。										
参考書										
<p>租税法規集（『租税法判例六法（最新版）』中里実ほか編（有斐閣）など）</p> <p>『租税法（第24版）』金子宏（弘文堂、2021）</p> <p>『スタンダード所得税法（最新版）』佐藤英明（弘文堂）</p> <p>『スタンダード法人税法（最新版）』渡辺徹也（弘文堂）</p> <p>『スタンダード消費税法』佐藤英明＝西山由美（弘文堂、2022）</p> <p>『租税法判例百選（第7版）』（有斐閣、2021）等</p>										
課題に対するフィードバックの方法										
報告担当者の報告及び受講者による討議に対して、毎回の授業においてコメントする。										
成績評価の方法										
報告課題の発表 60%、討議への貢献度 40%。										
その他										



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM611J	マーケティング環境分析	2	1・2年	日本語	中島 聡					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
						○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>人口減少、少子超高齢社会がマーケティングに及ぼす影響は2020年を境により顕著なものとなる。また、2020年に発生したコロナ禍は人々の価値観、行動、行政及び企業においても同様の変化は当然の事として急速なデジタルトランスフォーメーションが求められることとなってきた。同時に地政学的な大きな変化も発生している。情報システムの指数関数的進展は100年に一度に近い変革を市場や生活者意識にもたらすものと考えられる。こうした様々な要因の結果は2025年位には具体的現象面として明らかになると同時に2030年には想像を絶する環境となっているものと考えられる。従前のマーケティング手法は、右肩上がりの市場環境においては有効であったものの、新たな環境においては、根本的な変化を求められていると言っても過言ではないであろう。日本経済全体としては、緩やかな回復といわれているものの、グローバル化の中においては不安定であると言える。財政に目を向けた場合には医療費や社会保障費の今後の連続的増大は国家財政基盤が揺らぐ可能性も無いとは言えない状況である。</p> <p>一方、世界全体を見た場合には、人口増加の傾向が続いており、原材料の高騰は避けられないものとなっている。即ち市場の成熟化と同時にコストアップ圧力と低価格及び低収益構造が今後のマーケティング環境の大きなポイントと言っても過言ではない。そうした中で企業の舵取りは大変難しいこととなることが想定される。</p> <p>従来のマーケティングにおいては、ベーシックな4Pを中心とした個別の戦略に関し深堀りを行うマーケティングマネジメントが中心であったが、今後は全てを統合した統合マーケティングの概念が強く求められることと考えられる。即ち、「マーケティング＝経営そのもの」の時代が真に訪れたことと言えるであろう。</p> <p>かかる状況下、本講義では今後のマーケティング環境変化要因を網羅的に研究すると同時に生活者の変化、人口動態変化、価値観の変化、生活者の生活フレームの変化の分析と共に、この事に対応する企業のマーケティング戦略の変化に焦点をあてて行いたいと思う。</p> <p>元来、市場で取引されるものは、商品であれサービスであれ、そのものではなく機能である。同時に、企業、ビジネスプロフェッショナルは、単なる営利のみではなく、倫理的に、かつ生活者にとって、真に必要とされるものでなければならない。</p> <p>そこで、特に生活者起点での企業のあるべき姿、また生活者に対し「存在価値」を提供する事を使命とする企業のあるべき姿というものマーケティングの観点から深堀りしつつ考えてゆきたいと思う。</p> <p>マーケティング戦略を立案するにあたっては、定量的・定性的な考えがあるが、データを基礎とした手法に理念的な考え方を付加していくこととする。換言すれば、変化を定量的に捉える事によって勝ち組企業の条件、また企業の存在理由の明確化へのアプローチを実施することを主眼目と致したい。同時に様々なデータをベースにて将来を予測する手法と、バックキャストの概念を活用しイノベーションの方向性を探索致したい。</p> <p>主なアプローチ方法は次の2つの方法を行う。(1) 定量・定性的にマーケティング環境変化を理解し生活者の実像・社会構造・流通構造等を解析し、マーケティングインプリケーションを探索する手法。(2) 企業価値向上のためのマーケティング視点でのインプリケーション探索手法。</p> <p>到達目標 (Course ILOs)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>様々なデータからマーケティング環境変化を読み取ることができるようになる。</li> <li>変化とマーケティング理論との融合を図ることができるようになる。</li> <li>変化と理論との融合から新たなビジネスモデルを構築することができるようになる。</li> <li>10年先を予測する力を獲得できるようになる。</li> <li>フォーキャストからバックキャストし、地に足のついた論理を展開できるようにする。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	マーケティング環境分析の枠組み1-1	マーケティング環境を分析するための必要要件を明らかにし、企業のマーケティング活動の方向性を理解する。								
2	マーケティング環境分析の枠組み1-2	マーケティング環境を分析するための必要要件を明らかにし、企業のマーケティング活動の方向性を理解する。								

3	マーケティング環境分析の枠組み1-3	マーケティング環境を分析するための必要要件を明らかにし、企業のマーケティング活動の方向性を理解する。
4	人口動態変化とマーケティングの関連	人口減少、少子化の中でのマーケティング戦略の方向性を考える。
5	顧客ターゲット戦略の方向性分析1-1	増大するシニアの実像をあぶりだすと同時に、シニアにターゲットを絞った戦略の研究。
6	顧客ターゲット戦略の方向性分析1-2	シニア層の生活課題に基づくソリューション体系の検討。
7	顧客ターゲット戦略の方向性分析2	少子化の中での企業のマーケティングベクトルの研究。
8	生活者コミュニケーション戦略	マスコミュニケーションの効果と限界を把握し、コミュニケーション戦略の方向性を考える。同時に空爆型の広告戦略のROIを考える。
9	コミュニケーション活動とプロモーション活動の関連	コミュニケーション活動と実売を伴うプロモーション活動の関連を分析。
10	環境変化に対応した商品戦略	環境変化と件を踏まえた商品戦略を探る。
11	企業価値とブランド戦略-1	個別のプロダクトブランドとコーポレートブランド戦略の関係を理解。
12	企業価値とブランド戦略-2	様々なブランド戦略の方向性を探る。
13	これからの流通業の方向性	企業のミッションを根幹とし、これからの流通業の方向性を考える。
14	新たな市場戦略の方向性	縮小市場におけるチャンネル戦略とその影響を考える。
15	環境変化に対応するマーケティング戦略	講義内容を総括する中で、これからの統合マーケティング戦略を考える。
履修上の注意点		
消費財に着目した上での統合マーケティング戦略を講義の中心とする。そうした中で基本的な流通の知識とマーケティングの知識を持っている事が望ましい。		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
日本経済新聞の俯瞰的読了、関心を持っている企業のマーケティングフレームワークの事前探索を完了の上、講義に臨みたい。		
教科書		
特に定めなし。		
参考書		
『マネジメント基本と原則』 P.F ドラッカー著 上田惇生翻訳 (ダイヤモンド社)		
『未来の年表』 河合雅司著 (講談社現代新書)		
『経済発展の理論 上下』 シュンペーター著 塩野谷祐一、中山伊知郎、東畑精一訳 (岩波文庫)		
課題に対するフィードバックの方法		
マーケティング環境変化を自身の持つ課題に適合させ、論理的なソリューションレポートを提出する事を課題とする。同時に最終講義の時点で全体のまとめの講義を実施する。		
成績評価の方法		
(1) 授業への貢献度、受講態度等 20%		
(2) 最終レポート成績点 80%		
その他		



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM616J	製造業のサービス化 (M)	2	1・2年	日本語	戸谷圭子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○				○	○	
授業の概要・到達目標										
日本の製造業は、製品のコモディティ化・サステナビリティ対応への遅れ、人材不足などに直面している。一方で、経済、雇用、消費の3側面で「サービス化 (Servitization)」は着実に進展しており、製造業においても、高い付加価値と収益性の確保、国際競争力の強化の観点から、製品とサービスを融合させた価値共創ビジネスへの移行が進められつつある。製品に価値を込めて顧客に届けるという価値提供から、製品を使用する際に顧客とともに価値を生み出す (co-creation) 価値共創への変化である。資源を大量に使って、製品を大量生産し、消費した後、大量に廃棄するというこれまでのやり方では、社会の持続可能性を担保できない。サービス化には、企業・顧客双方の製品とサービス (レンタル、リース、シェアを含む) を融合させることで、持続可能な社会に繋げていくという理念が含まれる。本講義では、このようなサービス化の概念・現状・阻害要因などを取り上げ、実務に活かせる知識を学ぶ。										
授業内容										
1・2	製造業サービス化関連概念の整理									
3・4	日本の製造業サービス化の現状分析									
5・6	製造業サービス化の障害 (1)									
7・8	製造業サービス化の障害 (2)									
9・10	サービスエコシステムと価値共創									
11・12	サービス開発・設計									
13・14	事例研究発表									
15	まとめと質疑									
履修上の注意点										
マーケティング基礎を受講済みであること										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
教科書の熟読 事例研究発表におけるグループワーク										
教科書										
B2Bのサービス化戦略：製造業のチャレンジ 東洋経済新報社 2020/7 C. コワルコウスキー (著)、W. ウラガ (著)、戸谷圭子 (著)、持丸正明 (著)										
参考書										
課題に対するフィードバックの方法										
<ul style="list-style-type: none"> <li>発表時の課題理解に対するフィードバックは、講義中のディスカッションで行う。発表の評価方法はピアレビューとし、以下の項目について評価する。グループワークについての評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>発言の正確性 (ケースの読み込み具合など)</li> <li>発言の独自性 (新しい分析の切り口や視点の提供)</li> <li>コミュニケーション配慮 (わかりやすさ、異なる意見も尊重する態度など)</li> <li>資料作成への協力・貢献度</li> <li>ミーティング等への出席度合</li> </ol> 発表についての評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>講義で学んだフレームワークが活用できているか</li> <li>設問に対する回答論旨が明らかで、論理的に整合しているか</li> <li>発表資料は見やすく、わかりやすく作成されているか</li> <li>発表の態度 (声の大きさ、態度などの適切さ、時間厳守など)</li> </ol> </li> </ul>										
成績評価の方法										
質問・意見などクラス貢献 50%										
事例発表 (ピアレビューを含む) 50%										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM611J	ヘルスケア・マーケティング	2	1・2年	日本語	田中智恵子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○										
授業の概要・到達目標										
【到達目標 (Course ILO)】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルスケアサービスの特徴を理解できる</li> <li>ヘルスケアサービスの特徴から、ヘルスケアマーケティングの課題を理解できる</li> <li>マーケティング手法を活かし、ヘルスケアサービスの新たな視点を創造できるようになる</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	サービスとしての医療のサービスの特徴、特殊性を理解する								
2	医療サービス市場	医療を取り巻く産業と顧客								
3	医療サービスとマーケティングマネジメント	医療サービス提供の場とサービス価格								
4	医療サービスとマーケティングコミュニケーション	ステークホルダーに対するコミュニケーション								
5	サービス戦略とブランド戦略	病院・施設のブランド創り								
6	レピュテーションマネジメント	病院・施設のレピュテーションの課題と対策								
7	地域医療連携とマーケティング①	データ分析からのマーケティング戦略								
8	地域医療連携とマーケティング②	データ分析からのマーケティング戦略 (診療圏の設定 市場調査とシェア算出)								
9	ファクトと論理によるマーケティング手法	医療コンサルタントのヘルスケアマーケティング事例								
10	ヘルスケアサービスの現状	海外事例								
11	ヘルスケアサービスの現状	健康経営を考える								
12	ヘルスケアサービス検討①	ヘルスケアサービスの課題からビジネスモデルを考える								
13	ヘルスケアサービス検討②	ヘルスケアサービスの課題からビジネスモデルを考える								
14	ヘルスケアサービス検討③	ヘルスケアサービスの課題からビジネスモデルを考える								
15	まとめ									
履修上の注意点										
特になし										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特に指定なし										
参考書										
随時紹介する。										
課題に対するフィードバックの方法										
最終プレゼン (ヘルスケア産業に関する課題と解決の方向性) 時に個別にフィードバックをする										
成績評価の方法										
①授業への貢献度、受講態度 30%										
②ディスカッションへの発言、参加 20%										
③最終プレゼン (ヘルスケア産業に関する課題と解決の方向性) 50%										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM611J	e-マーケティング	2	1・2年	日本語	高橋一貢					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○										
授業の概要・到達目標										
【到達目標 (Course ILO)】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>マーケティングおよび経営戦略を過去・現在・未来の時間系列で学ぶ</li> <li>ケースメソッド (ハーバードなどで行われているもの) によるケース分析</li> <li>講義とケースの併用による、デジタル社会における分析能力と意思決定能力の向上</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション (講義)	この授業の概要説明、簡単なケース (その場で配って読んでもらいます)								
2	マーケティング (講義)	マネジリアル・マーケティングから戦略的マーケティング、ソーシャル・マーケティングまで								
3	ケース分析 (1)	配布したケースのクラス討議 (2コマ続きでのケース分析)								
4	ケース分析 (1)	配布したケースのクラス討議								
5	情報化の歴史 (1) (講義)	コンピュータの歴史から経営戦略を考える								
6	情報化の歴史 (2) (講義)	コンピュータの歴史から経営戦略を考える								
7	ケース分析 (2)	配布したケースのクラス討議 (2コマ続きでのケース分析)								
8	ケース分析 (2)	配布したケースのクラス討議								
9	情報化白書 (講義)	情報化白書の分析、解説								
10	企業課題と経営戦略論の系譜 (講義)	企業が抱える課題と社会科学								
11	ケース分析 (3)	配布したケースのクラス討議 (2コマ続きでのケース分析)								
12	ケース分析 (3)	配布したケースのクラス討議								
13	最先端技術もしくはケース分析 (4)	12回目までの進み具合によって4回目のケースか、講義								
14	最先端技術もしくはケース分析 (4)	12回目までの進み具合によって4回目のケースか、講義								
15	まとめの講義	技術論を背景にした未来								
履修上の注意点										
この科目は、クォーター科目のため、2コマ続きの授業になります。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
ケースメソッドによるケースの分析には、1ケースあたり、最低でも2時間の事前学習 (予習・分析) が必要です。そのため、前日までに2時間以上の予習ができない方は、この授業には向きません。										
教科書										
特になし。必要な資料は、教室もしくはオンラインで配布をします。										
参考書										
特になし										
課題に対するフィードバックの方法										
授業中 (口頭)										
成績評価の方法										
ケース分析 50%、発言などの授業へのコミットメント 50%										
その他										
この授業では、一般的なマーケティングおよび経営戦略論の他に、最先端技術などの用語が出てきます。そのため、これまでの技術などの知識がない方は、キャッチアップできるように努力してください。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM626J	消費者行動論	2	1・2年	日本語	松下光司					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
【到達目標 (Course ILO)】										
<ul style="list-style-type: none"> <li>消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるようになる。</li> <li>消費者行動に関する概念や理論を理解できるようになる。</li> <li>消費者行動とマーケティング戦略と関係が理解できるようになる。</li> </ul>										
【授業概要】										
企業は自社製品の購買を実現するため、消費者の行動に働きかけるべくマーケティング活動を展開しています。しかし、消費者は、それらの施策に対して思うように反応してくれるほど単純ではありません。では、いったいどのような場合に、いかなるマーケティング・ミックスが有効となるのでしょうか。当然のことながら、それを説明するには、消費者の行動や心理プロセスの理解が不可欠です。もっと広く言うなら、マーケティング戦略の成否を説明し、理解するには、消費者が購買に至るまでの心理メカニズムを深い理解することがカギとなるのです。本講義は、このような視点にたち、消費者の購買意思決定に関する理論枠組み (とりわけ、消費者の情報処理プロセス) を、具体的なマーケティングの事例と関連付けながら理解することを目指すものです。										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	講義の目標や進め方に関する説明をします。								
2	ケース討議 (1) : 消費者行動	消費者の購買に関わるケースについて議論することで、消費者の購買行動の理論枠組みについて理解を深めます。								
3	消費者の情報処理を理解する	消費者の情報処理プロセスについて理解します。								
4	消費者の購買意思決定を理解する	消費者の購買意思決定プロセスについて理解します。								
5	提案価値のデザインと消費者行動	マーケティングにおける提供価値と消費者行動の関係について理解します。								
6	消費者の購買行動類型	消費者の購買行動の類型とそれに対応するマーケティングについて理解します。								
7	価値提供のデザインと消費者行動	消費者の購買行動の類型とそれに対応するマーケティング (コミュニケーションや流通) について理解します。								
8	消費者の情報処理とブランド	消費者の情報処理プロセスにおけるブランドに役割について理解します。								
9	消費者の購買意思決定とブランド	消費者の購買意思決定プロセスにおけるブランドの役割について理解します。								
10	ケース討議 (2) : サービスと消費者行動	サービス企業に関わるケースについて議論することで、消費者の継続購買について理解します。								
11	継続購買を理解する	消費者の継続購買に関する理論枠組みについて理解します。								
12	ケース討議 (3) : ブランドと消費者行動	消費財企業に関わるケースについて議論することで、ブランド・マネジメントや流通政策について理解します。								
13	マーケティングと消費者行動	マーケティングと消費者行動の関わりについて総括します。								
14	最終プレゼンテーション	各個人が関心のあるテーマに関して分析したプレゼンテーションをしてもらいます。受講生の人数によっては、変更されることがあります。								
15	まとめ	講義全体の総括をします。加えて、講義全体に関する質疑応答をします。								
履修上の注意点										
マーケティングに関する基本知識を前提として講義を実施します。そのため、もしマーケティングについての理解が不十分である場合は、受講前にマーケティングに関するテキストをあらかじめ読むようにしてください、										

準備学習（予習・復習等）の内容
講義の前に指定されたテキストの該当部分（1章分あるいは2章分）を講義の前に読んでおくことを求めます。また、講義の復習に関する設問やケース教材に関わる設問を毎回出しますので、それについてのレポートを提出していただきます。
教科書
『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘他、有斐閣アルマ、2012年）
参考書
授業内で紹介します。
課題に対するフィードバックの方法
授業内にフィードバックします。必要に応じて Oh-o! Meiji システム等で解説を追加します。
成績評価の方法
クラス貢献（発言の回数や内容）：30%、レポート：50%（毎回のレポート課題の内容）、最終プレゼンテーション：20%（受講生の人数によっては最終レポートになる場合がある）
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM611J	デザインシンキング	2	1・2年	日本語	小川 亮					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○						○	○	
授業の概要・到達目標										
<p><b>【到達目標（Course ILOs）】</b>  「デザインシンキングを使って製品開発・サービス開発ができるようになる」これが本授業の到達目標です。デザインシンキングは画期的な商品やサービスを生み出すための方法として世界中で活用されており、世界中のビジネススクールで授業が設置されています。  本授業では、受講後みなさんが会社で、新サービスの開発ができるようになることを目的としています。</p> <p>そのため</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●受講者で話し合い、1つの解決したいテーマを決め、実際に商品やサービスを開発してみる</li> <li>●プロのデザイナーやリサーチャーも参加し、実践的なデザインシンキングをサポートするという流れを大切にしています。</li> </ul> <p><b>【デザインシンキングの授業のポイント：授業の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●参加者で解決したいテーマを最初に決めて、ワークショップやプロトタイプ、インタビューを行い、実際に解決策を考える</li> <li>●プロのデザイナーやリサーチャーと共に進めることで、実践の進め方を体感する</li> <li>●ケースディスカッションや事例の紹介を通じてデザインシンキングのプロセスの理解を深める</li> </ul> <p>今までのテーマは  「留学生の課題を解決する」「高齢者の移動を解決する」「働くママの困りごとを解決する」  というテーマに挑戦しました  座学と実践・体験の授業割合は5：5くらいになります  授業以外で集まったり、ワークをしたりということは1回あるか、ないか位です。  基本は授業内で完結する進め方を目指しています。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
【授業の回数とテーマ】										
1	デザイン思考の基本概念とプロセス	IDEOの開発したデザイン思考の歴史的成り立ちと発展、その基本概念を学ぶ。Human-Centered Designの概念からラビッドプロトタイプ、オブザベーションといった一連のプロセスを紹介する。教材にはCNNがIDEOを取材した際のDEEP DIVEを援用する。								
2	事例から理解するデザイン思考 病院観察と台所観察	横浜市立市民病院の協力によって実現したデザイン思考型の医療過誤回避を課題にした問題解決事例と台所観察を通じて商品アイデアを作成するというデザイン思考の2つの具体的事例をもとにデザイン思考のプロセスを学ぶ。								
3	デザイン思考の各プロセスの理解	デザイン思考の基本プロセスをIDEOのステップを参考に解説していく。観察、発見、アイデア開発、プロトタイプ、テストといったデザイン思考のプロセスを紹介すると同時に自分の仕事や研究に置き換えたときにどのように応用できるかといった視点でディスカッションを行う。								
4	インサイト発掘のための観察・インタビューの計画	文化人類学からはじまったエスノグラフィーの歴史に触れ、定性調査の手法とそこから得ることのできる情報を解説する。デザイン思考で活用される観察調査やデプスインタビューの設計、観察・インタビューのポイント、発見、情報の整理などについて学ぶ。								

5	【実践1】デブインタビュー	観察・インタビューからプロトタイプまでの一連の流れを1つの共通のテーマを基にしてデザイン思考を体感する。 インタビュー計画に合わせて、実際の対象者にインタビューを行い、インサイトの発掘を体験してもらう (昨年は高齢者の移動手段に対するのサービス開発がテーマだったが、今年は他のテーマも含めて考える予定)
6	【実践2】発見	インタビューを通じて発見したことをワークショップを通じて整理していく。 我々は何を発見したのか、その発見の背景は何か、商品を開発していくにあたり、もっともターゲットにしたいインサイトは何かをチームごとに掘り下げていく
7	【実践3】ワークショップによるアイディエーション	観察調査もしくはインタビューから得られた情報をチームで共有し、アイデアを生み出すワークショップについて学ぶ。拡散と収束というデザイン思考独自の進め方を意識しながら、ワークショップで情報を共有し、構造化していきながら、課題や機会に焦点をあて、アイデアを構築していく技術について学ぶ。
8	プロトタイプの価値とプロセス	アイデアを可視化するラピッドプロトタイピングの方法や種類について学ぶ。3Dプリンターをはじめ、様々な技術が可能にしたプロトタイピングの具体的な手段と共に、プロトタイピングを活用することによって得ることのできる情報がどのようなものかについての理解を深める。チーム毎にプロトタイプを作成する。
9	【実践4】プロトタイプを使った定性的調査によるアイデア価値の強化とブラッシュアップ	プロトタイプを活用したユーザーテストの方法と、テストを通じて得ることのできる情報、およびその活用方法について体得する。 ここではベルガンディのデザインドリブンプレーションの考え方をを用いてプロトタイプがあることによってできることを体感する。
10	プロトタイプの作成と評価サイクル	プロトタイプを作成し、評価を行い、コンセプトを再構築し、新たなプロトタイプを作成するという一連のサイクルについて学ぶ。従来の直線的なリアモデルの課題を共有し、サイクル型の製品開発のプロセスと設計、製品コンセプトを昇華させていくことの意義を学ぶ。
11	デザインシンキングによる開発企画書	実際のデザイン思考による商品開発の企画書の詳細を解説し、この資料を基に各自が取り組みたいテーマについてレポートを作成する
12	デザインのケーススタディ	製品のあり方の変化をサービスドミナントロジックをベースに学び、ユーザーイノベーションや製品のサービス化といった環境変化に対して、どのような事業機会や適応が求められているのかを学ぶ。その上で従来の製品開発プロセスとデザイン思考型の開発プロセスの融合や統合などのあり方について考える。 IDEOのケースを使って、今まで学んできたことの理解を深める
13	デザイン思考実践における課題と対策	企業内でデザイン思考を導入するにあたり、課題になることについて実践的・経験的観点から5つのポイントをテーマにディスカッションを行い、組織的に新しい思考法や方法論を導入することの難しさや課題、その対策について学ぶ。
14	従来の開発プロセスの展開と適応領域	デザイン思考の開発プロセスを従来の開発プロセスと比較し、その適用範囲や事業領域、ターゲットや製品タイプなど、いくつかの視点から適用しやすい分野と適用しにくい分野を整理する。
15	デザイン思考の課題と対策	デザイン思考の持つ課題と対策を実際の企業アンケートの結果を用いて考える。またアート思考やデザインドリブンプレーションといったデザイン思考を取り巻くアプローチについても紹介する
<b>履修上の注意点</b>		
解決したい課題やテーマなどがあるとより積極的に参加しやすいと思います。例えば自社の製品や開発テーマ、起業アイデアなど新商品や新サービス、あるいは社会課題など面白いと思います。		

<b>準備学習（予習・復習等）の内容</b>
授業のための予習・復習は特に必要ありません。さらに深く学びたい人には、書籍や動画、ウェブサイトなどを紹介します。
<b>教科書</b>
レジュメ等を毎回配布する予定です。
<b>参考書</b>
廣田章光「デザイン思考 マインドセット+スキルセット」 日経 BP 日本経済新聞出版
<b>課題に対するフィードバックの方法</b>
受講者の興味のあるテーマについて、インタビュー、アイデアワークショップ、プロトタイピングを進めていきます。プロジェクトが終了した段階で、プロジェクトのポイントや課題などについてフィードバックを行います。
<b>成績評価の方法</b>
デザイン思考の基本概念の理解、実践にあたっての各プロセスの理解、自身の事業領域や研究テーマへの実践的適用力の習得の3点を到達目標とし、評価にあたっては、授業への貢献60%、最終試験40%の2つの総合評価によって行います。
<b>その他</b>
<p>【2022年のテーマから最終的にたどり着いた解決策（ポスターによるプロトタイプ）】</p> <p>「留学生の課題を解決する」というテーマに対して (<a href="https://photos.app.goo.gl/fQZa7eyhNF7W7P8q7">https://photos.app.goo.gl/fQZa7eyhNF7W7P8q7</a>) 2023年は 「美容室で理想の髪型にするためにはどうするか」をテーマにしました。 最終的に美容師さんにプロトタイプを見てもらいました。</p> <p>具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○製品・サービス開発のプロセスであるデザインシンキングを理解し、実践できるようにする</li> <li>○デザインシンキングの考え方とフレームを理解するとともに、自身あるいは自社の課題解決の方法として実践的に活用できるようになる</li> <li>○プロのインタビュアーやデザイナーに参加してもらうことで観察・ヒアリング・プロトタイプの実務的ポイントを体得する</li> <li>○前半では商品やサービスの開発の方法としてのデザインシンキングにフォーカスし、従来の開発プロセスやアプローチとの違いを理解する</li> <li>○中盤では実際に1つのテーマを決めインサイト発掘やワークショップや観察など、1つ1つのステップの注意点とともに実際に体験する</li> <li>○後半ではデザインシンキングを活用した開発プロセスの企画、デザインシンキングを企業で実践する際の課題や批判、デザイン思考を取り巻く新しい思考法などについて理解する</li> </ul> <p>【昨年の受講生の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●デザイン思考を学んだ事で、普段の何気ない日常の中に、人々の潜在的なニーズがあることに気づけた。そしてそれは、デザイン思考のフレームに基づき、人間を観察することで、可視化することが出来る。どの業界・サービスでも応用できるので、新しいサービス開発や価値の創造を実現したい人にとっては、絶対に学ぶべき講義だと感じた。</li> <li>●実際にデザイン思考の理論を学ぶだけでなく、デザイン思考を実践的に活用しアウトプットを作るので、理解が進みやすかった。また、その過程で先生や各プロフェッショナル（インタビュアー、デザイナーなど）がサポートして下さるので、質の高い議論やアウトプットが生徒主導でも出来た。</li> <li>●自分がインタビューおよび観察過程に参加し、実務的ポイントを得たと感じた。ビジネスパーソンにとっても、大学院生にとっても、体験知が得られる授業だと思う。</li> <li>●授業では、デザインシンキングにより人々が自分でも気づかなかったニーズを発見、理解していくことができるようになって、それを基にして製品またはサービスを作るプロセスを体験したところは面白いです。</li> <li>●違う視野から課題を見直すことにより、今までの固有な考え方を越え、たくさんインサイトされる授業で満足しています。</li> <li>●教室の大きさもとても良くて、限られている空間で、よりいい雰囲気（話しやすいとか）が生み出されます。人数もちょうどいいくらいで、各位が意見交換できるぐらいの時間です。</li> </ul>



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)MAN691J	ブランド価値経営	2	1・2年	日本語	首藤明敏					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○				○	○	
授業の概要・到達目標										
<p>現代の企業経営における競争力の源泉として、ブランド価値の重要性は高まるばかりである。特に、成熟化・デジタル化・グローバル化が進行する市場において、企業が生き残りを図る上で、ブランドをいかに戦略的に経営の中に位置づけ、その価値を上げていくかが求められる。授業では、ミニケース、ゲスト講義、演習等を交えながら、実際のブランド経営課題解決の立場に立った時に有効な知識や思考方法の習得を目指す。</p> <p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブランド価値を基軸とした経営の考え方や基礎的な知識が身につく。</li> <li>・実際のブランド経営課題解決の立場に立った時に有効な思考方法を習得できる。</li> <li>・ゲスト講義を通じて、ブランド経営に関わる実務の現実を理解し、実務家とのネットワークを形成できる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	企業経営におけるブランド価値の重要性と役割を理解する								
2	ブランドマネジメント概論	ブランドマネジメントの方法論を概観する								
3	ブランド共創価値の規定	ブランドマネジメントの中核となる、ブランド共創価値とは何かを理解する								
4	ブランド価値規定演習	ブランド共創価値の規定を実際行い、発表する(演習)								
5	エクスターナルコミュニケーション(演習)	顧客を中心とした様々なステークホルダーと企業とのコミュニケーションのあり方を理解する								
6	インターナルコミュニケーション	組織内部におけるコミュニケーション活動のあり方を理解する								
7	ブランド構築とファンマーケティング	よなよなエールのブランドマネジメントから学ぶ(ゲスト講義: ヤッホーブルーイング マーケティングディレクター 稲垣聡氏)								
8	顧客体験のブランドマネジメント	サービス等顧客体験におけるブランドマネジメントのあり方を理解する								
9	・ビジュアルアイデンティティ管理 ・ブランド体系管理	・企業経営におけるデザインやクリエイティブの役割と力を理解する ・複数のブランドのポートフォリオ管理の意味合いと方法論を理解する(ミニケース)								
10	BtoBのブランドマネジメント	BtoBにおけるブランドマネジメントのあり方を理解する								
11	企業グループのブランドマネジメント	東急グループのブランド再生から学ぶ(ゲスト講義: 元東急ブランドマネジメント主幹 湯野憲太郎氏)								
12	パーパス経営とブランドマネジメント	ブランドの社会的存在意義やパーパス経営との関連性を理解する								
13	ブランド価値の法的管理	商標・著作権・特許等、ブランド価値に対する法的対応のあり方を理解する(ゲスト講義: 野本桐山国際特許事務所 桐山弁理士)								
14	ブランドリスクのマネジメント	ブランド価値棄損のリスクとその対処方法を理解する								
15	まとめ	これまでの講義を振り返り、ブランドマネジメントの実務的課題などを共有する								
履修上の注意点										
会社、事業、商品、サービス、組織あるいは自分自身に関して、講義を通じて、ブランド価値を高める実践の機会を見つけるようにしてほしい。										

準備学習(予習・復習等)の内容
<p>事前学習は不要。授業の後に、簡単な事後レポート(A4 1枚以内)を提出する回がある。</p> <p>最終的に、個々の事後レポートをパーツとして活用し、自社もしくは担当事業のブランド戦略についての総合レポートを提出する。</p> <p>担当事業が特定できない場合は、問題意識を持つ対象ブランドを1つ設定し、提出する。</p> <p>ブランディングの課題、ブランド基本戦略(ブランドターゲット、共創価値及び約束)、ビジュアルアイデンティティ、ブランド体系、インターナルコミュニケーション、エクスターナルコミュニケーション、評価管理のあり方、マーケティング Mix (4P)への落とし込みなどをまとめ、A4横書き Word形式で5枚以内で提出する。図表挿入可、表紙不要。</p>
教科書
レジュメを適宜配布するため、教科書は特に指定しない。
参考書
『図解ブランドマネジメント(新版)』 博報堂ブランドコンサルティング著(日本能率協会マネジメントセンター) 2009年
課題に対するフィードバックの方法
最終レポートに対するフィードバックを Oh-oi Meijiにて行う。
成績評価の方法
授業への参加度 30%、クラスディスカッション等授業への貢献度 30%、レポート 40%
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM611J	マーケティング・コミュニケーション	2	1・2年	日本語	首藤明敏					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
		○	○	○					○	
授業の概要・到達目標										
<p>現代はマーケティングの激変期にある。デジタルトランスフォーメーションによって、メディア環境は新たな局面を迎え、マスメディアが主体であった時代とは、大きく異なるコミュニケーション戦略が必要になっている。さらに、新型コロナ禍がそのような変化を一気に加速している。そして、そのような時代環境においては、大手消費財企業だけでなく、スタートアップビジネスや中小ファミリービジネス、BtoBビジネスなどにおいても、マーケティングの様々な可能性が広がりつつある。</p> <p>本授業ではマーケティングの各領域におけるプロフェッショナルをゲスト講師として招き、コミュニケーション領域に限らず、最新のマーケティング状況を実務的観点から徹底理解を図る。</p> <p>【到達目標（Course ILO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを中心にマーケティングの最新動向が把握できる。</li> <li>・マーケティングに関する様々な理論や主張を評価、取捨選択する能力を向上させることができる。</li> <li>・ゲスト講義を通じて、マーケティングに関わる実務の現実を理解し、実務家とのネットワークを形成できる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	授業目的と授業概要の共有								
2	マーケティング・コミュニケーションの全体像									
3	メディア環境と生活者行動	博報堂 DY メディアパートナーズ メディア環境研究所 首席研究員 新美妙子氏								
4	エクスペリエンスデザイン	デライトデザイン 代表 朝岡崇史氏								
5	ブランドコミュニケーション～レクサスのブランドマネジメント	A.T. Marketing Solution 代表（元レクサスブランドマネジメント部長）高田敦史氏								
6	顧客と繋がる場（チャンネル）のシフト	顧客時間 共同 CEO 岩井琢磨氏、奥谷孝司氏								
7	統合マーケティングコミュニケーション	インテグレート CEO 藤田康人氏								
8	ゲスト講義振り返りグループ発表①									
9	情報探索型マーケティング	グーグル 代理店パートナーシップ ストラテジー&インサイトマネージャー 朝倉祐貴氏								
10	Web3 とメタバース	FiNANCiE、Thirdverse 代表取締役 CEO 國光宏尚氏								
11	ビジネスとクリエイティブ	電通 BXCC 事業開発プロデューサー アーロン・ズー氏								
12	オンラインコミュニケーション	クオン 代表取締役 武田隆氏								
13	デジタルクリエイティブ	777 Creative Strategies 代表取締役 福田敏也氏								
14	ゲスト講義振り返りグループ発表②+最終まとめ									
履修上の注意点										
<p>マーケティング基礎論と当科目を対で受講することで、基礎から最新までのマーケティングの全体像が把握可能となる。</p> <p>各領域のマーケティングプロフェッショナルとの人的ネットワーク形成にも有効である。</p> <p>ゲスト講義のテーマや順番は状況によって適宜変更する。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>ゲスト講義振り返りの担当を事前に割り振り、中間時・最終時に個人もしくはグループで発表を行う。事後に発表レポート（パワーポイント形式）をブラッシュアップして提出する。</p> <p>授業終了後に、全体の振り返りと学んだ点を個人レポートとして提出する。（A4 1枚以内）</p>										
教科書										
都度資料を配布するため、教科書は特に指定しない。										

参考書
『エクスペリエンス・ドリブンのマーケティング』 朝岡崇史（ファーストプレス）2014
『45歳の壁 55歳の谷 自分らしく勝つ！サラリーマンのための6つのシナリオ』 高田敦史（Kindle版）2023
『マーケティングの新しい基本』 奥谷孝司、岩井琢磨（日経BP社）2022
『メタバースとWeb3』 國光宏尚（エムディエヌコーポレーション）2022
『OODA式リーダーシップ-世界が認めた最強ドクトリン』 アーロン・ズー（クロスメディア・パブリッシング）2023
『ウェルビーイングビジネスの教科書』 藤田康人（アスコム）2022
『ソーシャルメディア進化論』 武田隆（ダイヤモンド社）2011
『科学者じゃない僕たちは 想像力と妄想力と企画力とデザイン力で世界の未来と関わっていく』 福田俊也（Kindle版）2023
課題に対するフィードバックの方法
ゲスト講義振り返りグループ発表①②ごとに、授業内で、受講生同士の相互フィードバック、講師による全体フィードバックを行う
成績評価の方法
授業への参加度及び事後個人レポート 30%、ディスカッション等授業への貢献度 30%、ゲスト講義振り返り発表及びレポート内容 40%
その他



科目ナンバ	授業科目名		単位数	配当年次	使用言語	担当教員				
(GB)CMM611J	ビジネス・マーケティング		2	1・2年	日本語	中麻弥美				
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
	○		○							
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業の概要】</b>          ここでいうビジネス・マーケティングは産業財企業のマーケティングを指し、その実践に重きを置きつつ、ビジネス（事業者）特有の複雑かつ現実的な課題を扱うものである。一般にマーケティング論は消費財の市場を中心に展開されてきたが、産業財分野においても重要な示唆を与える諸理論を有している。ここでは、産業財マーケティングの特徴にも触れつつ、実践的な市場適応戦略の策定についての理論と技法を身につけることを目的とする。具体的には、どの市場にどのように資源を配分すべきかを明らかにし、各々の市場において与えられた資源をどのように活用してどのような顧客に適合していくか等、ケースを通じてこれらを学んでいく。</p> <p>なお、今後注目されるデジタルトランスフォーメーションや環境問題はビジネスに大きな変革をもたらすため、これらも考慮に入れつつ、議論を進めていきたい。</p> <p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業財マーケティングの理論と技法を身につけることができる。</li> <li>新市場開発や新製品開発のための戦略的な視点を養える。</li> <li>営業についての役割を明確にし、その実践的理論を身につけることができる</li> <li>産業財における今後のビジネスの方向性を理解することができる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	マーケティングの理論と発展	マーケティングの考え方が歴史的にどのように発展してきたか、またそれが産業財の事業にどのような影響を与えてきたかについて論じる。								
2	財と市場	財の種類と市場の類型化及び産業財の位置づけ等について論じる。								
3	産業財マーケティングの特質	産業財市場の種類と特質、これに対応する産業財マーケティングの性格を明らかにし、消費財マーケティングとの違いについて学ぶ。								
4	経営資源分析	産業財市場に適合するコア・コンピタンス構築のための経営資源分析と経験曲線及び PPM を活用した資源配分について論じる。								
5	市場細分化とブランド戦略	産業財における市場細分化の STP 理論を明らかにし、ブランド戦略がどのように展開されているのかを論じる。								
6	マーケティング・ミックス	4P と 4C を踏まえて、産業財のマーケティングミックスについて学ぶ。								
7	競争戦略	市場における競争地位とその戦略類型について学ぶ。								
8	技術開発とマーケティング	技術開発とマーケティングとの関係について論じる。								
9	サプライチェーン	産業財市場での価値の創造と効率化を目指すサプライチェーンについて学ぶ。								
10	マーケティング・コミュニケーション	産業財における関係性マーケティングの重要性と営業の役割について論じる。								
11	情報戦略	AI、IoT、ビッグデータの活用によって産業財マーケティングがどのように変革され、企業戦略に影響するかを明らかにする。								
12	創発マーケティング	創発を生み出す仕組みとそのケーススタディについて学ぶ。								
13	企業と環境問題	持続可能な社会を目指して要請される地球環境問題への対応と企業戦略について学ぶ。								
14	まとめとケーススタディ	産業財マーケティングのまとめとケーススタディによるディスカッション。								
15	試験と解説									
履修上の注意点										
ビジネスの実践的な問題解決を扱うため、積極的な議論への参加が求められる。なお、シラバス記載の授業内容は、受講者のビジネス経験や学習効果等を考慮に入れ、順序や内容が変更されることもある点に留意いただきたい。										

準備学習（予習・復習等）の内容
講義資料及び参考書を予習や復習で熟読することを薦める。 また、ケーススタディについては資料を事前に読み、ディスカッションに備えて欲しい。
教科書
講義資料あり、教科書の指定なし。
参考書
『マーケティング戦略論』上原征彦（1999）有斐閣 『戦略的産業財マーケティング』笠原英一（2018）東洋経済新聞社
課題に対するフィードバックの方法
課題に対するフィードバックは授業中に説明を行なう。また、最終授業日に試験を実施し、同日中に解説の時間を設ける。
成績評価の方法
(1) 課題・発表（20%） (2) 授業への貢献度（30%） (3) 定期試験（50%） なお、授業中の発言や発表への貢献度により加点する場合がある。
その他
講義資料は授業前までに Oh-o! Meiji にアップロードする。

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM641J	流通マネジメント (ファミリービジネス)	2	1・2年	日本語	橋本雅隆					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○		○	○		○	○	○	○	
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業の概要】</b> 本講義は、ミクロの流通ビジネスにおける事業システムとマネジメントの原理について論じる。小売業や卸売業などの中核的な流通機能におけるビジネス・モデルを論じたいうえて、さらに、生産者や消費者を含む広範な流通機能の変化を視野に入れ、パワー論的な視点からビジネス・エコシステム等の流通チャネル・アーキテクチャ設計の視点へと先進的な視点への転換を図ることを主眼に置いている。一貫しているのは、流通にかかわるビジネスの当事者が、主体的に事業の立ち上げと裏付けとなる事業システムの設計を行う事業デザイナーの視点である。戦略から実務的な側面まで、極力、広範に論じる。</p> <p><b>【到達目標】</b> 変遷する流通環境に対応するために、新たな流通事業を企画し、実現するための戦略を立案できるようになる。</p> <p><b>【授業形態】</b> 本授業は基本的にメディア授業（リアルタイム）で行う。 対面（ハイブリッド）で行う場合には事前に受講者に連絡する。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	本講義の目的、概要等について説明する。本講義の受講上の注意を行う。また、受講者の受講動機や期待する内容について聴取し、極力、授業内容に反映させる。								
2	小売業の事業システム	小売業の業種と業態、小売サービス、調達、マーチャライジング、チェーンオペレーション等の事業システムの枠組みについて説明する。特に、顧客価値と投資利益の同時達成を実現する仕組みについて論じる。								
3	チェーンストアの原理	チェーンストアの原理とローコスト・オペレーションの仕組みについて、その発展の歴史を概観する。特に、生産部門との相互進化について論じる。								
4	マーチャライジング	小売業におけるマーチャライジングの実務について体系的に説明する。また、棚管理、PI値やマージンミックス、価格戦略などについても説明する。								
5	小売業態開発期（1）	百貨店、スーパーマーケット業態の事業システムと成立過程および近年の問題点について論じる。								
6	小売業態開発期（2）	コンビニエンスストア、通信販売の事業システムと成立過程および近年の問題点について論じる。								
7	小売業の進化の方向性	SPA やオムニチャネルなど進化した小売業の事業システムとその発展の方向性について論じる。								
8	卸売業の事業システム	卸売業の基本機能と業態化について説明したうえで、卸売業の事業システムと戦略について述べる。								
9	中間流通機能	卸売機能の拡張と小売業および生産者との新たな関係性について、特に中間流通論の視点から考察する。								
10	生産者と流通戦略（1）	生産者（メーカー）の流通チャネル戦略の制度と管理運営体系について整理し、その問題点を明らかにする。								
11	生産者と流通戦略（2）	生産者（メーカー）と流通の新たな関係性について、統制的管理からアライアンス、統合などの新たな関係性について論じる。								
12	流通情報とビジネス	流通情報システムの発展と流通の進化について論じる。特に、製配販連携とサプライチェーンマネジメントについても言及する。								

13	消費者と生産・流通の協働価値の創造	ICTの進化により、消費者・使用者と生産・流通部門による協働価値の創造が進行しつつある。新たなイノベーションの創出過程とその企業システムへの取り込みについて論じる。
14	プラットフォームビジネス	プラットフォーム・ビジネスは流通ビジネス・エコシステムとして発展する可能性が高まっている。二面市場の価格戦略等を含め、新たな流通ビジネスの戦略についても論じる。
15	課題について発表し、評価する。	
履修上の注意点		
流通論を履修していることが望ましい。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
学生は、受講に当たって参考書を読み、事前に学習しておくことを求める。		
教科書		
基本的には、担当教員から配布される資料に基づいて授業を行う。		
参考書		
適宜指定する。		
課題に対するフィードバックの方法		
アサイメントに対しては、提出物についてコメントを付けて本人に返し、本人の振り返りに資するとともに、関連する質問を受ける。 授業中の発表に対しては適宜コメントを行い、さらなる学習の機会を提供する。		
成績評価の方法		
(1) 課題の達成度（70%） (2) その他、授業中の発言など貢献度（30%） をおおよその目安とする。		
その他		
授業には積極的な姿勢で参画し、自ら考えて発言することを期待する。		

科目ナンバ	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)CMM611J	データドリブンマーケティング					2	1・2年	日本語	山之口 援		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
		○				○			○		
授業の概要・到達目標											
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル社会におけるマーケティングの基本機能を理解する。</li> <li>マーケティングにおける、データ、システム活用の基本的な知識を習得し、適用できるようになる。</li> <li>新規事業開発、事業成長を実現するための、データ活用手法をオンライン/オフラインで協業検討実行できるようになる。</li> </ul> <p><b>【授業の概要】</b></p> <p>インターネットの進展に伴い、デジタルマーケティング（ウェブサイト、モバイルアプリ、システムアプリケーション、ネット広告、ソーシャルメディア等を活用したマーケティングコミュニケーション活動）の強化とともに、マーケティングのデジタル化（デジタル技術を活用したマーケティングマネジメント刷新）が経営課題となっている。マーケティングのデジタル化は、「デジタルトランスフォーメーション」の一部として、マーケティング関連データ活用を通じ、従来のブランドマネジメントとデジタルマーケティングを融合する活動である。消費者の購買行動、企業の競争優位性の変化、新規技術の適用領域拡大を通じ、今後より一層の進化が予測されている。本講義では、マーケティング関連データ、特に顧客データをキーにしたマーケティング活動、「データドリブンマーケティング」の実例を補助線として、現在進行中のマーケティング機能の変容を解説し、デジタル時代のマーケティングマネジメントのメカニズム把握を目指す。</p>											
授業内容											
週	テーマ	内容									
1.	データドリブンマーケティングとは何か？	デジタル化の進展に伴う、マーケティング活動変化の潮流を概説する。 ※対面授業（ハイブリッド）									
2.	データを強みとするビジネスモデルの特徴	データを活用することによる事業の優位性を理解する。 ※対面授業（ハイブリッド）									
3.	マーケティング活動進化の概要	従来型マーケティングとデジタル時代のマーケティングの違いを学ぶ。 ※対面授業（ハイブリッド）									
4.	マーケティングワークショップ①	マーケティングを自分ごととして考えるための課題を設定し共有する。 ※対面授業（ハイブリッド）									
5.	マーケティング関連データの特徴	流通業におけるデータ活用からマーケティング関連データの特徴を理解する。 ※メディア授業（リアルタイム型）									
6.	デジタルプロモーションの概要	デジタル広告の概要とデータ活用の方法を理解する。 ※メディア授業（リアルタイム型）									
7.	マーケティングKPIとデータ分析の基本	マーケティングにおけるデータマネジメントの基本を理解する。 ※メディア授業（リアルタイム型）									
8.	データを使ったマーケティングの実務	データを活用したマーケティング効率化の方法を理解する。 ※対面授業（ハイブリッド）									
9.	マーケティングワークショップ②	カスタマージャーニー設計プロセスを体験する。 ※対面授業（ハイブリッド）									
10.	データドリブンマーケティングプロセスの設計	データを活用した営業、マーケティング、カスタマーサービスの業務最適化を学ぶ。 ※メディア授業（リアルタイム型）									
11.	マーケティングシステムの概要	マーケティングデータを利用する仕組みとツールを理解する。 ※メディア授業（リアルタイム型）									
12.	データドリブンサービスの企画と設計	事業アイデアをデータの活用で成長させる考え方を理解する。 ※メディア授業（リアルタイム型）									
13.	マーケティングワークショップ③	データドリブンマーケティング計画の検討プロセスを体験する。 ※対面授業（ハイブリッド）									

14.	これからのマーケティング環境	XRなどの新しいコミュニケーション技術がマーケティングに与える影響、技術テーマについて解説する。 ※メディア授業（リアルタイム型）
15.	マーケティングマネジメント強化に向けて	デジタル化の進展のなかで、マーケティングが担うこれからの役割、業務についてとりまとめる。 ※対面授業（ハイブリッド）
履修上の注意点		
デジタル、マーケティングの実務経験等は問わない。専門性の高いテーマについては、必要に応じ、実務者を招聘し、授業内でプレゼン・討議をする講義形式を想定する。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
生活者として自らの購買行動における、情報収集・購買経験・ブランド態度などの意思決定プロセスについて、注目する事例を選び、現在進行形のマーケティング活動を理解するための事前学習とする。		
教科書		
各講義内容の全体像を理解しやすいよう、各講義のレジュメ、投影資料の区切りでのまとめ共有を準備する。		
参考書		
「コトラーのマーケティング5.0 デジタル・テクノロジー時代の革新戦略」 フィリップ・コトラー著/ヘルマン・カルタジャヤ著/イワン・セティアワン著（朝日新聞出版）		
課題に対するフィードバックの方法		
発表課題については授業内口頭でのフィードバック、提出課題についてはメールでの総評もしくは個別コメントの対応を行う。		
成績評価の方法		
授業への貢献度、受講態度 50%、課題レポート 50%		
その他		

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM641J	ロジスティクス論	2	1・2年	日本語	橋本雅隆					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○							
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業の概要】</b></p> <p>ロジスティクスは、ミクロとマクロの視点から捉えることができるが、本講義では主としてミクロの視点、すなわち企業経営の立場から論じる。ミクロのロジスティクス・マネジメントは、物流の拡張概念であるとする流れと、「物事（事象）に向けた準備」の概念であるとする流れがある。前者の流れのロジスティクス概念は、現在ではサプライチェーン・マネジメント（SCM）の一部であるとされている。また、後者の流れのロジスティクス概念は、ライフサイクル・サポートとしてシステムの開発、運用、保全、廃棄、再利用に至るシステム支援のプロセス体系として確立されている。両者に共通する内容は、ある経営目標に向けての一連の活動プロセスに対するマネジメントの理論・体系とその仕組み（システム）であるという点である。本講義では、これらの両者を統合する拡張ロジスティクス論の立場から講義する。従来の経営学では、主として戦略と組織がその対象になってきた。</p> <p>ロジスティクス論では、顧客価値の提供を実現する一連の活動とそれを実現する仕組み（これを事業システムという）自体を中心にすえ、これをロジスティクス・プロセスと見る。</p> <p>ロジスティクス・プロセスには、事業（製品）の企画・開発、設計、生産準備、運用・保全、廃棄・再利用といった事業ライフサイクルサポート・プロセスと、原材料・部品の調達、生産、販売、物流、リバース・ロジスティクスといった SCM のプロセスの2つの軸から成る。このプロセス・アーキテクチャ、戦略にもとづく製品・サービスアーキテクチャ、組織アーキテクチャを統合した事業システム構造全体からロジスティクスの役割について考える。事業システムは、提供される顧客価値と競争優位性、投資採算性の確保、事業環境変化への対応の視点から評価される。</p> <p>授業においては、事例の検討を通じて、事業システム設計の基本について理解することを目標とする。まず、物流、ロジスティクス、SCM に関する基礎的知識を習得させ、ロジスティクスに関する主要理論について理解させる。次に、事例を用いた参加型の授業によって意欲と関心を高める。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>講義と演習を通じてロジスティクスに関する思考・判断の能力を高め、事業システム設計の基礎的能力を高める。</p> <p><b>【授業形態】</b></p> <p>本授業は、基本的にはメディア授業（リアルタイム配信）で行う。対面授業で行う場合には、事前に受講者に連絡する。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	本講義の趣旨、達成目標、履修にあたっての注意事項等を説明する。また、受講希望者の受講動機や期待事項等を聴取し、極力、講義内容に反映させる。								
2	ロジスティクス概念とその枠組み	ロジスティクスの2つの概念と定義およびロジスティクスの経営における位置づけとその意義を理解させる。特に、規模・範囲・ネットワーク・スピードの経済性と戦略および組織・市場との関係を理解させる。								
3	物流とロジスティクスの理論 (1)	物流概念の生成について説明し、標準化と活動の統合最適化が物流の基本概念であることを説明する。さらに、マクロとミクロの物流概念についても説明する。								
4	物流とロジスティクスの理論 (2)	ミクロの物流における諸活動（輸送、保管、荷役、包装、流通加工、物流情報処理）について説明する。また、物流ネットワーク概念について説明する。								
5	物流とロジスティクスの理論 (3)	物流サービスと物流の効果性、物流コストと物流効率化、物流組織、流通と在庫管理、取引制度と物流ネットワークの発展について事例を交えて説明し、流通と物流の進化について考察させる。								
6	ロジスティクス・マネジメントの基礎理論 (1)	企業における基幹業務プロセスについて説明する。特定の顧客提供価値を想定してこれを実現する基幹業務プロセスの構築について、演習を交えて習得する。								

7	ロジスティクス・マネジメントの基礎理論 (2)	ロジスティクス・マネジメントと在庫について理論的な側面について理解させる。特に、在庫の削減手法について理論と手法の結びつきについて理解させる。
8	ロジスティクス・マネジメントの基礎理論 (3)	ロジスティクス・プロセスとリードタイム及び在庫の関係を動的に取り扱うモデルを提示する。これを用いて、ロジスティクスの動的なマネジメントとロジスティクス・プロセス構造設計の基本について説明する。
9	サプライチェーン・マネジメントの理論 (1)	サプライチェーン・マネジメント（SCM）の定義と基本概念について説明する。特に、企業間をまたがるシームレスなプロセスの形成と企業間関係（戦略的提携）について説明する。
10	サプライチェーン・マネジメントの理論 (2)	SCM における企業間の動的な在庫マネジメントに関する理論を説明し、演習としてシミュレーションを行い、理論に対する理解の深化と具体的な手法とを結びつけて理解することを促す。
11	ライフサイクル・サポート・ロジスティクス	大規模システムなどのライフサイクル・サポート・ロジスティクスの体系を示し、開発、運用、保全、廃棄、再利用に至るシステム支援のプロセスと SCM プロセスの統合概念について理解させる。
12	事業システムと企業戦略の関係 (1)	企業の戦略的ポジショニングと製品・サービスアーキテクチャ、顧客提供価値を実現するプロセスアーキテクチャ、経営資源・組織アーキテクチャを統合する事業システムの概念について説明する。
13	事業システムと企業戦略の関係 (2)	SCM 戦略は、事業システム全体のアーキテクチャとの整合性が確保されない限り、競争優位性の源泉とはなりえない。事例を通じて競争優位な事業システムとロジスティクス（SCM）について考察させる。
14	事業システムと企業戦略の関係 (3)	ビジネスのグローバル化に伴い、SCM もグローバル化が急務となっている。グローバル SCM に固有の問題点を指摘し、対応策について討議し、全体のまとめを行う。
15	課題について発表し、評価する。	
履修上の注意点		
履修に当たっては、経営戦略論、マーケティング論、財務・会計の基礎について理解していることが望ましい。物流・ロジスティクスに関する基礎的知識は参考書・レジュメによって補うことがある。事例分析やシミュレーションなどで小グループの演習形式を併用する場合がある。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
教科書を目を通しておくこと。		
教科書		
中田信哉・橋本雅隆編著『ロジスティクス概論』実教出版		
参考書		
中田信哉・湯浅和夫・橋本雅隆・長峰太郎『現代物流システム論』有斐閣ほか。		
課題に対するフィードバックの方法		
アサイメントに対しては、提出物についてコメントを付けて本人に返し、本人の振り返りに資するとともに、関連する質問を受ける。授業中の発表に対しては適宜コメントを行い、さらなる学習の機会を提供する。		
成績評価の方法		
(1) 課題発表 (40%) (2) 最終レポート成績点 (30%) (3) 授業中の議論への参加度 (30%)		
その他		
特になし。		



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM641J	流通論	2	1・2年	日本語	橋本雅隆					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○						
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業の概要】</b>  流通は生産と消費を架橋する社会的な制度である。本講義では、商業の基本および流通の原理と流通の変遷および流通活動の実際について論じる。流通を理解するための基礎的知識として、商業の概念とその実務的側面を論じた上で、マクロの流通について説明する。流通論に関する理論的な側面として、パワー・コンフリクト論や新制度派アプローチ（取引費用論、ケイパビリティ論、アーキテクチャ論等を含む）について概観する。また、流通システムを機能と構造の側面から評価し、流通の変遷をもたらす社会と産業の諸要因についても論じる。特に、情報化とグローバル化が流通に与える影響に着目する。さらに、人口構造や消費者行動の変化によって流通がどのような姿になるのか議論する。講義の編成としては、商業の概念と基礎、マクロの流通概念、流通論の原理、社会・産業と流通の変遷からなる。</p> <p><b>【到達目標】</b>  流通の原理について理解し、効果的な流通戦略を立案できるようにする。</p> <p><b>【授業形態】</b>  本授業は基本的にメディア事業（リアルタイム配信）で実施する。対面（ハイブリッド）で行う回を設定する場合には事前に連絡する。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	本講義の目的、概要等について説明する。本講義の受講上の注意を行う。また、受講者の受講動機や期待する内容について聴取し、極力、授業内容に反映させる。								
2	商業の概念	商業の基本が交換価値の創出にあることを論じ、交換形態の発展について論じる。貨幣、市場、商人の発生とその本質が交換ネットワークの形成にあることを説明する。近年の交換形態の進化についても言及する。								
3	商業と契約	商業の実務的な側面について論じる。まず、売買契約の法的側面について論じ、売買契約の内容と問題点について説明する。								
4	流通の社会的な役割	生産と消費の懸隔を架橋する社会的制度としての流通の役割と、最少総取引数の原理、不確実性プールの原理などの流通の存在意義を説明する諸原理について説明する。								
5	流通システムの視座	流通制度を社会的なシステムとして捉え、分析する視座について論じる。流通の機能的側面と構造的側面からの評価について説明し、流通の姿をどのように捉えるかについて議論する。								
6	流通機能	流通システムの機能的側面について説明し、個別流通機能の合成と具体的な流通活動への展開について論じる。								
7	流通構造	流通機関と流通構造について説明し、我が国の流通構造について商業統計表のデータなどを用いてその特徴と変化の方向性について概観する。								
8	流通チャネル論における諸理論（1）	流通チャネル論における理論として、チャネル交渉論、パワー・コンフリクト論について取り上げ、それらの理論が成立した背景や理論の枠組み、問題点などを含めて論じる。								
9	流通チャネル論における諸理論（2）	流通チャネル論における新制度派アプローチについて概観し、取引費用論、所有権理論、ケイパビリティ論について説明する。								
10	流通チャネル論における諸理論（3）	流通チャネル論におけるアーキテクチャ論について概観し、組織や組織間システム、境界の概念を説明し、オープン型、クローズド型、モジュラー型、インテグラル型等のシステム類型についても説明する。								
11	流通と情報化	近年のICTの発展が流通に及ぼす影響について概観し、今後の方向性について説明する。								

12	流通のグローバル化	産業のグローバル化と流通に及ぼす影響ならびに流通自体のグローバル化の潮流について具体的な事例を交えて説明する。
13	生活者の変化と流通	社会の少子高齢化と産業の変化がもたらす生活者の姿の変容を概観し、流通に及ぼす影響について考察する。
14	流通と地域社会	地方の過疎化と疲弊、都市の変化がもたらす諸問題に対して、流通が地域の活性化に向けて果たすべき役割について説明し、受講者の思考を促す。
15	受講者が学習事項についての理解度を確認するために、課題を与え、発表等によって評価する。	
履修上の注意点		
受講者は流通マネジメント（ファミリービジネス）とあわせて履修することが望ましい。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
学生は、受講に当たって参考書を読み、事前に学習しておくことが望ましい。		
教科書		
基本的には、担当教員から配布される資料に基づいて授業を行う。		
参考書		
1. 中田信哉・橋本雅隆編著（2006）『基本流通論』実教出版 2. 渡辺達朗・久保知一・原頼利編（2011）『流通チャネル論』有斐閣		
課題に対するフィードバックの方法		
アサイメントに対しては、提出物についてコメントを付けて本人に返し、本人の振り返りに資するとともに、関連する質問を受ける。 授業中の発表に対しては適宜コメントを行い、さらなる学習の機会を提供する。		
成績評価の方法		
(1) 課題の達成度（70%） (2) その他、授業中の発言など貢献度（30%）をおおよその目安とする		
その他		

科目ナンバー	授業科目名		単位数	配当年次	使用言語	担当教員				
(GB)MAN621J	サプライチェーン・マネジメント		2	1・2年	日本語	橋本雅隆				
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○						
授業の概要・到達目標										
<p><b>【授業の概要】</b>            サプライチェーンは企業間をまたがる業務の連鎖プロセスを指す。業務プロセスは、企画・開発・設計・生産準備・構築・使用・保全・廃棄・回収・再利用といったライフサイクル・サポートのプロセスと、調達・生産・販売・物流・返品・(代金回収)といった基幹業務プロセスからなる。サプライチェーン・マネジメント (SCM) とは、この企業間をまたがる業務プロセス全体を視野に入れたマネジメントのことである。この2つのプロセスを統合した全体プロセスを設計・構築・運用・改善することがSCMの主たる内容である。個別企業のマネジメントとは異なり、企業間の調整と連携を基盤として全体の業務プロセスを望ましい方向へと革新・改善を行う必要がある。本講義では、ロジスティクス論を履修していることが前提となる。</p> <p><b>【到達目標】</b>            サプライチェーン・マネジメントに関する理論を習得し、サプライチェーン・マネジメントの戦略を立案することができる。</p> <p><b>【授業形態】</b>            本授業は基本的にメディア授業（リアルタイム）で行う。対面で行う場合には事前に受講者に連絡する。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	本講義の趣旨、達成目標、履修にあたっての注意事項等を説明する。また、受講希望者の受講動機や期待事項等を聴取し、極力、講義内容に反映させる。								
2	SCMの概念・背景と定義	SCMに関する基本的な概念とそれが成立した背景、SCMの定義、経営におけるSCM導入の意義や問題点等について説明する。								
3	サプライチェーン・ネットワーク概念	サプライチェーンの基盤となる拠点ネットワークと業務ネットワークの概念について論じる。								
4	在庫理論とSCM (1)	ロジスティクス論で学んだ在庫理論を基礎として、企業間の業務連携に起因する在庫問題を取り上げる。								
5	在庫理論とSCM (2)	VMI、CPFRなど、SCMにおける在庫マネジメントの手法について説明する。また、マーケティングと在庫の関係についても論じる。								
6	SCMのダイナミズム (1)	サプライチェーンの中核となるビジネスプロセスの構造化要因と、ビジネスモデルの関係について論じる。								
7	SCMのダイナミズム (2)	SCMの概念は、市場の変化に応じて多様なプレーヤーが機能補完を行いながら複雑に協働するネットワークの形態へと進化している。								
8	製造業を中心としたSCM (1)	一般消費財や耐久消費財の製造業を中心としたSCMについて、事例を用いて論じる。								
9	製造業を中心としたSCM (2)	大型の装置型産業におけるライフサイクル・サポート・ロジスティクスとSCMの関係について論じる。								
10	流通業を中心としたSCM (1)	流通業におけるストアフォーマットとSCMの関係を構造的に論じる。また、国内外の事例について検討する。								
11	流通業を中心としたSCM (2)	アパレル、食品などの流通業の事例を取り上げ、川下起点のSCMについて論じる。								
12	SCMと3PL (1)	3PLの概念を整理し、SCMにおける3PLの役割について論じる。特に、3PLのビジネスモデルについて整理する。								
13	SCMと3PL (2)	3PLの事例を紹介し、3PLの高度化について論じる。グローバルSCMの事例と本講義のまとめを行う。								
14	演習課題を提示・説明し、グループ分けし、グループ内のディスカッションを行う。									
15	演習課題について発表し、評価する。									

履修上の注意点
数回の課題提出および発表を課す。ロジスティクス論を履修していることが望ましい。
準備学習（予習・復習等）の内容
事前に Oh-o! Meiji にアップされた資料に目を通しておくこと。
教科書
中田信哉・橋本雅隆編著『ロジスティクス概論』実教出版
参考書
中田信哉・橋本雅隆・湯浅和夫・長峰太郎著『現代物流システム論』有斐閣
課題に対するフィードバックの方法
アサイメントに対しては、提出物についてコメントを付けて本人に返し、本人の振り返りに資するとともに、関連する質問を受ける。 授業中の発表に対しては適宜コメントを行い、さらなる学習の機会を提供する。
成績評価の方法
レポート点 (20%)、発言点 (30%)、課題発表点 (50%) とする。
その他
特になし。



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM616J	マーケティング・リサーチ (M)	2	1・2年	日本語	戸谷圭子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
								○	○	
授業の概要・到達目標										
本講義は現実に行われるマーケティング・リサーチのプロセスを実際に体験することでマーケティング・リサーチの実践力を養うことを目指す。本年度のテーマは、ある企業や製品・サービスについて、現在の顧客ロイヤルティ形成の促進・阻害要因とその影響の強さを明らかにすることとする。理論の理解と同時に、上記リサーチ課題について、実務に準じた一連のワーキングをグループで行うものとする。実践的な講義となるため、十分なコミットと集中力が必要となる。										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	講義の進め方の説明。目的によるリサーチ手法の使い分けを学ぶ。								
2	マーケティング・リサーチとは	マーケティング・リサーチの種類と特徴を理解する。								
3	リサーチ目的	戦略目標からリサーチ目的へのブレイクダウンの考え方について学ぶ。								
4	グループテーマ設定	グループ分けに従い、2次情報などから各グループでのリサーチテーマを決定する。								
5	定性調査	複数の定性調査方法の特徴を学び、使い分けを理解する。								
6	実習：定性調査	実習：定性調査方法のひとつ、ラダリング・カスタマージャーニーなどを実習する。								
7	定量調査	定量調査の特徴と使い分け、サンプリング方法などを理解する。								
8	実習：調査設計	実習：実際の定量調査票を利用して、問題点・改善点などを学ぶ。								
9	定量調査票と分析方法	定量調査票の作成上の注意点と、適切な仮説検証手法を学ぶ。								
10	実習：調査票作成	実習：テーマに沿って検証すべき仮説を特定し、定量調査票作成を行う。								
11	実習：調査票リバイス	実習：マニピュレーションチェックにより作成した調査票をリバイスする。								
12	実習：実査	実習：定量調査の実査を行う。								
13	結果の発表	グループの調査結果を発表する。								
14	結果の発表	グループの調査結果を発表する。								
履修上の注意点										
グループワーク（講義時間外の課外活動が必須）に参加可能であること。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
マーケティング基礎論を履修済みであること、または同等の知識を有することが望ましい。										
教科書										
『アンケート調査の進め方』（2012）日経文庫 酒井隆										
参考書										
『調査の実際』（2001）・『社会調査へのアプローチ』（2010）・『質的研究の方法』（2010）										

課題に対するフィードバックの方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>発表時の課題理解に対するフィードバックは、講義中のディスカッションで行う。発表の評価方法はピアレビューとし、以下の項目について評価する。グループワークについての評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発言の正確性（ケースの読み込み具合など）</li> <li>2. 発言の独自性（新しい分析の切り口や視点の提供）</li> <li>3. コミュニケーション配慮（わかりやすさ、異なる意見も尊重する態度など）</li> <li>4. 資料作成への協力・貢献度</li> <li>5. ミーティング等への出席度合</li> </ol> 発表についての評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義で学んだフレームワークが活用できているか</li> <li>2. 設問に対する回答論旨が明らかで、論理的に整合しているか</li> <li>3. 発表資料は見やすく、わかりやすく作成されているか</li> <li>4. 発表の態度（声の大きさ、態度などの適切さ、時間厳守など）</li> </ol> </li> <li>最終レポートのフィードバックは、Oh-oi Meiji を通して行う。</li> </ul>
成績評価の方法
グループワーク貢献度（ピアレビューを行う）50%、発表20%、レポート30%。
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)CMM691J	ケース・スタディ I (マーケティング)	2	1・2年	日本語	首藤明敏					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○	○					○	
授業の概要・到達目標										
<p>これまで習得してきたマーケティング及び経営全般に関する専門知識を統合的に駆使し、プロジェクトワークを通じて、実際の企業が抱える経営課題解決の実践力を培う。企業からのオリエンテーションを受けて、受講者による複数のチームを組成、ディスカッションやリサーチ等のグループワークに基づき、プレゼンテーションを行う。</p> <p>今年度の対象企業とテーマは授業開始前に告知する。</p> <p>過去のテーマとしては、日本橋人形町の和牛「日山」の事業成長戦略、ANA グループの中距離国際線の新ブランド「AirJapan」の就航先に応じたマーケティング戦略を検討した。</p> <p>【到達目標 (Course ILO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>顧客動向や競争環境を的確に把握し、市場における機会をより発見できるようにする。</li> <li>企業が抱える課題とその組織の特性に合致した、実現性のある戦略を立案できるようにする。</li> <li>チーム作業のパフォーマンスを最大化するプロジェクトマネジメント能力を高めることができる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	授業の概要説明、企業からのオリエンテーション、チーム分け								
2	グループワーク	課題認識の共有、仮説議論、ワークデザイン及び分担等の設計								
3	講義～グループワークの進め方	プロジェクトマネジメントやファシリテーションのやり方等								
4	グループワーク	仮説とリサーチ手法等の確認、作業分担等								
5	グループ面談	仮説やワークデザインの適切性								
6	グループワーク	リサーチもしくはフィールドワーク								
7	グループ面談	中間報告内容の事前確認								
8	グループワーク	中間報告に向けた準備								
9	中間報告 (グループ別)	企業への中間プレゼンテーションとフィードバック								
10	グループワーク	中間報告を受けて、仮説及びアプローチの再検討								
11	グループ面談	仮説及びアプローチの確認								
12	グループワーク	戦略とアクションプランの検討								
13	講義～プレゼンテーションの視点	グループ面談 戦略とアクションプランの確認								
14	グループワーク	報告内容まとめ、プレゼンテーションの準備								
15	最終報告 (全体発表)	企業への最終プレゼンテーション (コンペ) とフィードバック、全体振り返り								
履修上の注意点										
マーケティング基礎等、マーケティング及び経営戦略科目を一定以上、受講済みの方が望ましい。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
授業終了後に、全体の振り返りと学んだ点を個人レポートとして提出する。(A4 1枚以内)										
教科書										
レジメを適宜配布するため、特に指定しない。										
参考書										
特に指定しない。										
課題に対するフィードバックの方法										
最終授業において、チームによる最終プレゼンへのフィードバックを行う。加えて、全受講生による 360 度評価を実施する。										

成績評価の方法
<p>提案内容やプロジェクト運営方法などのチーム評価と、クラスやチームへの質的・量的貢献に基づく個人評価を総合的に判断する。評価には、教員の評価に加え、企業担当者の評価、チームメンバーの相互評価も含める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チームのプレゼンテーション及びレポート内容 50%</li> <li>チーム内での質的・量的貢献度 30%</li> <li>授業への参加度及び振り返り個人レポート 20%</li> </ul>
その他
<p>チーム編成は、授業内で抽選にて行う。受講者数に応じて、チーム数を調整する。</p>

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW661J	ビジネスロー概論	2	1・2年	日本語	中山知己					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○	○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>企業の法的かつ社会的責任に係る諸問題は、ひいては経営管理の問題でもあり、変化するビジネス環境において適確に対応することが求められる。そのようなビジネスにおいて頻出する諸問題につき、各分野の連続講義を行う。担当者は専門的知見を有する本学法務研究科教員、元教員、さらに本研究科教員によって構成される。テーマは、PL法、会社法、労働法、経済法、知的財産法、企業法務、環境法など広範に及び、いずれもきわめて現代的なトピックであるが、今年度は、さらにファミリービジネスに関する事業承継をもテーマとして取り込んでいる。いずれの講義においても初学者を前提として平易な解説を行うことに変わりはない。</p> <p>この講義を通じて、現代企業が直面する法的課題の理解を深め、ビジネスマンの通常レベルを超える法的センスとリーガルマインドを獲得することが目標である。</p> <p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにかかわる法律全般に対する基礎的な知識を獲得することができる。</li> <li>・法学各分野において異なる法的な思考方法を習得することができる。</li> <li>・変遷する法律関係に対応した法的価値判断の基礎を習得することができる。</li> </ul>										
授業内容										
下記各回の講義と質疑応答 (予定)										
第1回	ガイダンス・製造物責任法	中山知己 (本学グローバル・ビジネス研究科教員・ファシリテーター)								
第2回	法定相続	平田厚 (本学法務研究科教員・弁護士)								
第3回	遺言相続	同上								
第4回	事業承継 会社の法律関係	河内隆史 (前本学法務研究科教員本学名誉教授)								
第5回	コーポレート・ガバナンス	同上								
第6回	事業承継 相続税 (税法) 1	下村英紀 (前本学グローバル・ビジネス研究科教員)								
第7回	事業承継 相続税 (税法) 2	同上								
第8回	法務コンプライアンス部門の役割 (企業法務)	斎藤輝夫 (前本学法務研究科教員・弁護士)								
第9回	企業と紛争解決	同上								
第10回	企業と労働者 総論	野川忍 (本学法務研究科教員)								
第11回	企業と労働者 各論	同上								
第12回	「ビジネスと犯罪 1—贈収賄」(刑法)	阿部力也 (本学情報コミュニケーション学部教授)								
第13回	「ビジネスと犯罪 2—詐欺・横領・背任」(刑法)	同上								
第14回	知的財産法 1	高倉成男 (前本学法務研究科教員・前研究科長・本学名誉教授)								
第15回	知的財産法 2	同上								
第16回	予備日									
履修上の注意点										
<p>各回においては、平明簡潔な講義を実施するので、法的な専門知識を必要とはしない。日々のビジネスを通じて、あるいは各種メディアを通じて関心を持っているとより理解が深まるであろう。なお、各回テーマおよび順番は適宜変更されることがありうる。</p> <p>また授業の前半と後半に分け、前半および後半からそれぞれ一つのテーマを任意に選択し、その中でより具体的なテーマを自ら設定して、レポート提出してもらう。原則として提出期限は前半と後半の最後の授業の1週間後とする。</p>										

準備学習 (予習・復習等) の内容
各回のテーマは明示されているので、どのような社会問題があったかを事前にネットなどで調べておくことはより深い理解のために有用である。また、前半と後半の2回に分けレポートを提出することが義務づけられるので、関心を持って何が問題であったのか、どのような法的解決がなされたのかを意識することが重要であろう。
教科書
講義の性質上、特に指定しない。担当者によるレジュメを基本とする。
参考書
担当者により紹介されることがある。
課題に対するフィードバックの方法
Oh-o!Meiji のレポート提出欄におけるフィードバックがある。
成績評価の方法
レポート 70%、授業への取り組み、発言など 30%
その他
テーマの順などは担当者の都合により変更することがありうる。

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW661J	企業法務	2	1・2年	日本語	石上麟太郎					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
<p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業法務に必要な基礎的知識を取得し、法的論理的思考ができるようになる。</li> <li>経営者の立場において、業務上生じる様々な法的問題についての確かな判断をすることができるようになる。</li> <li>自分で契約書を検討することができ、簡単な契約書を作成することができるようになる。</li> </ul> <p>企業法務において大切なことは、リスクマネジメントでありコンプライアンス（法令遵守）です。今日においてはいずれも企業の存続を左右する重要事項です。しかし、リスクマネジメント、コンプライアンスと言っても、そのような法律があるのではなく、多くの法律（民法、商法、刑法、労働法、独占禁止法等）によるものであり、多様な法知識を必要とします。そこで本科目では、各講義のテーマごとに具体的な事例に基づき、法的な問題にどのような判断をすべきかを問いつけながら、企業法務に必要な基礎的知識の取得と法的思考（リーガルマインド）の養成を行います。到達目標としては企業経営者または法務担当者の立場において、業務上生じる様々な法的問題についての確かな判断をなすための知識と法的思考力を身に付けることができるようになることです。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	企業法務総論	リスクマネジメントやコンプライアンスなど企業法務の基本的理念について学ぶ。								
2	契約の法務1	契約に関する民法の財産法の基本的仕組みを学ぶ。								
3	契約の法務2	契約に関する民法の財産法の基本的仕組みを学ぶ。								
4	契約の法務3	契約に関する民法の財産法の基本的仕組みを学ぶ。								
5	契約の法務4	契約書の作成、管理についての実践的な知識を学ぶ。								
6	会社法1	会社法の概説及び会社の設立の仕方について学習する。								
7	会社法2	会社の業務の執行及び株主総会の運営について学習する。								
8	決済・取引先の不払い・倒産対策	手形・小切手の知識、債権回収の方法、破産、民事再生等、倒産法の仕組みについて学習する。								
9	労務に関する法務	企業における人事等に必要となる労働法の内容、雇用契約、さらには雇用によらず外部に業務を委託する場合の業務委託契約のポイントについて学習する。								
10	情報管理の法務	企業が有する情報の管理についての法務を学習する。具体的には個人情報保護法、不正競争防止法、守秘義務契約など。								
11	知的財産権	著作権、商標、商号、特許などの知的財産権についての基礎知識を学ぶ。								
12	適正な取引1	独占禁止法についての基礎知識を習得し適正な取引について学ぶ。								
13	適正な取引2	消費者保護の法律（消費者契約法、特定商取引法、景表法等）について基礎知識を習得し適正な取引について学ぶ。								
14	紛争の解決1	訴訟、調停、民事保全、民事執行、クレーム処理等についての基礎知識を学ぶ。								
15	紛争の解決2	訴訟、調停、民事保全、民事執行、クレーム処理等についての基礎知識を学ぶ。								

履修上の注意点
<p>企業法務は多様な法律を勉強するため一冊の教科書を読むことで講義に代えることができないので出席を重視します。教科書としては一冊にまとまっているものとして「現代企業論」（後半の「法律」の部分）を指定しますが、実際の授業ではオリジナルのレジュメをテキストとして使用します。したがって教科書も位置づけとしては参考書に近いものになります。</p>
準備学習（予習・復習等）の内容
<p>本科目においては、特に復習を重視します。単に授業の内容を復習するだけでなく、講義の際に配布するレジュメの最後に添付されている講義の範囲では時間的に触れることができなかった課題について、さらに進んで自主的に研究して下さい。その課題を自分でこなすことにより、授業での内容の理解も深まるとともに、この科目の目標到達点である経営者（法務担当者）として、的確に法的な問題について判断をする力を身につけることができます。</p>
教科書
『現代企業論—経営と法律の視点—』 第5版 境 新一（文真堂）
参考書
『民法Ⅰ』、『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』 内田貴（東京大学出版会） 『会社法』 神田秀樹（弘文堂） 『知的財産法』 角田政芳・辰巳直彦（有斐閣）
課題に対するフィードバックの方法
課題のレポートの全体講評を Oh-oi Meiji でレポートの採点后に公開する。
成績評価の方法
<p>(1) 授業への参加の積極度、授業態度等 60%</p> <p>(2) レポートの内容（課題を正確にとらえているか、論理が一貫しているか等）40%</p>
その他
<p>法律というと堅苦しくて難しいものというイメージを抱きがちですが、本科目では具体的なケースをもとに、事例の形で、法的問題のポイントを問いつける形式で行います。抽象的理屈を演繹的に講義して公式を覚えるのではなく、生きた物語としての紛争事例を紹介し、その具体的な解決法を考えることから始めて、法的思考とビジネスに必要な法律の基礎知識が自然と身につけていくように指導します。</p>

科目ナンバ	授業科目名					単位数	配当年次	使用言語	担当教員		
(GB)LAW661J	ビジネス物権法					2	1・2年	日本語	中山知己		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○			○		○	○			○		
授業の概要・到達目標											
<p>企業取引の多くは不動産や不動産といった有体物や権利の売買である。これに設備投資などに必要な資金の獲得を加えればその大半を占めることになるであろう。このような対象は契約を通じて取引されるが、権利の帰属・優先関係を確定するのは物権法である。このベースの上に商法・会社法、経済法、税法、訴訟法、倒産処理などの各法分野が積み重なる。いずれも企業の社会的責任につながり、重要な経営管理のひとつといえる。</p> <p>この授業では、このような基礎的重要性をもつ物権法を柱とし、激変するビジネス環境において生ずる法的問題に対する理解を深め、法的紛争解決のための Legal Mind と分析力の習得を目標とする。</p> <p>【到達目標 (Course ILO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおいて頻出する物権取引の法的問題に対する基本的理解を習得できる。</li> <li>・物権法の問題に対応するための法的な考え方・リーガルマインドの基礎を習得できる。</li> <li>・民法のみならずビジネス取引にかかわる特別法の考え方の基礎を習得できる。</li> </ul>											
授業内容											
初学者に分かりやすい講義とする。各回のテーマは以下の通り。											
第1回	講義対象の説明・物権法の入門										
第2回	契約と物権・財産権の関連										
第3回	物権法の原則（所有権を中心に）										
第4回	「物」の定義：不動産・動産										
第5回	売買目的物の確実な取得には何が必要か										
第6回	不動産の取得【物権変動1】										
第7回	第三者との関係【物権変動2】		(中間レポートを予定)								
第8回	動産の取得【物権変動3】										
第9回	信用取引と担保物権										
第10回	抵当信用【不動産貸付】										
第11回	賃借人と金融機関との関係										
第12回	悪質な占有者が物件に居座っていたらどのように排除するか										
第13回	土地・建物の所有関係【法定地上権】										
第14回	在庫品を担保化するにはどうすればよいか										
第15回	まとめ・期末レポート		なお、各回のテーマは適宜変更されることがありうる。								
履修上の注意点											
<p>小型版でよいので、六法を用意し、毎回持参すること。デジタル版あるいはネット検索は便利ではあるが、日々の学習には紙媒体の方が圧倒的に学習効果が高いので、こちらをおすすめする。なお各回のテーマは適宜変更されることがありうる。また以前のレジュメ資料なども適宜参照することがあるので持参すること。</p> <p>2021年度までに「ビジネス物権法・民法の基礎」の単位を修得したものは、「ビジネス物権法」を履修することはできない。</p>											
準備学習（予習・復習等）の内容											
<p>Oh-o!Meiji により配布したレジュメ・資料は授業時に使うが、これを授業後に読み直し、学習した内容を再構成するとよい。</p> <p>この授業では予習する必要がない。社会人の場合には経験があることから予断を持ちやすいので予習よりも復習に力点が置かれる。予断をできるかぎり持たせないために、レジュメ配布も授業直前に配布している。</p>											
教科書											
レジュメ・資料を配布するが、基本テキストとして中山知己（編著）・青木則幸・長谷川貞之・吉井啓子著『コンシェルジュ民法2物権・担保物権法』（北大路書房、2023）を使用する。											
参考書											
適宜紹介する。											

課題に対するフィードバックの方法
Oh-o!Meiji のレポート提出欄におけるフィードバックがある。
成績評価の方法
2回の小レポート60%、授業への取り組み、発言など40%。
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW661J	ビジネス契約法	2	1・2年	日本語	中山知己					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○		○			○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>日々激変するビジネスにおいて基本となる契約の基本的理解を深め、生じうる法的紛争に対処する Legal Mind と法的解決のためのスキルを習得する。その対応を誤れば、法的責任が問われ、ひいては経営上の問題となるが、その解決のために必要な民法の基礎知識と法的な考え方・論理を学習する。民法の意思表示、一般条項、契約責任、解除、損害賠償などを対象とする（消費者契約法を含む）。一方的な講義スタイルではなく、双方向のやりとりにより初学者にも分かりやすい基礎的な内容とする。</p> <p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおいて頻出する契約の法的問題に対する基本的理解を習得できる。</li> <li>・契約の法的問題に対応するための法的な考え方・リーガルマインドの基礎を習得できる。</li> <li>・民法のみならずビジネス取引にかかわる特別法の考え方の基礎を習得できる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
初学者にも分かりやすい講義とする。各回のテーマは下記の通り。										
1	契約法入門	契約法の全体像・契約の意義・分類・原則について学ぶ。								
2	事例研究	事例研究・実際に実務において使われる売買契約書についてその法的意味を学ぶ。								
3	意思表示とは何か1	契約における意思表示の意味・意思の不存在・瑕疵ある意思表示について学ぶ（心裡留保・虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫）。								
4	意思表示とは何か2	心裡留保・虚偽表示・錯誤・詐欺・強迫の事例研究を行う。								
5	消費者契約法はどのような意味があるか	消費者契約法について学ぶ。民法との関係を理解する。								
6	一般条項	強行法規違反・取締法規違反・公序良俗違反とその効力について学ぶ。								
7	約款	約款（約定書）について学ぶ。（中間レポートを予定）								
8	契約の効力1	契約の効力、担保責任、債務不履行責任について学ぶ。								
9	契約の効力2	契約の効力（担保責任）の事例研究を行う。								
10	契約の効力3	契約の効力（債務不履行責任）の事例研究を行う。								
11	契約の効力4	契約の効力（同時履行）について学ぶ。								
12	金銭消費貸借契約1	契約の事例として金銭消費貸借契約について学ぶ（利息制限法・貸金業法を含む）。								
13	金銭消費貸借契約2	金銭消費貸借契約の事例研究を行う。								
14	金銭消費貸借契約3	不当利得・不法原因給付との関連を学ぶ。								
15	まとめ・期末レポート	まとめ・期末レポートを行う。								
履修上の注意点										
<p>小型版でよいので、六法を用意し、毎回持参すること。デジタル版あるいはネット検索を便利ではあるが、日々の学習には紙媒体の方が圧倒的に学習効果が高いので、こちらをおすすめする。なお各回のテーマは適宜変更されることがありうる。</p> <p>なお、2021年度までに「ビジネス契約・民法の基礎」の単位を修得したものは、「ビジネス契約法」を履修することはできない。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>Oh-o!Meiji により配布したレジュメ・資料は授業時に使うが、これを授業後に読み直し、学習した内容を再構成するとよい。</p> <p>この授業では予習する必要はない。社会人の場合には経験があることから予断を持ちやすいので予習よりも復習に力点が置かれる。予断をできるかぎり持たせないために、レジュメ配布も授業直前に配布している。</p>										

教科書
Oh-o!Meiji を通じてレジュメ・資料を配布する。適宜、学習の定着化のための基本的なテキストを紹介する。
参考書
樗寿夫『民法（財産法）25講 [第2版3訂版]』（有斐閣、2006）はコンパクトで分かりやすいが、改正民法成立後はもう古くなっている。このほか授業で別途紹介する。
課題に対するフィードバックの方法
Oh-o!Meiji のレポート提出欄におけるフィードバックがある。
成績評価の方法
2回の小レポート 60%、授業への取り組み、発言など 40%、
その他



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW661J	ケース・スタディ民法	2	1・2年	日本語	中山知己					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○	○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>激変するビジネスにおいて頻繁に生ずる民法上の諸問題についてケーススタディを行う。たんなる条文解釈の機械的な提供ではなく、具体的に事例や判例のケースを取り上げ、分かりやすくその内容を提示する。この作業を通じて、概念的な法律の理解に止まらず、実務に密着した法的知識の理解を深め、経営に関わる諸問題や、ビジネスにおいて生起する法的問題への対処能力を獲得することが目標である。</p> <p>【到達目標 (Course ILO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおいて頻出する契約および物権取引に生ずる法的問題の、各種ケースに対する基本的理解を習得できる。</li> <li>・ビジネスにおいて頻出する契約および物権取引に対応するための法的な考え方・リーガルマインドに基づく分析力を習得できる。</li> <li>・ビジネス取引に関連する特別法の考え方の基礎を習得できる。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	ビジネスにおける契約1	民法の意味 契約における合意形成とその成立と効果に関する事例研究を行う。 そのために必要となる民法の諸原則・民法の意味を学ぶ。								
2	ビジネスにおける契約2	民法と特別法 契約に対する民法と特別法の意義に関する事例研究を行う。								
3	取引の対象に欠陥がある場合	担保責任・債務不履行に関する事例研究を行う。								
4	解除	民法解除制度の事例研究を行う。								
5	損害賠償	民法損害賠償の事例研究を行う。								
6	期間制限制度	時効などの事例研究を行う								
7	所有権制度	物の取引における所有権の意義・役割についての事例研究を行う。								
8	担保1	抵当権における事例研究を行う（抵当権の効力の及ぶ範囲）。								
9	担保2	抵当権における事例研究を行う（法定地上権）。								
10	担保3	質権における事例研究を行う。								
11	担保4	譲渡担保における事例研究を行う。								
12	担保5	保証における事例研究を行う。								
13	不法行為	不法行為（使用者責任）における事例研究を行う。								
14	不当利得	不当利得における事例研究を行う。								
15	まとめ	まとめを行う。								
履修上の注意点										
<p>設例や判例に関する内容を講義する。質疑応答を行いつつ、分かりやすく内容を提示する。各回のテーマは適宜変更されることがありうる。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>予習よりも授業内容を復習し、確実にするために復習がよいであろう。講義の最初に、そのための基本的なテキストを紹介する。</p>										
教科書										
<p>レジュメ・資料を配布するが、物権法・担保物権法に関連するテーマの際には、基本テキストとして中山知己（編著）・青木則幸・長谷川貞之・吉井啓子著『コンシェルジュ民法2物権・担保物権法』（北大路書房、2013）を使用する。</p> <p>このほか、永田ほか著『物権エッセンシャル民法1・2』（有斐閣ブックス）のシリーズがある。このような簡易な書籍のほうが、初心者にはよい。この科目からすれば、学習者自身のレベルに合わせる必要があるため、相談に応じて適宜紹介する。</p>										

参考書
各種の参考書がある。初心者はまずは教科書を丁寧に読むことが必要であろう。
課題に対するフィードバックの方法
Oh-o! Meiji のレポート提出欄におけるフィードバックがある。
成績評価の方法
授業への取り組み、発言 20%と2回の小レポート（前半と後半に分ける、テーマ・期限などは事前に指定する）80%。
その他

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW541J	相続法の基礎	2	1・2年	日本語	平田 厚					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○		○	○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>〔授業の概要〕</p> <p>相続法の基礎は、日本の相続法制について、15回の講義をもって概説する。テキストは特に指定しないが、条文と判例を素材として、相続法制の基礎的な理解を得る。私は、弁護士として34年間にわたり、相続法に関する法律実務を行い、東京家庭裁判所にて相続専門の家事調停委員も担当してきた。また、明治大学の民法担当の専任教授として19年間にわたり、相続法を講義してきた。この授業では、それらの経験を活かして、実務の現場で取り扱われている相続法の全体像が見渡せるように工夫したいと考えている。</p> <p>相続法の条文自体は、それほど読解難解なものではないが、読んで理解しようとしても、なぜそのような条文として規律されているのかわからないものが多い。相続法には学術的な論点や比較法的な争点も存するところであるが、この授業では、学術的な問題や比較法的な問題はあまり意識せず、わが国での相続法実務を念頭に置く内容とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民法の条文を正確に読むことができるようになる。</li> <li>・民法の条文から、どのような論点が発生してくるのか社会的背景を理解できるようになる。</li> <li>・現実の事業承継の場面において、民法を活用できるようになる。</li> </ul>										
授業内容										
本科目においては、相続法制を15回に分解し、それぞれの回における条文を呈示し、そこに生ずる法的論点を解説する。										
第1回	相続法総論									
第2回	相続人									
第3回	相続の選択									
第4回	財産分離・相続人不存在									
第5回	相続財産①									
第6回	相続財産②									
第7回	遺産分割・相続回復請求権									
第8回	遺言法総論									
第9回	遺言の効力と撤回									
第10回	遺言の検認・執行									
第11回	遺贈									
第12回	負担付遺贈等									
第13回	遺留分									
第14回	事業承継から見る相続法									
第15回	定期試験及び講評・振り返り									
履修上の注意点										
テキストは指定しないが、相続法の全体を十分に理解したい場合には、定評のある教科書を読んでほしい。希望があれば、授業中各教科書の特色を紹介する。授業中に相続法の条文を読むため、書籍の六かタブレット等を授業に持参してほしい。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
特に予習は必要ないが、理解できなかったところについては、教科書等を参照して復習してほしい。授業中によく理解できない箇所が生じたときには、授業中にも質問してほしい。										
教科書										
特に指定しない。判例の参照には、『民法判例百選Ⅲ（第3版）』（有斐閣、2023年）を使用する。										
参考書										
課題に対するフィードバックの方法										
特に課題は課さないが、質問がある場合には、公開しているアドレスに質問し、それに返信する方法にて質問に回答する。										

成績評価の方法
授業への参加度、質問の状況などを平常点として20%とし、定期試験を80%として、合計点で成績評価する。
その他
特にない。

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW541J	労働法の基礎	2	1・2年	日本語	野川 忍					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
			○		○	○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>この授業では、労働法の基本的な考え方を実践的に会得することを目的とする。具体的には、配布するレジュメを利用して、労働法の体系を解説しつつ、重要判例を素材として検討を重ねていく。毎回レジュメに問題形式の項目を記載し、ソクラテスメソッドにもとづいて、適宜受講生に質問をしながら授業を展開していく。</p> <p><b>【到達目標 (Course ILOs)】</b> 以下のことを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これにより、受講生が労働法の基本問題について基礎的な知見を身に付ける。</li> <li>具体的事案の検討や労働法学の主要な課題について自分なりの見解を有することができる能力を獲得する。</li> </ul>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
第1回	労働法の基本構造	(1) 労働法の基本的な考え方 (2) 労働法と憲法秩序 (3) 労働法制の基本ツール								
第2回	労働者・使用者概念	(1) 労働者・使用者概念の諸相 (2) 契約当事者としての労働者 (3) 保護法・労使関係法の対象としての労働者 (4) 複雑な雇用関係と使用者の責任								
第3回	労働契約法の原理と就業規則法制の概要	(1) 労働契約法の意義 (2) 就業規則の意義と機能 (3) 就業規則による労働条件の不利益変更								
第4回	人事その1—採用、試用、人事異動	(1) 人事権の意義 (2) 採用と試用をめぐる法律問題 (3) 人事異動								
第5回	人事その2—懲戒と解雇	(1) 企業秩序と懲戒権の基礎 (2) 懲戒処分との諸相と法的課題 (3) 解雇をめぐる法的課題								
第6回	賃金の法的課題	(1) 賃金請求権の発生 (2) 労基法上の賃金に関する規制 (3) 賞与と退職金 (4) 成果主義賃金制度								
第7回	非典型雇用法の法的課題	(1) 非典型雇用法制の概要 (2) パート・有期労働法をめぐる課題 (3) 労働者派遣に対する法規制								
第8回	中間総括・中間試験									
第9回	労働憲章・雇用平等	(1) 労働憲章の意義 (2) 均等法の展開 (3) 労働者の人格的利益								
第10回	労働時間の意義と労働時間制度	(1) 労働時間制度の基本的枠組み (2) 労働時間概念と弾力的労働時間制 (3) 変形労働時間制とフレックスタイム制 (4) 時間外休日労働と割増賃金制								
第11回	休憩・休日・休暇・休業・休職	(1) 休憩と休日に関する法規制 (2) 年次有給休暇 — 年休権の意義、時季変更権、使用者による時季指定権 (3) 休業 — 育児休業等 (4) 休職 — 病気休職等								
第12回	安全衛生と労災補償	(1) 労安法の構造 (2) 労災補償の基本的仕組み (3) 業務上外認定の課題 — 過労死・過労自殺と労災補償 (4) 安全配慮義務の構造 — 過労自殺、下請け企業の労働者								
第13回	労働組合の法的意義 — 団交、協約	(1) 労働組合の法的地位 (2) ユニオン・ショップ協定、チェックオフ (3) 団体交渉 (4) 労働協約								

第14回	争議行為と不当労働行為	(1) 団体行動の法規制をめぐる基本課題 (2) 争議行為の正当性と法的効果 — 争議行為の類型と課題 (3) 不当労働行為制度の法的意義 (4) 不当労働行為の具体的諸相
第15回	企業変動と労働関係	(1) 企業変動の態様と労働関係の帰趨 (2) 会社分割と労働契約承継法
履修上の注意点		
<p>本授業は、毎回出席することを前提としますが、出欠それ自体を成績に直接反映させることは行いません。しかし、各回の授業でアット・ランダムに受講者に質問をしますので、欠席して質問に答えられない場合は評価に反映させることとします。また、出席していながら授業に参加していないとみられる場合（居眠り、内職、私語等）も評価に反映させることとします。</p>		
準備学習（予習・復習等）の内容		
履修者が確定してから後は、当該授業の前週初めまでに、クラスウェブにレジュメと資料を載せるので、履修者はそれをダウンロードして周到に予習をしてください。		
教科書		
毎回クラスウェブに貼り付けるレジュメをテキストとする。		
参考書		
野川忍『労働法』（日本評論社、2018年） 村中孝史＝荒木尚志編『労働判例百選〔第10版〕』（有斐閣、2021年） 菅野和夫『労働法〔第12版〕』（弘文堂、2019年） 荒木尚志『労働法〔第5版〕』（有斐閣、2023年） 野川忍編『レッスン労働法』（有斐閣、2013年）		
課題に対するフィードバックの方法		
授業内に中間試験を設けて折り返し点での理解度を各人が確認できる機会を設けるとともに、授業内外での積極的な質問を歓迎する。		
成績評価の方法		
期末試験 50%、中間試験 25%、授業態度 25%		
その他		
特になし		

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW661J	企業活動と知的財産	2	1・2年	日本語	熊谷健一					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○						○			○	
授業の概要・到達目標										
到達目標										
1. 企業活動における知的財産の果たす役割を通じ、常に ERS を意識して企業実務やビジネス環境を倫理的側面から把握する。 2. ファミリービジネス経営及び運営に当たり、知的財産を中心とした法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。 3. スタートアップビジネス経営及び運営に当たり、知的財産を中心とした法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。										
授業内容										
週	テーマ	内容								
企業活動における知的財産の重要性に関し、産業財産権（商標権、意匠権、特許権）及び関連する制度（不正競争防止法等）を中心に講義を行う。企業の発展に知的財産が果たす役割、企業活動の国際化に伴う知的財産の国際的保護の現状と課題等も含めた理解を得るとともに、企業活動における知的財産に関するトラブルについて、ケーススタディを行うことにより、企業活動における知的財産の保護に関する基礎的知識を習得する										
1	知的財産の概要	知的財産制度の意義、知的財産の種類についての理解を得る。								
2	知的財産制度の歴史	我が国の経済発展と知的財産との関係についての理解を得る。								
3	知的財産の国際的保護	知的財産の国際的保護の現状と課題について、説明を行うことにより、知的財産の国際的保護についての理解を得る。								
4	ブランド保護制度の概要（1）	ブランド保護制度である商標制度について、制度の概要の説明を行うことにより、企業活動における商標制度の意義についての理解を得る。								
5	ブランド保護制度の概要（2）ケーススタディ	商標制度において保護されるブランドに関するケーススタディを行うことにより、企業活動における商標制度の意義についての理解を得る。								
6	ブランド保護制度の概要（3）	ブランド保護制度である不正競争防止法について、制度の概要についての説明を行うことにより、企業活動における不正競争防止法の意義についての理解を得る。								
7	ブランド保護制度の概要（4）ケーススタディ	不正競争防止法に関するケーススタディを行うことにより、企業活動における不正競争防止法の意義についての理解を得る。								
8	ブランド保護の概要（5）	ブランドの国際的保護に関し、制度の概要についての説明を行うことにより、ブランドの国際的保護の意義についての理解を得る。								
9	デザイン保護の概要（1）	デザイン保護制度である意匠制度の概要についての説明を行うことにより、企業におけるデザイン保護の意義についての理解を得る。								
10	デザイン保護の概要（2）ケーススタディ	意匠制度において保護されるデザインについて、ケーススタディを行うことにより、企業におけるデザイン保護の意義についての理解を得る。								
11	技術開発成果保護の概要（1）	技術開発成果の保護システムである特許制度の概要についての説明を行うことにより、企業における技術開発成果保護の意義についての理解を得る。								
12	技術開発成果保護の概要（2）ケーススタディ	特許権の活用について、ケーススタディを行うことにより、企業活動における特許制度の意義についての理解を得る。								
13	技術開発成果保護の概要（3）	技術開発成果のノウハウ保護についての説明を行うことにより、企業活動におけるノウハウ保護の意義についての理解を得る。								
14	事例研究	実務家による企業における知的財産管理についての講演を行い、企業における知的財産管理の重要性についての理解を得る。								

15	授業の総括	企業活動における知的財産の重要性についての総括を行う。
履修上の注意点		
企業活動における知的財産保護の意義について、産業財産権（特許権、意匠権、商標権）を中心に、ケーススタディも交えながら検討するので、企業における知的財産の保護に関心のある方の履修を希望する。知的財産の初学者の履修も歓迎する。		
準備学習（予習・復習等）の内容		
毎回、次回の資料を配布するので、授業前に目を通すとともに、関係する資料等の収集も行うことを希望する。		
教科書		
特許庁が作成し、公開している各種資料を使用するが、詳細は、授業で指示する。		
参考書		
授業の際に紹介する。		
課題に対するフィードバックの方法		
クラスウェブでフィードバックする。		
成績評価の方法		
授業における発言・議論等 60%、報告書（中間・最終） 40%		
その他		

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW661J	事業戦略と知的財産 マネジメント (基礎)	2	1・2年	日本語	熊谷健一					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○				○		○				○
授業の概要・到達目標										
到達目標										
1. 事業戦略の策定における知的財産の果たす役割を通じ、常に ERS を意識して企業実務やビジネス環境を倫理的側面から把握する。										
2. 複雑で不確実なビジネス環境において、事業戦略を立案・実行し、リーダーシップを発揮する。										
3. ファミリービジネス経営及び運営に当たり、基礎的な事例を通じ、知的財産を中心とした法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。										
4. スタートアップビジネス経営及び運営に当たり、基礎的な事例を通じ、知的財産を中心とした法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。										
授業内容										
週	テーマ	内容								
事業戦略を策定する際の知的財産の重要性について、基本的なケーススタディによる検討を行うことにより、グローバル化する事業戦略における知的財産マネジメントの重要性についての基本的な理解を得る。										
1	知的財産の基礎	授業の進め方及び知的財産の基礎的事項について説明するとともに、受講生の関心のある分野を把握し、ケーススタディの選別を行う。								
2	事業企画段階における知的財産 (1)	事業企画段階において検討が必要な知的財産について、事例を中心に説明することにより、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
3	事業企画段階における知的財産 (2) ケーススタディ	事業企画段階における知的財産について、ケーススタディを行うことにより、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
4	事業企画段階における知的財産 (3) ケーススタディ	前回に続き、事業企画段階における知的財産について、前回のケーススタディの検討結果を踏まえ、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
5	営業・提携段階における知的財産 (1)	営業・提携段階において検討が必要な知的財産について、事例を中心に説明することにより、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
6	営業・提携段階における知的財産 (2) ケーススタディ	営業・提携段階における知的財産について、ケーススタディを行うことにより、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
7	営業・提携段階における知的財産 (3) ケーススタディ	前回に続き、営業・提携段階における知的財産について、前回のケーススタディの検討結果を踏まえ、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
8	製造・販売段階における知的財産 (1)	製造・販売段階において検討が必要な知的財産について、事例を中心に説明することにより、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
9	製造・販売段階における知的財産 (2) ケーススタディ	製造・販売段階における知的財産について、ケーススタディを行うことにより、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
10	製造・販売段階における知的財産 (3) ケーススタディ	前回に続き、製造・販売段階における知的財産について、前回のケーススタディの検討結果を踏まえ、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
11	事業運営段階における知的財産 (1)	事業運営段階において検討が必要な知的財産について、事例を中心に説明することにより、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								
12	事業運営段階における知的財産 (2) ケーススタディ	事業運営段階における知的財産について、ケーススタディを行うことにより、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。								

13	事業運営段階における知的財産 (3) ケーススタディ	前回に続き、事業運営段階における知的財産について、前回のケーススタディの検討結果を踏まえ、事業戦略と知的財産の関係についての理解を得る。
14	技術標準、AI と知的財産	技術標準、AI と知的財産の関係について、実例を用いて説明することにより、技術標準における知的財産の重要性についての理解を得る。
15	授業の総括	事業活動における知的財産の重要性に関し、全体的なとりまとめを行う。
履修上の注意点		
具体的な事業戦略を策定する際に重要な知的財産マネジメントについて、基本的な事項を学習した後に、基本的なケーススタディを行うことにより検討することを中心としているため、事業戦略の策定に興味のある方の履修を希望する。知的財産についての基本的知識を習得していることが望ましいため、企業活動と知的財産を履修していることが望ましいが、基本的なことを説明したうえで、ケーススタディを行うので、義務とはしない。		
準備学習 (予習・復習等) の内容		
毎回、次の資料を配布するので、授業前に目を通すとともに、関係する資料等の収集も行うことを希望する。		
教科書		
特許庁が作成し、公開している事例集 (Web から入手可能) を使用するが、詳細は授業で指示する。		
参考書		
授業の際に紹介する。		
課題に対するフィードバックの方法		
授業でコメントを伝えることに加え、クラスウェブでフィードバックする。		
成績評価の方法		
授業における発言・議論 60%、報告書 (事例研究のまとめ) 40%		
その他		



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW661J	事業戦略と知的財産マネジメント (C S)	2	1・2年	日本語	熊谷健一					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○				○		○			○	
授業の概要・到達目標										
到達目標										
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業戦略の策定における知的財産の重要性について、事例を通じ、常に ERS を意識して企業実務やビジネス環境を倫理的側面から把握する。</li> <li>2. 複雑で不確実なビジネス環境において、事業戦略を立案・実行し、リーダーシップを発揮する。</li> <li>3. ファミリービジネス経営及び運営に当たり、国内外の事例を通じ、知的財産を中心とした法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。</li> <li>4. スタートアップビジネス経営及び運営に当たり、国内外の事例を通じ、知的財産を中心とした法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。</li> </ol>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
事業戦略の策定における知的財産マネジメントのあり方に関し、種々の分野におけるケーススタディ（失敗例中心）を行うことにより、グローバル化する事業戦略における知的財産マネジメントのあり方についての理解を得る。										
1	事業戦略における知的財産の重要性	事業戦略の策定時における知的財産の重要性に関し、事業戦略の段階ごとに説明することにより、事業戦略における知的財産の重要性についての理解を得る。								
2	ケーススタディ (1) 製品企画	製品企画において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、製品企画における知的財産の重要性についての理解を得る。								
3	ケーススタディ (2) 研究開発	研究開発において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、研究開発における知的財産の重要性についての理解を得る。								
4	ケーススタディ (3) 引き合い	引き合いにおいて検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、引き合いにおける知的財産の重要性についての理解を得る。								
5	ケーススタディ (4) 展示会出展	展示会出展において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、展示会出展における知的財産の重要性についての理解を得る。								
6	ケーススタディ (5) ライセンス	ライセンスにおいて検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、ライセンスにおける知的財産の重要性についての理解を得る。								
7	ケーススタディ (6) 共同開発	共同開発において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、共同開発における知的財産の重要性についての理解を得る。								
8	ケーススタディ (7) 製品輸出・代理店	製品輸出・代理店において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、製品輸出・代理店における知的財産の重要性についての理解を得る。								
9	ケーススタディ (8) 生産委託・技術指導	生産委託・技術指導において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、生産委託・技術指導における知的財産の重要性についての理解を得る。								
10	ケーススタディ (9) 現地生産	現地生産において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、現地生産における知的財産の重要性についての理解を得る。								

11	ケーススタディ (10) 侵害品発見	侵害品発見において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、侵害品発見における知的財産の重要性についての理解を得る。
12	ケーススタディ (11) 警告	警告において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、警告における知的財産の重要性についての理解を得る。
13	ケーススタディ (12) 事業継続・撤退	事業継続・撤退において検討すべき知的財産について、ケーススタディを行うことにより検討し、事業継続・撤退における知的財産の重要性についての理解を得る。
14	実務者による講義	企業実務者による講義により、企業の事業戦略における知的財産の重要性についての理解を得る。
15	授業の総括	事業戦略における知的財産の重要性に関し、全般的なとりまとめを行うことにより、企業の事業戦略における知的財産の重要性についての理解を得る。
履修上の注意点		
<p>事業の具体的段階に応じた知的財産の重要性に関し、ケーススタディを中心に行うこととするので、具体的な検討を行い、考察を行う積極性のある方の履修を希望する。</p> <p>2021年度までに「事業戦略と知的財産マネジメント（応用）」の単位を修得したものは、「事業戦略と知的財産マネジメント（ケース・スタディ）」を履修することはできない。</p>		
準備学習（予習・復習等）の内容		
毎回、次回の資料を配布するので、授業前に目を通すとともに、関係する資料等の収集も行うことを希望する。		
教科書		
特許庁が作成し、公表している事例集を用いる。		
参考書		
授業の際に紹介する。		
課題に対するフィードバックの方法		
授業でコメントを伝えることに加え、クラスウェブでフィードバックする。		
成績評価の方法		
授業における発言・議論 60%、報告書（事例研究のまとめ） 40%		
その他		



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)LAW661J	著作権マネジメント	2	1・2年	日本語	熊谷健一					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○						○			○	
授業の概要・到達目標										
到達目標										
1. 著作権マネジメントを通じ、常に ERS を意識して企業実務やビジネス環境を倫理的側面から把握する。										
2. ファミリービジネス経営及び運営に当たり、著作権を中心とした法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。										
3. スタートアップビジネス経営及び運営に当たり、著作権を中心とした法律問題に関する知識とスキルを統合するために適切な能力を発揮する。										
授業内容										
週	テーマ	内容								
企業の競争力を確保するために不可欠な知的財産について、著作権法を中心に、基本的な知識についての理解を得るとともに、簡単な事例研究を行うことにより、著作権を中心とした知的財産の保護、紛争の予防や紛争への対応等に関する理解を得る。										
1	ガイダンス	知的財産の概要及び授業の進め方についての説明を行うことにより、知的財産の重要性についての理解を得る。								
2	著作権制度の概要(1)	著作権法の全体像を中心に説明することにより、著作権法の概要についての理解を得る。								
3	著作権制度の概要(2)	著作物性に関する事例を中心に説明することにより、著作物性の留意事項についての理解を得る。								
4	著作権制度の概要(3)	著作者に関する事例を中心に説明することにより、著作者の留意事項についての理解を得る。								
5	著作権制度の概要(4)	著作者人格権に関する事例を中心に説明することにより、著作者人格権の内容及び留意事項についての理解を得る。								
6	著作権制度の概要(5)	著作権に関する事例を中心に説明することにより、著作権の内容及び留意事項についての理解を得る。								
7	著作権制度の概要(6)	前回に続き、著作権に関する事例を中心に説明することにより、著作権の内容及び留意事項についての理解を得る。								
8	著作権制度の概要(7)	前回及び前々回に続き、著作権に関する事例を中心に説明することにより、著作権の内容及び留意事項についての理解を得る。								
9	著作権制度の概要(8)	著作権の制限に関する事例を中心に説明することにより、著作権の制限の内容及び留意事項についての理解を得る。								
10	著作権制度の概要(9)	前回に続き、著作権の制限に関する事例を中心に説明することにより、著作権の制限の内容及び留意事項についての理解を得る。								
11	著作権制度の概要(10)	著作権の取引及び権利期間に関する事例を中心に説明することにより、著作権の取引の概要及び権利期間の算出方法についての理解を得る。								
12	著作権制度の概要(11)	著作隣接権及び出版権に関する事例を中心に説明することにより、著作隣接権及び出版権についての理解を得る。								
13	著作権制度の概要(12)	権利侵害に関する事例を中心に説明することにより、権利侵害の内容及び留意事項についての理解を得る。								
14	著作権制度の概要(13)	著作権制度に関連する知的財産について、事例を中心に説明することにより、著作権制度に関連する知的財産法についての理解を得る。								
15	授業の総括	著作権管理の重要性についての総括を行う。								
履修上の注意点										
著作権制度の概要に関し、企業における事例を中心に講義を行うこととするので、著作権の初学者や著作権に関心のある方の履修を希望する。 2021年度までに「知的財産管理の基礎」の単位を修得したものは、「著作権マネジメント」を履修することはできません。										

準備学習（予習・復習等）の内容
毎回、次回の資料を配布（クラスウェブにアップ）するので、授業前に目を通すとともに、関係する資料等の収集も行うことを希望する。
教科書
文化庁作成のテキスト（令和5年版著作権テキスト）をベースに、資料を作成し、授業で説明する。 <a href="https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93908401_01.pdf">https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/93908401_01.pdf</a>
参考書
授業の際に紹介する。
課題に対するフィードバックの方法
授業中にコメントをするとともに、提出報告書については、クラスウェブでもフィードバックする。
成績評価の方法
発言・議論等の授業への貢献度 60%、報告書（中間・最終） 40%
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 I	2	2年	日本語	青沼君明					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○			○	○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>企業経営にとって不可欠な収益、リスクなどを計量化するためのモデル構築や、金融商品の評価モデル、データ解析による顧客属性の分析、不動産価値の評価などを対象とする。すなわち、キーワードは「計量化」である。論文演習 I では、各人の問題意識の明確化と、前提条件の明確化を図ることにウエイトを置く。本講座では、受講者が自分自身の研究テーマについて研究してきたことを適宜発表し、他の学生との議論の中で問題解決のヒントなどを見つけながら、研究内容を明確化する。また、関連知識の習得については、自分で調べることを前提とし、学生、教官とディスカッションをしながらより知識レベルを高めることを目的としている。</p>										
授業内容										
研究したいテーマに合わせた、先行研究の分析と、今後分析をしていく上で必要となる基礎理論の習得。										
履修上の注意点										
この演習のキーワードは「計量化」である。したがって、基礎数学、統計などの計量化のために必要な基礎知識の習得に興味があること。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
自分が研究したいテーマを見つけ、先行論文の解析を行なう。また、先行論文の内容を実際に確認する。										
教科書										
論文テーマにより指定										
参考書										
修士論文のテーマに応じて、個別に図書・論文などを紹介する。										
課題に対するフィードバックの方法										
課題に対する、質問・解答例については、授業中に解説する。参考文献等の紹介、周辺理論の解説についても授業中に解説する。										
成績評価の方法										
修士論文の目標達成度（90%）、ディスカッションへの参加（10%）										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 II	2	2年	日本語	青沼君明					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○			○	○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>企業経営にとって不可欠な収益、リスクなどを計量化するためのモデル構築や、金融商品の評価モデル、データ解析による顧客属性の分析、不動産価値の評価などを対象とする。すなわち、キーワードは「計量化」である。具体的には、毎回、各人の進捗状況の報告と、現状の問題認識、次回までの課題について検討する。修士論文は、自分自身でテーマを見つけ、自分自身で解決することが求められる。本講座では、受講者が自分自身の研究テーマについて研究してきたことを適宜発表し、他の学生との議論の中で問題解決のヒントなどを見つけながら、研究内容を明確化する。また、関連知識の習得については、自分で調べることを前提とし、学生、教官とディスカッションをしながらより知識レベルを高めることを目的としている。</p>										
授業内容										
自分の論文に必要な知識の研究と、データ解析をしながら、論文を作成していく。										
履修上の注意点										
この演習のキーワードは「計量化」である。したがって、基礎数学、統計などの計量化のために必要な基礎知識の習得に興味があること。また、論文演習 I を履修していること。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
論文では新規性、新しい訴求ポイントが求められる。これについて常に意識しながら、問題解決法を検討していく。										
教科書										
論文テーマにより指定										
参考書										
修士論文のテーマに応じて、個別に図書・論文などを紹介する。										
課題に対するフィードバックの方法										
課題に対する、質問・解答例については、授業中に解説する。参考文献等の紹介、周辺理論の解説についても授業中に解説する。										
成績評価の方法										
修士論文の目標達成度（90%）、ディスカッションへの参加（10%）										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 I	2	2年	日本語	王 京穂					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○						
授業の概要・到達目標										
<b>【科目内容】</b> 研究方向や関心事をはじめ、周辺課題についても議論し、関連論文や書籍を読む。この科目を通じて、各自の研究テーマ、問題意識の確認を行う。 <b>【到達目標 (Course ILO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係論文の検索方法、読み方と活用方法の習得する。</li> <li>論文の書き方の理解する。</li> <li>論文の方向の明確化し、論文テーマを決定する。</li> </ul>										
授業内容										
論文演習 I は学生の関心テーマに沿った関連分野における文献（論文や書籍）等のサーベイが中心となる。報告や討論を通じて、課題の方向性への理解を深めるとともに、問題発見、問題解決の手がかりを探索する。最終的に、各自の論文テーマ・内容、論文方式等に関する方向性を決める。										
履修上の注意点										
論文演習の進め方については、初回の際に説明する。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
各自のテーマに沿って報告のための事前準備を行い、報告の際にレジюме等の資料を準備すること。										
教科書										
指定しない。										
参考書										
指定しない。										
課題に対するフィードバックの方法										
・授業中に解説と復習の時間を設けること										
成績評価の方法										
(1) ディスカッションへの参加態度 (30%) (2) リサーチ作業経過報告 (70%)										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 II	2	2年	日本語	王 京穂					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○						
授業の概要・到達目標										
<b>【科目内容】</b> 各自の研究課題に対して検討を加えながら、論文作成を行う。論文の形式、利用するツール等の議論と指導を行う。論文作成の進捗に関して、定期的な確認し、最終的に研究成果をとりまとめる。 <b>【到達目標 (Course ILO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題の最終決定と論文の作成。</li> <li>論文の書き方と利用するツールの学習。</li> <li>論文初稿と最終稿を提出</li> </ul>										
授業内容										
論文演習 I と同様に進めるが、研究課題を最終決定し、論文作成作業が中心となる。研究の背景、論文の意義と新規性、分析方法（使用するツール）の妥当性等について、指導する。スケジュールに従って、論文初稿と最終稿を提出する。										
履修上の注意点										
授業の際に指示する。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
各自の報告については十分な事前の準備を行うこと。										
教科書										
指定しない。										
参考書										
指定しない。										
課題に対するフィードバックの方法										
・授業中に解説と復習の時間を設けること										
成績評価の方法										
(1) ディスカッションへの参加・貢献 (30%) (2) 研究成果報告 (70%)										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 I	2	2年	日本語	山村能郎					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○	○	○	○			○
授業の概要・到達目標										
ファイナンス、不動産に関する課題だけでなく、広く経営・経済に関わる課題について理論・データからアプローチすることで解決を目指す。論文作成のために自らが興味を持てるテーマの探索を行いながら、調査研究の成果について報告・議論する。										
授業内容										
各人が自らの論文テーマに基づいて毎回進捗について報告を行い、相互に情報・知識を共有する。論文のとりまとめは各人のテーマ、内容、進捗に合わせて運営する。基本的に相互の進捗報告と相互批判によって演習は成立する。										
履修上の注意点										
ゼミの運営には積極的に参加すること。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
事前に報告資料について配付可能なように準備する。										
教科書										
特になし。										
参考書										
ゼミ中に適宜指示する。										
課題に対するフィードバックの方法										
ゼミ中の議論を通して実施										
成績評価の方法										
ゼミでの発言、発表など（50%）、論文の進捗状況（50%）										
その他										
ゼミナール運営に対する自主的参加が最も重要である。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 II	2	2年	日本語	山村能郎					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○	○	○	○			○
授業の概要・到達目標										
論文演習 I に引き続き研究の方法について議論を重ねるとともに、研究作業を平行して行い、その成果についても定期的な報告を行う。最終的に研究成果をとりまとめることを目的とする。										
授業内容										
各人が自らの論文テーマに基づいて相互に情報・知識を共有する。論文のとりまとめは各人のテーマ、内容、進捗に合わせて運営する。基本的に相互の進捗報告と相互批判によって演習は成立する。										
履修上の注意点										
授業の際に指示する。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
極力、各人が報告する資料は事前配布を前提とする。										
教科書										
特になし。										
参考書										
特になし。										
課題に対するフィードバックの方法										
ゼミ中の議論を通して実施										
成績評価の方法										
ゼミでの発言、発表などの参加態度（50%）、研究成果（50%）										
その他										

Course Number	Class Subject Name					Credits	Year	Language	Faculty Member		
(GB)IND612E	論文演習 I / Thesis Tutorial 1					2	2nd Year	English	サントス ミゲル SANTOS Miguel		
Programme ILOs					Cluster ILOs						
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3	
○	○	○	○	○		○	○		○	○	
Course Summary and Objectives											
<p>このゼミの目的は、以下のいずれかの分野での修士論文執筆に向けた研究プロセスへの指導とサポートを提供することです：</p> <p>ア) 企業資金管理及びそれに関わる諸問題 イ) 企業価値の評価とマネジメント及びそれに関わる諸問題 ウ) 事業戦略とコーポレートファイナンス エ) 資本市場に巡る諸問題 オ) ヘルスケアにおける価値評価 カ) マネジメント理論及び日本のマネジメント思想と実践</p> <p>コーポレートファイナンスを中心に、資金管理、価値評価、バリューマネジメント、事業戦略など、「戦略と資金繰りと価値の諸問題」に興味を持つ学生が集まり、修士論文の完成を目指してお互いに支え合うセミナーを開催します。各参加者は、それぞれの関心領域での成果達成に必要な研究に積極的に取り組むことで創造的な企業経営の理解を得ることが期待されています。オリエンテーションとサポートは、研究のすべてのフェーズを網羅します。これには、研究問題の定義、文献のレビュー、研究方法の選択、仮説/モデルの具体化、データ分析、結果の解釈、および政策提案の提供が含まれます。ゼミ終了時には、学生は以下の能力を身につけることが期待されます(ゼミ ILOs)：</p> <p>ア) 企業ファイナンスの分野の理論的および/または実践的な問題について深い理解を獲得し、示すことができる。 イ) 企業ファイナンスおよび経営における研究スキルを開発し、示すことができる。</p> <p>The objective of this seminar is to provide support to the research process leading to the writing of a thesis in one of the following areas: 1. Corporate cash management: theory and practice; 2. Valuation methods: theory &amp; practice; 3. Strategy and corporate value; 4. Issues concerning capital markets; 5. Value in healthcare; 6. Management theories &amp; Japanese management philosophy and practices. Gathering students with an interest in 'Strategy, Cash Flow &amp; Corporate Value,' this seminar will focus on corporate finance, liquidity management, valuation, value management, &amp; business strategy, with the aim of supporting the completion of each student master's thesis. Each participant is anticipated to gain a creative understanding of corporate management by actively engaging in the research required to achieve results in their respective areas of interest. Orientation and support will cover all phases of the process, including defining the research question, conducting a literature review, selecting the research methodology, specifying hypotheses/models, performing data analysis, and interpreting the results along with providing policy suggestions. By the end of this seminar students should be able to: - Acquire &amp; display a deep understanding of a theoretical and/or practical issue in one of the fields of finance; -Develop and demonstrate research skills in finance and management.</p>											
Course Contents											
<p>ゼミの内容は参加者の研究テーマに合わせて行われ、潜在的な研究トピック、文献レビュー、方法論のアプローチ、モデルの具体化、および得られた研究結果の分析に関するプレゼンテーションと討論を包括します。</p> <p>The seminar content will be tailored to the research interests of the participants, encompassing presentations and discussions on potential research topics, literature review, methodological approaches, model specification, and critical analysis of the research results obtained.</p>											
Prerequisites and registration requirements											
<p>必須ではありませんがこのゼミの参加者は、実務経験または適切な MBA コースの修了を通じて選択した研究トピックについてある程度の理解を持つことが推奨されます。</p> <p>While not mandatory, participants are encouraged to have prior familiarity with their chosen research topic, gained through professional experience or the successful completion of a relevant MBA course, before enrolling in this seminar.</p>											

Preparation and Review
各研究段階を丹念に作業し、完了することが期待されます。進捗報告書の適時提出が必要です。 Students are expected to diligently work to complete each research stage by assigned date. Timely submission of progress reports is required.
Textbook(s)
ゼミ中にテキストブックやその他適切な文献が提案されます。 Textbooks and other literature will be suggested during classes.
Reference(s)
ゼミ中にテキストブックやその他適切な文献が提案されます。 Textbooks and other literature will be suggested during classes.
How to provide Feedback to assignments
ゼミでは毎回、口頭でフィードバックが提供されます。 Feedback will be provided orally every week during the seminar.
Grading and Evaluation
<p>評価および評価は以下の要素を含みます：</p> <p>(1) セミナーの議論への参加の質 (40%) (2) 定期的な報告 (60%)</p> <p>このセミナーの2つのILOの達成は上記の2つの方法を通じて評価されます。</p> <p>Grading and evaluation will include the following elements: (1) Quality of participation in seminar discussions (40%) (2) Progress reports (60%)</p> <p>Achievement of this seminar's two ILO will be evaluated through the above two methods.</p>
Other

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)IND612E	論文演習Ⅱ / Thesis Tutorial 2	2	2nd Year	English	サントス ミゲル SANTOS Miguel					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○	○		○	○
Course Summary and Objectives										
<p>このゼミの目的は、第1学期に設定された研究問題に焦点を当てた修士論文の執筆に至る研究プロセスに向けての指導とサポートを提供することです。オリエンテーションとサポートは、文献のレビュー、研究方法論の選択、仮説/モデルの具体化、データ分析、結果の解釈、および政策提案の策定など、プロセス全体の各段階を包括的にサポートします。</p> <p>ゼミ終了時には、学生は以下の能力を身につけることが期待されます（ゼミ ILOs）：</p> <p>ア) コーポレートファイナンスの分野の理論的および/または実践的な問題について深い理解を獲得し、示すことができる。</p> <p>イ) コーポレートファイナンスおよび経営における研究スキルを開発し、示すことができる。</p> <p>The objective of this seminar is to provide orientation and support to the research process leading to the writing of a Master Thesis on a research question established during the first semester. Orientation and support will encompass all phases of the process, including literature review, choice of research methodology, hypothesis/model specification, data analysis, and interpretation of the results and policy suggestions.</p> <p>By the end of this seminar students should be able to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-Acquire and display a deep understanding of a theoretical and/or practical issue in one of the fields of corporate finance.</li> <li>-Develop and demonstrate research skills in corporate finance and management.</li> </ul>										
Course Contents										
<p>ゼミの内容は参加者の研究テーマに合わせて行われ、潜在的な研究トピック、文献レビュー、方法論のアプローチ、モデルの具体化、および得られた研究結果の分析に関するプレゼンテーションと討論を包括します。</p> <p>The seminar content will be tailored to the research interests of the participants, encompassing presentations and discussions on potential research topics, literature review, methodological approaches, model specification, and critical analysis of the research results obtained.</p>										
Prerequisites and registration requirements										
<p>論文指導 (I) の修了が必要です。 Previous successful completion of Thesis Tutorial (I) is required.</p>										
Preparation and Review										
<p>各研究段階を丹念に作業し、完了することが期待されます。進捗報告書の適時提出が必要です。 Students are expected to diligently work to complete each research stage by the assigned date. Timely submission of progress reports is required.</p>										
Textbook(s)										
<p>ゼミ中にテキストブックやその他適切な文献が提案されます。 Textbooks and other literature will be suggested during classes.</p>										
Reference(s)										
<p>ゼミ中にテキストブックやその他適切な文献が提案されます。 Textbooks and other literature will be suggested during classes.</p>										
How to provide Feedback to assignments										
<p>ゼミでは毎回、口頭でフィードバックが提供されます。 Feedback will be provided orally every week during the seminar.</p>										

Grading and Evaluation
<p>評価および評価は以下の要素を含みます：</p> <p>(1) セミナーの議論への参加の質 (30%)</p> <p>(2) 定期的な報告 (40%)</p> <p>(3) 修士論文草稿 (30%)</p> <p>このセミナーの2つのILOの達成は上記の3つの方法を通じて評価されます。</p> <p>Grading and evaluation will include the following elements:</p> <p>(1) Quality of participation in seminar discussions (30%)</p> <p>(2) Progress reports (40%)</p> <p>(3) Master Thesis drafts (30%)</p> <p>Achievement of this seminar's two ILO will be evaluated through the above three methods.</p>
Other



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 I	2	2年	日本語	村木信爾					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○				○	○	○	○			
授業の概要・到達目標										
不動産に関するテーマを中心に、修士論文作成のための準備の指導を行う。テーマの選定・問題点・論点など、参加メンバーとともに議論しながら研究成果物を作成する。										
授業内容										
前期は修士論文作成の準備として、受講者の要望をできるだけ取り入れ、文献・論文を読み、議論する。 論文の骨子の作成を目標とする。										
履修上の注意点										
特になし。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業中に指示する。										
教科書										
指定しない。										
参考書										
指定しない。										
課題に対するフィードバックの方法										
毎回ゼミ終了後個別に口頭でフィードバックを行う。修士論文完成後は、そのフィードバックを行う。										
成績評価の方法										
(1) 討論への参加等クラスへの貢献 (40%) (2) 発表内容・レポート等 (60%)										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 II	2	2年	日本語	村木信爾					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○				○	○	○	○			
授業の概要・到達目標										
不動産に関連するテーマを中心に、修士論文作成のための指導を行う。										
授業内容										
各人の選択したテーマについての成果の取りまとめが中心となる。適宜報告を受け、アドバイスを行う。										
履修上の注意点										
授業の際に指示する。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
指定しない。										
参考書										
指定しない。										
課題に対するフィードバックの方法										
毎回ゼミ終了後個別に口頭でフィードバックを行う。修士論文完成後は、そのフィードバックを行う。										
成績評価の方法										
(1) 討論への参加等クラスへの貢献 (40%) (2) 発表内容・レポート等 (60%)										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 I	2	2年	日本語	野田 稔					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○		○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>Course ILO 論文演習 I</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各人の問題意識に従い、実際に作成する論文のテーマを探索する。先行研究を読み、ディスカッションを繰り返す中でテーマを絞り込み、春学期中にテーマ設定を完成させる。</li> <li>他のゼミ生の発表を聞き、ディスカッションに参加することにより、視野を広め思考を深める。</li> <li>ゼミでのディスカッション経験を通じて、効果的なミーティングファシリテーション、プレゼンテーションを身につける。</li> <li>将来、経営者として組織を構築・運営する際、悩んだときに学び直せる力を身につける。読むべき本を知る、検索すべきテクニカルタームを知るなどの学び直しのための基礎知識を身につける。</li> <li>将来にわたり助け合える仲間を得る。</li> </ul> <p>組織論を中心に、組織心理学、ヒューマンリソースマネジメント、人材開発論、消費者心理など、「人と経営にまつわる諸問題」に興味を持つ学生が集い、修士論文の完成を目指して相互に支援しあうゼミナールを開講する。各人は自らの興味のある分野での研究成果をあげるべく、個人的に努力を行うと共にゼミナールの他メンバーに対して積極的に協力することが強く求められる。論文演習の過程を通じて創造的組織運営の疑似体験が体験できることを二次的な目的とする。故にただ単に自らの論文作成にのみ注力するのではなく、チームメンバー全員が納得できる論文作成できることを組織目的としコラボレーションすることを参加条件とする。</p>										
授業内容										
<p>各人が自らの論文テーマを持ち寄り、互いに共有するところからゼミナールは開始される。研究計画書の審査がゼミナール開始の第一歩である。授業の進行は各人の研究の進度にあわせ柔軟に運営されるが、基本的には相互の進捗報告と相互コーチングを繰り返すことになる。テーマと進捗にあわせ、適宜外部のアドバイザー（実務家、学識経験者など）を招聘し、ディスカッションを行う。なお、この様な際、自らのテーマと関連性が薄い場合でも出席することを義務とする。</p>										
履修上の注意点										
ゼミナールの運営は学生の自主を基本とする。組織論のゼミナールである以上、組織運営の疑似体験を本ゼミナール運営で体得していただきたい。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
事前にアップされたレジュメを読み、アジェンダに対する意見をまとめておくこと。										
教科書										
特になし。										
参考書										
ゼミ中に適宜指示する。										
課題に対するフィードバックの方法										
毎回の講義で行われる学生の発表に対して、各人ごとに講義中にフィードバックする										
成績評価の方法										
(1) ゼミナールへの積極的参加(発言、発表、質問、参加態度など) (70%) (2) ゼミナールへの積極的な貢献(教員による主観評価) (30%)										
その他										
ゼミナール運営に対する自主的参加が最も重要である。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 II	2	2年	日本語	野田 稔					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○		○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>Course ILO 論文演習 II</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文演習 I の終わりで設定された論文テーマに基づき、専門職成果報告書（修士論文）を完成させる。</li> <li>他のゼミ生の発表を聞き、ディスカッションに参加することにより、視野を広め思考を深める。</li> <li>ゼミでのディスカッション経験を通じて、効果的なミーティングファシリテーション、プレゼンテーションを身につける。</li> <li>将来、経営者として組織を構築・運営する際、悩んだときに学び直せる力を身につける。読むべき本を知る、検索すべきテクニカルタームを知るなどの学び直しのための基礎知識を身につける。</li> <li>将来にわたり助け合える仲間を得る。</li> </ul> <p>組織論を中心に、組織心理学、ヒューマンリソースマネジメント、人材開発論、消費者心理など、「人と経営にまつわる諸問題」に興味を持つ学生が集い、修士論文の完成を目指して相互に支援しあうゼミナールを開講する。各人は自らの興味のある分野での研究成果をあげるべく、個人的に努力を行うと共にゼミナールの他メンバーに対して積極的に協力することが強く求められる。論文演習の過程を通じて創造的組織運営の疑似体験が体験できることを二次的な目的とする。故にただ単に自らの論文作成にのみ注力するのではなく、チームメンバー全員が納得できる論文作成できることを組織目的としコラボレーションすることを参加条件とする。</p>										
授業内容										
<p>各人が自らの論文テーマを持ち寄り、互いに共有するところからゼミナールは開始される。研究計画書の審査がゼミナール開始の第一歩である。授業の進行は各人の研究の進度にあわせ柔軟に運営されるが、基本的には相互の進捗報告と相互コーチングを繰り返すことになる。テーマと進捗にあわせ、適宜外部のアドバイザー（実務家、学識経験者など）を招聘し、ディスカッションを行う。なお、この様な際、自らのテーマと関連性が薄い場合でも出席することを義務とする。</p>										
履修上の注意点										
授業の際に指示する。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
事前にアップされたレジュメを読み、アジェンダに対する意見をまとめておくこと。										
教科書										
特になし。										
参考書										
ゼミ中に適宜指示する。										
課題に対するフィードバックの方法										
毎回の講義で行われる学生の発表に対して、各人ごとに講義中にフィードバックする										
成績評価の方法										
(1) ゼミナールへの積極的参加(発言、発表、質問、参加態度など) (70%) (2) ゼミナールへの積極的な貢献(教員による主観評価) (30%)										
その他										

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 I (日本語)	2	2年	日本語	藤岡眞正					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○	○	○		○
授業の概要・到達目標										
<p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営学における基本的な研究方法論について理解することができるようになる。</li> <li>自ら適切な問いを立て、それに対して理論的・実証的にアプローチすることができるようになる。</li> <li>論理的に議論を組み立てる力を身につけることができるようになる。</li> <li>仮説検証型、仮説探索型、理論構築型など研究方法の利点・弱点を理解できるようにになる。</li> <li>理論的フレームワークを整理し、実際のデータを用いて自らの主張を論じることができるようになる。</li> <li>研究を通じて実務的課題と理論的課題を理解し、社会への貢献について考えることができるようになる。</li> </ul>										
授業内容										
<p>本演習では、修士論文（専門職成果報告書）の作成に求められる基礎能力を養成することを目的としています。具体的には、研究テーマの設定や研究課題の特定、理論的フレームワークの設定、研究方法論、文献レビュー、質問票の作成など、修士論文を執筆する際に必要な基本（研究の進め方）について学んでいきます。また、必要に応じて、関連分野の教員や専門家を招聘することや、他大学や研究機関の勉強会・研究会などに参加をすることもあります。</p> <p>基本的に、受講者の主体性を尊重して演習を進めていきますが、必要に応じてテーマや方法論の修正や文献についてアドバイスをしていきます。また、個別指導に加えて、各自がゼミ内で進捗度などの報告をし、教員のみならず学生同士でフィードバックを受けることにより、グループによる学習を促進していきます。発表とフィードバックの繰り返しを通じて、ビジネススクールの講義で身に着けた知識と方法を実際に研究に活用できる力を養成していきます。</p> <p>指導可能な領域は、A) 国際経営論：グローバル戦略、地域事業戦略、海外子会社の管理（マネジメント・コントロール・システム）、新興国ビジネス（アジアビジネス）、新興国マーケティング・ブランディング、企業の社会的責任、B) 管理会計論：戦略管理会計、グローバル（国際）管理会計、学際的会計研究、経営分析、C) 経営学：地域マネジメント（地方創成クラスターや産官学連携）、中小企業の海外展開、ファミリービジネス&amp;スタートアップビジネス、BoP、ビジネスモデル分析ですが、これら以外の領域に関心のある方は、事前に教員まで相談をしてください。</p> <p>本演習では、研究方法論や研究課題の設定に関する基本的な能力を育成していくと同時に、履修者それぞれの関心のある研究テーマに応じた文献のレビューを行い、個別指導やグループディスカッションを通じて、各自設定した課題に対する理解を深めていきます。また、定期的にゼミ内で報告を行い、その都度、修士論文の質向上に向けたフィードバックをしていきます。1年に一度、海外もしくは国内でのゼミ合宿を行います。</p>										
履修上の注意点										
<p>修士論文（専門職成果報告書）は自らが主体となってプロジェクトを進めていく必要がありますが、論文を仕上げるには、多くの時間と労力が必要になりますので、計画的にプロジェクトを進めていくことが大切です。演習での議論に積極的に参加し、互いに学びながら、良い修士論文を書き上げていきましょう。また、将来博士課程への進学を考えている方は、なるべく早い段階で指導教員に相談をしてください。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>修士論文の作成は、想像以上に時間と労力を要する作業ですので計画的にプロジェクトを進めていく必要があります。ゼミを通じて、定期的に進捗度を確認していきますが、必要に応じて他のゼミとの交流や各種セミナーへの出席が必要となるかもしれません。</p>										
教科書										
受講者の関心領域によって、その都度アドバイスをしていきます。										
参考書										
受講者の関心領域によって、その都度アドバイスをしていきます。										
課題に対するフィードバックの方法										
<p>授業全般の課題に関するフィードバックは、クラス内で行います。また、個別のフィードバックが必要な場合は、アポイントメントベースでオフィスアワーやメールにてご対応します。</p>										

成績評価の方法	
演習への貢献度	25%
修士論文の評価	75%
その他	
特になし。	

科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ (日本語)	2	2年	日本語	藤岡資正					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○	○	○		○
授業の概要・到達目標										
<p>本演習では、修士論文（専門職成果報告書）の作成に求められる基礎能力を養成することを目的としています。具体的には、研究テーマの設定や研究課題の特定、理論的フレームワークの設定、研究方法論、文献レビュー、質問票の作成など、修士論文を執筆する際に必要な基本（研究の進め方）について学んでいきます。また、必要に応じて、関連分野の教員や専門家を招聘することや、他大学や研究機関の勉強会・研究会などに参加をすることもあります。</p> <p>基本的に、受講者の主体性を尊重して演習を進めていきますが、必要に応じてテーマや方法論の修正や文献についてアドバイスをしていきます。また、個別指導に加えて、各自がゼミ内で進捗度などの報告をし、教員のみならず学生同士でフィードバックを受けることにより、グループによる学習を促進していきます。発表とフィードバックの繰り返しを通じて、ビジネススクールの講義で身に着けた知識と方法を実際に研究に応用できる力を養成していきます。</p> <p>指導可能な領域は、A) 国際経営論：グローバル戦略、地域事業戦略、海外子会社の管理（マネジメント・コントロール・システム）、新興国ビジネス（アジアビジネス）、企業の社会的責任、B) 管理会計論：戦略管理会計、グローバル（国際）管理会計、学際的会計研究、経営分析、C) 経営学：地域マネジメント（地方創成クラスターや産官学連携）、中小企業の海外展開、ファミリービジネス&amp;スタートアップビジネス、BoP、ビジネスモデル分析ですが、これら以外の領域に関心のある方は、事前に教員まで相談をしてください。</p>										
授業内容										
<p>本演習では、研究方法論や研究課題の設定に関する基本的な能力を育成していくと同時に、履修者それぞれの関心のある研究テーマに応じた文献のレビューを行い、個別指導やグループディスカッションを通じて、各自設定した課題に対する理解を深めていきます。また、定期的なゼミ内で報告を行い、その都度、修士論文の質向上に向けたフィードバックをしていきます。</p>										
履修上の注意点										
<p>修士論文（専門職成果報告書）は自らが主体となってプロジェクトを進めていく必要がありますが、論文を仕上げるには、多くの時間と労力が必要になりますので、計画的にプロジェクトを進めていくことが大切です。演習での議論に積極的に参加し、互いに学びながら、良い修士論文を書き上げていきましょう。また、将来博士課程への進学を考えている方は、なるべく早い段階で指導教員に相談をしてください。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
<p>修士論文の作成は、想像以上に時間と労力を要する作業ですので計画的にプロジェクトを進めていく必要があります。ゼミを通じて、定期的に進捗度を確認していきますが、必要に応じて他のゼミとの交流や各種セミナーへの出席が必要となるかもしれません。</p>										
教科書										
受講者の関心領域によって、その都度アドバイスをしていきます。										
参考書										
受講者の関心領域によって、その都度アドバイスをしていきます。										
課題に対するフィードバックの方法										
<p>授業全般の課題に関するフィードバックは、クラス内で行います。また、個別のフィードバックが必要な場合は、アポイントメントベースでオフィスアワーやメールにてご対応します。</p>										
成績評価の方法										
<p>演習への貢献度 25% 修士論文の評価 75%</p>										
その他										
特になし										

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)IND612E	論文演習Ⅰ / Thesis Tutorial 1 (英語)	2	2nd Year	English	藤岡資正 FUJIOKA Takamasa					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○	○	○		○
Course Summary and Objectives										
<p><b>【Learning Goals】</b> This seminar will equip you with a strong foundation in research methods. This includes:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Honing your conceptual thinking skills: although often passed over in the frenetic practice of management conceptual skills allow you to see similarities between disparate problems in disparate industries, and so start to develop frameworks for analyses.</li> <li>Developing your critical thinking skills: the ability to explore and present clearly formulated credible alternative perspectives and positions to challenge dominant viewpoints, to see alternative explanations for the phenomena that surround us.</li> <li>Becoming skilled at creating practical, researchable problem statements: developing ways to test the current orthodoxy; to use data and analytic case studies to distinguish between rival ideas—hypotheses—and restate the questions being tested into a researchable form.</li> <li>Building your applied analytical expertise: this program will provide you with qualitative and quantitative analysis tools, and the confidence to apply these with high level software assistance.</li> <li>Perfecting your presentation skills: you will practice presenting research findings in an effective manner to critical audiences; orally, in video and in writing. You will be expected to present, and defend, your research findings—and their practical implications—to meetings of practitioners.</li> <li>Expanding your network: to include other highly motivated experienced professionals in senior management positions in business and government, with a similar analytical mindset to your own.</li> </ul>										
Course Contents										
<p>Course Contents This seminar targets experienced senior managers, policy makers, independent consultants, and practical academics, who are preparing themselves for more advanced leadership positions in their organizations and professions. Due to the pandemic situation, the seminar will be offered by blended learning. This combination of online and face-to-face instruction is designed to make the very best use of your time and to convey information most effectively, while allowing in-depth application of the relevant materials to your research topic. The online component can be accessed from any internet connection at your convenience. As technology, and so business, evolves at an exponential rate, management must make radical and disruptive adjustments. The seminar will introduce you to the techniques and issues, which you will then apply to your domain of interest, gradually evolving your thesis topic.</p>										
Prerequisites and registration requirements										
The journey of completing master thesis requires your strong commitments and efforts. So our seminar members help each other to improve our thesis.										
Preparation and Review										
Reading books, journal articles and daily news articles related to your research interests.										
Textbook(s)										
TBD (depending on your research topic)										
Reference(s)										
TBD (depending on your research topic)										
How to provide Feedback to assignments										
Face to face feedback and request based e-mail communication.										
Grading and Evaluation										
Based on your participation (30%) and thesis quality (70%)										
Other										
None										

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)IND612E	論文演習Ⅱ / Thesis Tutorial 2 (英語)	2	2nd Year	English	藤岡 眞正 FUJIOKA Takamasa					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Course Summary and Objectives										
<p><b>【Learning Goals】</b> This seminar will equip you with a strong foundation in research methods. This includes:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Honing your conceptual thinking skills: although often passed over in the frenetic practice of management conceptual skills allow you to see similarities between disparate problems in disparate industries, and so start to develop frameworks for analyses.</li> <li>Developing your critical thinking skills: the ability to explore and present clearly formulated credible alternative perspectives and positions to challenge dominant viewpoints, to see alternative explanations for the phenomena that surround us.</li> <li>Becoming skilled at creating practical, researchable problem statements: developing ways to test the current orthodoxy; to use data and analytic case studies to distinguish between rival ideas—hypotheses—and restate the questions being tested into a researchable form.</li> <li>Building your applied analytical expertise: this program will provide you with qualitative and quantitative analysis tools, and the confidence to apply these with high level software assistance.</li> <li>Perfecting your presentation skills: you will practice presenting research findings in an effective manner to critical audiences; orally, in video and in writing. You will be expected to present, and defend, your research findings—and their practical implications—to meetings of practitioners.</li> <li>Expanding your network: to include other highly motivated experienced professionals in senior management positions in business and government, with a similar analytical mindset to your own.</li> </ul>										
Course Contents										
<p>This seminar targets experienced senior managers, policy makers, independent consultants, and practical academics, who are preparing themselves for more advanced leadership positions in their organizations and professions.</p> <p>Due to the pandemic situation, the seminar will be offered by blended learning.</p> <p>This combination of online and face-to-face instruction is designed to make the very best use of your time and to convey information most effectively, while allowing in-depth application of the relevant materials to your research topic. The online component can be accessed from any internet connection at your convenience.</p>										
Prerequisites and registration requirements										
<p>As technology, and so business, evolves at an exponential rate, management must make radical and disruptive adjustments. The seminar will introduce you to the techniques and issues, which you will then apply to your domain of interest, gradually evolving your thesis topic.</p> <p>The journey of completing master thesis requires your strong commitments and efforts.</p>										
Preparation and Review										
Reading books, journal articles and daily news articles related to your research interests.										
Textbook(s)										
TBD										
Reference(s)										
TBD										
How to provide Feedback to assignments										
Face to face feedback or e-mail based communication upon students' requests.										
Grading and Evaluation										
Participation 25 Evaluation of thesis 75%										
Other										
None										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	岡 俊子					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>M&amp;Aは、企業が持続的成長を遂げるために有効な経営のツールである。他方、「総合格闘技」と称されるほど、経営学、法務、会計、税務、組織論、人的資源、知財、環境、CSRなど、多くのビジネス要素を組み合わせて、M&amp;Aを遂行していくことが求められ、うまくいかないと減損を強いられることもある。</p> <p>本講座では、論文作成のために、M&amp;A取引を自ら興味のある観点から調査研究し、その成果について、報告・議論する。</p> <p>Course ILOs:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>M&amp;A取引を、その背景、取引の特徴、当事者の考え方などの観点から分析することができるようになる。</li> <li>自分が取り上げるM&amp;A取引の分析を通じて、何が社会貢献になったかを洞察する。</li> <li>自分がM&amp;A取引を当事者として実施する場合に、何に留意すべきかを捉える。</li> </ol>										
授業内容										
<p>各受講者が自らの論文テーマに基づいて、毎回進捗について報告を行い、相互に情報・知識を共有する。</p> <p>論文のとりまとめは、各受講者のテーマ、内容、進捗に合わせて運営する。各受講者の修論の進捗に合わせて、ゼミの開催場所や時間等も都度設定する。受講者参加型のディスカッションによって授業は成立する。</p>										
履修上の注意点										
ゼミの運営に積極的に参加すること。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
報告に用いる資料については、事前に配布できるよう準備すること。										
教科書										
必要に応じて、都度、指示する。										
参考書										
<p>図解&amp;ストーリー「資本コスト」入門 中央経済社 岡俊子著 図解&amp;ストーリー「子会社売却の意思決定」中央経済社 岡俊子著</p>										
課題に対するフィードバックの方法										
講義時または別途のタイミングで、各人に伝達する										
成績評価の方法										
<p>ゼミでの発言、発表 30% 論文の進捗状況 70%</p>										
その他										
クラスは自分たちで作っていくという意識をもって参加ください。										



科目ナンバ	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	岡 俊子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
授業の概要・到達目標										
<p>M&amp;A は、企業が持続的成長を遂げるために有効な経営のツールである。他方、「総合格闘技」と称されるほど、経営学、法務、会計、税務、組織論、人的資源、知財、環境、CSR など、多くのビジネス要素を組み合わせて、M&amp;A を遂行していくことが求められ、うまくいかないと減損を強いられることもある。</p> <p>本講座では、論文作成のために、M&amp;A 取引を自ら興味のある観点から調査研究し、その成果について、報告・議論する。</p> <p>Course ILOs :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. M&amp;A 取引を、その背景、取引の特徴、当事者の考え方などの観点から分析することができるようになる。</li> <li>2. 自分が取り上げる M&amp;A 取引の分析を通じて、何が社会貢献になったかを洞察する。</li> <li>3. 自分が M&amp;A 取引を当事者として実施する場合に、何に留意すべきかを捉える。</li> </ol>										
授業内容										
<p>各受講者が自らの論文テーマに基づいて、毎回進捗について報告を行い、相互に情報・知識を共有する。</p> <p>論文のとりまとめは、各受講者のテーマ、内容、進捗に合わせて運営する。各受講者の修論の進捗に合わせて、ゼミの開催場所や時間等も都度設定する。受講者参加型のディスカッションによって授業は成立する。</p>										
履修上の注意点										
ゼミの運営に積極的に参加すること。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
報告に用いる資料については、事前に配布できるよう準備すること。										
教科書										
必要に応じて、都度、指示する。										
参考書										
<p>図解&amp;ストーリー「資本コスト」入門 中央経済社 岡俊子著</p> <p>図解&amp;ストーリー「子会社売却の意思決定」 中央経済社 岡俊子著</p>										
課題に対するフィードバックの方法										
講義時または別途のタイミングで、各人に伝達する										
成績評価の方法										
<p>ゼミでの発言、発表 30%</p> <p>論文の進捗状況 70%</p>										
その他										
クラスは自分たちで作っていくという意識をもって参加ください。										

Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)IND616E	論文演習Ⅰ / Thesis Tutorial 1 (M)	2	2nd Year	English	許 佑旭					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○	○	○	○			
Course Summary and Objectives										
<p>As we all know writing a Master's dissertation is not an easy task as it not only requires students to be motivated and committed, but also to possess skills and knowledge in the field of their proposed research. It can be a long and winding road if skills required for writing a dissertation have not been acquired. This module is designed to equip students with the skills needed to write a dissertation in an attempt to provide students with a sound foundation for dissertation writing.</p> <p>By the end of the module, students should be able to write at least one research paper relating to his/her Master's project.</p>										
Course Contents										
1.	Introduction to the Module (What is a Master's dissertation?)									
2.	What is Research Ethics (e.g. Plagiarism) a Research Question?									
3.	What is "Literature Review"? Where should I begin? What is a research question?									
4.	Student Presentation (Research Topics)									
5.	Referring Style and In-Text Citation									
6.	Structures of a Master's Dissertation									
7.	Argumentation									
8.	Research Methodology									
9.	Data Collection									
10.	Student Presentation (Research Proposal)									
11.	Writing Workshop/Feedback									
12.	Writing Workshop/Feedback									
13.	Writing Workshop/Feedback									
14.	Writing Workshop/Feedback									
15.	Writing Workshop/Feedback									
Prerequisites and registration requirements										
None.										
Preparation and Review										
Students should read the assigned material and submit reports when required.										
Textbook(s)										
There is no textbook for this module. Yet, handouts may be distributed.										
Reference(s)										
<p>Alvesson, M. and Sandberg, J. (2013) Constructing Research Questions: Doing Interesting Research. London: Sage.</p> <p>Bryman, A. (2008) Social Research Methods, 3rd edition. Oxford: Oxford University Press.</p> <p>Denscombe, M. (2010) Ground Rules for Social Research: Guidelines for Good Practice, 2nd edition. Berkshire: Open University Press.</p>										
How to provide Feedback to assignments										
Feedback will be offered verbally or in a written form depending on the assignments.										
Grading and Evaluation										
<p>In-Class Participation: 80%</p> <p>Presentation: 20%</p>										
Other										



Course Number	Class Subject Name	Credits	Year	Language	Faculty Member					
(GB)IND616E	論文演習Ⅱ / Thesis Tutorial 2 (M)	2	2nd Year	English	許 佑旭					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○	○	○	○			
Course Summary and Objectives										
This is an advanced module for Master's dissertation writing. The module focuses on data analysis as well as critical writing. Students should submit a paper to be presented at a conference. The paper should be closely associated with his/her Mast's project.										
Course Contents										
1.	Introduction to the Module (Reporting the Progress)									
2.	Writing Workshop/Feedback									
3.	Writing Workshop/Feedback									
4.	Writing Workshop/Feedback									
5.	Writing Workshop/Feedback									
6.	Student Presentation (Preliminary Results)									
7.	Writing Workshop/Feedback									
8.	Writing Workshop/Feedback									
9.	Writing Workshop/Feedback									
10.	Writing Workshop/Feedback									
11.	Student Presentation (Dissertation)/Feedback									
12.	Writing Workshop/Feedback									
13.	Student Presentation (Dissertation)/Feedback									
14.	Writing Workshop/Feedback									
15.	Student Presentation (Dissertation)/Feedback									
Prerequisites and registration requirements										
None.										
Preparation and Review										
Students should read the assigned material and submit reports when required.										
Textbook(s)										
There is no textbook for this module. Yet, handouts may be distributed.										
Reference(s)										
Brace, I. (2013) Questionnaire Design, 3rd edition. London: KoganPage. Cottrell, S. (2005) Critical Thinking Skills: Developing Effective Analysis and Argument. Hampshire: Palgrave Machmillan. Gerring J. (2017) Case Study Research: Principles and Practices, 2nd edition. Cambridge: Cambridge University Press.										
How to provide Feedback to assignments										
Feedback will be offered either verbally or in a written form depending on the type of assignments.										
Grading and Evaluation										
In-Class Participation (including the progress of the dissertation): 80% Presentation: 20%										
Other										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	沼田優子					
Programme ILOs			Cluster ILOs							
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>本講座は、国内外の企業の経営戦略に関わる研究を行う講座です。経営戦略とは、挑戦的な目標を設定し、その目標を達成するための計画を作成し、実行し、見直すことを中心に展開されます。このプロセスの中に自分なりの課題を見つけ、その仮説をたてた上で検証し、結論を導き出す研究を行い、その内容を論文として執筆していただきます。</p> <p>研究の善し悪しは、この課題の設定の仕方に大きく左右されます。従って、論文演習Ⅰでは研究のテーマ設定のプロセスに時間をかけ、最終的に納得のいく課題を設定することを目標とします。この研究テーマを決めるにあたっては、まずは興味を持った課題を見つけなければなりません。それに加え、そもそも検証可能な課題となり得るのか、先行研究やデータが十分入手できるのか、どのような手法で研究できるのか、といった観点からも研究の実現可能性について検討していかなければなりません。従って、論文演習Ⅰでは、履修生のブレインストーミングやディスカッションへの積極的な参加が求められます。是非、仲間の知恵や経験も借りながら、知的な準備体操をしていただきたいと思います。こうして各人が納得のいく研究テーマを見つけたところで、論文演習Ⅱに入り、実際の執筆活動を始めていただきます。論文執筆は個別性が高いので、下記の授業内容は一つの目安ですが、概ねこのような手順を踏むことを目指します。</p> <p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b></p> <p>この講座を受講することにより、履修者は経営戦略論上の課題にどのようなものがあるかを一通り理解することができるようになります。</p> <p>仲間の力を借りながら、より良いアウトプットを作る経験を積むことができます。</p> <p>研究手法を一通り学び、自分の研究の実現可能性について検討ができるようになります。</p> <p>論文演習Ⅱにおける執筆活動に向けて、先行研究の収集・整理ができるようになります。</p> <p>論文演習Ⅱの研究テーマを設定できるようになります。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	コースの概要、運営等に関する全体的な紹介								
2	経営戦略論の概要	経営戦略論上の一般的な論点の整理								
3	経営戦略論の概要	経営戦略論上の一般的な論点の整理								
4	関心のあるテーマの発表	第2、3週で取り上げたテーマの中から関心のあるテーマについて発表								
5	関心のあるテーマの発表	第2、3週で取り上げたテーマの中から関心のあるテーマについて発表								
6	リサーチ・クエッションの立て方	第4、5週で取り上げたテーマをどのようにリサーチ・クエッションに変換するかを学ぶ								
7	リサーチ・クエッションの発表	第6週で取り上げた手法をもとにして作成したリサーチ・クエッションを発表する								
8	情報収集の仕方	研究に必要な情報収集の手法を学ぶ								
9	先行研究の収集の仕方	より学術的な情報（先行研究）の収集とその整理の手法を学ぶ								
10	研究を効率的に行うツール	研究を効率的に行うためのツールの紹介とこれらの活用の演習								
11	先行研究の発表	第8～10週の講義をもとに先行研究を調べ、発表								
12	先行研究の発表	第8～10週の講義をもとに先行研究を調べ、発表								
13	研究の手法	研究の手法について概略を学ぶ								
14	研究テーマの発表	論文演習Ⅱで取り組む研究テーマの発表								
15	研究テーマの発表	論文演習Ⅱで取り組む研究テーマの発表								
履修上の注意点										
<p>授業内でのディスカッションやアクティビティへの積極的な参加を期待する。本講座は経営戦略論の初心者や戦略策定の実務経験のない履修者も歓迎するが、経営戦略論や Strategic Management を履修する方が望ましい。論文指導言語は日英いずれも可。</p>										

準備学習（予習・復習等）の内容
授業の発表準備、授業の振り返りなどを行うこと。
教科書
なし。
参考書
① ブース, W. C. 他 (2018) 『リサーチの技法』 ソシム ② Belcher, W. L. (2019). <i>Writing Your Journal Article in Twelve Weeks, Second Edition: A Guide to Academic Publishing Success.</i> University of Chicago Press ③ イン, R. K. 近藤公彦 (翻訳) (2011) 『新装版 ケース・スタディの方法(第2版)』 千倉書房 ④ 入山 章栄 (2019) 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社
課題に対するフィードバックの方法
課題等の全体的なフィードバックは翌週の授業で行う。
成績評価の方法
授業参加度 (60%) と課題 (40%)
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	沼田優子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>本講座では、国内外の企業の経営戦略に関わる研究を行う講座です。経営戦略とは、挑戦的な目標を設定し、その目標を達成するための計画を作成し、実行し、見直すことを中心に展開されます。このプロセスの中に自分なりの課題を見つけ、その仮説をたてた上で検証し、結論を導き出し、その内容を論文として執筆していただきます。</p> <p>論文の善し悪しは、この課題の設定の仕方に大きく左右されるため、論文演習Ⅰで研究テーマの設定を行います。これをもとに論文演習Ⅱでは論文執筆活動に入っていきます。具体的には論文の構成や研究の手法等を学び、仮説の検証を行っていきます。この間、適宜進捗状況を報告し、仲間のフィードバック等ももらいながら、より完成度を高めていきます。最終的には論文を完成させて提出することが、この講座のゴールとなります。論文執筆は個別性が高いので、下記の授業内容は一つの目安ですが、概ねこのような手順を踏むことを目指します。</p> <p><b>【到達目標 (Course ILO)】</b> この講座を受講することにより、履修生は研究テーマの仮説をたて、それを検証することができるようになります。論文演習を通して、その執筆ができるようになります。ピア・レビューを通して、建設的な批判ができるようになる一方で、仲間の英知を借りながら、よりアウトプットの完成度を高めることができるようになります。自分の研究を、論文執筆を通して、他者に説明できるようになります。</p>										
授業内容										
週	テーマ	内容								
1	イントロダクション	コースの概要、運営等に関する全体的な紹介								
2	研究の進め方	研究の進め方を学び、計画をたてる								
3	研究の手法 詳細	研究の手法について紹介する								
4	研究の手法 発表	履修者が選択した研究手法について発表する								
5	研究の手法 発表	履修者が選択した研究手法について発表する								
6	研究倫理	研究倫理について学ぶ								
7	論文アウトラインの作り方	論文アウトラインの作成手法を学ぶ								
8	論文アウトラインの発表	履修者が論文のアウトラインを作成して発表する								
9	論文アウトラインの発表	履修者が論文のアウトラインを作成して発表する								
10	研究成果の報告の仕方	研究成果の報告の仕方について学ぶ								
11	研究成果の報告	履修者が研究成果について発表する								
12	研究成果の報告	履修者が研究成果について発表する								
13	完成に向けた論文の書き方	完成論文に向けて、執筆上の留意事項について学ぶ								
14	研究論文の発表	研究論文を発表し、ピア・レビューを行う								
15	研究論文の発表	研究論文を発表し、ピア・レビューを行う								
履修上の注意点										
論文演習Ⅰの既修者向け講座。本講座は経営戦略論の初学者や戦略策定の実務経験のない履修者も歓迎するが、経営戦略論や Strategic Management を履修する方が望ましい。授業内でのディスカッションやアクティビティへの積極的な参加を期待する。論文指導言語は日英いずれも可。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の発表準備や授業の振り返りを行うのに加え、論文執筆を各自進めること。										
教科書										
なし。										

参考書
① ブース, W. C. 他 (2018) 『リサーチの技法』 ソシム
② Belcher, W. L. (2019). <i>Writing Your Journal Article in Twelve Weeks, Second Edition: A Guide to Academic Publishing Success</i> . University of Chicago Press
③ イン, R. K. 近藤公彦 (翻訳) (2011) 『新装版 ケース・スタディの方法(第2版)』 千倉書房.
④ 入山 章栄 (2019) 『世界標準の経営理論』 ダイヤモンド社
課題に対するフィードバックの方法
課題等の全体的なフィードバックは翌週の授業で行う。
成績評価の方法
授業参加度 (60%) と課題 (40%)
その他

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習 I	2	2年	日本語	安達幸裕					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○	○	○	○			
授業の概要・到達目標										
修士論文作成の指導を行う。主にファミリービジネス (大中小)、中堅中小企業のマネジメントに関する研究を行う。経営者の企業家精神や組織変革に貢献できるマネージャーの育成などを中心に、戦略策定・実行について考えていく。理論と実践、主体者 (経営者等) と支援者 (金融機関等)、際 (規模、地域、業種、学問等) を視座にメンバー全員が刺激しあえるゼミを目指す。論文演習を通じて、自らの論文作成だけでなく、チームメンバーとの協働を意識しながら、ゼミの共通目的を達成していくことも目標とする。										
授業内容										
ゼミ形式で演習を進める。具体的には、各人が自分の選択するテーマ等について報告資料・レジュメを作成し、順番にプレゼンテーションを行い、全員で議論する。とくに理論と実践の融合を意識していく。教員は助言・指導を行い、必要に応じ個別の相談・指導も行う。										
履修上の注意点										
各自関心のあるテーマについて、報告のための事前準備を行うこと。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
適宜授業にて個別に提示する。										
教科書										
特になし。										
参考書										
適宜指示する。										
課題に対するフィードバックの方法										
授業日または Oh-o! Meiji で全体講評を公開する。										
成績評価の方法										
演習への貢献度 30%										
修士論文の評価 70%										
その他										
特になし。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	安達幸裕					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○	○	○	○			
授業の概要・到達目標										
<p>修士論文作成の指導を行う。主にファミリービジネス（大中小）、中堅中小企業のマネジメントに関する研究を行う。経営者の企業家精神や組織変革に貢献できるマネージャーの育成などを中心に、戦略策定・実行について考えていく。理論と実践、主体者（経営者等）と支援者（金融機関等）、際（規模、地域、業種、学問等）を視座にメンバー全員が刺激しあえるゼミを目指す。論文演習を通じて、自らの論文作成だけでなく、チームメンバーとの協働を意識しながら、ゼミの共通目的を達成していくことも目標とする。</p>										
授業内容										
ゼミ形式で演習を進める。具体的には、各人が自分の選択するテーマ等について報告資料・レジュメを作成し、順番にプレゼンテーションを行い、全員で議論する。とくに理論と実践の融合を意識していく。教員は助言・指導を行い、必要に応じて個別の相談・指導も行う。										
履修上の注意点										
各自関心のあるテーマについて、報告のための事前準備を行うこと。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
適宜授業にて個別に提示する。										
教科書										
特になし。										
参考書										
適宜指示する。										
課題に対するフィードバックの方法										
授業日または Oh-of Meiji で全体講評を公開する。										
成績評価の方法										
演習への貢献度 30%										
修士論文の評価 70%										
その他										
特になし。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	山口不二夫					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○				○			○
授業の概要・到達目標										
<p>修士論文作成のための個別指導が中心である。会計分野における修士論文の種類は以下の4種類が考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 純粹理論型 <ul style="list-style-type: none"> <li>最近では研究者でもこのタイプの論文は書かなくなった。もしくは書けなくなった。古典的な方法。前提となるいくつかの主要理論から演繹的に、論理展開、推論し、新たな理論を導く。あるグランドセオリーをじっくり自分のものとしたときは、よい方法。</li> </ul> </li> <li>2 実証研究型 <ol style="list-style-type: none"> <li>a データ解析型 複数企業の会計データから、会計上のある命題を検証する方法。たとえば会計処理方法の変更が、株価に影響を与えているか等々の論文。多くの研究者によりとられている方法で、修士段階ではオリジナリティーは出しにくい。</li> <li>b ケース検討型 ある会計ルールについてその内容を、日・米・国際会計基準を確認し、熟知した上で、そのルールの変更、国による差によって企業経営がいかなる影響を受けているかを、ケースを意識しながら論述する。会計ルールの面白さは、ルール設定時に意図した目的に反して、そのルール（会計処理）が用いられる点である。企業の真実の姿を映すために、会計は企画されるが、実際は粉飾の道具とされるのである。個々の会計ルールで粉飾可能性の指摘は会計ルールの設定にとって重要な教訓とも指針ともなる。ビジネスパーソンに向いている方法。</li> </ol> </li> <li>3 業務上の課題（の明確化とその）解決型 <ul style="list-style-type: none"> <li>職場の業務上の課題について、現状認識を行い、次に問題点を明確化し、その問題点を解決する方法を、ビジネススクールで学んださまざまな手法で提案する。ジェネラリストとしてビジネススクールで学んだ方には最適な方法。</li> </ul> </li> <li>4（あるトピックスについて）文献資料調査型 <ul style="list-style-type: none"> <li>修得したいテーマについて、学界のスタンダードをサーベイし、自分のものとする。具体的には最も最適な文献を担当教員と決定し、その文献を要約し、コメントを書く。教員と定期的にディスカッションして、随時、理解内容を文章にすることが重要である。</li> </ul> </li> </ol>										
授業内容										
<p>学生の目指す論文のタイプに応じて、個別指導をおこなう。 定期的なディスカッションと報告をおこなう。報告に際しては他のメンバーも積極的な参加をもとめる。 休暇中も、随時、教員とアポイントメントを取ったうえで、指導を行う。</p>										
履修上の注意点										
授業時に指示する。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業時の報告内容は、レジュメにして用意することが望ましい。										
教科書										
個々の学生と相談の上、授業時に指示する。										
参考書										
<p>適宜、指導する。 雑誌『企業会計』中央経済社、『会計』森山書店、『産業経理』産業経理協会は会計の邦文3重要誌なので、テーマの選定、学界の水準確認のために、最低直近、数年分は目を通していただきたい。</p>										
課題に対するフィードバックの方法										
<p>Oh-0! Meiji でレポートとして提出した場合は、コメント欄を用いてフィードバックを行う 当日画面表示の場合は、その場でコメントや修正を施す</p>										
成績評価の方法										
(1) 授業での貢献 (30%) (2) 報告・提出課題の評価 (修士論文作成のための作成資料を含む 70%)										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	山口不二夫					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○				○			○
授業の概要・到達目標										
前学期に引き続いて、修士論文作成のための指導を行う。										
授業内容										
前半はプレゼンテーションによる論文内容の明確化と深化、後半は論文のチェックが主な内容となる。参加者の要望に応じて、インターネット上での情報の交換と指導も行う。 必要に応じて、冬休み中も、随時、方法を選択して指導を行う。										
履修上の注意点										
授業時に指示する。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業時の報告内容はレジュメとして用意しておくこと。										
教科書										
特になし										
参考書										
前学期と同じ										
課題に対するフィードバックの方法										
Oh-o! Meiji でレポートとして提出した場合は、コメント欄を用いてフィードバックを行う 当日画面表示の場合は、その場でコメントや修正を施す										
成績評価の方法										
(1) 報告・提出課題の評価（修士論文作成のための作成資料を含む100%）										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	大野雅人					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
本演習では、履修者の学位（修士）取得のための論文指導を行う。 到達目標（Course ILOs） ①租税法における自らの専門分野についての深い知識を習得する。 ②租税法における問題点を自ら発見し、かつ、その問題の解決方法を提案する能力を習得する。 ③論文において、自らの主張を平明な言葉により論理的・説得的に展開する能力を習得する。 ④修士論文にふさわしい、高水準の論文を完成させる。										
授業内容										
概ね次のような順序で授業を進める。 ①論文テーマとしての関心領域について、履修者各自が報告し、履修者間で意見交換を行う。 ②先行研究論文・書籍内容を共有しながら、履修者各自が論文課題を絞り込む。 ③修士論文のテーマを決定し、論文の構成（章立て）等を検討する。 ④上記③を踏まえて、更に先行研究・関係資料等を収集する。 ⑤学期末に、履修者による論文概要案の報告及び意見交換を行う。										
履修上の注意点										
修士論文の作成に当たっては徹底した文献収集と読込みが必要であることに留意し、学期を通じて文献の収集に努めること。また、できるだけ早期に論文テーマを決定し、結論に向けた論旨の展開についても思索を重ねること。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特になし。										
参考書										
『租税法（第24版）』金子宏（弘文堂、2021） 『租税法判例六法（最新版）』中里実ほか編（有斐閣） 『スタンダード所得税法（最新版）』佐藤英明（弘文堂） 『スタンダード法人税法（最新版）』渡辺徹也（弘文堂） 『スタンダード消費税法』佐藤英明＝西山由美（弘文堂、2022） 『租税法判例百選（第7版）』中里実ほか編（有斐閣、2021）等										
課題に対するフィードバックの方法										
受講者から提出された論文概要・論文ドラフト等をベースとして、論文指導を行う。										
成績評価の方法										
議論への貢献 40%、各段階での論文概要・論文ドラフト等の完成度 60%。										
その他										
学期末までに論文ドラフトの第1稿を提出すること。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	大野雅人					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○			○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>本演習では、履修者の学位（修士）取得のための論文指導を行う。</p> <p>到達目標（Course ILOs）</p> <p>①租税法における自らの専門分野についての深い知識を習得する。</p> <p>②租税法における問題点を自ら発見し、かつ、その問題の解決方法を提案する能力を習得する。</p> <p>③論文において、自らの主張を平明な言葉により論理的・説得的に展開する能力を習得する。</p> <p>④修士論文にふさわしい、高水準の論文を完成させる。</p>										
授業内容										
<p>概ね次のような順序で授業と個別指導を進める。</p> <p>①履修者による論文概要の報告及び意見交換を行う。</p> <p>②上記①を踏まえて、先行研究・関係資料等の収集を継続する。</p> <p>③履修者による論文ドラフトの報告及び意見交換を行う。</p> <p>④学期後半においては、主として指導教員による個別指導を行う。</p>										
履修上の注意点										
<p>修士論文の作成に当たっては徹底した文献収集と読み込みが必要であることに留意し、学期を通じて文献の収集に努めること。また、読み手が理解できる平明で正確な文章によって、論理的な記述をするよう努めること。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特になし。										
参考書										
<p>『租税法（第24版）』金子宏（弘文堂、2021）</p> <p>『租税法判例六法（最新版）』中里実ほか編（有斐閣）</p> <p>『スタンダード所得税法（最新版）』佐藤英明（弘文堂）</p> <p>『スタンダード法人税法（最新版）』渡辺徹也（弘文堂）</p> <p>『スタンダード消費税法』佐藤英明＝西山由美（弘文堂、2022）</p> <p>『租税判例百選（第7版）』中里実ほか編（有斐閣、2021）等</p>										
課題に対するフィードバックの方法										
<p>受講者から提出された論文概要・論文ドラフト等をベースとして、論文指導を行う。</p>										
成績評価の方法										
議論への貢献 20%、最終的な論文の内容 80%。										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	鈴木孝直					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○	○	○			○
授業の概要・到達目標										
<p>本演習では、履修者の学位（修士）取得のための論文指導を行う。</p> <p>到達目標（Course ILOs）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の税法関心分野について、深い知識を習得することができる。</li> <li>・租税法における問題を把握する能力、解決策提案のために論理的に思考する能力を習得することができる。</li> <li>・論文において、自らの主張を平明な言葉を用いて論理的・説得的に展開する能力を習得することができる。</li> <li>・修士論文として相応しいレベルの論文を完成させることができる。</li> </ul>										
授業内容										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文作成に当たり留意すべき事項、スケジュールを認識する。</li> <li>・論文作成の前提となる基本スキルを確認する。</li> <li>・論文テーマとして関心を有する事項について、履修生各自が報告し、履修生間で意見交換を行う。</li> <li>・履修生間で先行研究論文・書籍内容を共有しつつ、履修生はそれぞれ論文テーマを決定する。</li> <li>・論文の構成（目次）等を作成する。</li> <li>・先行研究・関係資料等の収集を継続する。</li> <li>・論文の作成進捗状況を随時報告する。</li> <li>・期末最終授業で、論文アウトライン（10枚程度）に基づき中間報告及び意見交換を行う。</li> </ul>										
履修上の注意点										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文の作成に当たっては、資料収集と読み込みをしっかりと行うことが必要である。</li> <li>・論文テーマはできる限り早期に決定し、結論に向けた論文構成をよく検討することが必要である。</li> <li>・文献収集は、継続して行う必要がある。</li> </ul>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特になし。										
参考書										
『租税法（第24版）』金子宏（弘文堂、2021）ほか										
課題に対するフィードバックの方法										
履修生が提出・報告した論文概要・論文ドラフト等を基に、論文指導を行う。										
成績評価の方法										
<p>(1) 演習への貢献度（租税法の理解が深まる有益な質問・コメント、参加姿勢）40%</p> <p>(2) 自身の論文作成への取組（必要な資料収集、報告、進捗）60%</p>										
その他										
<p>・秋学期開始まで（9月中旬）に論文ドラフトの初稿を教員に提出すること。【厳守】</p> <p>担当教員メールアドレス：tsuzuki8@meiji.ac.jp</p>										



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	鈴木孝直					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○	○	○			○
授業の概要・到達目標										
<p>本演習では、履修生の学位（修士）取得のための論文指導を行う。</p> <p>到達目標（Course ILOs）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の税法関心分野について、深い知識を習得することができる。</li> <li>・租税法における問題を把握する能力、解決策提案のために論理的に思考する能力を習得することができる。</li> <li>・論文において、自らの主張を平易な言葉を用いて論理的・説得的に展開する能力を習得することができる。</li> <li>・修士論文として相応しいレベルの論文を完成させることができる。</li> </ul>										
授業内容										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文完成に向けた留意事項、スケジュールを認識する。</li> <li>・指導教員による個別指導が中心となる。</li> <li>・個別指導の際は、履修生は論文ドラフトについて報告を行う。</li> <li>・先行研究・関係資料等の収集を継続する。</li> </ul>										
履修上の注意点										
<ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文の作成に当たっては、資料収集と読み込みをしっかりと行う必要がある。</li> <li>・論文が論理的、説得的になるように論文構成をよく検討する必要がある。</li> <li>・文献収集は、継続して行う必要がある。</li> </ul>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特になし。										
参考書										
『租税法（第24版）』金子宏（弘文堂、2021）ほか										
課題に対するフィードバックの方法										
履修生が提出・報告した論文概要・論文ドラフト等を基に、論文指導を行う。										
成績評価の方法										
(1) 論文作成姿勢 10% (2) 最終的な論文の内容 90%										
その他										
担当教員メールアドレス：tsuzuki8@meiji.ac.jp										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	池田義典					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○	○	○				
授業の概要・到達目標										
<p>履修者の学位（修士）取得のための論文指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 租税法における各人それぞれの専門分野について、深い理解を身に付ける。</li> <li>2. 租税法における課題（問題点）を自ら発見し、かつ、その問題の解決方法を提案する能力を身に付ける。</li> <li>3. 論文において、自らの主張を論理的に展開し、平易かつ説得力のある説明を行う能力を身に付ける。</li> </ol>										
授業内容										
<p>概ね次のような順序で授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 修士論文のテーマ候補となる領域について、各人から報告し、履修者間で意見交換を行い、それぞれの論文テーマを決定する。</li> <li>(2) 各人のテーマに関する①主要な判例、②先行研究及び③国際比較について、各人から報告し、履修者間で意見交換を行う。</li> <li>(3) 論文執筆に係る基本的なルールを理解し、自身の論文の構成（章立て）等を検討する。</li> <li>(4) 決定したテーマ及び論文の構成（＝論理展開の筋道）を踏まえて、更に先行研究・関係資料等を収集する。</li> <li>(5) 学期末に、履修者による論文概要案の報告を行う。</li> </ol>										
履修上の注意点										
<p>可能な限り早期に、自らに最もふさわしい（問題意識を持って取り組むことができる）論文テーマを決定し、結論に向けた論旨の展開について思索を重ねること。</p> <p>修士論文の執筆に当たっては、「徹底した文献収集」と自身の問題意識を踏まえた「読み込み」が不可欠であることを十分理解し、学期を通じて文献の収集とその文献の分析及び思索に努めること。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特になし。										
参考書										
全員に共通するものとして <ul style="list-style-type: none"> <li>・金子宏「租税法（24版）」（弘文堂、2021）</li> <li>・民集・行集・刑集（最高裁＝判例集）</li> <li>・税大論叢（国税庁HP＝論文集）</li> <li>・税大ジャーナル（国税庁HP＝論文集）</li> <li>・DHC コメントール（第一法規＝税法のコメントール）</li> </ul> など。										
課題に対するフィードバックの方法										
修士論文作成の過程において、教授から指摘する又は各人が直面する諸課題について、解決のための手法及び考え方を演習の中で指導する。										
成績評価の方法										
議論への貢献 40%＋各段階での論文概要等の完成度 60%。										
その他										
学期末に論文ドラフトの第1稿（10000字以上）を提出すること。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	池田義典					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○	○	○	○				
授業の概要・到達目標										
<p>本演習では、履修者の学位（修士）取得のための論文作成に関連した指導を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 租税法における自らの専門分野について、深い理解を身に付ける。</li> <li>2. 租税法における課題（問題点）を発見し、その問題の解決方法を提案する能力を身に付ける。</li> <li>3. 論文において、自らの主張を論理的に構成し、平易な言葉で説得的に展開する能力を身に付ける。</li> <li>4. 修士論文にふさわしい、高水準の論文を完成させる。</li> </ol>										
授業内容										
<p>概ね次のような順序で授業と個別指導を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 履修者による論文概要案の報告及び意見交換を行う。</li> <li>(2) 上記(1)を踏まえて、先行研究・関係資料等の収集を継続する。</li> <li>(3) 履修者による論文ドラフトの報告及び意見交換を行う。</li> <li>(4) 学期後半においては、必要に応じて指導教員による個別指導を行う。</li> </ol>										
履修上の注意点										
<p>修士論文の作成に当たっては徹底した文献収集と読み込みが必要であることから、学期を通じて文献の収集及び思索に努めること。</p> <p>論文を実際に執筆し、完成することができるのは自身のみであることを十分理解し、強い問題意識とモチベーションの維持に努めること。</p> <p>また、一定水準の租税法論文を作成するためには、構想・執筆・校正の各段階で多大な時間の確保が必要となることについて、予め留意しておくこと。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特になし。										
参考書										
特になし。										
課題に対するフィードバックの方法										
修士論文作成の過程において、指導教員から指摘又は各人が直面した諸課題について、解決のための手法及び考え方を演習の中で指導する。										
成績評価の方法										
議論への貢献 20% + 最終的な論文の内容 80%。										
その他										
特になし。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND616J	論文演習Ⅰ（M）	2	2年	日本語	戸谷圭子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○		○		○	○	
授業の概要・到達目標										
本演習は、履修者の学位（修士）取得のための論文指導を行う。										
授業内容										
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 関心領域について履修者同士の意見交換</li> <li>② 先行研究論文・書籍内容をシェアしながら論文課題の絞り込み</li> <li>③ 論文内容の概要決定</li> <li>④ 上記を踏まえた先行研究のレビュー</li> </ol>										
履修上の注意点										
特になし										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特になし										
参考書										
特になし										
課題に対するフィードバックの方法										
・ 課題理解に対するフィードバックは、講義中のディスカッションで行う。										
成績評価の方法										
(1) ゼミ生間の相互貢献度 (30%) (2) ゼミ運営への協力 (30%) (3) 各段階での論文完成度 (40%)										
その他										
夏季休暇終了時に第一稿を提出すること。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND616J	論文演習Ⅱ (M)	2	2年	日本語	戸谷圭子					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○	○		○		○	○	
授業の概要・到達目標										
本演習は、履修者の学位（修士）取得のための論文指導を行う。										
授業内容										
論文演習Ⅰの進捗を踏まえ、各自に合わせたステップで修士論文を完成させる。少なくとも最終稿までに数回の準備原稿の提出を求める。										
履修上の注意点										
授業の際に指示する。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
授業の際に指示する。										
教科書										
特になし										
参考書										
特になし										
課題に対するフィードバックの方法										
・課題理解に対するフィードバックは、講義中のディスカッションで行う。										
成績評価の方法										
(1) ゼミ生間の相互貢献度 (30%) (2) ゼミ運営への協力 (30%) (3) 各段階での論文完成度 (40%)										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	橋本雅隆					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○	○							
授業の概要・到達目標										
本演習は、修士の資格を得るための論文作成の指導を行う。演習Ⅰでは、学問領域の決定、テーマ、研究の枠組み、問題の所在と仮説まで提示できるようにすることを目標とする。先行研究を行い、論文作成のスケジュールと研究方法の決定、目次の作成を具体的な到達目標とする。 【授業形態】 本演習は、基本的にはメディア授業（リアルタイム配信）で行う。対面で行う場合には、事前に履修者に連絡する。										
授業内容										
個別の受講生ごとの指導と、ゼミナール全員に対する指導を行う。先行研究のレビューの方法等も指導する。担当教員と受講生の対話による受講生の研究に対する理解の深化を重視する。										
履修上の注意点										
研究テーマの設定にあたっては、主体的なテーマの探索が求められる。学問的な構成概念のレベルで仮説が構築できるようにする。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
論文の書き方に関するテキストを購入し、学んでおくこと。										
教科書										
特に指定しない。										
参考書										
指導教員による指導の下、先行研究に関わる論文や書籍を受講生が自ら探索する。										
課題に対するフィードバックの方法										
アサイメントに対しては、提出物についてコメントを付けて本人に返し、本人の振り返りに資するとともに、関連する質問を受ける。 授業中の発表に対しては適宜コメントを行い、さらなる学習の機会を提供する。										
成績評価の方法										
学生ごとの指導過程における各段階の評価基準を提示するので、その達成度合いによって評価する。										
その他										
特になし。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	橋本雅隆					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○		○		○						
授業の概要・到達目標										
<p>本演習は、論文演習Ⅰにおける学生の研究成果をもとに、学生が論文を執筆し、完成させることを目標とする。各人の進捗状況に応じて、指導教員がアドバイスを与える。また、論文の形式要件に関する指導も行う。</p> <p><b>【授業形態】</b> 本演習は、基本的にメディア授業（リアル体配信）で行う。対面で行う回については、事前に履修者に連絡する。</p>										
授業内容										
受講者各人に対する執筆指導を行う。また、論旨の展開等に関して、他のゼミナール所属受講者相互間でのディスカッションによる学習の機会も用意する場合がある。										
履修上の注意点										
論文演習Ⅰの履修を必要とする。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
自分の研究領域に関する学術論文を最低数本は読んでおくこと。										
教科書										
特になし。										
参考書										
指導教員による指導の下、先行研究に関わる論文や書籍を受講者が自ら探索する。										
課題に対するフィードバックの方法										
アサイメントに対しては、提出物についてコメントを付けて本人に返し、本人の振り返りに資するとともに、関連する質問を受ける。授業中の発表に対しては適宜コメントを行い、さらなる学習の機会を提供する。										
成績評価の方法										
論文の内容により評価する。(100%)										
その他										
特になし。										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	首藤明敏					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>修士論文作成のための指導を行う。</p> <p>演習を通じて、問題意識を形成、論文テーマの設定、先行研究のレビュー、研究方法の決定、目次・アウトラインを作成し、論文草稿にまとめる。</p> <p>その過程において、個人の論文内容に注力するだけでなく、相互に支援することで、メンバー全員が納得できる論文作成を目指す。</p> <p><b>【到達目標（Course ILO）】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の問題に対する問いを立て、理論やフレームワークに基づきリサーチを行い、結論を出す基本の流れを身に着けることができる。</li> <li>自分が追いかけて続けるテーマを見つけ、今後のビジネス人生の土台を築くことができる。</li> <li>ゼミメンバーとの協働を通じて、今後のビジネス人生を共に戦う仲間を得ることができる。</li> </ul>										
授業内容										
各自問題意識やテーマ案を提示して報告、それらを全員で検討・議論する形で進める。										
履修上の注意点										
修士論文は修了のための単なるタスクではなく、これからのビジネス人生の土台として位置づける。そのために、本気で学び、本気で遊び、本気でやれること。ゼミメンバーは、共闘（GUNG-HO、工和）の仲間。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
各回の報告者は、報告の内容、配布資料を事前に準備し、共有する。										
教科書										
個人テーマに沿った指導を行うため、特に指定しない。										
参考書										
個人テーマに応じて、適宜指示する。										
課題に対するフィードバックの方法										
ゼミ参加者の全員による相互フィードバック、個別面談によるフィードバックを行う。										
成績評価の方法										
討議及びゼミ運営への貢献度 50%、論文計画書（論文草稿） 50%										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	首藤明敏					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○	○	○	○	○		○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>修士論文作成のための指導を行う。</p> <p>演習Ⅰで作成した論文計画書（論文草稿）を基に、修士論文の執筆を進める。論文作成の進捗を確認しつつ、最終論文の完成を目指す。</p> <p>その過程において、個人の論文内容に注力するだけでなく、相互に支援することで、メンバー全員が納得できる論文作成を目指す。</p> <p>【到達目標（Course ILO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の問題に対する問いを立て、理論やフレームワークに基づきリサーチを行い、結論を出す基本の流れを身に付けることができる。</li> <li>・自分が追いつけ続けるテーマを見つけ、今後のビジネス人生の土台を築くことができる。</li> <li>・ゼミメンバーとの協働を通じて、今後のビジネス人生を共に戦う仲間を得ることができる。</li> </ul>										
授業内容										
各自論文の進捗状況と現時点での達成内容を報告する形で進める、全員による検討・議論と、個別面談を組み合わせる形で、柔軟な運営を行う。										
履修上の注意点										
<p>修士論文は修了のための単なるタスクではなく、これからのビジネス人生の土台として位置づける。</p> <p>そのために、本気で学び、本気で遊び、本気でやりきること。</p> <p>ゼミメンバーは、共闘（GUNG-HO、工和）の仲間。</p>										
準備学習（予習・復習等）の内容										
各回の報告者は、報告の内容、配布資料を事前に準備し共有する。										
教科書										
各自のテーマに沿った指導を行うため、特に教科書は指定しない。										
参考書										
各自のテーマに応じて、適宜指示する。										
課題に対するフィードバックの方法										
ゼミ参加者の全員による相互フィードバック、個別面談によるフィードバックを行う。										
成績評価の方法										
討議及びゼミ運営への貢献度 30%、修士論文の内容 70%										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	中山知己					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○	○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>民法およびその関連する分野は、激変するビジネス環境においても、企業の基本的な社会的責任に深く関わり、ビジネスの基礎といえる。そのような分野に関する修士論文の作成を指導する。各自が選定した論文テーマに関し論点の明確化を図り、それに沿って、幅広く資料、判例等の収集や、学説についての検討を行なうほか、これらについて分析、意見交換等を行うことにより、論文作成の進捗を図ることを目標とする。</p> <p>【到達目標（Course ILO）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文のテーマについて論点を明確化することができる。</li> <li>・修士論文のテーマについて検討対象となる文献資料・判例の収集の方法を学ぶことができる。</li> <li>・修士論文のテーマについて検討対象となる文献資料・判例の分析の手法を学ぶことができる。</li> </ul>										
授業内容										
論文作成に当たっての基本的なルール、論文構成のあり方について理解するほか、論理的思考能力の醸成、文章作成能力の向上を図る。演習は、各回ごとに各自が選定した論文テーマについて発表を行い、それをグループ内で議論する方式を基本とする。グループ内でのディスカッションを通じて、論文内容の多角的で深度ある検討を行い、質の高い論文の作成を目指す。また、必要に応じて、個別に指導・助言も行う。										
履修上の注意点										
論文テーマに関する裁判例、学説等の早期の資料収集に努めること、また、諸外国の考え方、現状についても把握すること。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
演習の発表者は、原則として発表の前週までにレジュメを用意して配付し、他の院生は事前にそれを読み込んで議論に参加すること。										
教科書										
特に指定しない。										
参考書										
特になし										
課題に対するフィードバックの方法										
Oh-o!Meiji のレポート提出欄におけるフィードバックがある。										
成績評価の方法										
(1) 演習での発表・報告 (40%) (2) 議論への参加 (30%) (3) 授業での貢献度 (30%)										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	中山知己					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○			○		○	○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>収集した資料等に基づいて各自が研究を進め、論文の完成を目指す。また、演習中での議論を踏まえて深度ある検討を行ない、レベルの高い論文となるよう努める。</p> <p>【到達目標 (Course ILO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文のテーマについて論点について分析の視点を明確化することができる。</li> <li>修士論文のテーマについて検討対象となる文献資料・判例について、関連する論点の分析方法を学ぶことができる。</li> <li>修士論文のテーマについて論旨を深く吟味することができる。</li> </ul>										
授業内容										
演習では、毎回ごとに各自が発表を行うこととし、グループ内での議論を通じて論文内容の充実を図る。必要に応じて、個別に指導・助言を行い、論文の質的向上と最終的な完成を目指す。										
履修上の注意点										
授業の際に指示する。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
演習の発表者は、原則として発表の前週までにレジュメを用意して配付し、他の院生は事前にそれを読み込んで議論に参加すること。発表者は、議論の内容を踏まえて演習の終了後にポイントとなる事項の確認を行い、論文のレベルアップにつなげること。										
教科書										
特に指定しない。										
参考書										
特になし										
課題に対するフィードバックの方法										
Oh-olMeiji のレポート提出欄におけるフィードバックがある。										
成績評価の方法										
(1) 演習での発表、議論への参加 (30%) (2) 授業での貢献度 (30%) (3) 論文 (40%)										
その他										

科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅰ	2	2年	日本語	熊谷健一					
Programme ILOs		Cluster ILOs								
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○						○			○	
授業の概要・到達目標										
<p>到達目標 (Course ILOs) :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>論文のテーマ選定、研究方法について習得する。</li> <li>論文執筆に必要な文献・資料の収集方法について習得する。</li> <li>文献・資料の分析方法について習得する。</li> </ol>										
授業内容										
企業における知的財産の保護の重要性についての問題意識を明確にし、テーマを選定し、研究を行い、論文を作成する。問題意識を明確にして整理し、テーマを選定するとともに、研究の方法を検討し、必要な文献・資料の収集を行い、選定したテーマについての研究を進める。問題意識等についての報告・発表を行い、ディスカッションし、教員からも助言を行う。										
履修上の注意点										
授業の際に指示する。										
準備学習 (予習・復習等) の内容										
研究テーマに関する論文・記事・判例等の研究を行い、自ら考え、提言を行う。										
教科書										
研究テーマに応じ、授業の際に指示する。										
参考書										
研究テーマに応じ、授業の際に指示する。										
課題に対するフィードバックの方法										
授業中にコメントすることに加え、クラスウェブでフィードバックする。										
成績評価の方法										
研究内容に関する報告 50%、議論への参加 50%										
その他										



科目ナンバー	授業科目名	単位数	配当年次	使用言語	担当教員					
(GB)IND612J	論文演習Ⅱ	2	2年	日本語	熊谷健一					
Programme ILOs					Cluster ILOs					
ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
○						○			○	
授業の概要・到達目標										
到達目標（Course ILOs）： 1. 論文の執筆に関する基本的知識について習得する。 2. 論文における各種の分析について習得する。 3. 論文のまとめ方、考察のあり方について習得する。										
授業内容										
企業における知的財産の重要性に係る研究テーマについて、研究・考察をして提言を行い、論文を完成する。研究テーマについて、研究の進捗状況を報告・発表し、ディスカッションを行い、教員から必要な助言・指導をする。必要に応じ、個別の相談・指導の機会を設ける。										
履修上の注意点										
授業の際に指示する。										
準備学習（予習・復習等）の内容										
研究テーマに関する論文・記事・判例等の研究を行い、自ら考え、提言を行う。										
教科書										
研究テーマに応じ、授業の際に指示する。										
参考書										
研究テーマに応じ、授業の際に指示する。										
課題に対するフィードバックの方法										
授業中にコメントすることに加え、クラスウェブでフィードバックする。										
成績評価の方法										
研究内容に関する報告 50%、議論への参加 50%										
その他										

## V ILOs 体系一覧

No.	科目ナンバリング	科目コード	科目群 Course Classification	科目名
1	(GB)ECN561J	723032	必修科目/Compulsory Core Course	ファイナンス基礎論
2	(GB)ECN561E	723085	必修科目/Compulsory Core Course	Fundamentals of Finance
3	(GB)MAN521J	723047	必修科目/Compulsory Core Course	マネジメント基礎論
4	(GB)MAN526E	723086	必修科目/Compulsory Core Course	Fundamentals of Management〔M〕
5	(GB)ACC536J (GB)ACC531J	723040	必修科目/Compulsory Core Course	アカウンティング基礎論〔M〕 アカウンティング基礎論
6	(GB)ACC531E	723083	必修科目/Compulsory Core Course	Fundamentals of Accounting
7	(GB)CMM511J (GB)CMM516J	723039	必修科目/Compulsory Core Course	マーケティング基礎論 マーケティング基礎論〔M〕
8	(GB)CMM516E	723084	必修科目/Compulsory Core Course	Fundamentals of Marketing〔M〕
9	(GB)MAN596E	724217	必修科目/Compulsory Core Course	Global Business Studies〔M〕
10	(GB)MAN591E	724217	必修科目/Compulsory Core Course	Global Business Studies
11	(GB)MAN591E	724217	必修科目/Compulsory Core Course	Global Business Studies
12	(GB)MAN516J	723071	共通科目/Common Course	企業倫理〔M〕
13	(GB)ECN511J	724432	共通科目/Common Course	ゲーム論と企業戦略
14	(GB)ECN531J	723041	共通科目/Common Course	ビジネスのための基礎数学
15	(GB)ECN531J	724133	共通科目/Common Course	ビジネス・データ解析
16	(GB)ECN531J	723042	共通科目/Common Course	VBA 基礎
17	(GB)STA591J	724152	共通科目/Common Course	AI 活用とディープラーニングの基礎
18	(GB)STA591J	723072	共通科目/Common Course	Python によるデータサイエンティストの基礎
19	(GB)ECN511J	723027	共通科目/Common Course	経済学
20	(GB)MAN591J	723046	共通科目/Common Course	日本経済と経営
21	(GB)ART691J	724498	共通科目/Common Course	自己表現（プレゼンス）
22	(GB)MAN692J	726001	ファイナンス領域/Finance Area 共通科目/Common Course	グローバル・ビジネス研究Ⅱ（2019年度以前入学者） グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ（2020年度以降入学者）
23	(GB)MAN692E	726001	マネジメント領域/Management Area 共通科目/Common Course	グローバル・ビジネス研究Ⅲ（2019年度以前入学者） グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ（2020年度以降入学者）
24	(GB)MAN692J	726001	リアルエステート領域/Finance Area 共通科目/Common Course	グローバル・ビジネス研究Ⅳ（2019年度以前入学者） グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ（2020年度以降入学者）
25	(GB)MAN692J	726001	アカウンティング領域/Accounting Area 共通科目/Common Course	グローバル・ビジネス研究Ⅵ（2019年度以前入学者） グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ（2020年度以降入学者）
26	(GB)MAN692J	726001	マネジメント領域/Management Area 共通科目/Common Course	グローバル・ビジネス研究Ⅶ（2019年度以前入学者） グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ（2020年度以降入学者）
27	(GB)MAN692J	726001	マネジメント領域/Management Area 共通科目/Common Course	グローバル・ビジネス研究Ⅷ（2019年度以前入学者） グローバル・ビジネス研究Ⅰ～Ⅷ（2020年度以降入学者）
28	(GB)ECN662J	724151	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	コーポレート・ファイナンス
29	(GB)ECN662J	723073	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	リスク・マネジメント
30	(GB)ECN661J	723043	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	金融工学基礎
31	(GB)ECN692J	724150	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	証券投資論
32	(GB)ECN691J	724120	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	年金マネジメント
33	(GB)ECN691J	724137	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	パーソナルファイナンス
34	(GB)ECN691J	724122	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	行動ファイナンス論
35	(GB)ECN661J	724128	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	金融論
36	(GB)ECN691J	724191	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	ケース・スタディⅠ（ファイナンス）－フィンテック－
37	(GB)ECN676E	724190	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	CaN International 寄附講座 「Strategy for CFO and M&A Accounting」〔M〕
38	(GB)ECN571J	723079	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	企業資金マネジメント
39	(GB)ECN571E	723075	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	Corporate Liquidity Management
40	(GB)MAN551E	723076	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	Corporate Value Management

担当教員	Programme ILOs					Cluster ILOs					
	ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
青沼君明	○		○	○	○			○	○	○	○
山村能郎											
サントスミゲル		○		○	○			○			○
野田稔	○	○	○	○	○		○			○	
安達幸裕											
許佑旭	○	○	○	○	○		○			○	
山口不二夫	○		○	○	○			○			○
姚俊	○		○	○	○			○			○
橋本雅隆											
戸谷圭子			○	○	○		○	○	○	○	
首藤明敏											
張巧韵			○	○	○		○	○	○	○	
許佑旭	○	○	○	○							
サントスミゲル	○	○	○	○	○		○			○	
沼田優子	○	○	○	○	○		○			○	
山口不二夫	○		○				○			○	
丸田利昌				○							
中山季之				○	○			○	○	○	
青沼君明	○		○	○	○			○	○	○	○
青沼君明	○		○	○	○			○	○	○	○
青沼君明	○		○	○	○			○	○	○	○
中山季之			○	○	○			○	○	○	
山村能郎	○		○	○	○	○			○		
吉村孝司				○			○			○	
三輪えり花			○								
王京穂		○	○								
山村能郎				○							
許佑旭	○		○	○	○			○	○		
村木信爾	○		○	○	○			○	○		
藤岡資正			○		○						
山口不二夫		○	○		○		○			○	
山口不二夫		○	○		○		○			○	
王京穂	○		○	○	○						
青沼君明	○		○	○	○			○	○	○	○
王京穂	○	○	○	○	○				○	○	
伊藤敬介				○				○			○
大坪英二郎				○							
大坪英二郎				○							
王京穂	○		○				○				
小田切尚登	○		○	○	○			○			○
王京穂	○	○	○	○	○				○	○	○
大久保昭平			○		○						
小田英毅											
サントスミゲル	○	○	○	○	○			○			○
サントスミゲル	○	○	○	○	○			○			○
サントスミゲル	○	○	○	○	○			○			○

No.	科目ナンバリング	科目コード	科目群 Course Classification	科目名
41	(GB)MAN551J	723077	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	企業価値マネジメント
42	(GB)ECN671J	724302	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	不動産ファイナンス論
43	(GB)ADE641J	724304	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	不動産開発論
44	(GB)ARC641J	724305	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	都市計画論
45	(GB)CMM691J	724332	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	不動産実務・税制（ファミリービジネス）
46	(GB)ECN642J	724312	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	不動産市場分析
47	(GB)MAN691J	724323	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	企業不動産（CRE）戦略・サービス論
48	(GB)MAN691J	724228	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	グローバル CRE（企業不動産）戦略論
49	(GB)LAW661J	724117	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	証券化関連法
50	(GB)MAN571J	723078	ファイナンス・リアルエステート領域/Finance & Real Estate Area	ESG 投資と ESG 経営
51	(GB)MAN692J	724463	マネジメント領域/Management Area	スタートアップビジネスⅡ
52	(GB)MAN691J	724402	マネジメント領域/Management Area	戦略マネジメント
53	(GB)MAN691J	724479	マネジメント領域/Management Area	ファミリービジネス概論
54	(GB)MAN511J	724711	マネジメント領域/Management Area	中小企業論
55	(GB)MAN511J	724712	マネジメント領域/Management Area	中小企業経営概論
56	(GB)MAN611J	724713	マネジメント領域/Management Area	ファミリービジネスと企業家精神
57	(GB)MAN631J	724714	マネジメント領域/Management Area	ファミリービジネスと人材戦略
58	(GB)MAN621J	724715	マネジメント領域/Management Area	ファミリービジネスと経営計画策定
59	(GB)MAN651J	724716	マネジメント領域/Management Area	ファミリービジネスコンサルティング
60	(GB)MAN661J	724735	マネジメント領域/Management Area	International Business
61	(GB)MAN691J	724407	マネジメント領域/Management Area	経営組織論
62	(GB)MAN691J	724408	マネジメント領域/Management Area	組織行動論
63	(GB)MAN691J	724496	マネジメント領域/Management Area	HRM・人材育成論
64	(GB)MAN692J	724497	マネジメント領域/Management Area	HRM・人材育成論（演習）
65	(GB)MAN566E	724296	マネジメント領域/Management Area	Family Business〔M〕
66	(GB)MAN566E	724297	マネジメント領域/Management Area	International Family Business〔M〕
67	(GB)MAN566E	724717	マネジメント領域/Management Area	Human Resource Management〔M〕
68	(GB)MAN566E	724718	マネジメント領域/Management Area	International Human Resource Management〔M〕
69	(GB)MAN691J	724719	マネジメント領域/Management Area	M & A 概論
70	(GB)MAN691J	724731	マネジメント領域/Management Area	M & A 基礎スキル演習
71	(GB)MAN691J	724721	マネジメント領域/Management Area	ディールサイクル
72	(GB)MAN691J	724732	マネジメント領域/Management Area	プライベートエクイティファンド概論
73	(GB)MAN696J	724723	マネジメント領域/Management Area	事業継承と M & A 〔M〕
74	(GB)MAN696J	724724	マネジメント領域/Management Area	ベンチャーのエコシステム 〔M〕
75	(GB)MAN661E	724725	マネジメント領域/Management Area	Strategic Management
76	(GB)MAN661J	724728	マネジメント領域/Management Area	経営戦略論
77	(GB)MAN631J	724410	マネジメント領域/Management Area	キャリア開発
78	(GB)MAN621J	724418	マネジメント領域/Management Area	オペレーション
79	(GB)MAN691J	724490	マネジメント領域/Management Area	ヘルスケア・マネジメント
80	(GB)MAN691J	724733	マネジメント領域/Management Area	ヘルスケア産業のマネジメントと経済学
81	(GB)MAN691J	724708	マネジメント領域/Management Area	マネジメント・ワークショップ
82	(GB)MAN691J	724734	マネジメント領域/Management Area	ビジネスイノベーション
83	(GB)MAN692J	724427	マネジメント領域/Management Area	ケース・スタディⅢ（マネジメント）
84	(GB)MAN692J	724428	マネジメント領域/Management Area	ケース・スタディⅣ（マネジメント）
85	(GB)MAN691J	724204	マネジメント領域/Management Area	知的資本戦略論
86	(GB)MAN691J	724590	マネジメント領域/Management Area	トランストラクチャ寄附講座 「人事の定量分析論」
87	(GB)ECN641J	724138	マネジメント領域/Management Area	中国経済事情
88	(GB)MAN611J	724281	マネジメント領域/Management Area	企業戦略論
89	(GB)CMM691E	724218	マネジメント領域/Management Area	Business Communication
90	(GB)ARS611J	724278	マネジメント領域/Management Area	新興国市場のマネジメント

担当教員	Programme ILOs					Cluster ILOs					
	ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
サントスミゲル	○	○	○	○	○			○			○
山村能郎	○			○	○	○					
信田直昭			○	○	○						
山村能郎	○			○	○	○					
村木信爾	○			○		○	○				
山村能郎	○		○		○	○					
村木信爾				○		○		○			
佐藤俊朗			○	○	○						
片山典之				○	○			○			○
王京穂	○	○	○	○	○				○	○	
石川明		○	○						○	○	○
歌代豊	○			○							
加藤幸人	○			○		○	○	○			
安達幸裕		○		○	○		○			○	
安達幸裕	○	○		○	○		○				
安達幸裕		○		○	○		○				
安達幸裕		○	○		○		○				
安達幸裕	○	○	○		○		○	○		○	
安達幸裕	○	○	○		○		○	○			
ペリッツァーマルコ	○		○	○	○		○			○	
野田稔	○			○			○			○	
野田稔	○	○		○	○		○			○	
野田稔	○			○	○		○			○	
野田稔	○			○	○		○			○	
許佑旭	○	○	○	○	○	○	○	○			
許佑旭	○	○	○	○	○	○	○	○			
許佑旭	○	○	○	○	○		○			○	
許佑旭	○	○	○	○	○		○			○	
岡俊子	○			○	○		○			○	
岡俊子	○		○		○		○			○	
岡俊子	○				○		○			○	
岡俊子	○				○	○	○	○		○	
岡俊子	○	○		○	○		○		○	○	○
沼田優子	○	○	○	○	○		○			○	
沼田優子	○	○	○	○	○		○			○	
中西晶	○			○			○			○	
竹之内隆	○						○			○	
田中智恵子	○										
姉川知史	○			○							
首藤明敏				○	○		○		○		
首藤明敏	○	○	○				○		○	○	
首狩谷真治	○	○	○				○		○	○	
野田稔	○			○	○		○			○	
野田稔	○			○	○		○			○	
関大地	○		○								
林明文				○							
王京穂	○	○	○		○						
土屋繼				○							
小田切尚登		○	○		○						
藤岡資正			○		○						

No.	科目ナンバリング	科目コード	科目群 Course Classification	科目名
91	(GB)ARS612J	724279	マネジメント領域/Management Area	新興国市場のマネジメント (演習)
92	(GB)ACC631J	723005	アカウンティング領域/Accounting Area	財務会計論
93	(GB)MAN691J	724501	アカウンティング領域/Accounting Area	企業分析
94	(GB)MAN692E	724530	アカウンティング領域/Accounting Area	Business Analysis (Seminar)
95	(GB)ACC691J	724503	アカウンティング領域/Accounting Area	非営利組織の会計
96	(GB)ACC641J	724531	アカウンティング領域/Accounting Area	戦略とマネジメント・コントロール・システム
97	(GB)ACC642J	724532	アカウンティング領域/Accounting Area	戦略とマネジメント・コントロール・システム(演習)
98	(GB)LAW541J	723048	アカウンティング領域/Accounting Area	租税法概論
99	(GB)ACC581J	723049	アカウンティング領域/Accounting Area	タックス・マネジメント基礎
100	(GB)ACC681J	724595	アカウンティング領域/Accounting Area	タックス・マネジメント応用
101	(GB)ACC681J	724534	アカウンティング領域/Accounting Area	タックス・マネジメント国際
102	(GB)ACC681J	724563	アカウンティング領域/Accounting Area	山田コンサルティンググループ寄附講座 「事業承継・M&A・資産承継の税務」
103	(GB)LAW641J	724509	アカウンティング領域/Accounting Area	所得税法
104	(GB)LAW631J	724511	アカウンティング領域/Accounting Area	国際租税法
105	(GB)LAW641J	724540	アカウンティング領域/Accounting Area	法人税法
106	(GB)LAW641J	724566	アカウンティング領域/Accounting Area	租税手続法
107	(GB)LAW641J	724580	アカウンティング領域/Accounting Area	資産課税法
108	(GB)LAW641J	724522	アカウンティング領域/Accounting Area	消費税法
109	(GB)ACC691J	724516	アカウンティング領域/Accounting Area	中小企業の会計
110	(GB)ACC641J	724593	アカウンティング領域/Accounting Area	企業価値評価論
111	(GB)ACC691J	724522	アカウンティング領域/Accounting Area	キャッシュ・フロー・マネジメント会計
112	(GB)ACC671J	724598	アカウンティング領域/Accounting Area	国際会計実務
113	(GB)LAW641J	724588	アカウンティング領域/Accounting Area	租税法演習 I
114	(GB)LAW641J	724597	アカウンティング領域/Accounting Area	租税法演習 II
115	(GB)CMM611J	724601	マーケティング領域/Marketing Area	マーケティング環境分析
116	(GB)CMM611J	724609	マーケティング領域/Marketing Area	サービス・マーケティング
117	(GB)CMM616J	724640	マーケティング領域/Marketing Area	製造業のサービス化 [M]
118	(GB)CMM611J	724611	マーケティング領域/Marketing Area	ヘルスケア・マーケティング
119	(GB)CMM611J	724613	マーケティング領域/Marketing Area	e-マーケティング
120	(GB)CMM621J	724614	マーケティング領域/Marketing Area	消費者行動論
121	(GB)CMM611J	724639	マーケティング領域/Marketing Area	デザインシンキング
122	(GB)MAN691J	724280	マーケティング領域/Marketing Area	ブランド価値経営
123	(GB)CMM611J	724634	マーケティング領域/Marketing Area	マーケティング・コミュニケーション
124	(GB)CMM611J	724617	マーケティング領域/Marketing Area	ビジネス・マーケティング
125	(GB)CMM641J	724635	マーケティング領域/Marketing Area	流通マネジメント (ファミリービジネス)
126	(GB)CMM611J	724636	マーケティング領域/Marketing Area	データドリブンマーケティング
127	(GB)CMM641J	724628	マーケティング領域/Marketing Area	ロジスティクス論
128	(GB)CMM641J	723004	マーケティング領域/Marketing Area	流通論
129	(GB)MAN621J	724431	マーケティング領域/Marketing Area	サプライチェーン・マネジメント
130	(GB)CMM616J	724637	マーケティング領域/Marketing Area	マーケティング・リサーチ [M]
131	(GB)CMM692J	724624	マーケティング領域/Marketing Area	ケース・スタディ I (マーケティング)
132	(GB)CMM691J	724625	マーケティング領域/Marketing Area	ケース・スタディ II (マーケティング)
133	(GB)LAW661J	724800	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	ビジネスロー概論
134	(GB)LAW661J	724406	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	企業法務
135	(GB)LAW661J	724815	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	ビジネス物権法
136	(GB)LAW661J	724816	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	ビジネス契約法
137	(GB)LAW662J	724808	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	ケース・スタディ民法
138	(GB)LAW541J	724820	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	相続法の基礎
139	(GB)LAW541J	724821	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	労働法の基礎
140	(GB)LAW661J	724804	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	企業活動と知的財産



担当教員	Programme ILOs					Cluster ILOs					
	ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
藤岡資正			○		○						
山口不二夫	○			○	○			○			○
山口不二夫	○			○	○			○			○
許英姿	○			○				○			○
山口不二夫	○	○	○					○			
藤岡資正	○			○							
藤岡資正	○			○							
池田義典				○			○			○	
鈴木孝直	○	○		○		○	○			○	○
池田義典			○	○	○	○	○				
池田義典			○	○	○	○	○				
奥村忠史 前田祐	○			○		○	○				
鈴木孝直	○		○	○		○		○		○	○
大野雅人	○		○	○	○		○			○	
池上健人 大野雅人	○			○		○				○	
大野雅人	○			○			○			○	
鈴木孝直	○		○	○		○		○			○
大野雅人	○			○			○			○	
小川晃司	○			○			○				
富田竜一				○				○			○
高橋篤史				○						○	○
許英姿			○		○						
大野雅人	○			○			○			○	
池田義典				○	○	○					
中島聡							○			○	
庄司真人	○	○	○		○		○			○	
戸谷圭子	○	○	○	○	○				○	○	
田中智恵子	○										
高橋一貢	○										
松下光司				○			○			○	
小川亮			○						○	○	
首藤明敏	○			○	○		○		○	○	
首藤明敏			○	○	○					○	
中麻弥美		○		○							
橋本雅隆	○	○		○	○		○	○	○	○	
山之口 援			○				○			○	
橋本雅隆	○			○							
橋本雅隆	○			○	○						
橋本雅隆	○		○	○	○						
戸谷圭子	○		○				○				
首藤明敏				○	○					○	
庄司真人	○		○				○				
中山知己	○			○		○	○			○	
石上麟太郎	○			○			○			○	
中山知己	○			○		○	○			○	
中山知己	○	○		○			○			○	
中山知己	○			○		○	○			○	
平田厚				○		○	○			○	
野川忍				○		○	○			○	
熊谷健一	○						○			○	

No.	科目ナンバリング	科目コード	科目群 Course Classification	科目名
141	(GB)LAW661J	724814	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	事業戦略と知的財産マネジメント (基礎)
142	(GB)LAW661J	724817	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	事業戦略と知的財産マネジメント(ケース・スタディ)
143	(GB)LAW661J	724818	ビジネス・ロー領域/Business Law Area	著作権マネジメント
144	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
145	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
146	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
147	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
148	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
149	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
150	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ /Thesis Tutorial 1
151	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ /Thesis Tutorial 2
152	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
153	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
154	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
155	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
156	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ (日本語)
157	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ (日本語)
158	(GB)IND612E	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ /Thesis Tutorial 1 (英語)
159	(GB)IND612E	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ /Thesis Tutorial 2 (英語)
160	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
161	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
162	(GB)IND616E	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ /Thesis Tutorial 1〔M〕
163	(GB)IND616E	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ /Thesis Tutorial 2〔M〕
164	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
165	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
166	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
167	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
168	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
169	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
170	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
171	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
172	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
173	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
174	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
175	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
176	(GB)IND616J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ〔M〕
177	(GB)IND616J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ〔M〕
178	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
179	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
180	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
181	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
182	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
183	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ
184	(GB)IND612J	725401	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅰ
185	(GB)IND612J	725402	論文演習科目/Thesis Tutrial	論文演習Ⅱ

担当教員	Programme ILOs					Cluster ILOs					
	ILO1	ILO2	ILO3	ILO4	ILO5	FB1	FB2	FB3	SU1	SU2	SU3
熊谷健一	○				○		○			○	
熊谷健一	○				○		○			○	
熊谷健一	○						○			○	
青沼君明	○		○	○	○			○	○	○	○
青沼君明	○		○	○	○			○	○	○	○
王京穂	○	○	○	○	○						
王京穂	○	○	○	○	○						
山村能郎	○		○	○	○	○	○	○			○
山村能郎	○	○	○	○	○	○	○	○			○
サントスミゲル	○	○	○	○	○		○	○		○	○
サントスミゲル	○	○	○	○	○		○	○		○	○
村木信爾	○				○	○	○	○			
村木信爾	○				○	○	○	○			
野田稔	○	○		○	○		○			○	
野田稔	○	○		○	○		○			○	
藤岡資正	○	○	○	○	○		○	○	○		○
藤岡資正	○	○	○	○	○		○	○	○		○
藤岡資正	○	○	○	○	○		○	○	○		○
藤岡資正	○	○	○	○	○		○	○	○		○
岡俊子	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
岡俊子	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
許佑旭				○		○	○	○			
許佑旭				○		○	○	○			
沼田優子	○	○	○	○	○		○			○	
沼田優子	○	○	○	○	○		○			○	
安達幸裕	○		○	○	○	○	○	○			
安達幸裕	○		○	○	○	○	○	○			
山口不二夫	○							○			○
山口不二夫	○							○			○
大野雅人	○			○		○				○	
大野雅人	○			○		○				○	
鈴木孝直	○			○		○	○	○			○
鈴木孝直	○			○		○	○	○			○
池田義典	○			○	○	○	○				
池田義典	○			○	○	○	○				
戸谷圭子	○		○	○	○		○		○	○	
戸谷圭子	○		○	○	○		○		○	○	
橋本雅隆	○		○	○							
橋本雅隆	○		○		○						
首藤明敏	○	○	○	○	○		○			○	
首藤明敏	○	○	○	○	○		○			○	
中山知己	○			○		○	○			○	
中山知己	○			○		○	○			○	
熊谷健一	○						○			○	
熊谷健一	○						○			○	